様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾒｲｼﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　名城大学	
フリガナ 大学の名称	ﾒｲｼﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 名城大学（Meijo University）	
大学本部の位置	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目５０１番地	
大学の目的	本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の中心として、深く専門の教育研究を行い、合わせて広汎な教養を培い、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材を養成するとともに学術・文化の進展に寄与することを目的とする。	
新設学部等の目的	外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。 ①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材 ②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材 ③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
外国語学部 [Faculty of Foreign Studies] 国際英語学科 [Department of English and International Studies]	4	130	－	520	学士（外国語学）	平成 28 年 4 月 第 1 年次	愛知県名古屋市東区 矢田南四丁目 102 番 9
計		130	－	520			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	法学部　法学科〔定員増〕　(40)（平成 28 年 4 月） 法学部　応用実務法学科（廃止）（△170） ※平成 28 年 4 月学生募集停止 大学院大学・学校づくり研究科　大学・学校づくり専攻　修士課程（廃止）（△10） ※平成 28 年 4 月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実習	計	
外国語学部　国際英語学科	71 科目	70 科目	6 科目	147 科目	124 単位

教員組織の概要

学部等の名称			専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			人	人	人	人	人	人	人
新設分	外国語学部	国際英語学科	9 (8)	7 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (22)	0 (0)	51 (24)
新設分	計		9 (8)	7 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (22)	0 (0)	- (-)
既設分	法学部	法学科	28 (28)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	38 (38)	0 (0)	118 (118)
既設分	経営学部	経営学科	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	100 (100)
既設分	経営学部	国際経営学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	34 (34)
既設分	経済学部	経済学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	0 (0)	98 (98)
既設分	経済学部	産業社会学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	25 (25)

教員組織の概要	既設分	理工学部	理工学部	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			数学科	9 (9)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	41 (41)	
			情報工学科	11 (11)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	83 (83)	
			電気電子工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	38 (38)	
			材料機能工学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	47 (47)	
			応用化学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	29 (29)	
			機械工学科	7 (7)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	52 (52)	
			交通機械工学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	35 (35)	
			メカトロニクス工学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	43 (43)	
			社会基盤デザイン工学科	6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	31 (31)	
			環境創造学科	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	49 (49)	
			建築学科	6 (6)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	51 (51)	
			教養教育等	9 (9)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
		農学部	農学部	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
			生物資源学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	65 (65)	
			応用生物化学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	51 (51)	
			生物環境科学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	27 (27)	
			教養教育等	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		薬学部	薬学科	28 (28)	20 (20)	0 (0)	18 (18)	66 (66)	1 (1)	67 (67)	
			教養教育等	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			分析センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		都市情報学部	都市情報学科	23 (23)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	30 (30)	
		人間学部	人間学科	11 (11)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	86 (86)	
		教職センター		3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	35 (35)	
		総合研究所		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		計		252 (252)	141 (141)	7 (7)	44 (44)	444 (444)	2 (2)	- (-)	
	合計			261 (260)	148 (147)	13 (13)	46 (46)	468 (466)	2 (2)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
		人	人	人	大学全体
	事務職員	212 (212)	142 (142)	354 (354)	
	技術職員	7 (7)	3 (3)	10 (10)	
	図書館専門職員	7 (7)	2 (2)	9 (9)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	226 (226)	147 (147)	373 (373)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	借用地
	校舎敷地	222,371.75 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	222,371.75 ㎡	【校舎敷地】 貸主：蒲郡市 借用面積： 200.00 ㎡ 借用期間： 平成16年 6月1日から 25年10か月間
	運動場用地	174,962.29 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	174,962.29 ㎡	
	小計	397,334.04 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	397,334.04 ㎡	
	その他	157,916.92 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	157,916.92 ㎡	
	合計	555,250.96 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	555,250.96 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	234,545.45 ㎡ (227,515.36 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	234,545.45 ㎡ (227,515.36 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	176 室	135 室	223 室	29 室 （補助職員 9 人）	5 室 （補助職員 0 人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	外国語学部　国際英語学科	19 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料※ 点	機械・器具 点	標本 点	届出学部全体
	外国語学部 国際英語学科	93,208〔35,672〕 (90,700〔34,936〕)	35〔21〕 (35〔21〕)	2〔2〕 (2〔2〕)	26,947 (26,919)	34 (14)	0 (0)	※視聴覚資料は、大学全体での共用分 大学全体での共用分 ・学術雑誌〔4,241〕 ・電子ジャーナル〔21,100〕
	計	93,208〔35,672〕 (90,700〔34,936〕)	35〔21〕 (35〔21〕)	2〔2〕 (2〔2〕)	26,947 (26,919)	34 (14)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	16,959.93 ㎡	1,850	1,677,547	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	10,136.24 ㎡	テニスコート	プール

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	届出学部全体
	教員１人当り研究費等		402 千円	408 千円	408 千円	408 千円	－ 千円	－ 千円	図書購入費には電子ジャーナル購入費用を含む
	共同研究費等		3,600 千円	4,000 千円	4,000 千円	4,000 千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	33,560 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	19,096 千円	5,000 千円	5,000 千円	5,000 千円	5,000 千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,390 千円	1,190 千円	1,190 千円	1,190 千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金，資産運用収入，雑収入　等

既設大学等の状況	大学の名称	名城大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	法学部						1.05		愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
	法学科	4	360	－	1,440	学士（法学）	1.03	平成11年度		
	応用実務法学科	4	170	－	680	学士（法学）	1.07	平成11年度		平成28年4月から学生募集停止（応用実務法学科）
	経営学部						1.17			
	経営学科	4	195	－	780	学士（経営学）	1.16	平成12年度		
	国際経営学科	4	90	－	360	学士（経営学）	1.20	平成12年度		
	経済学部						1.12			
	経済学科	4	185	－	740	学士（経済学）	1.12	平成12年度		
	産業社会学科	4	100	－	400	学士（経済学）	1.13	平成12年度		
	理工学部						1.10			・平成25年4月から応用化学科、メカトロニクス工学科設置。 ・平成25年4月から機械システム工学科を機械工学科へ、建設システム工学科を社会基盤デザイン工学科へ名称変更。 ・平成25年4月から入学定員を変更（電気電子工学科：145→130、材料機能工学科：95→65、機械工学科：145→120、交通機械工学科：130→110、社会基盤デザイン工学科：130→90、環境創造学科：95→90） ・平成20年度入学試験から平成24年度入学試験まで、学科別及び数学科を除く8学科をひと括りとした「系別募集」を実施。（情報工学科44人、電気電子工学科44人、材料機能工学科28人、機械システム工学科44人、交通機械工学科39人、建設システム工学科39人、環境創造学科28人、建築学科40人） ・平成25年度入学試験から、数学科を除く工学系学科での「系別募集」を廃止し、「学科別募集」を実施。
	数学科	4	85	－	340	学士（理学）	1.07	平成12年度		
	情報工学科	4	145	－	536	学士（工学）	1.08	平成16年度		
	電気電子工学科	4	130	－	491	学士（工学）	1.05	平成12年度		
	材料機能工学科	4	65	－	262	学士（工学）	1.07	平成12年度		
	応用化学科	4	60	－	180	学士（工学）	1.02	平成25年度		
	機械工学科	4	120	－	461	学士（工学）	1.14	平成12年度		
	交通機械工学科	4	110	－	421	学士（工学）	1.09	平成12年度		
	メカトロニクス工学科	4	75	－	225	学士（工学）	1.15	平成25年度		
	社会基盤デザイン工学科	4	90	－	361	学士（工学）	1.09	平成12年度		
	環境創造学科	4	90	－	337	学士（工学）	1.01	平成12年度		
	建築学科	4	135	－	500	学士（工学）	1.16	平成12年度		
	工学系（1年次）	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成12年度		

既設大学等の状況	農学部						1.10			
	生物資源学科	4	100	－	400	学士（農学）	1.12	平成 11 年度		
	応用生物化学科	4	100	－	400	学士（農学）	1.13	平成 11 年度		
	生物環境科学科	4	100	－	400	学士（農学）	1.06	平成 17 年度		
	薬学部								愛知県名古屋市天白区八事山 150 番地	
	薬学科（6 年制）	6	250	－	1,500	学士（薬学）	1.09	平成 18 年度		
	都市情報学部								岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目 3 番の 3	
	都市情報学科	4	200	－	800	学士（都市情報学）	1.07	平成 7 年度		
	人間学部								愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	
	人間学科	4	200	－	800	学士（人間学）	1.13	平成 15 年度		
	大学の名称	名城大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院法学研究科 法律学専攻								愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	
	修士課程	2	15	－	30	修士（法学）	0.33	昭和 42 年度		
	博士後期課程	3	8	－	24	博士（法学）	0.04	昭和 44 年度		
	大学院経営学研究科 経営学専攻									平成 27 年 4 月から経営学専攻修士課程の入学定員を変更（30→20）
	修士課程	2	20	－	50	修士（経営学）	0.74	平成 13 年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（経営学）	0.44	平成 15 年度		
	大学院経済学研究科 経済学専攻									
	修士課程	2	10	－	20	修士（経済学）	0.20	平成 12 年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（経済学）	0.11	平成 14 年度		
	大学院理工学研究科 数学専攻									
	修士課程	2	8	－	16	修士（理学）	0.37	平成 14 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（理学）	0.16	平成 7 年度		
	情報工学専攻									
	修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	0.79	平成 14 年度		
	電気電子工学専攻									
	修士課程	2	20	－	40	修士（工学）	1.55	平成 14 年度		
	材料機能工学専攻									
	修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	1.23	平成 14 年度		

既設大学等の状況	機械システム工学専攻 修士課程	2	20	－	40	修士（工学）	1.95	平成 14 年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	
	交通機械工学専攻 修士課程	2	16	－	32	修士（工学）	1.09	平成 14 年度		
	建設システム工学専攻 修士課程	2	20	－	40	修士（工学）	0.55	平成 14 年度		
	環境創造学専攻 修士課程	2	10	－	20	修士（工学）	0.20	平成 14 年度		
	建築学専攻 修士課程	2	16	－	32	修士（工学）	0.78	平成 14 年度		
	電気電子・情報・材料工学専攻 博士後期課程	3	10	－	30	博士（工学）	0.40	平成 5 年度		
	機械工学専攻 博士後期課程	3	5	－	15	博士（工学）	0.26	平成 4 年度		
	社会環境デザイン工学専攻 博士後期課程	3	5	－	15	博士（工学）	0.20	平成 4 年度		
	大学院農学研究科 農学専攻 修士課程	2	20	－	40	修士（農学）	1.02	昭和 48 年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士（農学）	0.13	昭和 51 年度		
	大学院薬学研究科 薬学専攻 博士課程（4 年制）	4	4	－	16	博士（薬学）	1.81	平成 24 年度	愛知県名古屋市天白区八事山 150 番地	
	大学院都市情報学研究科 都市情報学専攻 修士課程	2	8	－	16	修士（都市情報学）	0.99	平成 11 年度	岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目 3 番の 3	
	博士後期課程	3	4	－	12	博士（都市情報学）	0.41	平成 13 年度		
	大学院人間学研究科 人間学専攻 修士課程	2	8	－	16	修士（人間学）	0.18	平成 23 年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	

既設大学等の状況	大学院総合学術研究科 総合学術専攻 博士前期課程	2	8	－	16	修士（学術）	0.24	平成 14 年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地	
	博士後期課程	3	4	－	12	博士（学術）	0.25	平成 14 年度		
	大学院大学・学校づくり研究科 大学・学校づくり専攻 修士課程	2	10	－	20	修士 （教育経営）	0.45	平成 18 年度		平成 28 年 4 月から学生募集停止
	大学院法務研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	25	－	105	法務博士 （専門職）	0.22	平成 16 年度		平成 27 年 4 月から入学定員を変更（40→25）
附属施設の概要		該当なし								

学校法人名城大学　設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度		入学定員	編入学定員	収容定員		平成28年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名城大学						名城大学					
法学部	法学科	360	—	1440		法学部	法学科	400	—	1600	定員変更
	応用実務法学科	170	—	680				0	—	0	平成28年4月学生募集停止
経営学部	経営学科	195	—	780		経営学部	経営学科	195	—	780	
	国際経営学科	90	—	360			国際経営学科	90	—	360	
経済学部	経済学科	185	—	740		経済学部	経済学科	185	—	740	
	産業社会学科	100	—	400			産業社会学科	100	—	400	
理工学部	数学科	85	—	340		理工学部	数学科	85	—	340	
	情報工学科	145	—	580			情報工学科	145	—	580	
	電気電子工学科	130	—	520			電気電子工学科	130	—	520	
	材料機能工学科	65	—	260			材料機能工学科	65	—	260	
	応用化学科	60	—	240	→		応用化学科	60	—	240	
	機械工学科	120	—	480			機械工学科	120	—	480	
	交通機械工学科	110	—	440			交通機械工学科	110	—	440	
	メカトロニクス工学科	75	—	300			メカトロニクス工学科	75	—	300	
	社会基盤デザイン工学科	90	—	360			社会基盤デザイン工学科	90	—	360	
	環境創造学科	90	—	360			環境創造学科	90	—	360	
	建築学科	135	—	540			建築学科	135	—	540	
農学部	生物資源学科	100	—	400		農学部	生物資源学科	100	—	400	
	応用生物化学科	100	—	400			応用生物化学科	100	—	400	
	生物環境科学科	100	—	400			生物環境科学科	100	—	400	
薬学部	薬学科（６年制）	250	—	1500		薬学部	薬学科（６年制）	250	—	1500	
都市情報学部	都市情報学科	200	—	800		都市情報学部	都市情報学科	200	—	800	
人間学部	人間学科	200	—	800		人間学部	人間学科	200	—	800	
						外国語学部	国際英語学科	130	—	520	学部の設置（届出）
	計	3155	—	13120			計	3155	—	13120	
名城大学大学院						名城大学大学院					
法学研究科	法律学専攻（M）	15	—	30		法学研究科	法律学専攻（M）	15	—	30	
	法律学専攻（D）	8	—	24			法律学専攻（D）	8	—	24	
経営学研究科	経営学専攻（M）	20	—	40		経営学研究科	経営学専攻（M）	20	—	40	
	経営学専攻（D）	3	—	9			経営学専攻（D）	3	—	9	
経済学研究科	経済学専攻（M）	10	—	20		経済学研究科	経済学専攻（M）	10	—	20	
	経済学専攻（D）	3	—	9			経済学専攻（D）	3	—	9	
理工学研究科	数学専攻（M）	8	—	16		理工学研究科	数学専攻（M）	8	—	16	
	数学専攻（D）	2	—	6			数学専攻（D）	2	—	6	
	情報工学専攻（M）	30	—	60			情報工学専攻（M）	30	—	60	
	電気電子工学専攻（M）	20	—	40			電気電子工学専攻（M）	20	—	40	
	材料機能工学専攻（M）	30	—	60			材料機能工学専攻（M）	30	—	60	
	機械システム工学専攻（M）	20	—	40	→		機械システム工学専攻（M）	20	—	40	
	交通機械工学専攻（M）	16	—	32			交通機械工学専攻（M）	16	—	32	
	建設システム工学専攻（M）	20	—	40			建設システム工学専攻（M）	20	—	40	
	環境創造学専攻（M）	10	—	20			環境創造学専攻（M）	10	—	20	
	建築学専攻（M）	16	—	32			建築学専攻（M）	16	—	32	
	電気電子・情報・材料工学専攻（D）	10	—	30			電気電子・情報・材料工学専攻（D）	10	—	30	
	機械工学専攻（D）	5	—	15			機械工学専攻（D）	5	—	15	
	社会環境デザイン工学専攻（D）	5	—	15			社会環境デザイン工学専攻（D）	5	—	15	
農学研究科	農学専攻（M）	20	—	40		農学研究科	農学専攻（M）	20	—	40	
	農学専攻（D）	5	—	15			農学専攻（D）	5	—	15	
薬学研究科	薬学専攻（D）（４年制）	4	—	16		薬学研究科	薬学専攻（D）（４年制）	4	—	16	
都市情報学研究科	都市情報学専攻（M）	8	—	16		都市情報学研究科	都市情報学専攻（M）	8	—	16	
	都市情報学専攻（D）	4	—	12			都市情報学専攻（D）	4	—	12	
人間学研究科	人間学専攻（M）	8	—	16		人間学研究科	人間学専攻（M）	8	—	16	
総合学術研究科	総合学術専攻（M）	8	—	16		総合学術研究科	総合学術専攻（M）	8	—	16	
	総合学術専攻（D）	4	—	12			総合学術専攻（D）	4	—	12	
大学・学校づくり研究科	大学・学校づくり専攻（M）	10	—	20		大学・学校づくり研究科	大学・学校づくり専攻（M）	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
法務研究科	法務専攻（P）	25	—	75		法務研究科	法務専攻（P）	25	—	75	
	計	347	—	776			計	337	—	756	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（外国語学部国際英語学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育部門	基軸科目		現代に生きる	1前		2		○			2					兼1	オムニバス
	発展科目	人間を考える	歴史と文化	1・2・3・4前		2		○			1						
			芸術と人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			哲学	2・3・4前		2		○								兼1	
			心の科学	2・3・4後		2		○								兼1	
			文化人類学	2・3・4後		2		○			1						
		社会に生きる	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			経済学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			市民と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			ジェンダーと社会	2・3・4前		2		○								兼1	
			科学と技術の歩み	2・3・4後		2		○								兼1	
			海外留学入門	1・2・3・4前		2		○			1	1					オムニバス
		自然と生きる	人間と自然	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス
			地球と宇宙	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			生命の多様性	2・3・4前		2		○								兼1	
			数と論理	2・3・4後		2		○								兼1	
	情報教育科目		コンピュータリテラシー	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			ウェブデザイン	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			情報社会と倫理	1後	2			○								兼1	
	体育科目		健康･スポーツ科学Ⅰ	1前		1				○						兼2	
			健康･スポーツ科学Ⅱ	1後		1				○						兼2	
	キャリア教育科目		キャリア形成論	2・3・4前		2		○								兼1	
			インターンシップ	2・3・4前		2				○	1						集中
			日本とグローバル人材	1・2・3・4後		2		○			1						
			小計（24科目）	－	2	44		－			5	1	0	0	0	兼19	
専門教育部門	外国語科目群	第一外国語科目	英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	1前	2				○			2	6	1			
			英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	1後	2				○			2	6	1			
			英語コミュニケーションⅢ(応用1)	2前	2				○			2	5	1		兼1	
			英語コミュニケーションⅣ(応用2)	2後	2				○			2	5	1		兼1	
			英語コミュニケーションⅤ(発展)	3前	2				○			1	6	1		兼1	
			英語リーディングⅠ(基礎1)	1前	1				○			2	4	1		兼2	
			英語リーディングⅡ(基礎2)	1後	1				○			2	4	1		兼2	
			英語リーディングⅢ(応用1)	2前	1				○		1	1	3			兼4	
			英語リーディングⅣ(応用2)	2後	1				○		1	1	3			兼4	
			英語リーディングⅤ(発展)	3後	1				○		1	1	6			兼1	
			英語ライティングⅠ(基礎1)	1前	1				○		1	1	2	1		兼4	
			英語ライティングⅡ(基礎2)	1後	1				○		1	1	2	1		兼4	
			英語ライティングⅢ(応用1)	2前	1				○			1	3	1		兼4	
			英語ライティングⅣ(応用2)	2後	1				○			1	3	1		兼4	
			英語ライティングⅤ(発展)	3後	1				○		1	1	6			兼1	
			英語ディスカッションⅠ(基礎1)	1前	1				○			1	2	1		兼5	
			英語ディスカッションⅡ(基礎2)	1後	1				○			1	2	1		兼5	
			英語ディスカッションⅢ(応用1)	2前	1				○			2	3			兼4	
			英語ディスカッションⅣ(応用2)	2後	1				○			2	3			兼4	
			パブリック・スピーキング	3前	1				○			2	3	1		兼3	
			ディベート	3後	1				○			2	3	1		兼3	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育部門	外国語科目群	第二外国語科目	中国語入門Ⅰ	2前		1			○			1				兼1	
			中国語入門Ⅱ	2前		1			○			1				兼1	
			中国語初級Ⅰ	2後		1			○			1				兼1	
			中国語初級Ⅱ	2後		1			○			1				兼1	
			中国語中級Ⅰ	3前		1			○			1					
			中国語中級Ⅱ	3前		1			○			1					
			中国語応用Ⅰ	3後		1			○			1					
			中国語応用Ⅱ	3後		1			○			1					
			韓国語入門Ⅰ	2前		1			○		1						
			韓国語入門Ⅱ	2前		1			○		1						
			韓国語初級Ⅰ	2後		1			○		1						
			韓国語初級Ⅱ	2後		1			○		1						
			韓国語中級Ⅰ	3前		1			○		1						
			韓国語中級Ⅱ	3前		1			○		1						
			韓国語応用Ⅰ	3後		1			○		1						
			韓国語応用Ⅱ	3後		1			○		1						
			フランス語入門Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			フランス語入門Ⅱ	2前		1			○		1						
			フランス語初級Ⅰ	2後		1			○							兼1	
			フランス語初級Ⅱ	2後		1			○		1						
			フランス語中級Ⅰ	3前		1			○							兼1	
			フランス語中級Ⅱ	3前		1			○		1						
			フランス語応用Ⅰ	3後		1			○							兼1	
			フランス語応用Ⅱ	3後		1			○		1						
			スペイン語入門Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			スペイン語入門Ⅱ	2前		1			○							兼1	
			スペイン語初級Ⅰ	2後		1			○							兼1	
			スペイン語初級Ⅱ	2後		1			○							兼1	
			スペイン語中級Ⅰ	3前		1			○							兼1	
			スペイン語中級Ⅱ	3前		1			○							兼1	
			スペイン語応用Ⅰ	3後		1			○							兼1	
			スペイン語応用Ⅱ	3後		1			○							兼1	
			小計（53科目）	－	26	32		－			4	7	6	2	0	兼17	
	専門基礎科目群		英語学概論	1前	2			○			1						
			英米文学概論	1前	2			○				1				兼1	オムニバス
			異文化理解	1後	2			○			2						オムニバス
		選択必修科目枠①	英語音声学	1後		2		○			1						
			英語の構造と仕組み	2前		2		○			1						
			コミュニケーションのための英文法	2後		2		○			1						
			イギリス文学研究	2前		2		○								兼1	
			アメリカ文学研究	2後		2		○				1					
			インタラクティブ・イングリッシュⅠ	2前		2			○			2		1			
			インタラクティブ・イングリッシュⅡ	2後		2			○			2		1			
			異文化コミュニケーション	2前		2		○				1					
			多文化共生論	2後		2		○			1						
		選択必修科目枠②	日本中世近世史	1後		2		○								兼1	
			日本文学研究	2後		2		○			1						
			日本の伝統文化	2前		2		○			1						
			日本の先端文化	2後		2		○								兼1	
			アジアを学ぶ	1前	2			○			1						
			地域研究論	1後		2		○			1						
			小計（18科目）	－	8	28		－			6	4	0	1	0	兼3	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育部門	専門基幹科目群		アカデミック・イングリッシュⅠ	1後		2			○			2					
			アカデミック・イングリッシュⅡ	2前		2			○			2					
			メディア・イングリッシュⅠ	3前		2			○			1		1			
			メディア・イングリッシュⅡ	3後		2			○			1		1			
			英語の拡がりと多様性	3後		2		○			1						
			第二言語習得論	2前		2		○				1					
			英語科教育法Ⅰ	2前		2		○				1					
			英語科教育法Ⅱ	2後		2		○				1					
		選択必修科目枠	アメリカ地域研究	2前		2		○			1						
			イギリス地域研究	2後		2		○								兼1	
			中国地域研究	2前		2		○				1					
			韓国地域研究	2後		2		○			1						
			ベトナムの言語と文化Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			ベトナムの言語と文化Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			タイの言語と文化Ⅰ	3前		2		○			1						
			タイの言語と文化Ⅱ	3後		2		○			1						
			インドネシアの言語と文化Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			インドネシアの言語と文化Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			国際フィールドワークⅠ（英語圏）	3前		4				○	1						※講義
			国際フィールドワークⅡ（非英語圏）	3後		4				○	1						※講義
			海外研修	2前		4				○	1						※講義
			日本近現代史	2前	2			○			1						
			日本の宗教	2後		2		○								兼1	
			日本の経済	2前		2		○			1						
			日本の政治	2後		2		○			1						
			現代の日本社会	3後		2		○								兼1	
			パブリックリレーションズ	2前		2		○								兼1	
			仏教文化論	2前		2		○								兼1	
			キリスト教文化論	2前		2		○								兼1	
			イスラム教文化論	2後		2		○								兼1	集中
			小計（30科目）	－	2	64		－			5	4	0	1	0	兼8	
	専門展開科目群		英語通訳演習	3・4後		2			○							兼1	
			ビジネス英語	3・4前		2			○							兼1	
			英語プレゼンテーション	3・4前		2			○			1		2			
			英語科指導法Ⅰ	3前		2		○				1					
			英語科指導法Ⅱ	3後		2		○				1					
			日本のものづくり	3・4前		2		○								兼1	
			日本のツーリズム	3・4後		2		○			1						
			国際関係論	3・4前		2		○			1						
			国際経済論	3・4後		2		○								兼1	
			近現代の日中関係	3・4後		2		○								兼1	
			近現代の日韓関係	3・4前		2		○								兼1	
			アセアン事情	3・4前		2		○			1						
			南アジア事情	3・4後		2		○			1						
			ヨーロッパの文学と社会	3・4後		2		○			1						
			小計（14科目）	－	0	28		－			4	2	0	2	0	兼6	
	ゼミナール科目群		基礎演習Ⅰ	1前	2				○		8	3					
			基礎演習Ⅱ	1後	2				○		8	3					
			基礎演習Ⅲ	2前		2			○		5						
			基礎演習Ⅳ	2後		2			○		5						
			ゼミナールⅠ	3前	2				○		9	4					
			ゼミナールⅡ	3後	2				○		9	4					
			ゼミナールⅢ	4前	2				○		9	4					
			ゼミナールⅣ	4後	2				○		9	4					
			小計（8科目）	－	12	4		－			9	4	0	0	0	0	
合計（147科目）				－	50	200		－			9	7	6	2	0	兼51	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

学位又は称号	学士（外国語学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
大学に4年以上在学し、次に定める方法で、 124単位以上修得しなければならない。 (1) 教養教育部門から必修2単位、選択22単位、計24単位以上、 (2) 専門教育部門の外国語科目群から計30単位(第一外国語科目から必修26単位、第二外国語科目から1言語を選択して4単位[各言語「入門Ⅰ・Ⅱ」、「初級Ⅰ・Ⅱ」]) 以上、 (3) 専門教育部門の専門基礎科目群から必修8単位、選択必修科目枠①から10単位以上、選択必修科目枠②から4単位以上、 (4) 専門教育部門の専門基幹科目群から必修2単位、選択必修科目枠から8単位以上、 (5) 専門教育部門のゼミナール科目群から必修12単位、 (6) 専門教育部門の専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門展開科目群、ゼミナール科目群から計16単位以上、 (7) 教養教育部門、専門教育部門から計10単位以上 (履修科目の登録上限:46単位(年間))	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注）
1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

基礎となる学部

別記様式第2号（その2の1）　　（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる	1前		2		○			2	1				兼9	オムニバス
	人間と文化	歴史と文化	1・2前・後		2		○			1					兼1	
		文学と人間	1・2前・後		2		○								兼1	
		芸術文化論	1・2前		2		○								兼1	
		欧米文化論	1・2前・後		2		○								兼2	
		アジア文化論	1・2後		2		○								兼1	
		文化人類学の世界	1・2後		2		○								兼1	
		哲学	1・2前		2		○								兼1	
		宗教の世界	1・2後		2		○								兼1	
	人間と社会	日本国憲法	1・2前		2		○								兼1	
		法と社会	1・2後		2		○								兼1	
		経済と社会	1・2前		2		○								兼1	
		政治と社会	1・2後		2		○								兼1	
		社会学	1・2後		2		○								兼1	
		都市と人間	1・2前		2		○								兼1	
		ジェンダーと社会	1・2後		2		○								兼1	
	自然と環境	地球と宇宙	1・2後		2		○								兼1	
		物質の成り立ち	1・2前		2		○								兼1	
		生命の多様性	1・2後		2		○								兼1	
		数と論理	1・2後		2		○								兼1	
		人間とデザイン	1・2後		2		○			1						
	言語コミュニケーション	英語基礎Ⅰ（コミュニケーション）	1前	1				○		2			1		兼7	
		英語基礎Ⅱ（コミュニケーション）	1前	1				○			1		1		兼6	
		英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）	1後	1				○		2	1				兼7	
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）	1後	1				○			1		1		兼6	
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）	2前	1				○		1	1		1		兼	
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）	2前	1				○		1	1		1		兼	
		英語中級Ⅰ（コミュニケーション）	2後	1				○			1		1		兼	
		英語中級Ⅱ（コミュニケーション）	2後	1				○			1		1		兼	
		フランス語入門Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		フランス語入門Ⅱ	1前		1			○							兼1	
		フランス語応用Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		フランス語応用Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		ドイツ語入門Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語入門Ⅱ	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語応用Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		ドイツ語応用Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		中国語入門Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		中国語入門Ⅱ	1前		1			○							兼1	
		中国語応用Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		中国語応用Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		ハングル入門Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		ハングル入門Ⅱ	1前		1			○							兼1	
		ハングル応用Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		ハングル応用Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		スペイン語初級Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		スペイン語初級Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	情報技術	コンピュータリテラシー	1前		2		○								兼2	
		情報活用リテラシー	1後		2		○								兼2	
		情報処理入門	2前		2		○								兼1	
		情報社会と倫理	1前		2		○						1			
	健康とスポーツ科学	健康・スポーツ科学Ⅰ	1前		1				○						兼3	
		健康・スポーツ科学Ⅱ	1後		1				○						兼3	
	教養演習	教養演習	1・2前・後		2			○							兼2	
	キャリア・デザイン	キャリア形成論	1前	2			○								兼1	
	小　計（55科目）		—	10	72	0		－		6	2	0	2	0	兼58	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育部門	基礎科目	人間学総論	1前	2			○			8	5		2			オムニバス
		心理学概論	1前	2			○			1						
		国際コミュニケーション概論	1後	2			○			1						
		生命倫理入門	1前		2		○								兼1	
		環境人間学	1前		2		○			1						
		社会学概論	1後	2			○			1						
		データ解析入門	2前		2		○			2						
	心理系	発達心理学	1後		2		○								兼1	
		性格心理学	1前		2		○				1					
		社会心理学	1後		2		○			1						
		認知心理学	2前		2		○			1						
		学習心理学	2後		2		○			1						
		生涯発達心理学	2後		2		○				1					
		臨床心理学	2後		2		○				1					
		福祉心理学	2前		2		○				1					
		対人関係の心理学	2前		2		○			1						
		家族心理学	2後		2		○								兼1	
		心理検査法	2前		2		○				1				兼1	
		心理学研究法	2後		2		○			1						
		心理データ解析	2後		2		○			2						
		発達臨床心理学	3後		2		○				1					
		カウンセリング論	3後		2		○				1					
		臨床社会心理学	3後		2		○				1					
		アイデンティティの心理学	3前		2		○								兼1	
		産業心理学	3後		2		○								兼1	
		心理学演習Ⅰ	2後		2			○		1	2				兼1	
		心理学演習Ⅱ	3前		2			○		2					兼1	
		教育心理学	1前		2		○								兼1	
		生徒･進路指導論	1後		2		○			1						
		学校教育相談	3前		2		○				1					
		特殊講義A	1・2・3・4		2		○								兼1	
	社会・教育系	地域文化論	1後		2		○			1						
		日本文化史	2前		2		○			1						
		西洋文化史	2後		2		○				1					
		日本社会史	3前		2		○			1						
		西洋社会史	3前		2		○				1					
		西洋芸術史	2前		2		○			1						
		都市文明史	3前・後		2		○			1						
		日本史	1後		2		○								兼1	
		外国史	1前		2		○								兼1	
		地理学	2前		2		○								兼1	
		地誌学	2後		2		○								兼1	
		ジャーナリズム論	2前		2		○								兼1	
		現代メディア論	3後		2		○						1			
		教育学概論	1前		2		○			1						
		学習社会論	2前		2		○								兼1	
		学校教育論	2後		2		○								兼1	
		教育行政論	2前		2		○								兼1	
		教育社会学	2前		2		○								兼1	集中
		道徳教育論	2後		2		○			1						
		人材育成学	3後		2		○			1						
		教育史	3後		2		○			1						
		地域教育論	3後		2		○								兼1	
		現代社会論	1後		2		○								兼1	
		家族社会学	1前		2		○			1						
		環境社会学	2後		2		○								兼1	
		社会福祉論	2後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	3前		2		○								兼1	
		人口社会学	3後		2		○			1						
		政治学	2前		2		○				1					
		自然地理学	1後		2		○								兼1	
		特殊講義B	1・2・3・4		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	国際・コミュニケーション系	コミュニケーション論	1前		2		○			1						
		言語文化論	1後		2		○			1						
		国際コミュニケーション	2前・後		2		○				1					
		国際文化論	1前		2		○						1			
		異文化理解	2前		2		○			1						
		地域研究Ａ	2前		2		○			1						
		地域研究Ｂ	2前		2		○						1		兼1	
		地域研究Ｃ	2後		2		○				1					
		イングリッシュ・コミュニケーション	2前		2			○							兼1	
		ビジネス・コミュニケーション	2後		2			○			1					
		プレゼンテーション	2後		2			○		1						
		インテンシィブ・イングリッシュ	2前・後		2			○		3					兼2	
		パラグラフ・ライティング	2前		2			○					1		兼1	
		アドヴァンスト・イングリッシュ	1・2・3・4		2			○		1						
		英語学	2前		2		○			1						
		異文化コミュニケーション	2前		2		○			1						
		英米文学概論	2前		2		○			1						
		英語音声学	2前・後		2		○								兼1	
		文化表現論	3前		2		○						1			
		比較言語論	3後		2		○			1						
		社会言語学	3後		2		○			1						
		エッセイ・ライティング	3後		2			○					1		兼1	
		比較文化論	3後		2		○						1			
		多文化社会論	3後		2		○			1						
		英米文学研究	3後		2		○			1						
		国際関係論	1後		2		○				1					
		国際組織論	3前		2		○				1					
		国際協力論	2前		2		○				1					
		特殊講義C	1・2・3・4		2		○			1						
	体験科目	フィールドワーク入門	1後		2		○								兼1	
		ボランティア入門	1後		2		○								兼1	
		海外体験入門	1後		2		○						1			
		語学研修	1・2・3・4		2				○							単位認定
		フィールドワーク	2後		2				○	4						集中
		ボランティア	2後		2				○	1						集中
		インターンシップ	2後		2				○		1					集中
		海外研修	2前・後		4				○	1	1					
		海外インターンシップ	2後		4				○	3	1		1			集中
	文献講読	文献講読A	2前		2			○		4						
		文献講読B	2前		2			○		4						
		文献講読C	2前		2			○		2	2					
	ゼミナール	基礎ゼミナール	1前	2				○		10	4		1			
		基幹ゼミナール	3前・後	2				○		10	4				兼1	
		卒業研究ゼミナール	4通	4				○		11	5		1		兼3	
小計（106科目）			－	16	202	0	－			11	5	0	2	0	兼27	
合計（161科目）			－	26	274	0	－			11	5	0	2	0	兼77	

学位又は称号	学士（人間学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
４年以上在学し、次に定める方法で、１２４単位以上修得すること。 （１）教養教育部門科目から必修１０単位、選択２２単位以上 （２）専門教育部門科目から必修１６単位、選択７６単位以上 （履修科目の登録上限：４８単位（年間））	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）　　（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（外国語学部国際英語学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育部門	基軸科目		現代に生きる	現代について正しく理解することは、将来の自分のあり方を見出す手がかりとなる。本講義は、社会科学、人文科学、自然科学の分野における現代社会が直面している様々な課題について学びながら、学習への動機づけを促し、自ら学ぶ意欲を醸成するとともに、外国語学部の教養教育の導入として、基礎的なものごとの捉え方や考え方を身につけ、主体的な学びの礎を養うことを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （1 K.K.U. Ananda Kumara /5回） グローバル化時代において活躍できる人材となるために、自らがどのような考えを持ち、どのように学習すべきなのかを理解することを目的とする。日本及び外国社会の最近の経済・社会動向を紹介し、これからどのような形でグローバル化が進むのかについて議論を行いながら、履修者自身の心構え、得るべき知識や能力についても具体的にアドバイスを行う。履修者との対話型授業として行う予定である。 （6 岩井 眞實 /5回） 私たちの身のまわりには、数々の習俗・通過儀礼・祭礼・芸能といった伝統文化が存在する。通常、私たちはこれらをほとんど意識することなく現代を生きているが、伝統文化の支えなしに現代を生きることもまた不可能である。本講義では、現代社会に潜在する伝統文化の諸相を物心両面において深く理解し、多面的なものの考え方を涵養することを目的とする。 （31　大野 栄治 /5回） 温暖化の影響が世界各地で顕在化しつつあり、日本でも多くの人々が集中豪雨や熱中症などに見舞われるようになっている。一方、日本列島近海では地震エネルギーが溜まり、連動型超巨大地震のリスクが高まっている。本講義では、自然災害の発生メカニズムを解説するとともに、このような地域に生きる日本人の知恵を紹介する。	オムニバス方式
	発展科目	人間を考える	歴史と文化	歴史家の述べる「史実」と、これを題材とした文芸・芸能との関係について学ぶ。「史実」がどのような史料をもとに形成されるかを検証し、さらにこれを文芸・芸能がどのような手続き・手法で作品化するかについて学ぶ。具体的には、いわゆる「忠臣蔵事件」（元禄赤穂事件）と、これを劇化した「忠臣蔵」を中心的題材とする。その分析を通して、文芸・芸能が「史実」の先にある「真実」に至る過程を学び、あわせて日本人の精神史について深く理解することが目的である。	
			芸術と人間	絵画、建築、庭園、映画、パブリックアートなど視覚芸術の例を数々見ながら、芸術と表現者および社会との関係について解説する。芸術とは何か、そもそも定義は一律である必要はない。芸術とそうでないものとを、どう分けるべきか。例えば、表現者がこれは芸術であると言えば、それが芸術になる訳ではない。授業を進行していくにあたり、芸術と自分自身との関係について、自分なりの見方、あるいは、探求の仕方について考えをもつことができるようになることを目的とする。	
			哲学	人間は、何に対しても「それはなぜ？」、「どうしてそうなのか？」と疑問を持ち、理解したがる。幼い子供が親に対して「どうして」という疑問を繰り返すのも、人間の本能的な“知りたがり”の現れである。この探究心がすべての科学の出発点になった。哲学は個々の人間が作る社会や国家の根本に遡り、なぜそうであり、こうではないのかを問おうとする。納得できたとき、人々には新しい視野が広がり、更に深く知ろうとする。知的探求の積み重ねの基礎を身につけ、その深い意義を理解することが目的である。	
			心の科学	心理学はこころの働きについての科学であり、行動を理解しようとする学問である。俗説や思い込みではなく、客観性を志向する研究活動により得られた成果を紹介しながら、こころにかかわるトピックス、すなわち環境の知覚、学習と記憶、他者の印象形成、他者への同調、性格と適応、乳幼児の発達を解説し、また心理学の歴史と研究法を概説する。心理学の基本的な知識や考え方を理解して説明でき、こころの働きへの関心を高めてさらに探究し理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。	
			文化人類学	文化人類学とは、人間の文化的側面を探求する学問である。文化的側面には、伝統的な儀礼や信仰のほか、経済活動や近代科学、医療行為なども含めることができ、そうした多様な事象について相対主義的に理解することはグローバルな現代世界を生きる上で不可欠である。世界の民族の文化・社会状況について記述したエスノグラフィーを参照しながら、私たちと彼らの日常世界を緻密に観察し比較することで、個々の文化がもつ独自の論理を見出す視角を身につけることが目的である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
		社会に生きる	日本国憲法	日本国憲法は日本国の最高法規であって、憲法に反するどのような法律、どのような行為も無効である。日本の統治機構の基本的仕組みや、基本的人権の保障等を中心として学習することを通じて、日本の基本法としての日本国憲法について理解をする。具体的には、憲法とは何か、象徴天皇制、平和主義、選挙制度と政党、国会、内閣、裁判所、地方自治、人権、幸福追求権、法の下の平等、自由権、社会権、参政権等について解説を加えていく。日本国憲法における基本事項を理解することを目的とする。	
			経済学	グローバル化する国際社会にあって、日本と世界の現状を把握することは、将来、社会へと出ていく学生にとって、必須の課題である。その際、現状把握のための分析力を涵養する上で、経済学は重要なツールとなる。そこで、経済学の基本から解き明かし、現代が抱える諸課題に取り組むための道筋を学生と共に考える。経済は人間の営みの結果であり、最新の経済学は、そうした人間の営みを心理学の面からも分析するようになっている。経済学の学問としての面白さにも目覚めてもらうことも目的とする。	
			市民と社会	近代の社会は、自由意志と責任を持ち、かつ法の下で平等な市民によって形成され発展してきた。しかし、自由意志、責任、法の下の平等という枠組は、一朝一夕に出現したものではなく、様々な過程を経て成立したものであり、自由、責任、平等の間の関係や、市民同士の関係、市民と政府の関係、政治制度や法制度などの内容は、時とともに、また、新たな課題が登場するごとに複雑に絡み合いながら展開をとげている。この科目は、これらの社会に現れる諸現象を理解するにあたっての基本を学ぶことを目的とする。	
			ジェンダーと社会	現代社会におけるジェンダー問題を考察し、ジェンダー概念の理解、ジェンダー視点から見た社会認識を培う。女性学の中から、ジェンダー概念が提起され、男性学やジェンダーの社会理論につながる過程を解説するとともに、家族、労働、子育て、教育、メディアなど、具体的な諸領域の中でのジェンダー関係のあり方を検討する中で、ジェンダーを差異化するメカニズムを捉えていく。女性の地位向上やジェンダー規範を見直すこれまでの社会的取り組みをふまえ、今後のジェンダー平等社会のあり方について、基本的な理解を深め、考察することを目的とする。	
			科学と技術の歩み	愛知県のものづくりとも深く関わる産業技術を主要な対象として、それらがいかなる科学理論に支えられ、また産業技術の発展が科学の進歩にどのように貢献してきたのかを概観する。まずは近代科学理論と産業革命との密接な関係をはじめとして、科学と技術とが相互に影響しあい、お互いの発展を促進しあってきた関係を一般論として理解する。その上で、自らの言葉で、日本や愛知のものづくりにおける科学と技術の特徴を発信できるようになることを目的とする。	
			海外留学入門	海外での異文化体験は、視野を広げ多面的なものの見方を身につけることを可能とする。また、海外では自分のこと、自国のことを説明できるコミュニケーション能力が普段に増して求められる。留学や海外研修の成果を高めるために、事前に知っておくべき事項について解説するとともに、現地で頻繁に必要となる英語表現について学ぶ。また、日本とは異なる環境の中での安全確保についても併せて学ぶ。海外での生活を通し、現地の文化、社会、人々などに触れ合いながら国際感覚を養い、異文化体験を最大限に活かすための基礎知識を身につけることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （10　Gregory John　Minehane /8回） 海外でのマナー、習慣について日本と比較しながら学ぶとともに、日常生活に必要な英会話など実践的英語を習得する。 （3　村田　泰美 /7回） 自分の身の回りについて英語で説明ができるように準備をする。また留学先の現地事情を調査し、場所についての基本情報を得る。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
		自然と生きる	人間と自然	産業革命以来、人間は便利で快適な生活を追求してきた。その結果、様々な環境問題を引き起こし、地球環境を悪化させている。また、異常気象が多発し、これまで以上に我々の生命を脅かす自然災害が増えている。持続可能な社会を構築するために生活のあり方が問われている。特に、人口が密集する都市が自然の中でどうあるべきかという命題に取り組む時期といえる。本講座では、我々人間が自然とどう共存していくかを、関連する問題を認識した上で、 持続可能な社会を構築するための対策を学ぶことを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （27 垣鍔 直 /8回） ヒトの五感に注目し、様々な環境要因（ストレス）と反応に関する基礎を学ぶ。さらに、生気象学の基礎を理解し、生活環境がどうあるべきかを考察することで、自然と人間の関わり方を考える。 （37 谷口　義則 /7回） 生物の進化および自然の階層を理解した上で、人が生態系に及ぼす影響等を学ぶ。人は自然の一部と捉えて良いのか？この問いかけに対する考察を深化することで、私たち人が自然に対して取るべき態度を考える。	オムニバス方式
			地球と宇宙	我々は豊かな暮らしを手に入れるとともに、様々な環境問題にも直面している。環境問題を理解して解決に導き、本当の意味での豊かな暮らしをするためには、我々が暮らす地球を理解することが不可欠である。また、地球を理解するためには、宇宙の中での地球の位置づけを知る必要がある。「地圏」・「水圏」・「気圏」・「宇宙の中の地球」について概要を講義し、それぞれの関連性についても触れる。一連の講義を通じて地球全体について理解し、「地球観」を養うことを目的とする。	
			生命の多様性	地球46億年の歴史を経て形成された生命の多様性は、その総体として「生物多様性」という言葉で表現される。生物多様性は種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含むと定義されるが、人間は、これら生物多様性のもたらす恩恵を受けて日々生活している。生物多様性は人間生活の基盤であるが、近年、人為による開発や生態系の破壊によって、深刻な危機に直面している。本授業では、今後も人間生活の基盤である生物多様性を守り、それらを次世代に引き継いでいくために、生物多様性の意義や理解を深めることを目的とする。	
			数と論理	日常生活における身近な現象だけでなく経済や環境などの地球規模の現象の把握、さらに、近年ではインターネットや携帯通信などの情報処理において、数学が果している役割は多大であり、数学的視点から得られる知見が、現象の解明や技術の発展に大きく貢献していることはいうまでもない。本科目では、いろいろな興味深い例をとり上げながら、それらを数学的・数理的なアプローチによって把握する方法とその意義について教授し、種々の問題に対して論理的に対処する能力を養成することを目的とする。	
	情報教育科目		コンピュータリテラシー	情報機器を操作する能力、情報ネットワークを活用し、情報を収集、整理、加工、分析し、発信できる能力を育成する。パソコンの基本操作とインターネット、文書作成、表計算など基本ソフトウェアの機能および使い方について学ぶとともに、ハードウェアおよび情報ネットワークの基本的な知識を習得する。情報社会で生きていく上で必要となる基本的な情報処理能力を養い、パソコンを使ってレポート・論文、プレゼンテーション資料などが作成できる実践的能力を養成することを目的とする。	
			ウェブデザイン	ウェブサイトの作成に必要な知識や設計に関する技術だけでなく、インターネット利用者が使いやすいサイトのデザインやインターフェース及びサイトの管理方法について学ぶ。ウェブサイトの企画、構築することを目標に、基本的なウェブサイトの作成やその修正ができる実践的な能力を育成するとともに、ウェブデザインに必要な基礎的理論やWWW(World Wide Web)の仕組みを理解し、ウェブを通して、情報を世界に効果的に発信できる能力を身につけることを目的とする。	
			情報社会と倫理	学士力として求められる情報利活用能力の前提となる情報倫理を身につけること、具体的には、①情報社会の光と影、情報化がもたらす功罪両面について理解できるようになること、②情報社会において必要な知識・態度（法規制の内容、情報の発信に伴い遵守すべき事柄、自己責任の範囲、情報セキュリティに関する知識、被害に遭った時の対応等）を身につけ、情報社会で問題に直面した際、自分で考えて対処することができるようになること、を目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体育科目		健康･スポーツ科学Ⅰ	生涯にわたってより豊かな生活を送るためには、健康が第一である。そのような背景のもと、健康の維持増進のために身体活動の実践が重要な意味を持つことについて、スポーツ活動を通して 実践的に理解するとともに、その具体的な方法について習得することを目的とする。加えて、そのような実践的理解に基づき、日常生活においても身体活動の実践機会を増やすような態度を養うこと、および、スポーツの実践を通し他者とのコミュニケーション能力を向上させ、チームワークの大切さを習得することを目的とする。	
			健康･スポーツ科学Ⅱ	各種スポーツ種目の実践を通して、文化としてのスポーツの在り方について学ぶことを主たる目的とする。加えて、人間は重力に抗い生活していることを自覚し、望ましい姿勢や無駄のない身体操作法について学び、日常生活における健康的な身体の在り方について学ぶとともに、リフレッシュ法についても実践的に習得するとともに、現代社会における生活習慣病の概況についても理論的に学び、健康の三要素（運動、栄養、休養）の重要性について理解することを目的とする。	
	キャリア教育科目		キャリア形成論	高校生活と大学生生活の違いを踏まえながら、将来どんな職業につきたいのか、また、どのような職業につけるのかということを考え、学生生活の目標・行動計画を描くことで、充実した大学生活を送るきっかけを提供する。また、学生生活から職業に移行するために必要な知識を学び、社会にはどのようなキャリアがあるのかについて解説する。「自分を知る」、「進路の可能性を知る」、「社会を知る」ことによって、将来の職業のイメージを形成し、進むべき道の方向性を見出し、卒業後の進路選択について考える基礎を培うことを目的とする。	
			インターンシップ	企業や事業所などにおいて、実際の業務を体験し、大学で学ぶ社会の現状や諸課題と就業現場との関わりや相違などを学びながら、自己の職業適性に対する理解を進め、キャリア形成への支援や就業意識の啓発を図る。また、大学における学びと社会での就業体験を結びつけることにより、新たな学習意欲を喚起させる。現場での実習に加え、実習前の研修、実習報告書の提出、実習後の報告会における発表などを行う。就業体験を通じ、仕事を円滑に行うために必要な基本的知識や能力を理解し、職業観や社会人基礎力を育みながら、就業意識を養うことを目的とする。	集中
			日本とグローバル人材	企業、事業所、組織などでグローバルに活躍する人材をゲストスピーカーとして招き、社会のグローバル化が日本とどのような関わりを持ちながら、実社会において進展しているかについて理解を深める。グローバル化した社会を身近な現実として認識させることにより、言語の習得をはじめ、将来必要となる幅広い分野に対する学習意欲の向上を図る。また、企業や地方自治体など実際の現場で求められる「グローバル人材」の資質についての認識を深め、自らの行動や将来のキャリアの可能性を考察するための一助とすることを目的とする。	
専門教育部門	外国語科目群	第一外国語科目	英語コミュニケーションⅠ（基礎1）	英語を使う情報交換型のタスク活動を通して、話す、聞くを中心にした英語のコミュニケーション能力を高める。初対面でのやりとり、聞き返しの仕方など、相互行為をもとにした英語使用を徹底し、英語を使うことの抵抗感を取り除いていきながら、英語を共通語とする円滑なコミュニケーションの上達を目指す。比較的簡単な英語で意見や気持ちをやり取りしたり、基本的な情報を伝えたり、簡単な意見交換ができるようになることを目的とする。	
			英語コミュニケーションⅡ（基礎2）	英語を使う情報交換型のタスク活動を通して、話す、聞くを中心にした英語のコミュニケーション能力を高める。情報を求める、与える、様々な物や事柄の記述を行う、許可を求めるなど、相互行為をもとにした英語使用を徹底しながら、英語使用能力の上達を図る。英語を共通語とする自由度の高いコミュニケーションを目指す。身近なトピックについて比較的簡単な英語を多様に用いて、社交的な会話を続けることができ、また必要に応じて詳細な情報を提供できるようになることを目的とする。	
			英語コミュニケーションⅢ（応用1）	英語を使う情報交換型タスク活動を継続しつつ問題解決型のタスク活動を主としたタスク活動を導入しながら、話す、聞くを中心にした英語のコミュニケーション能力を高めていく。提案、確実性の表明、依頼、共感的反応の方法などを含めた会話運営のためのスキルを習得する。ある程度なじみのあるテーマなら、新聞やインターネットで見たり読んだりしたニュースに関する会話に参加し、自分の考えを表明できることになることを目的とする。	
			英語コミュニケーションⅣ（応用2）	情報交換型タスク活動や問題解決型のタスク、ナレーション型タスクなど様々なタスクの遂行を実践しながら、話す、聞くを中心にした英語のコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。禁止の表明、情報や意味の確認、疑いの表明、意見の提示などを含めた会話運営のための高度なスキルを習得する。一般的な分野から文化、学術などの専門的な分野まで幅広いテーマの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確に表現できるようになることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーションⅤ（発展）	情報交換型タスク活動も継続しながら、問題解決型のタスク活動を主軸にしたタスク遂行を実践する。話す、聞くを中心にした英語のコミュニケーション能力のさらなる発展を目指す。同意・不同意の仕方、期待の表明、問題の提示、会話への割込みの仕方などを含めた高度な会話マネージメント・スキルを習得する。社会上、仕事上の目的にあったことば使いが効果的にでき、自分の発言を他の話し手の発言にうまくあわせた会話運営ができるようになることを目的とする。	
	英語リーディングⅠ（基礎1）	高校までに習得した英語力をベースとし、文章校正のタスクなどを取り入れることによって文法知識を確実なものとしながら、読解技術の向上を目指す授業。学生はまとまった文章から事実や明示的なメッセージを取る練習をする。学習や教室活動に関連する語句を始めとして、日常の生活に存在するサイン、標識、スケジュール表などに現れる英文を素早く、かつ正確に読めるようにする。さらにまとまったストーリーの読解に向けて、題から内容を推測し、ストーリー構築や解釈に必要な登場人物、場面を正しく認識できる読解能力を習得することが目的である。	
	英語リーディングⅡ（基礎2）	様々なジャンルの英文を教材として用い、文章校正のタスクなどを通して文法知識を確実なものとしながら、読解力を高める。英文の構成を理解し、音読や、ペアリーディングの活動を通して、メインアイデアを把握できるようにする。未知の単語の意味を辞書を使わずにどのように文脈から推測するのか、また複数の異なった意味を持つ単語の場合には、文脈をヒントにすることによってどのように正しい意味を選択するのかについて学ぶ。読解力の向上を図り、論評においては事実なのか意見なのか判断できるような批判的思考力を涵養することを目的とする。	
	英語リーディングⅢ（応用1）	小説、評説文、時事文など様々なジャンルの文体の英語を正確に読み取ることができるように、文章校正のタスクなどを通して文法知識の精緻化を図りつつ多くの英文を読み進める。また様々なジャンルの英語文をより効果的に読み取るために必要な「スキミング」や「スキャニング」の技能を読みの実践を通して習得する。また英文の情報をまとめたり、英文の明示的、暗示的テキストから自分なりの結論を導き出せるような読解力を涵養することを目的とする。	
	英語リーディングⅣ（応用2）	時事文、小説、評説文など様々なジャンルの文体に慣れ、テキストを比較対照しながら、登場人物を把握したり、著者の観点を読み取ったりする練習を行う。また文章校正のタスクなどを通して文法知識の高度化を目指す。常用される文体や表現形式を取り上げ、原因－結果、演繹論理などのテキストの論理構造を踏まえて意味を推論しながら批判的読解ができるレベルの高い読解力の向上を図ることを目的とする。	
	英語リーディングⅤ（発展）	複雑な事実に基づく時事及び評説文、公式文書、ビジネス文書など、異なる文体の英語で書かれたかなりまとまった量のテクストや文学テクストに関し、文体の違いを認識しながら正確に、かつ時間をあまりかけずに読み取ることができるように実習する。ジャンルの特徴的表現に慣れ、表現意図を読み取ることができるようになるために、リーディング・インプットを増やし、辞書を使わずに、必要な情報や論点を読み取る練習を反復する。自分の関連外の分野の専門的記事でもそれほどの困難を伴わず理解できるようになることを目的とする。	
	英語ライティングⅠ（基礎1）	高校までに習得した英語力をベースとした、文章表現技能の向上を目指す授業。意思決定のタスクを実践して自己に関する話題や日常的な話題で英文を書けるようにする。合わせて語彙、句、表現などのリストを作り、文単位のクローズで英文を作成する練習を行う。Ｅメール、メモ、など実践的な目的の英文書のパターンを学び、日本語の文章表現を英語で表現する技能を向上させるとともに、文化の相違と言語の表現形式の相違について学ばせることを目的とする。	
	英語ライティングⅡ（基礎2）	「英語ライティングⅠ（基礎1）」より、一段レベルの高い文章表現技能の向上を目指す授業。たとえばＥメールでも、量を増やしたテクストを書く練習を行う。テンプレートを利用して英文を書くことで、英文を書くときの典型パターンを学び、出来事や人物や手順などを英語で書き表わすタスクを通して、パラグラフ・ライティングの概念の導入を図る。語彙力や文法知識を増強し、英語文書の約束事を理解しながら、まとまりのある英文を書けるようになることを目的とする。	
	英語ライティングⅢ（応用1）	複数のパラグラフから構成される英文を書く実践練習をする。パラグラフを論理的にまとまりのある英文として理解し、論理展開を示す接続詞やつなぎの語句や文を用いて一貫性のある英文を作り上げることができるようにする。さらにノート・ティキングについて理解を深め、英語を聞きながら、ノート・ティキングを実践し、その技術を習得する。長めの英文を書き換えたり、要約を書いたりするタスクを通して、正確な英語で文章表現する能力を高めていくことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ライティングⅣ(応用2)	自らの主張を正当化するためには、どのような支持文をどの順序で書けば効果的なのかについて学ぶ。書いた文書を見直したり、修正したりする編集タスクを通して詳細にも目配りしながら、一定の正確さを確保した文章を作成し、英語での文章表現能力を高めていく。あるテーマに関して自らの意見や考えを表明し、原因や結果、仮定的な状況の設定など、効果的なレトリックを展開してあらたまったレポート文書を英語で書けるようになることを目的とする。	
	英語ライティングⅤ(発展)	いくつかの視点を示して明瞭な構成で自己表現ができるようになるための文章作成のタスクを行う。上級語彙の増強を図り、結束性や複雑な文構造への理解を深める。自分が重要だと思う点を強調しながら、どんなジャンルで書くべきなのか、公的文書なのか、ビジネス文書なのか、文学作品なのかというような英文の類型化も把握しながら、読者を念頭に置きつつ、適切でかつ格式のある表現によって正確な英文を作成できるようになることを目的とする。	
	英語ディスカッションⅠ(基礎1)	比較的簡単なテーマに関する英文を読み、アイデアをまとめ、ディスカッションを行う。テーマは身近で、日常的な諸問題からはじめ、簡単な社会問題や文化などに関するものへと発展させていく。授業ではリーディングの内容をもとに、様々な活動をとおして、アイデアのまとめ方、そしてその表現方法を学ぶ。その後、5名前後のグループに分かれ、テーマについて1人ひとりが意見を述べる。教員はグループを回って、学生のディスカッションについて、コメントを加える。受信情報の整理から情報発信につなげ、学生の積極的な意見表明を習慣化させることが目的である。	
	英語ディスカッションⅡ(基礎2)	比較的簡単なテーマに関する英文を読み、アイデアをまとめ、ディスカッションを行う。テーマは主に簡単な社会問題や文化などに関するものを扱うが、議論の対立が起こりやすいものを選ぶ工夫をする。授業では、英語ディスカッションⅠ(基礎1)と同様の活動に加え、ディスカッションではテーマに対し特定の立場（反対・賛成など）を各自がとり、その立場を支持するための主張を根拠・理由に基づいて行う。自分の主張に根拠や理由をつけることを意識させ、より説得力のある発言を促すことを目的とする。	
	英語ディスカッションⅢ(応用1)	比較的簡単な社会問題や文化などに関するテーマを設定し、学生はそのテーマに関し必要に応じてリサーチを行い、資料とアイデアをまとめ、自らの議論を組み立てたうえでディスカッションを行う。リサーチ方法と集めた資料の整理の仕方の基本的な理解をし、様々な活動を通して、集めた資料を自分の発言に織り交ぜていく方法を学ぶ。与えられたテーマに関し、自ら資料を調べ、それらを使い説得力のある議論をする基礎を学ぶことを目的とする。	
	英語ディスカッションⅣ(応用2)	社会問題や文化などに関するテーマを設定し、学生はそのテーマに関する英文を読むことに加え、リサーチを進めながら、アイデアをまとめ、ディスカッションを行う。授業では扱うテーマ1つに対し、比較的長く時間を使い、段階的に論点が増やせるように工夫することでディスカッションの内容を充実させることを目指す。情報収集を行うことにより、話し合いの内容が深まってゆく過程を意識させ、情報発信のための情報収集を習慣化し、発言の質的、量的向上を促すことを目的とする。	
	パブリック・スピーキング	異なる目的のための口頭発表やスピーチに必要な理論的枠組みと、その実践に求められる基礎知識をスピーチ・コミュニケーション学の見地から解説する。特に、聴衆を想定しながら内容を推敲し、構成、伝え方を状況や目的に応じて臨機応変に対応するための基礎を学ぶ。また、パブリック・スピーキングを学ぶことは、話し手と同時に聴き手としての責任を理解し実践することを意味する。聴衆側の立場でも批判的に内容を精査出来るようになることで、話し手・聴き手双方の役割の基礎理解を深めることを目的とする。	
	ディベート	価値観が多様化し社会的背景が複雑になる中で、論理的な思考能力、異なる考えに対する批判的（否定的ではない）姿勢、そして議論を効果的に伝える技術を養うことが重要である。ディベートの基礎知識を学び、ディベートとは、揚げ足取りや言葉の暴力ではなく、ルールに基づく議論のぶつけ合いを通して物事を大局的に捉える活動であることを解説する。論題に対して、時に個人的意見を脇に置き、肯定・否定の両側面を考察し、即興的なものから資料調査に基づく議論構築まで包括的に行える資質を培うことを目的とする。	
第二外国語科目	中国語入門Ⅰ	中国語を始めて学ぶ人を対象にした授業である。日本語にない音の出し方や、日本語の漢字とは異なる字形に慣れることを目的とする。35の母音と21の子音の発音、4つのトーン（声調）を繰り返し練習し、漢字の発音の仕方を記した「ピンイン表記」を見ながら正確に発音する力を養う。漢詩の暗誦、書き取りを含むヒアリングなどを通じて、「話す」こと・「聴く」ことを重視した練習を行ない、中国語の音に慣れてもらう。また、基本的な文法事項の習得とともに、簡単な自己紹介のできる表現力を身につけることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語入門Ⅱ	中国語を始めて学ぶ人を対象にした授業である。日本語にない音、4つのトーン（声調）、日本語の漢字とは異なる字形に慣れることを目的とする。母音、子音、4つのトーンを繰り返し発音練習することのほか、漢字の発音の仕方を記したローマ字表記（ピンイン表記）を見て発音できることを第一の目標とする。同時に、基礎的文法事項についても学習する。作文や書き取りによる「書く」練習のほかに、ロールプレイやスキット暗誦を通じた「読む」練習など、身体をフル活用して、中国語の基礎的事項を身につけることを目的とする。	
	中国語初級Ⅰ	中国語の発音篇を一通り学んだ人を対象にした授業である。音から単語、さらに短文へと、「意味をなす音のまとまり」のレベルを段階的に上げながら、中国語の「聴く力」を養うことを目的とする。発音された内容を、簡体字あるいはピンインで書き取る練習を繰り返し行う。教科書にでてくる単語や例文を、簡体字表記からピンイン表記に、また逆にピンイン表記から簡体字表記に直す練習のほか、簡単な会話文を繰り返し聴き、簡体字に直す練習も行う。主として「聴く」力と「話す」力の相互的強化を目的とする。	
	中国語初級Ⅱ	中国語の発音篇を一通り学んだ人を対象にした授業である。第一に、ピンインを見ながら短文を発音する力を養うことを目的とする。中国語の400の音を記した一覧表（音節表）を用いて、これまで学習した中国語の音と四つの音のトーンの定着をはかる。第二に、基礎的文法事項の習得を目的とする。入れ替え練習、並べ替え練習、作文などを通じて、中国語の基本的な文型や構文を習得してゆく。また、視聴覚教材を活用して、生の中国語に接する機会を設けるとともに、中国社会や文化についての基礎知識を学ぶことを目的とする。	
	中国語中級Ⅰ	中国語の基礎的事項を学んだ人を対象にした授業である。簡単な会話文や、短い中国語ニュースの聞き取りにより、「聴く」力を養うことを目的とする。また、簡単な会話文や定型化された挨拶表現についても習得してゆく。課題文のシャドウイングやクイックレスポンスなどを通じて発音練習を重ね、本文全体を暗誦してもらう。次に、それを日本語から中国語へ、中国語から日本語へ即時に口頭で訳す練習を行う。最後に、プレゼンテーション大会も行う。日常生活をする上で最低限必要な「話す」力を身につけることを目的とする。	
	中国語中級Ⅱ	中国語の基礎的事項を学んだ人を対象にした授業である。日常生活に必要な語彙・表現を増やし、構文や呼応表現に留意しながら中国語の文を「読む」力を養うことを目的とする。同時に、中国文化や現代中国が抱える諸問題に関する知識の獲得を目指す。課題文については、発音や意味内容を事前に確認してきてもらう。授業では、課題文の発音練習とその矯正、内容の把握と具体的解説、また設問に中国語で答える練習などを行なう。最終的に、日常生活で目にするレベルの、1000字程度の中国語の文を、制限時間内に「読む」ことを目的とする。	
	中国語応用Ⅰ	第一に、より実践的な中国語の「聴く」力を養うことを目的とする。中国語会話やニュースなどを用いて、聴き取った中国語を、その場で適当な日本語に訳す練習を行う。第二に、「自己表現の力」の獲得を目指す。これまでに学んだ様々な表現を踏まえて、五分程度のスピーチ文を作成し、人前で発表する練習を行う。さらに発表内容に対する質問を想定して、答え方のバリエーションを事前に準備するなどの練習も行う。プレゼンテーションを意識した「自己発信型の会話力」の養成を最終的な目的とする。	
	中国語応用Ⅱ	中級レベルの表現を用いて書かれた文章を通じて、呼応表現や成語・熟語などの中国語に独特な表現に慣れるところから始め、より高度な文章を「読む」力を養うことを目的とする。同時に、教材を通じて、中国文化を理解し、現代中国が抱える諸問題に関する知識を習得してゆく。また、ショートショートやエッセイ等といった文学作品を読むことにより、中国人の精神世界を味わったり、台湾や香港で書かれた繁体字表記による文章にも触れ、中国語文化圏の多様性を学ぶことを目的とする。	
	韓国語入門Ⅰ	「韓国語入門Ⅰ」は、韓国語の初学者を対象とした入門の授業であり、「韓国語入門Ⅱ」と連携して韓国語の4つの技能のうち、「聞く・話す」を中心に学習する。まず、韓国語の発音を習得するため、韓国語の調音法に従って発音練習を徹底的に行い、音の発音と聞き取りができるように集中的に訓練する。また、教科書を用い、基本的な韓国語会話の練習を実行する。このような会話練習を通じて、韓国語の基礎レベルのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。なお、準備学習として、「韓国語レッスン」というウェブサイトを利用する。	
	韓国語入門Ⅱ	「韓国語入門Ⅰ」と連携し、教材の対話文を中心に丁寧語の格式体の会話パターンを身につける。同時に、習得した単語を用いた会話練習を通じて、決まったテーマの状況に相応しい韓国語文法項目の習得ができることを目指す。文法項目として時制、数字、そして要請や指示などの終結語尾を習得する。また、授業中の読みの練習を通じて発音や会話表現の矯正を行う。このような言語項目を利用し、関連テーマの短文や会話文の作文及び読解ができるようにすることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国語初級Ⅰ	「韓国語初級Ⅱ」と連携し、入門課程で身につけた韓国語能力をより発展させ、口頭表現力をより流暢に高めることと同時に、聴解力の発展を目指す。到達目標は、日常会話で最低限必要な意思を伝えるようになれることである。具体的なシチュエーションを含む対話文を教材として用い、学生と教員・学生同士の日常的やりとりによって口頭表現力をつけながら、ナチュラルスピードより少し遅いくらいの会話に自然に慣れていくようにする。韓国語の会話技能の基礎を習得することを目的とする。	
	韓国語初級Ⅱ	「韓国語初級Ⅰ」と連携し、韓国語の文法項目を学習し、作文と読解の基礎を深める。到達目標は、日常的な会話文や短い説明文の作文・読解を可能とすることである。多様な形容詞及び非格式体の終結語尾及び条件・仮定や理由・原因の連結語尾を学習し、自分の感覚・感情などの表現ができるようにする。さらに読解練習と日常生活に関する作文を通じて、文語表現になじむようにする。このような文法項目の学習と読解や作文の課題を行うことにより、韓国語の表現力を高めると同時に短い文章の読解力を向上させることを目的とする。	
	韓国語中級Ⅰ	「韓国語中級Ⅰ」では、韓国語初級で滋養した会話や聴解能力の範囲を広げ、公的な状況での問題解決能力を習得することを到達目標として学ぶ。会話に自然さを加える口語体の連結語尾を身につけ、より自然な会話構成ができるようにする。また、長めの対話や３分程度のナレーションの聴解ができるようにする。更に、モダリティー表現を学習し、韓国語のニュアンスの差を表すことや理解することもできるようにする。このように、私的・公的状況でより高度の会話表現を可能とすると同時に、聴解能力を高めることを目的とする。	
	韓国語中級Ⅱ	「韓国語中級Ⅰ」と連携し、韓国語のより複雑な文章を読むことを学ぶ。簡単な文学作品の鑑賞も可能な程度の読解力と自分の意見や話を自分の表現により、作文できるようになれることが到達目標である。特に、丁寧な表現以外にも格式体と非格式体の非丁寧語を修得し、４種類の韓国語の敬語法を作文に自由に用いることができるようにする。また、韓国文化から由来した用語や熟語、慣用句などを身につけ、韓国語的表現法になじむようにする。このような慣用句を用いた文章の理解や表現が可能となるようにすることを目的とする。	
	韓国語応用Ⅰ	「韓国語応用Ⅰ」は、聴解や読解の理解力と発表や作文の表現力を総合的に高めるための練習を組み合わせ、高度のコミュニケーション能力の向上を到達目標として学ぶ。ニュースの聴解、新聞社説や教養書籍の読解などの課題を用い、聴解練習と連携した関連テーマの作文や、読解練習と連携した関連テーマに関する討論または発表を行い、言語技能の統合的な発展ができるように構成した授業である。このように、韓国語文献からの情報の取得・総合・分類が可能となり、韓国語で構想をたて作文し、発表できるようにすることを目的とする。	
	韓国語応用Ⅱ	「韓国語応用Ⅱ」は、課題中心の授業で、現代日本の主な時事問題や日本の伝統文化、ポップカルチャー等を韓国語で正確に解説できるようにすることを到達目標とする。小規模のグループワークで自ら決めたテーマに関する情報を集め、それを基に簡略な韓国語のプレゼンテーションを準備し、発表及び報告書作成を行う。このような課題解決の練習を通じて、韓国語文献からの情報の受容のみならず、自ら日本に関する情報の発信ができるように、韓国語の作文能力の向上を目的とする。	
	フランス語入門Ⅰ	「フランス語入門Ⅰ」は、フランス語の初学者を対象とした授業であり、話す、聞くという会話の技能を中心に学ぶ。とりわけ、フランス語の発音を徹底して学習する。日本語の音韻体系と比較しながら、フランス語の発音の特徴を抽出し、日本語話者にとって習得の難しい音声をピックアップし集中的に訓練する。さらに日常会話の基本となる文型を教師と学生、学生相互の間で繰り返し練習する。フランス語の会話の基礎を一通り学ぶことが目的である。	
	フランス語入門Ⅱ	「フランス語入門Ⅱ」は、フランス語の初学者を対象とした授業であり、文章を読むという技能と文法を中心に学ぶ。まず綴り字と発音の関係について十分に習得し、一人で簡単な文を音読することを身につけさせる。また辞書の引き方を学びながら基本的な単語は最低限覚えさせ、代入練習により構文の練習を行う。文法面では冠詞と名詞、形容詞の組み合わせと簡単な動詞を学んで文の構造の基礎を押さえる。フランス語の読みと文法の基礎を固めていくことを目的とする。	
	フランス語初級Ⅰ	「フランス語入門Ⅰ」に続いて、フランス語を話す、聞くという技能を中心に学習する。到達目標は日常会話で最低限必要な意志を伝えるようになれることである。具体的なシチュエーションを含む少し進んだ対話文を教材として用い、教員と学生、学生同士の日常会話的やりとりによって口頭での表現力をつけながら、ナチュラルスピードより少し遅いくらいの会話に自然に慣れていくようにする。フランス語の会話技能の基礎を習得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語初級Ⅱ	「フランス語入門Ⅱ」に続いて、フランス語の読みと文法の基礎を深め、さらに書く事の初歩を学習する。到達目標は一人で辞書を引いて簡単な文章を読むことが可能になることである。代名詞の使い方、動詞のいろいろな時制、前置詞を含む慣用句などの辞書での調べ方に慣れることで比較的まとまった文が読めるようにする。さらに比較級、最上級、関係代名詞など文法項目としてまとめて学ばなければならないものを練習問題を繰り返しながら身につけていく。並行して簡単なフランス語を書くという事にも少しずつ慣れていく。フランス語の読み、書き、文法の基礎を一通り概観することを目的とする。	
	フランス語中級Ⅰ	「フランス語初級Ⅰ」に続いて、簡単な紹介、案内、スピーチなどが、フランス語らしい表現を用い、フランス語らしい発音でできるようになることを到達目標として学ぶ。単に観光や友達作りにとどまらず、外国人に自分の置かれている立場や希望などを説明するなど様々な場面や状況にふさわしい表現形式や対話の展開について教員と学生、学生同士のやりとりを通して練習する。フランス語のスピーキング力を向上させることが目的である。	
	フランス語中級Ⅱ	「フランス語初級Ⅱ」に続いて、フランス語のより複雑な文章を読むことを学ぶ。やや難しいフランス語が読めるようになることが到達目標である。関係詞節や副詞節などを使った複雑な文章の繋がり方を読み解いていくにはどのようにしたらよいのかを、ビジネス的な実用文から文学的な小文まで実際のいろいろな文章を読んでいくことによって習得していく。きちんとした日本語にしていくことでフランス語の理解が深まると同時に、日本語の使い方も磨けるようになる。フランス語を読む力を向上させることが目的である。	
	フランス語応用Ⅰ	「フランス語中級Ⅰ」に続いて、フランス語の会話技能を深める。準備したものをもとにして一定の長さの話ができるようになることが到達目標である。10分間程度を目安とする一定量のスピーチ、プレゼンテーションなどができるように、まずスピーチの題材となる言うべき内容を考え、そのスピーチの目的に応じて、それにふさわしい語彙や表現形式をまず辞書やインターネットの検索で見つけそれらを用いてスピーチやプレゼンテーションなどができるように学習する。目的や場面にふさわしい表現形式やスタイルでスピーチやプレゼンテーションのできるスピーキング力を培うことが目的である。	
	フランス語応用Ⅱ	「フランス語中級Ⅱ」に続いて、読む、書くという技能を深める。テーマを決めて自由作文をするところまで行くことを到達目標とする。短い文を読んでこれを反対の意味にしたり、要件を少し変えるなど変形していくことから始め、次第に様々な分野の少し長めの文を読んでフランス語で要約したり、その文を元に自分の意見を文章で述べたりする訓練をする。フランス語の読み、書きの技能を一通り使いこなせるようになることを目的とする。	
	スペイン語入門Ⅰ	「スペイン語入門Ⅰ」は、スペイン語の初学者を対象とした授業であり、話す、聞くという会話の技能を中心に学ぶ。とりわけ、スペイン語の発音を徹底して学習する。日本語の音韻体系と比較しながら、スペイン語の発音の特徴を抽出し、日本語話者にとって習得の難しい音声をピックアップし集中的に訓練する。さらに日常会話の基本となる文型を教師と学生、学生相互の間で繰り返し練習する。スペイン語の会話の基礎を一通り学ぶことが目的である。	
	スペイン語入門Ⅱ	「スペイン語入門Ⅱ」は、スペイン語の初学者を対象とした授業であり、文章を読むという技能と文法を中心に学ぶ。まず綴り字と発音の関係について十分に習得し、一人で簡単な文を音読することを身につけさせる。また辞書の引き方を学びながら基本的な単語は最低限覚えさせ、代入練習により構文の練習を行う。文法面では冠詞と名詞、形容詞の組み合わせと簡単な動詞を学んで文の構造の基礎を押さえる。スペイン語の読みと文法の基礎を固めていくことを目的とする。	
	スペイン語初級Ⅰ	「スペイン語入門Ⅰ」に続いて、スペイン語を話す、聞くという技能を中心に学習する。到達目標は日常会話で最低限必要な意志を伝えるようになれることである。具体的なシチュエーションを含む少し進んだ対話文を教材として用い、教員と学生、学生同士の日常会話的やりとりによって口頭での表現力をつけながら、ナチュラルスピードより少し遅いくらいの会話に自然に慣れていくようにする。スペイン語の会話技能の基礎を習得することを目的とする。	
	スペイン語初級Ⅱ	「スペイン語入門Ⅱ」に続いて、スペイン語の読みと文法の基礎を深め、さらに書く事の初歩を学習する。到達目標は一人で辞書を引いて簡単な文章を読むことが可能になることである。代名詞の使い方、動詞のいろいろな時制、前置詞を含む慣用句などの辞書での調べ方に慣れることで比較的まとまった文が読めるようにする。さらに比較級、最上級、関係代名詞など文法項目としてまとめて学ばなければならないものを練習問題を繰り返しながら身につけていく。並行して簡単なスペイン語を書くという事にも少しずつ慣れていく。スペイン語の読み、書き、文法の基礎を一通り概観することを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			スペイン語中級Ⅰ	「スペイン語初級Ⅰ」に続いて、簡単な紹介、案内、スピーチなどが、スペイン語らしい表現を用い、スペイン語らしい発音でできるようになることを到達目標として学ぶ。単に観光や友達作りにとどまらず、外国人に自分の置かれている立場や希望などを説明するなど様々な場面や状況にふさわしい表現形式や対話の展開について教員と学生、学生同士のやりとりを通して練習する。スペイン語のスピーキング力を向上させることが目的である。	
			スペイン語中級Ⅱ	「スペイン語初級Ⅱ」に続いて、スペイン語のより複雑な文章を読むことを学ぶ。やや難しいスペイン語が読めるようになることが到達目標である。関係詞節や副詞節などを使った複雑な文章の繋がり方を読み解いていくにはどのようにしたらよいのかを、ビジネス的な実用文から文学的な小文まで実際のいろいろな文章を読んでいくことによって習得していく。きちんとした日本語にしていくことでスペイン語の理解が深まると同時に、日本語の使い方も磨けるようになる。スペイン語を読む力を向上させることが目的である。	
			スペイン語応用Ⅰ	「スペイン語中級Ⅰ」に続いて、スペイン語の会話技能を深める。準備したものをもとにして一定の長さの話ができるようになることが到達目標である。10分間程度を目安とする一定量のスピーチ、プレゼンテーションなどができるように、まずスピーチの題材となる言うべき内容を考え、そのスピーチの目的に応じて、それにふさわしい語彙や表現形式をまず辞書やインターネットの検索で見つけそれらを用いてスピーチやプレゼンテーションなどができるように学習する。目的や場面にふさわしい表現形式やスタイルでスピーチやプレゼンテーションのできるスピーキング力を培うことが目的である。	
			スペイン語応用Ⅱ	「スペイン語中級Ⅱ」に続いて、読む、書くという技能を深める。テーマを決めて自由作文をするところまで行くことを到達目標とする。短い文を読んでこれを反対の意味にしたり、要件を少し変えるなど変形していくことから始め、次第に様々な分野の少し長めの文を読んでスペイン語で要約したり、その文を元に自分の意見を文章で述べたりする訓練をする。スペイン語の読み、書きの技能を一通り使いこなせるようになることを目的とする。	
	専門基礎科目群		英語学概論	英語学とは言語としての英語の有り様を分析し、説明しようとする言語学の下位分野である。言語学の基本的概念である音素、形態素、句構造、統語規則、意味について英語を対象言語とし、英語の例を観察しながら理解を深める。英語に関してその音韻的特徴、語形成のパターン、文の基本的構造、意味解釈の問題を学ぶことにより、英語という言語を大局的に俯瞰できるようにする。英語のデータを自ら分析する実践を通して英語学の諸知識を修得し、英語の形態論、統語論、意味論上の諸問題について把握し理解を深めることを目的とする。	
			英米文学概論	英語圏の文学の中で特に英米文学を学ぶ意義とは、イギリス文学に凝縮されている「英語という言語がもつ伝統性」、またそうした伝統への反発から新たな言語文化を発展させてきたアメリカ文学に顕著な「英語の変容性と可変性」に同時に触れるためである。そこで、英米文学の代表的文学作品を概説するとともに、上記の特性を醸成した歴史的文化的背景について解説する。英米文学を支えている代表作やその特徴を理解し、それらの知識を自国の文化、文学との類似や差異と関連付けながら自由に発信できるようになることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （11　柳沢　秀郎/8回） アメリカという国の成り立ち、およびその後の国家形成が小説や詩に代表される言語芸術にどのように反映されているのかについて通史的に学ぶことでアメリカ文学の全体像を把握するとともに、そこで得た知見を現代アメリカの諸問題と関連付けることで、今日のアメリカ理解にも応用できる素地を養う。 （33　西山　徹/7回） 英米文化の礎となるイギリス文学の潮流を概観する。イギリス文学における主要な作家や作品を取り上げ解説するとともに、イギリス文化への影響や文学が生まれた時代背景を学ぶ。イギリス文学を理解するための基礎的知識の修得を目指す。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			異文化理解	異文化との接触において生じる文化摩擦を克服するためには、言語運用能力を高めると同時に、言語の背後にある文化的価値観まで理解を深めることが不可欠となる。異文化理解では「文化」という概念について学び、それが人間の行動や考え方の根幹にあること、表層的で可視的な事象から掘り下げてその事象の基となっている考え方や価値観を探る可能性を理解する。更にその過程を通じて、自己の文化や自己と異なる文化背景を持った他者とどのように理解し合えるかについて考察を深めることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （5　二神　真美 /8回） 地理的環境や歴史的発展に規定される生活様式や社会習慣や伝統文化について理解を深め、異文化に対する受容能力を育てると同時に、自文化を相対的にとらえる洞察力を養う。 （3　村田　泰美 /7回） 日本語と英語の語彙や文法構造がどのようにそれぞれの文化を表しているかを解説するとともに、文化的価値観の変化が言語形式や言語使用に与える影響を学んでいく。	オムニバス方式
		選択必修科目枠①	英語音声学	英語と日本語の音声について調音位置、調音方法を学び、母音および子音の分類の仕方を理解する。また、英語自然発話の特徴であるストレス・リズム・イントネーション等の仕組みを学ぶ。それらを言語の音を記述するために定められた国際音声記号（IPA)を使って音声特徴を記述できるようになる。さらに、音響分析手法を学び、音声を視覚的に捉える。これらのスキルにより、両言語の音声の差異を自ら発見することによって、日本語話者にとり、発音が難しく、コミュニケーションに支障を与えると予測される英語音声特徴を抽出し、英語音声の知覚と産出ができるようになることを目的とする。	
			英語の構造と仕組み	英語の言語構造について語の最小単位である形態素を理解するところから始める。次に品詞、句、節や文という単位でどのように英語の構造を記述できるかを考えることで、英語に対する感覚を養う。さらに構造文法や生成的な分析方法を使いながら形態統語規則に対する理解を深める。その上で文形式より大きな談話単位の中での指示詞、時制、態の使われ方に注目し、文章が文文法を超えた規則によってどのように支配されているかを分析できるようになることを目的とする。	
			コミュニケーションのための英文法	ことばは単に情報を伝達するだけではなく、人間関係の確認のためにも使われる。情報よりも対人関係の構築や維持のために言語が使用されるのをphatic communion(言語交際）とよぶ。英語でコミュニケーションを図る時、どのような言い回しや、表現が言語交際機能となるのかを考え、基底に潜む価値観まで考察を進める。次の段階としてさまざまな発話行為を取り上げ、英語と日本語でどのような違いがみられるのかを観察し、英語コミュニケーションの特徴を理解することを目的とする。	
			イギリス文学研究	イギリスは言うまでもなく英語の母国であり、イギリスの文学は英語の形成にも言葉の背後に潜む文化や価値観にも大きく影響してきた。イギリスの文化や価値観を理解するために、イギリスの代表的な作家やその作品を取り上げ、イギリス文学の特質や作品を読み解く方法について解説するとともに、それぞれの作品が生まれた時代背景を踏まえながら作品の背後にある社会的事情との関わりについても解説を加えていく。時代の思潮を踏まえながら、イギリス文学の作品を正確に読み解く方法の修得と文学を通しイギリスの文化やイギリスに暮らす人々のものの見方を理解することが目的である。	
			アメリカ文学研究	今日、アメリカ文学研究の世界的動向は、もはや当事国アメリカ内部の議論だけに留まらず、トランス・ナショナルな視点を取り入れる段階にある。本授業では、ニュー・クリティシズムや印象批評など伝統的旧来の研究手法はもとより、トランス・ナショナルな視点で議論されるアフロ・アメリカンやアジア系など人種マイノリティ文学やポスト・コロニアル文学などについても解説する。 アメリカ文学研究の最新の動向と手法を理解し、それらを踏まえ、アメリカの言語文化に対してオリジナリティのある解釈を提供できるようになるのが目的である。	
			インタラクティブ・イングリッシュⅠ	面識のない人にどのように話しかけて友達になるか、社交場面での会話をうまく切り上げるにはどう言うのか、会話の誘い水として「ほめる」、わからない時はどういう問いかけをするかなど、英語で会話を弾ませるようなストラテジーを学び、習得を図る授業である。会話の基本である相手との相互やり取り（インタラクション）のための発信―応答の典型的なパターンを学び、ロールプレーを通して身につけるようにする。英語の相互やり取りの型を覚えることで、自らの母語を振り返り、英語コミュニケーション・スキルの向上と理解を深めることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			インタラクティブ・イングリッシュⅡ	双方向のコミュニケーションの場面で、英語における対人関係への配慮ができるような英語文化的価値観を学び、国際英語のマナーをわきまえた英語の表現とは何かを理解した上で、実際のコミュニケーションにおいて場面に応じた定型表現が使えるように練習する。「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」から継続して、相手に共感する表現、話の順番を振る方法、苦情を伝える方法、口調を和らげる方法などの会話ストラテジーを習得し、対人関係に配慮した英語運用ができるようになることを目的とする。	
			異文化コミュニケーション	国を単位とした異なる文化間でのコミュニケーションに限定することなく、様々な人間関係レベルと文脈に照らし合わせながら異文化という概念を考察する。自己と他者の関係性は多様化し、人やモノ、文化の行き来は物理的にも、メディアなどを介した新しい形でも日々起こっている。国際的な視野が個々人に求められる中で、英語教育に代表される外国語教育などで高まるグローバル化から、日常生活の中に存在する当たり前であると前提にされることまで、様々な異文化に対する「気づき」の基盤作りを目的とする。	
			多文化共生論	国境を越えて人が行き来するグローバル化社会において、各国では社会の多文化化が進展している。多文化社会に起こっている現象や異なる文化を背景に持つ人々との共生についてアメリカ社会を中心に解説をする。アメリカ社会が内包する共生と対立の構造について、エスニックグループの居住空間分析から理解したうえで、異文化と共生することが、人類の安寧と豊かな発展の礎であることを認識する。多文化共生の意義に対して理解を深めることにより、グローバル化社会に対応するための資質を培うことを目的とする。	
		選択必修科目枠②	日本中世近世史	日本の中世から近世を概観し、歴史的な特質を考える。日本の中世・近世社会の基礎的構造を理解しながら、鎌倉時代から江戸時代に渡る中世・近世において日本の社会や文化がいかに形成されてきたかを学ぶ。それらの時代に起こった出来事を取り上げ、解説を加えるとともに、単に史実を学ぶだけでなく、どうしてそのようなことが起こったかを考えながら学習を深める。日本の中世・近世についての基本的知識を学び、歴史を多角的視点から考察することを目的とする。	
			日本文学研究	文学を成り立たせるのは、まず言葉であり、文字であり、次にこれを媒体（紙）に定着させる技術である。独自の音数律を持ち、漢字・仮名という特殊な文字を得た日本文学は、当然西洋文学とは異なる発展を遂げた。本授業では、こうした日本文学の特殊性について学ぶ。具体的には、くずし字と英訳という、互いに最も離れたイメージから作品にアプローチし、さらに翻訳や文体の問題にも言及することで、日本文学を世界の文学の中に相対的に位置づける視野を培うことが目的である。	
			日本の伝統文化	日本文化の最大の特徴は、各時代の文化が淘汰されずに現代も生き続けているという、「文化の重層性」にある。特に能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）といった伝統芸能の分野でこの傾向が強い。西洋の文化人からわが国が”Treasure Island”と呼ばれる所以である。各時代の伝統芸能の成立と展開、その特徴について深く理解し、かつテキストを読みこなす力を涵養する。併せて、自国の文化を英語で紹介することのできる「真の国際人」の養成を目的とする。	
			日本の先端文化	「クール・ジャパン」として世界から注目を集めるアニメ、マンガやサブカルチャー等の日本の先端文化を考察し、そこにみられる日本的な特質について解説する。輸出文化として位置づけられるようになった日本の先端文化と世界との関わり、先行文化としての文学や絵画などとの関連 、日本人の行動様式、生活様式、精神構造等との関わりについて解説していく。日本の先端文化の特質について理解を深めるとともに、世界に向けて、日本の先端文化を説明できるようになることを目的とする。	
			アジアを学ぶ	日本を含む多くの先進国は、購買力の低さや、貧困、インフラストラクチャーの弱さなどの側面からアジア諸国をみており、欧米の先進国と比べて魅力の低い地域だと評価していた過去があったことは事実であろう。しかし、最近、このアジア地域の目覚ましい経済発展がきっかけで、世界から注目を浴びるようになってきている。当授業では、民族、宗教、言語などに加え、経済・社会開発の側面から見て、アジアの魅力とは何かを理解することを目的とする。	
			地域研究論	グローバル化と総称される地球規模での社会・文化的交流がさらに活発化するなか、自他の所属する地域を適切に理解することは、21世紀を生きる者にとって必須である。地域とは自然環境のみならず、歴史や政治、またそこに生きる人びとによって多様に規定されるものであり、多角的な視点からその地域固有の論理を抽出する視野の涵養が求められる。そこで、現代世界における地域論を広く解説したうえで、東南アジアの事例を通じて、環境や宗教、経済など幅広い観点から地域を捉え、自らの地域を相対化する視点を養うことを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
	専門基幹科目群		アカデミック・イングリッシュⅠ	英語圏の留学先における勉学が円滑に遂行し、留学の成果を挙げていくために必要な事項について、英語で情報を提供したり、知識を与えておくことを目的とした授業である。「アカデミック・イングリッシュI」では、人文系分野の講義を英語で聞き取る練習を重ねて専門性のある語彙を増やし、改まった場での定型表現を覚え慣れることによって、ある程度高度な内容の英語でも聞き取れるようなリスニング能力を涵養する。並行して行う講義内のミニプレゼンテーションの実施を通して発言力の向上を目的とする。	
			アカデミック・イングリッシュⅡ	「アカデミック・イングリッシュII」では人文や社会科学の分野に関連する多くの英文を読み、専門的英文のスタイルに慣れることによって、専門的英文でも一定の速度で読みこなすレベルの読解力の涵養を目的とする。もう一つの目的は英語でのレポート（essay writing)を英語の学術文のルールに従ったスタイルで書けるようになる「書く」能力の涵養である。英語圏に留学し正規科目を受講する場合にも対処できる高度な英語力の習得を目的とする。	
			メディア・イングリッシュⅠ	英語でのニュースを聞き取り、理解できるようにするための授業である。ニュースの聞き取りの要となる大きな数字の聞き取りをはじめとして、政治、経済、国際関係、娯楽などジャンル別の基本用語を学ぶ。最新のニュースを見ながら、現在の世界や日本で何が話題となっているのかを把握する。特に経済用語、政治用語を重点的に習得し、自然なスピードで流されるニュースや解説を日本語の介在なしに理解できるようになることを目的とする。	
			メディア・イングリッシュⅡ	インターネットや、新聞など文字で表現された時事英語を読む授業である。画面上のスペースや紙面という制限があるため、文字で表現される時事英語には、特に見出しやリードの部分に独特の文法や省略方法が現れる。それらの特徴を学び、メディア英語の文章構成に慣れることで素早く内容を把握できるようにする。さらに時事英語の正確な理解のために必要不可欠な政治経済用語の習得を図る。辞書の助けがなくても新聞や電子メディアでの時事ニュースを理解できるようになることを目的とする。	
			英語の拡がりと多様性	かつての植民地が戦後独立を果たしたこと、現在まで英米が世界の政治、経済、文化の中心になってきたことで、英語は世界で最も汎用される言語となった。今や英語母語話者の人口より英語を第2言語として使用する人口のほうがはるかに多い状況となっている。その拡がりの一方で世界の各地域では、独特の英語種が生まれ、英語でもお互いのコミュニケーションが容易でない状況が存在する。現代の英語の多様性を認識し、世界に存在する英語変種を聞くことでその違いや英語としての共通性を理解することを目的とする。	
			第二言語習得論	第二言語習得論は母語の次に言語を習得する過程を科学的に探究する学問であり、心理学、脳科学、社会学、言語学など多岐に渡る。本講義では、第二言語習得研究の入門書により、英語学習の理論面を解説する。そしてその得た知識を基に、自身の学習方法の再考を促す。実際の授業では、第二言語習得研究の基礎的な概念や理論の解説をふまえ、学習者コーパスの誤り分析を通じて、その探究方法の基礎的な理解を持つ。それらを通して、科学的に学習段階を分析する術を学ぶとともに、効果的な英語学習の方法への理解を深めることを目的とする。	
			英語科教育法Ⅰ	グローバル化が進行する中、国際共通語としての英語（English as a lingua franca）の重要性は高まりつづけている。本講義では、上記のような社会的視座をふまえて言語や言語教育を考察する応用言語学の視点により、現代に至るまでの英語教授法とその歴史的、理論的背景の解説を行う。とりわけ日本の英語科教育に影響を与えたOral Approach、Natural Approach、CLT（Communicative Language Teaching）、TBLT（Task-based Language Teaching）などに焦点を当てる。それらを通して、英語教授法における理論と実践の基本的な理解を深めることを目的とする。	
			英語科教育法Ⅱ	「英語科教育法I」で得られた英語教授法における基本的な理解を踏まえ、本授業では日本の英語教育現場により焦点を当て、日本人学習者に適した指導法および学習法を検討する。具体的には1）実際に使用されている中高の英語教科書などをコーパス化して、そのインプットの性質を分析する教材論、2）知識重視から技能重視への転換を進めるCEFR-Jを中心とした評価論、3）言語の機能に焦点を当てたCLT、TBLTなどの語用論的な英語教授法の方法論を取り扱う。それらを通して、日本の英語科教育法において適した実践の構想力を高めることを目的とする。	
		選択必修科目枠	アメリカ地域研究	アメリカ合衆国の歴史、文化、政治、経済、社会、宗教、人々の暮らしやものの見方等の特質に焦点を当て、解説していくとともに、多様性の中の統一を標榜するアメリカ社会の変化と課題についても考察する。さらに超大国として、文化、経済、政治、社会をはじめとする様々な場面で、日本や世界に影響を与え続けているアメリカ合衆国の国際社会での位置づけについても解説を加えていく。 アメリカ合衆国に対する基本的な理解を深めるとともに、多角的視点から国際社会を理解できる能力を涵養することが目的である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	イギリス地域研究	イギリスの歴史、文化、政治、経済、社会、宗教、人々の暮らしやものの見方等の特質に焦点を当て、解説していくとともに、事実上の国際共通語である英語の発祥地であり、かつ、広大な英語圏形成に影響を与えてきたイギリスの国際社会での位置づけについても解説を加えていく。移民社会、階級社会、また、地域により様々な特質があるイギリスに対する基本的な理解を深めるとともに、多角的視点から国際社会を理解できる能力を涵養することが目的である。	
	中国地域研究	中国は、人口の九割以上を占める漢民族と50以上の少数民族を抱える多民族国家であるだけでなく、同じ漢民族のなかでも地域・気候・方言などにより多様な文化が育まれてきた。本講義では、このような中国の歴史、文化、社会の特質に焦点を当て、現代中国が抱える諸問題について解説を加えてゆく。その際、文化思想、経済発展、少数民族問題、中国現代史における重要事件にも触れる。現代中国の社会問題をより深く理解するために、日本語で読める代表的文学作品やルポルタージュ、インディペンデント映画等も積極的に紹介する。また、台湾の歴史、文化、社会、人々の暮らしやものの見方等についても解説を行なう。中国、台湾に対する基本的な理解を深めるとともに、多角的視点からアジア及び国際社会を理解できる能力を涵養することが目的である。	
	韓国地域研究	「韓国地域研究」では、韓国を主として朝鮮半島における社会の諸問題を、各国別、各地域別の研究であって、特別地域の総合的な理解や他地域との対比をその目的としている研究分野である「地域研究」の観点から考察し、その基礎となる知識を習得することを目指す。このようなことを踏まえ、地域研究の入口ともいえる朝鮮半島の歴史からはじめ、政治、経済、言語、宗教や、日本を含む他国との関係などの現状を探り、朝鮮半島に対する総合的理解を深めることを目的とする。	
	ベトナムの言語と文化Ⅰ	本来、言語と文化は切り離すことができないものである。文化は言語に影響を与え、言語は文化に影響を与える。ベトナム語の基礎を学ぶ際に、その背景にある文化を同時に学ぶことにより、言語の理解をより深いものとする。ベトナム語の特徴を理解するとともに、その語彙、音声、文法の基礎を学ぶ。ベトナム語を表すクオック・グーや基本的挨拶表現を学ぶと同時にベトナム人のものの考え方の礎になっているベトナム文化について解説する。ベトナムの文化を学びながら、ベトナム語の基礎を習得することを目的とする。	
	ベトナムの言語と文化Ⅱ	「ベトナムの言語と文化Ⅰ」に続き、ベトナム語の学習とベトナム文化の理解を深める。文化の知識により言語の習得を進めるとともに、言語習得の過程で、より深く文化を理解する。表裏一体である言語と文化を同時に学ぶことによって、ベトナム語の理解をより深いものとする。植民地としての歴史、紛争や２カ国分断の歴史、統一後の社会主義の実情、近代化がベトナムにもたらした影響などにも触れながら、ベトナム語で初歩的なやりとりができるようになること、及びベトナムの文化や事情の理解を深めることを目的とする。	
	タイの言語と文化Ⅰ	タイには年間130万人の日本人が訪れるが、仏教国や微笑みの国というイメージが先行するばかりで、同時代を生きる者としての等身大の理解が不足しており、まずは基本的な知識を深める必要がある。数字や挨拶から簡単な疑問文までのタイ語の初歩とタイ文字の基礎を習得し、スコータイ王朝からバンコク王朝に至る歴史、世界観の基礎をなす上座仏教、バンコクやチェンマイなど主要都市について理解する。これらを通して、タイについての知識を深めるだけでなく、広くアジア地域における言語と文化の多様性を体得することを目的とする。	
	タイの言語と文化Ⅱ	タイ-カダイ語族のタイ系言語は、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーなどで話され、そのうちタイ中部方言がタイ王国標準語のタイ語である。タイ語の学習が目指すのは、経済的な結びつきの高まる東南アジアへの理解の促進だけでなく、欧米語と異なった音韻や文法に触れることで得られる総体としての言語観の刷新である。助動詞や接続詞を用いた複雑なタイ語表現を解説するとともに、ラーマキエンやジャータカなどの物語や、現在の政治・経済動向を解説することで、タイを含む東南アジアの現代社会を総合的に理解することが目的である。	
	インドネシアの言語と文化Ⅰ	本来、言語と文化は切り離すことができないものである。文化は言語に影響を与え、言語は文化に影響を与える。インドネシア語の基礎を学ぶ際に、その背景にある文化を同時に学ぶことにより、言語の理解をより深いものとする。インドネシア語の特徴を理解するとともに、その語彙、音声、文法の基礎を学ぶ。文字の読み方や基本的挨拶表現を学ぶと同時にインドネシア人のものの考え方の礎になっているインドネシア文化について解説する。インドネシアの文化を学びながら、インドネシア語の基礎を習得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インドネシアの言語と文化Ⅱ	「インドネシアの言語と文化Ⅰ」に続き、インドネシア語の学習とインドネシア文化の理解を深める。文化の知識により言語の習得を進めるとともに、言語習得の過程で、より深く文化を理解する。表裏一体である言語と文化を同時に学ぶことによって、インドネシア語の理解をより深いものとする。植民地としての歴史、多民族社会の実情にも触れながら、インドネシア語で初歩的なやりとりができるようになること、及び多様性の中の統一を掲げるインドネシアの文化や事情の理解を深めることを目的とする。	
	国際フィールドワークⅠ（英語圏）	グローバル化社会においては、課題を知識で学ぶだけでなく、現地での調査を通じて実証的に理解することが重要である。この授業では、調査、学習対象を英語圏の国、地域に定め、そこで暮らす人々のものの見方・考え方や課題を学び、現地調査を通し理解を深める。授業は、講義と実習に分け、講義では海外での研修に先立ち、研修実施国の文化や社会などを学び、課題を設定し事前調査を行う。実習では、訪問国、地域の企業や事業体などを訪問したり、現場を見聞きしながら、フィールドワークを行い、知識と実際を結びつけ、国際理解を深めることを目的とする。	実習90時間 講義30時間
	国際フィールドワークⅡ（非英語圏）	グローバル化社会においては、課題を知識で学ぶだけでなく、現地での調査を通じて実証的に理解することが重要である。この授業では、調査、学習対象を非英語圏の国、地域に定め、そこで暮らす人々のものの見方・考え方や課題を学び、現地調査を通し理解を深める。授業は、講義と実習に分け、講義では海外での研修に先立ち、研修実施国の文化や社会などを学び、課題を設定し事前調査を行う。実習では、訪問国、地域の企業や事業体などを訪問したり、現場を見聞きしながら、フィールドワークを行い、知識と実際を結びつけ、国際理解を深めることを目的とする。	実習90時間 講義30時間
	海外研修	海外での研修を通して、外国の文化・社会、人々などに接し異文化理解を深めるとともに、自文化と他文化を比較することにより、豊かな国際感覚を身につける。海外での研修に先立ち、研修実施国の文化、社会、歴史やそこで暮らす人々の考え方等を学ぶとともに、現地研修では、その国の言語を学ぶことを中心とし、当該外国語の運用能力の向上及び異文化に対する関心を深め、自分とは異なる背景の中で育ち、生活している人々とより良いコミュニケーションを図ることができ、異文化に対する理解を深めることを目的とする。	実習90時間 講義30時間
	日本近現代史	19世紀前半から現代に至る日本史を対象とする。その際、主に政治的権力闘争、経済構造の変質とそれに伴う社会的変容、思想や文化の時代的変化、対外関係の推移等、多様な観点からの考察に努めたい。特に豪農の役割の変化、明治憲法下の天皇制国家の成立とその背後のイデオロギー、藩閥と政党との権力闘争、帝国主義国家としての日本の台頭、ワシントン軍縮体制と国際協調主義、都市化の進展、1930年代の軍拡とその後の敗戦、米国の占領政策と東西冷戦の影響、高度経済成長と冷戦後のグローバル化への対応等の分析を目的とする。	
	日本の宗教	日本人のものの見方や考え方の背景に宗教は大きな役割を果たしている。神道と仏教を中心に日本人の意識に影響を及ぼしている日本の宗教の特質について考察をする。宗教とはなにかについて基本的知識を学ぶ。日本の風土で生まれた民族宗教であり、日本の伝統文化の基底をなす神道に対しての理解を深めるとともに、日本人は6世紀に伝来した仏教をどのように受容し、日本の仏教はどのように変遷してきたのか考察する。日本人のものの見方や考え方の背景にある日本の宗教の特質を理解することを目的とする。	
	日本の経済	日本経済の学習は経済のみならず政治、文化、思想、対外関係等に及ぶ日本の全体像理解にも貢献する。したがって、授業では第二次大戦以前から現代に至る経済の考察を通して、日本社会の構造的変化の特質の理解に努める。特に、日本における主要産業の時代的推移、対外貿易の変化、労使関係の変容、科学技術の発展、都市化の進展、主要エネルギー資源の移行、更には世界経済に占める日本経済の役割の変遷に注目する。これらの吟味により、加速する経済のグローバル化の中で、学生が将来に向けて実践的視野を拡大していくことが目的である。	
	日本の政治	現代日本政治を規定する主要因として、我が国の歴史的要因と戦後米国の外交政策が考えられる。歴史的要因として、主に近代以降に形成され今日に至る我が国固有の制度や価値観がある。一方、米国外交の要因とは、敗戦後の米軍を中心とする対日占領政策や東西冷戦を背景とする日米安全保障条約に反映される米国の対日政策である。これらには戦前からの官僚機構が果たす機能の重要性、敗戦による平和主義への希求、防衛面における米国への依存性と経済優先の外交政策等がある。以上を念頭に日本政治の特質とその変遷の考察を目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			現代の日本社会	現代社会は、複雑で我々の理解が及ばないことが多く存在している。日本の社会の系譜を学びながら、現代の日本が直面している課題について考察するとともに、日本の現代社会にある課題をいくつか取り上げ解説をする。社会学の基礎的な概念について学ぶとともに、日本を取り巻く社会事象について理解を深め、自身と社会の繋がりについて理解する一助とする。日本の社会の変動と課題を学びながら、幅広い視点で日本社会を理解できるようになることを目的とする。	
			パブリックリレーションズ	企業、組織、団体にとってステークホルダー（一般大衆・消費者・取引先・マスコミ・株主・行政・従業員・地域等）と適切な関係を構築することは、複雑化する現代社会において重要である。従来の販売促進を目指す広報だけでは、充分ではなく、幅広く利害関係者と双方向でコミュニケーションができる能力はグローバル化した社会では不可欠である。本講義は、コミュニケーションの基本的な知識を学ぶとともに、パブリックリレーションズの基礎的概念を習得することを目的とする。	
			仏教文化論	アジア諸国においては、仏教が文化・社会生活の基盤をなしている地域が多い。とりわけ、東南アジア諸国には、仏教の社会生活や価値観への反映が理解されていないと、正しく理解することのできない地域が多い。仏教とこれらの地域の文化、社会との関わり、また、世界観にどのような影響を与えているかについて解説していく。グローバル化社会の中で影響をもたらす宗教文化のうち重要な位置を占める仏教文化に対して、基本的な理解を深めることを目的とする。	
			キリスト教文化論	英語圏をはじめ、ヨーロッパ、中南米においては、キリスト教が文化、社会生活の基盤をなしている。従って、キリスト教の理解なしに、これらの地域を正しく理解することはできない。キリスト教がこれらの地域の文化、社会とどのように関わっているか、また、世界観にどのような影響を与えているかについて解説していく。グローバル化社会の中で影響をもたらす宗教文化のうち重要な位置を占めるキリスト教文化に対して、基本的な理解を深めることを目的とする。	
			イスラム教文化論	イスラム世界をめぐっては、悲惨なテロ事件など、日頃のニュースでマイナスの情報が多いのが現状である。しかし、実際のイスラム世界は多様であり、人々はイスラムの教えに基いて平穏な暮らしを愛している。世界のイスラム人口は16億人を超え、さらに増加を続けている。このため、グローバル化社会の中で、イスラム教に関する知識は必須のものとなっている。イスラム教と、その背景にあるユダヤ教とキリスト教という一神教の思想の学習を通じて、公正なイスラム理解を得ることを目的とする。	集中
	専門展開科目群		英語通訳演習	英語から日本語への通訳、日本語から英語への通訳のために必要なスキルの養成を重点的に学ぶ。特に英語での論法、すなわちアイデアの提示の方法、順序がどのように日本語と異なるかを理解して英語のロジックを修得する。英語特有の口頭表現、日本語特有の口頭表現を解説しながら、場面や形式ごとに通訳のキーポイントについて演習を進める。アテンド通訳、観光ガイド通訳、イベント通訳、会議通訳など実際の通訳シーンに必要な表現とスキルの応用的な演習を行うことを目的とする。	
			ビジネス英語	ビジネスで必要となる英会話を対面形式や電話口でのロール・プレイを交えて練習し、ビジネス特有の表現、イディオムの習得を目指す。またＥメールの型についてよく用いられる数種類のフォーマットを学び、基礎から応用までひととおりＥメールを書けるようにする。商取引折衝、企業の業務案内等、業務の現場で求められる実用英語について、的確なタームと表現形式を習得することを目的とする。即戦力としての英語力の習得と業務の前線で活躍し得る能力の育成を目的とする。	
			英語プレゼンテーション	英語のプレゼンの基礎である論理の構成を理解し、英語のパターンに従ったプレゼンとはどのような形式をとるものなのかを学ぶ。演繹的に主張を示した後で、支持文で理由づけをおこなうパターンを習得するとともに、論理を明示するつなぎことばを使いながら、企業の業務紹介、新商品の広報、新規事業の展開及び日本の文化や社会などについて、効果的な視覚資料を作成し、的確なプレゼンテーションができるように実践する。即戦力としての英語力の習得と情報発信力の育成を目的とする。	
			英語科指導法Ⅰ	日本の英語教育現場では、従来の文法や訳読を中心とした形式重視の指導法から、コミュニケーションやタスクを中心とした機能重視の指導法に転換しつつある。本授業では、主として学習指導要領に基づき、小中高の教育目標、内容を概観し、優れた授業実践を観察する。その後、グループワークや討議を経てよりよい授業について考察を深める。最終的にグループで考案した機能重視型の授業を試行する。それらを通して、教育実習のための授業観察、および授業実践における基本的な実践力を習得することが目的である。	

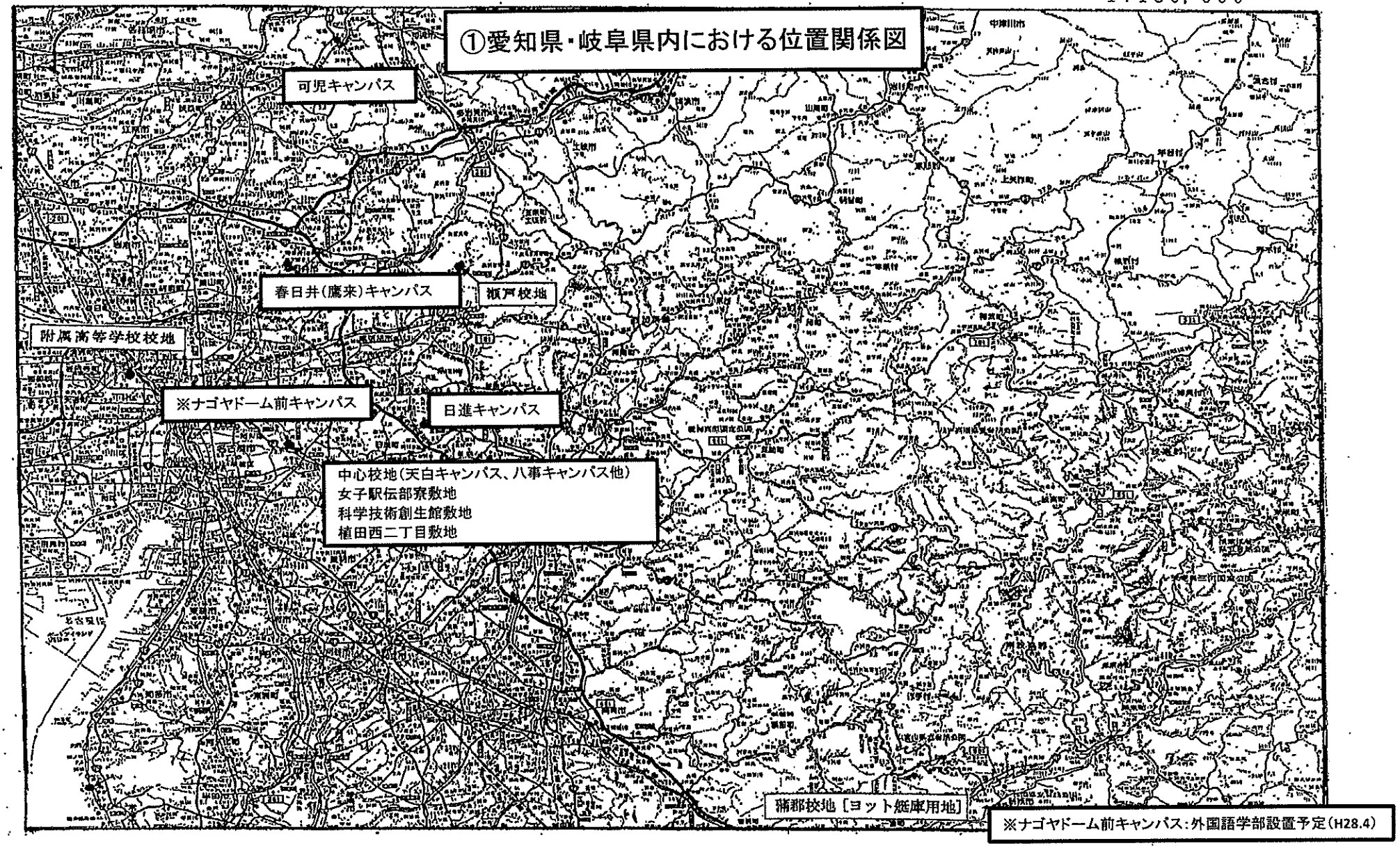
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語科指導法Ⅱ	「英語科指導法I」で概観した諸側面の英語指導技術を統合し、一貫した授業を行う。具体的には、実際の中高の教科書を使用して、コミュニケーション能力を育成する観点で一授業全体を計画し、準備し、実践する。模擬授業は授業者、生徒役、授業観察者の役割に分かれて運営を行う。事後にこの個々の模擬授業に関連する理論的背景を紹介し、理解を深める。またタスク活動やテスト問題等を実際に作成する。それらを通して、中学校・高等学校で教育実習を行う上で必要となる全体的な英語授業構成力、および実践力を習得することが目的である。	
	日本のものづくり	明治維新後、極めて短期間に欧米先進国へのキャッチアップを果たした日本のものづくりは、経済のグローバル化が進む今日においても、その優位性と特殊性は際立っている。本科目は、世界的に高く評価されている日本のものづくりについて、特にトヨタ自動車など愛知の事例を中心に、歴史的・技術的・地域的な発展の系譜、人材の育成と技能の継承、チームワークや労使協働など利他主義に基づく経営文化などを解説し、日本のものづくりの特徴を正しく理解するとともに、将来、企業のグローバル経営に貢献しうる人材の育成を目的とする。	
	日本のツーリズム	日本のツーリズムは、内外からの交流人口の増加に伴い、地域の持続的発展の牽引力としての重要性を増している。世界では持続可能な観光地経営のための指標開発が国連組織を中心に推進されている。日本では国際的に競争力のある観光圏の整備や着地型観光の促進がなされている。こうした取り組みを踏まえ、日本のツーリズムの実態と政策的課題について解説していく。日本のツーリズムに対する基本的な理解を深めるとともに、世界の動向も視野に入れた持続可能なツーリズムのあり方についての洞察力を養うことを目的とする。	
	国際関係論	19世紀末の帝国主義の時代から東西冷戦後に至る国際関係を、主に経済力、軍事力、文化及び思想の対外波及力を通して分析する。その際、帝国主義における勢力圏外交、ウイルソニアン的国際平和主義、総力戦としての第二次世界大戦、東西冷戦、冷戦後の経済のグローバリゼーション等を上記の三つの観点から分析し、国際関係の変化について考察する。また第二次大戦後の日本外交に関しては、その対日影響力の重要性に鑑み対米関係により注目したい。最終的には明晰かつ汎用性に富む国際関係分析枠組の把握を目的とする。	
	国際経済論	貿易に背を向けて経済成長した国は無いが、多国間の貿易が進展すると、それぞれの経済に大きなチャンスがもたらされる一方、他方では調整が必要になる。それはなぜか。また海外に企業が進出し、あるいは選択的に海外から資本を受け入れ、国々の経済はより高い経済発展をとげ、商品、資金、技術、人間の移動の国際化は大きな成果を上げた。しかし、発展と同時にそれぞれの国内と国々の経済諸関係に様々な課題が発生している。これらの問題や課題を理解する能力を養うことを目的とする。	
	近現代の日中関係	古来から隣国として密接な関係を築いて来た日本と中国との関係について、時代を近現代に絞り、その時々における両国の国内事情や国際情勢を踏まえながら、両国間で生じた諸問題を取り上げ解説をしていく。また、その問題の発生の要因と問題解決の方策が、その後の日中関係にどのように反映しているかについて解説を加える。近現代の日中関係について基本的理解を深めるとともに、多角的視点からアジア及び国際社会を理解できる能力を涵養することが目的である。	
	近現代の日韓関係	古来から隣国として密接な関係を築いて来た日本と韓国・朝鮮との関係について、時代を近現代に絞り、その時々における両者の国内事情や国際情勢を踏まえながら、両者間で生じた諸問題を取り上げ解説をしていく。また、その問題の発生の要因と問題解決の方策が、その後の両者の関係にどのように反映しているかについて解説を加える。近現代の日韓・日朝関係について基本的理解を深めるとともに、多角的視点からアジア及び国際社会を理解できる能力を涵養することが目的である。	
	アセアン事情	以前、先進国に対して原料提供国としての役割が注目されていたアセアン諸国は、70年代頃から外国投資受け入れに積極的な姿勢を見せ始めた。さらに、80年代の急速な円高ドル安傾向に伴い、これらの国々に対して日本を含む多くの先進国から多額の外国投資・企業移転が行われ、アセアン地域の国々は原料提供国から最終製品の生産国として位置づけられるようになった。当授業では、アセアン地域から代表的な国々を事例に取り上げ、経済及び産業開発の面から見て、これらの国々の開発に関する理解を深めることを目的とする。	
	南アジア事情	日本から見ると、南アジアの国々は「近くて遠い存在」だと言って良いであろう。日本や周辺の国々と比べ低所得者が目立ち、生活環境、食文化、価値観なども大きく異なっていることや、治安が悪い国も多く、仕事や観光を目的で気楽にいけそうもないと思われる理由があったと言える。しかし、最近では、これらの国々の状況は大きく変化してきており、日本はこの地域と交流を深める必要があると考えられる理由は多く見られる。この授業では、文化・社会的な側面だけでなく、ビジネスの面でも日本との関わりを持つことができる側面を中心に、南アジア諸国に対する理解を深めることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			ヨーロッパの文学と社会	文学作品を通してヨーロッパの社会を理解する。文学は作り手としての作家、受け手としての読者が時代によって変化することによって大きな実質的な変貌を遂げてきた。ヨーロッパの文学を主導してきたフランスを中心に代表的な作家やその作品を取り上げ、それぞれの作品が生まれた時代背景を踏まえながら作品の背後にある社会の在り方、美術、音楽、宗教などに目を配り、時代の思潮を踏まえながら、ヨーロッパの文化やヨーロッパに暮らす人々のものの見方を理解することが目的である。	
	ゼミナール科目群		基礎演習Ⅰ	高校までの受け身の勉強から、大学での主体的な学びを身につけ、大学生としての自覚を持たせるための導入教育である。学生生活や学習の時間管理、自己管理能力を身につけることを主眼に置き、基本的な受講態度や望ましい学習習慣の形成はもとより、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、資料の探し方、文献の読み方など、大学において必要となる基礎的なスキルを修得するとともに、大学での学習の方向を定めることを目的とする。	
			基礎演習Ⅱ	大学で必要とされる能力やアカデミックスキルを、文献や現場における調査、発表、討論などを通じて身につけるとともに、多様な考え方や物の見方があることを学ぶ。そして、フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、大学周辺地域の様々な問題やその解決方法などを学習する。また、大学生活において生じた問題などを取り上げ、その解決の方法を見出すことを支援する。学生の自主性を重んじ、アドバイスを行い学生が主体的に学ぶ力を身につけることができるように導くことにより自律学習の礎を身につけることを目的とする。	
			基礎演習Ⅲ	これまで学んだアカデミックスキルを発展させるために、座学で得られた知識を実証的に理解するためのフィールドワークを行う。フィールドワークでは、主としてグローバル化をキーワードとした地域の様々な課題を発見し、その解決方法などを考える。調査テーマの設定方法、どこで何をどのように調べるか等の調査内容の設定の仕方や方法を学ぶことにより、新たな課題を見出す能力、解決への手がかりを探る力を養うとともに、調査対象についての情報の入手の仕方を学ぶことにより、調査活動に必要な資料収集能力を養うことを目的とする。	
			基礎演習Ⅳ	現地調査を行う際の、現場での情報収集能力や現地の人から情報を得るコミュニケーション能力の育成を目指し、フィールドワークを積極的に授業に取り入れる。グローバル化に関する地域の課題を発見し、フィールドワークを通して地域とともにそれらの解決方法などを考える。また、現地で収集した情報を適切に整理することによって、分析力を身につけるとともに、調査内容の発表やレポートの作成を行うことによって、現地調査で得られた情報の分析、考察に基づいた報告書作成能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とする。	
			ゼミナールⅠ	これまでの大学生活で身につけた学問の基礎を踏まえ、専門知識や技能を身につけるために、文献や現場における調査、発表、討論を中心とした主体的かつ双方向の学びを基本とする授業である。その学習の過程において、コミュニケーション能力や協調性、プレゼンテーション能力を養う。教員や他の学生との対話や議論を通じ、自律的に学び、教員は研究のテーマを定めることができるように支援するとともに、それに必要な文献や資料の紹介や研究、分析の仕方などについてアドバイスをする。また、国内だけでなく、外国を視野に入れたフィールドワークの実施の仕方を学ぶ。研究テーマを見出し、主体的学習を進めることが目的である。	
			ゼミナールⅡ	研究テーマに関する資料を集め、その分析を進める。グローバル化の進展に伴う社会の課題解決を目指し、国内だけでなく外国を視野に入れたフィールドワークを行い、その成果のプレゼンテーションの仕方を学習する。また、他の学生のプレゼンテーションや考えを聴きながら、学生同士切磋琢磨し、論理的、批判的な思考法や物事を多面的に見る力を養うことで、洞察力や専門的知識を深める。教員は、研究の進捗状況を確認しながら、適切にアドバイスをする。社会人基礎力を身につけながら、研究を進め、大学生活の集大成に繋げることが目的である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナールⅢ	大学生活の総まとめである卒業論文作成を目指し、学生各自が定めたテーマについて集めた資料の整理、分析を基に研究を深める。文献や国内外をフィールドとした現場における調査、発表、討論を中心とした学生の主体的学習が基本となる。教員は課題の達成度を確認しながら、学術論文の作成の仕方についてアドバイスをし、研究成果が最大限となるよう学生を導く。専門的知識を深めながら、分析力、洞察力、コミュニケーション力等の養成をするとともに、研究成果の充実を目指すことが目的である。 （1 K.K.U. Ananda Kumara） 国際開発の面から見るアジア社会をテーマとし、様々な開発指数をもとに、アジア社会の現状と将来の見込みについて指導を行う。 （2 藤田　衆） フランスを中心とするヨーロッパの文化、社会についてこれまで学んできたことを取り上げ、どのような点が今まで欠落していたか、さらにどのような点について新たに調べられるか考えるという課題の指導を行う。 （3 村田 泰美） 語用論および社会言語学的データ収集の手法を用いて、英語または日本語の使用状況の実態に関する分析の指導を行う。 （4 堅田 義明） 日本と太平洋地域の関係を各自の関心に即し、貿易・軍事・移民・文化交流等の観点から収集資料の分析指導を行う。 （5 二神　真美） 比較社会文化論の分析手法を用いて、アメリカ地域の多文化共生の実態を調査し、現代アメリカ社会が内包する地域格差と再生の課題について指導を行う。 （6 岩井　眞實） 比較演劇学の手法を用いて、古今東西の演劇における時間・場所・筋・人物・テーマ等戯曲構造の諸要素に関する比較分析を行い、これらに共通する作劇法を探究するための指導を行う。 （7 西尾　由里） 日本人の英語の聞き取りや発音の問題点を子供と大人の言語習得理論から学び、科学的な実験計画法の手法の基礎を使い、効果的な習得方法論を開発する指導を行う。 （8 呉　大煥） 地域研究（主に朝鮮半島地域）、言語教育論、異文化間教育等の手法を用いて、朝鮮半島を中心とした地域研究や言語教育と関わる異文化間理解、多言語多文化社会、言語と社会などに関する課題の指導を行う。 （9 津村　文彦） アジアでの文化人類学の手法を活用しながら、現実社会に即応した論文のテーマと構成について指導を行う。 （11 柳沢　秀郎） 卒業論文として扱うアメリカ作家、文学作品の選定に関して助言をし、さらに分析の手法、視点などの指導を行う。 （12 松浦　周子） 中国文化圏に関する各自のテーマについて、先行研究を確認し、収集した資料やデータの整理と分析、及び新たな問題点の発見を課題として指導を行う。 （13 藤原　康弘） コーパス言語学の理論的背景を学ぶとともに、英語教育への研究的、教育的応用に関する指導を行う。 （16 宮崎　新） 社会や人間関係におけるコミュニケーション的事象を取り上げ、質的手法を用いて批判的に検証・考察するための指導を行う。	

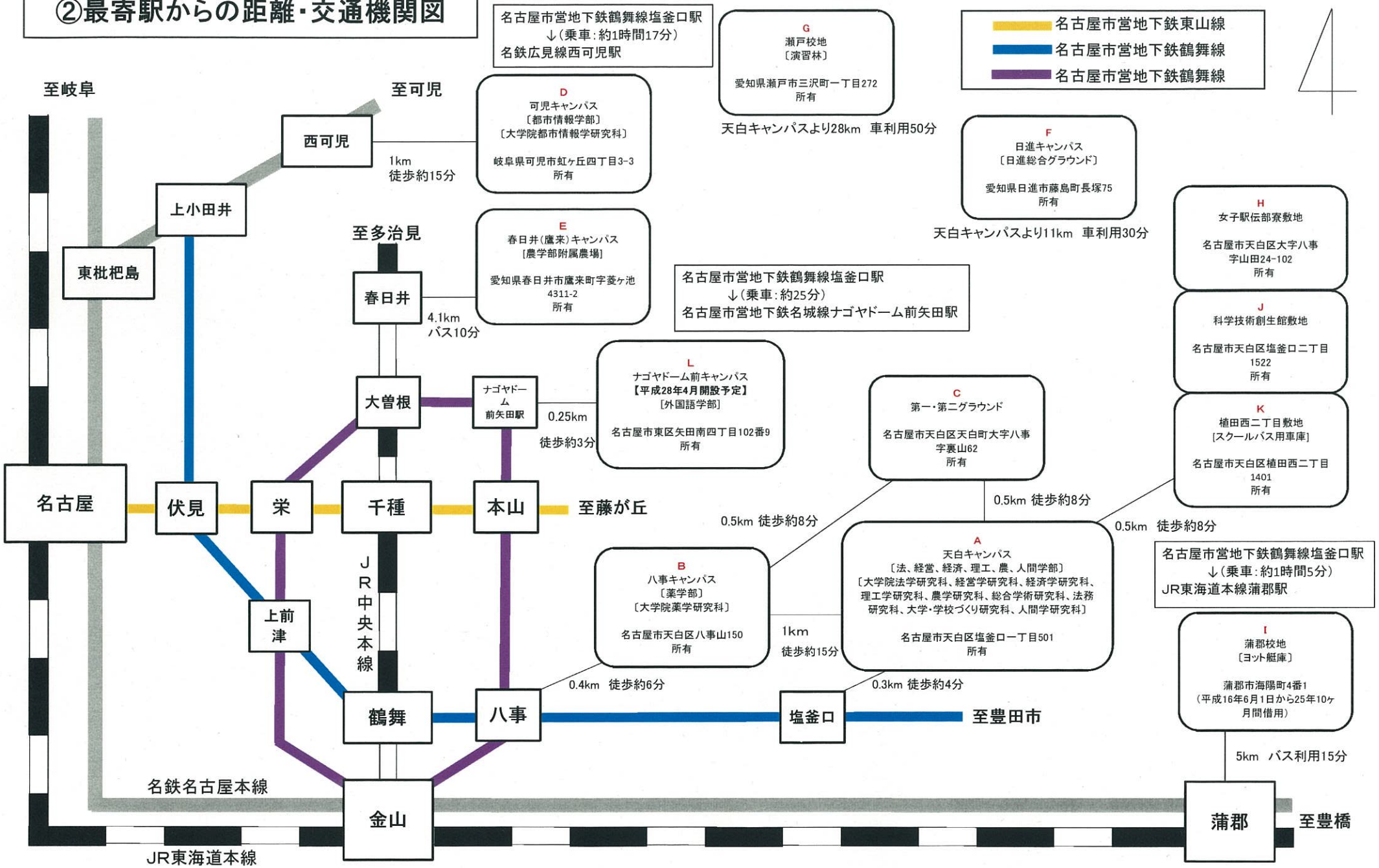
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			ゼミナールⅣ	大学生活の集大成として研究成果を卒業論文に仕上げる。これまでの研究を通じて修得された分析力、洞察力、コミュニケーション力、専門的知識等を基に、個々の課題がどこまで達成されたかについて詳しく確認しながら、卒業論文の完成を目指す。卒業論文の内容向上のため、研究成果の報告、発表、討論に重点を置いて演習を行う。調査、研究に加え、学生同士の議論や質の高い論文を作成するための教員の助言を基に研究成果の仕上げをし、生涯にわたり主体的に学ぶ力の涵養を目的とする。 （1 K.K.U. Ananda Kumara） アジア諸国を中心に超国家企業と地域開発をテーマとし、東南アジア、南アジア及び東アジアの国々において超国家企業が与えている影響についての分析を通し卒業論文を纏めるための指導を行う。 （2 藤田　衆） フランスを中心とするヨーロッパの文化、社会に対する日本人のかかわり方を取り上げこれからの日本がどのようにヨーロッパと接し、学んでいくものや逆に伝えていくものなどを考えるという課題の指導を行う。 （3 村田 泰美） 英語または日本語の使用状況の実態に関する分析から、語用論および社会言語学の理論的枠組に沿って得られる結論に関する指導を行う。 （4 堅田 義明） 日本の歴史に対する知見と国際社会への視野を育み、そこから各自が将来への実践的行動指針を抽出する指導を行う。 （5 二神　真美） 比較社会文化論の分析手法を用いて、アメリカ地域の多文化共生の実態を調査し、現代アメリカ社会が内包する地域格差と再生の課題について指導を行う。 （6 岩井　眞實） 比較演劇学の手法を用いて、古今東西の演劇における時間・場所・筋・人物・テーマ等戯曲構造の諸要素に関する比較分析を行い、これらに共通する作劇法を探究するための指導を行う。 （7 西尾　由里） 日本人の英語音声の知覚と産出の問題点と習得のメカニズムを学び、科学的な実験計画法を立て、データを採取分析し、効果的な習得方法論を開発する指導を行う。 （8 呉　大煥） 地域研究（主に朝鮮半島地域）、言語教育論、異文化間教育等の手法を用いて、朝鮮半島を中心とした地域研究や言語教育と関わる異文化間理解、多言語多文化社会、言語と社会などに関する課題の指導を行う。 （9 津村　文彦） 現代社会の文化的諸実践をめぐる問題群に対し、文化人類学的視点を踏まえ、論文完成に向けた指導を行う。 （11 柳沢　秀郎） アメリカ文学作品を扱った卒業論文の完成を目標に、各学生のテーマに即した参考資料の紹介、論文構成、表現方法など論文を書く上での具体的な指導を行う。 （12 松浦　周子） 中国文化圏に関する各自のテーマについて、新たな問題点を掘り下げ、客観的かつ論理的に自らの見解を論述することを課題として指導を行う。 （13 藤原　康弘） コーパス言語学の理論的背景を学ぶとともに、英語教育への研究的、教育的応用に関する指導を行う。 （16 宮崎　新） 社会や人間関係におけるコミュニケーション的事象を取り上げ、質的手法を用いて批判的に検証・考察するための指導を行う。	

1:180,000



※ナゴヤドーム前キャンパス：外国語学部設置予定(H28.4)

②最寄駅からの距離・交通機関図



※ナゴヤドーム前キャンパス：外国語学部設置予定（H28.4）

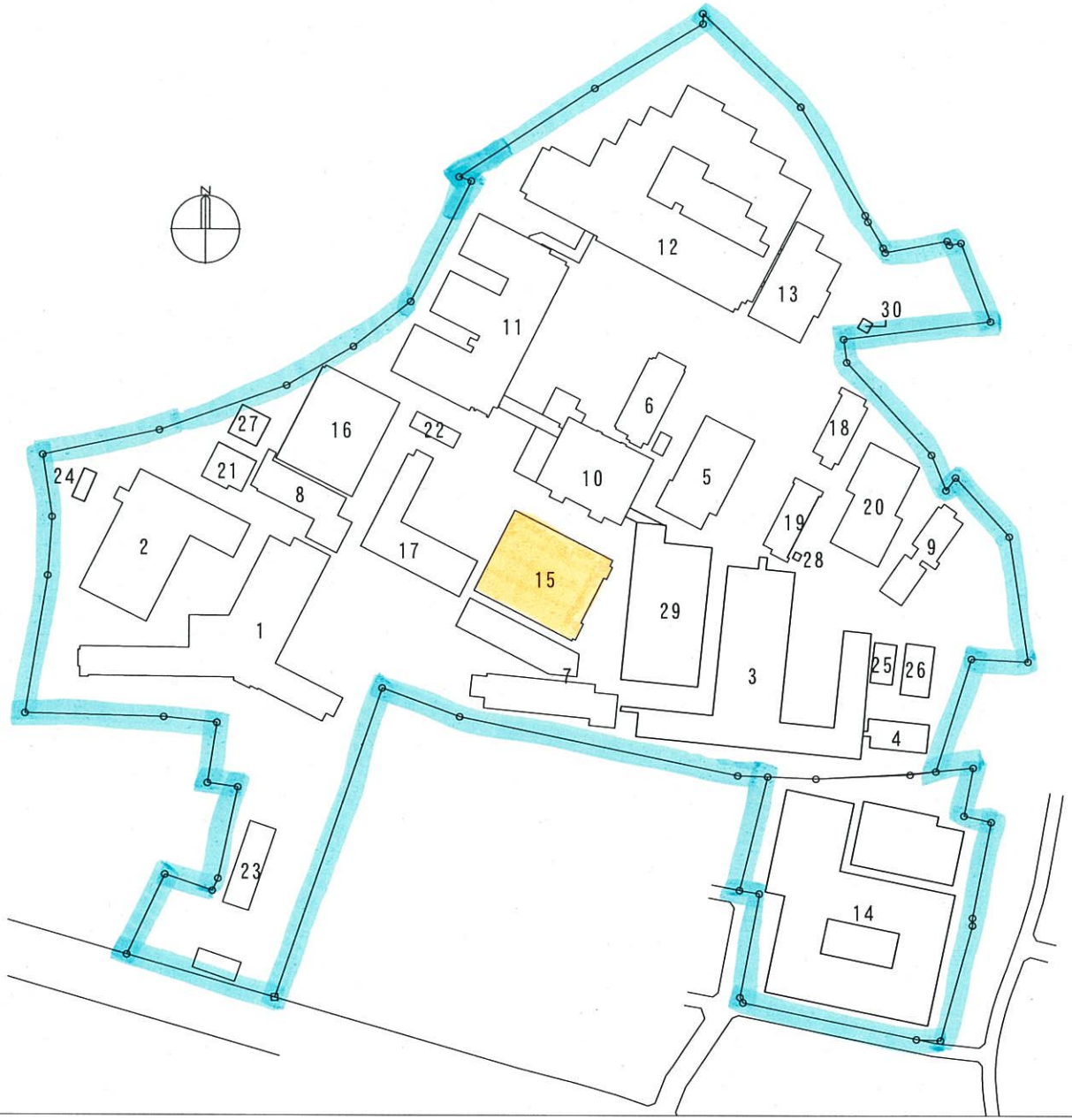
③校舎及び運動場等の配置図

名城大学天白キャンパス全体配置図　1：3000

：大学所有の校地

：外国語学部が使用する建物

A



NO	名　　称
1	2号館
2	3号館
3	4号館
4	4号館増築棟（平成31年6月解体予定）
5	9号館
6	10号館
7	11号館
8	12号館
9	13号館
10	タワー７５
11	共通講義棟南
12	共通講義棟北
13	研究実験棟Ⅰ
14	研究実験棟Ⅱ
15	附属図書館
16	体育館
17	本部棟
18	7号館
19	8号館
20	6号館
21	14号館
22	車庫
23	校友会館（平成28年9月解体予定）
24	理工機械科倉庫
25	理工土木構造実験室（平成31年6月解体予定）
26	理工屋外水理ポンプ室（平成31年6月解体予定）
27	本部附属施設
28	学生用倉庫
29	共通講義棟東
30	温室倉庫

天白校地

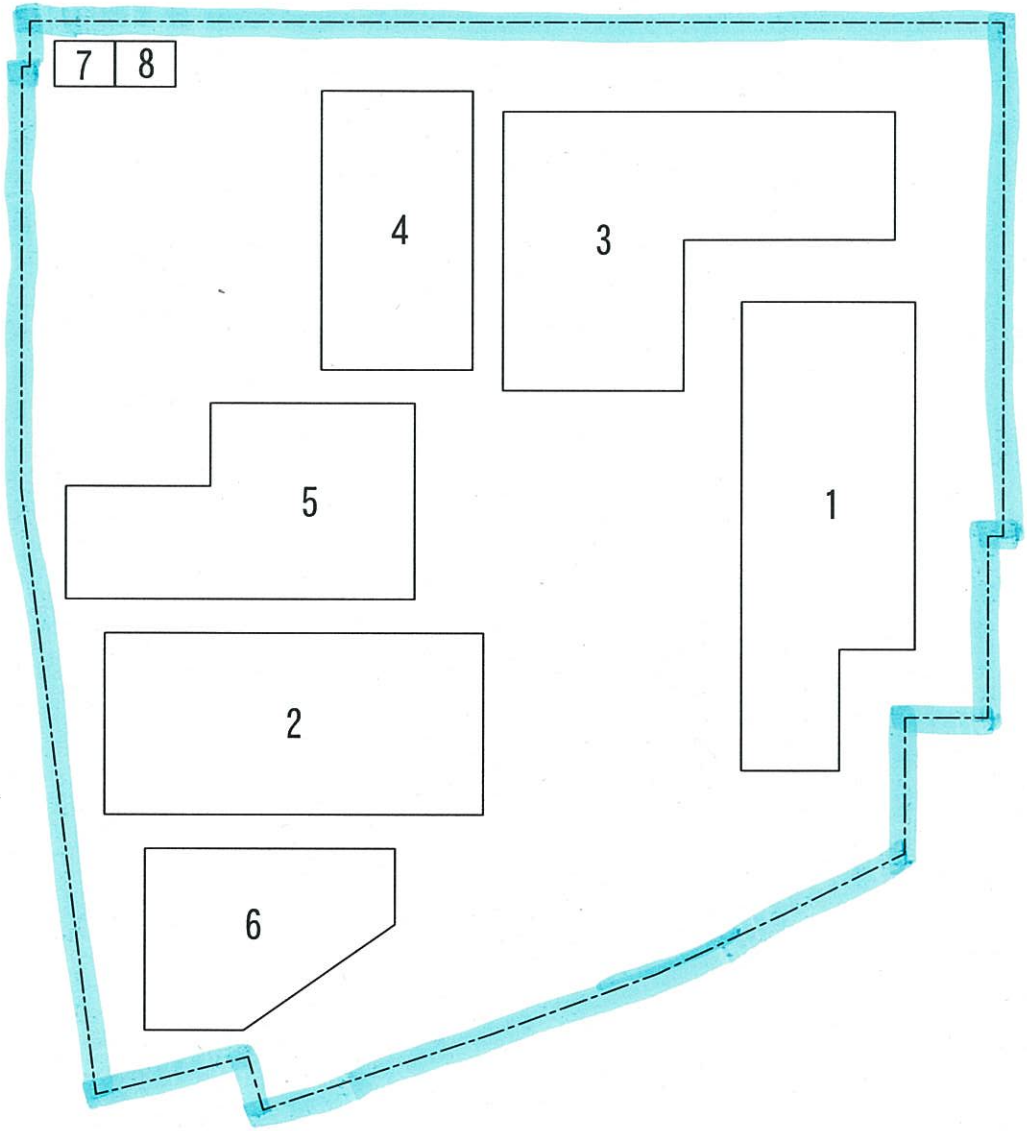
校舎敷地	114,338㎡	校舎面積	163,135㎡
その他校地	1,710㎡		
校地面積	116,048㎡		

※上記校地、校舎面積は、外国語学部開設時の平成28年4月現在の数値です。

※面積は小数点以下四捨五入

名城大学八事キャンパス全体配置図　1：1000

B



：大学所有の校地

No.	名称
1	新1号館
2	新2号館
3	新3号館
4	体育館
5	7号館
6	学生会館城薬ホール
7	危険物倉庫1
8	危険物倉庫2

八事校地

校舎敷地　17,553㎡　　校舎面積　30,123㎡

※上記校地、校舎面積は、外国語学部開設時の平成28年4月現在の数値です。

※面積は、小数点以下四捨五入。

名城大学第一グラウンド全体配置図　1：1000

C

：大学所有の校地

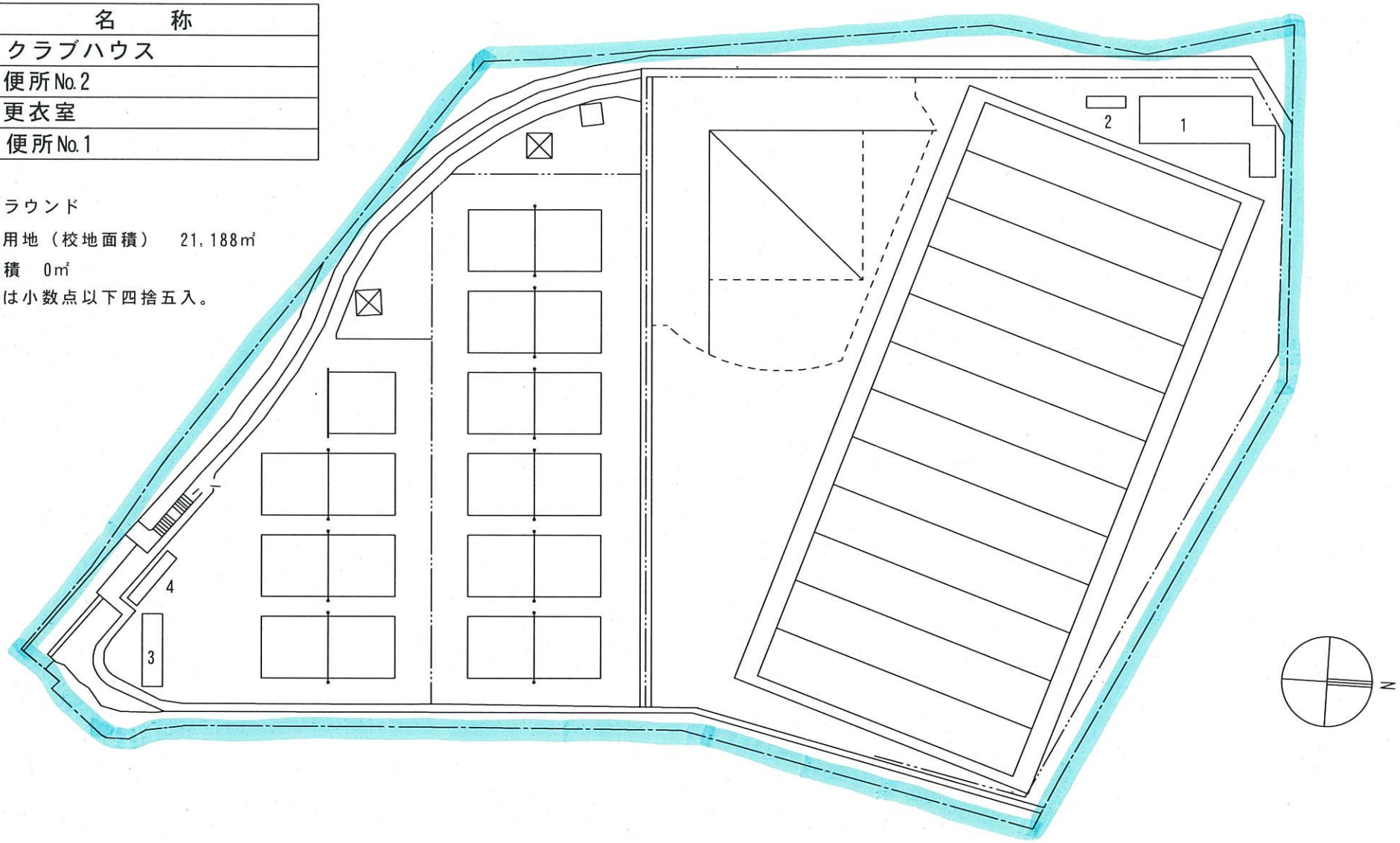
No.	名　　称
1	クラブハウス
2	便所No.2
3	更衣室
4	便所No.1

・第一グラウンド

運動場用地（校地面積）　21,188㎡

校舎面積　0㎡

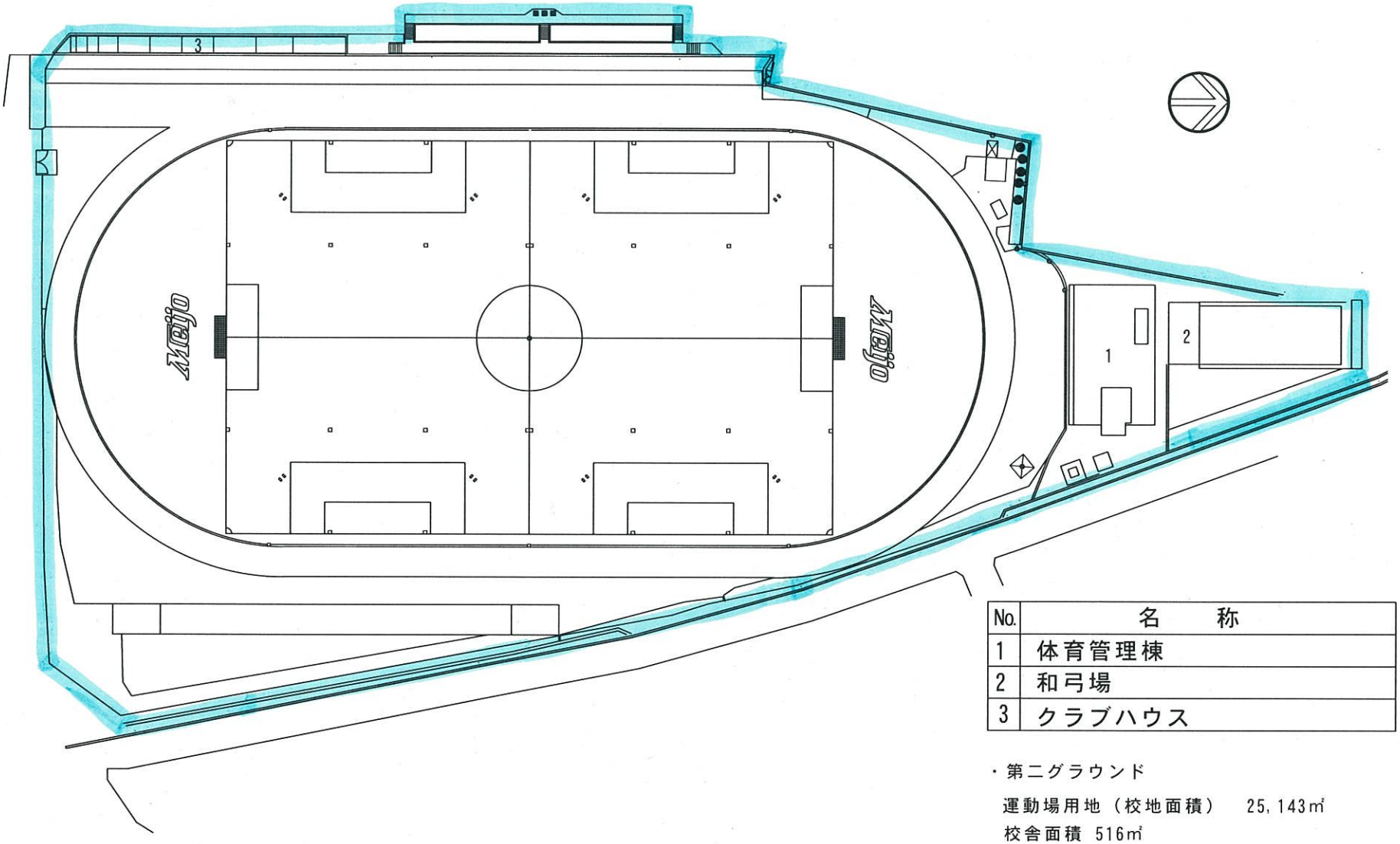
※面積は小数点以下四捨五入。



名城大学第二グラウンド全体配置図 1：1000

C

：大学所有の校地



No.	名　　称
1	体育管理棟
2	和弓場
3	クラブハウス

・第二グラウンド

運動場用地（校地面積）　25,143㎡

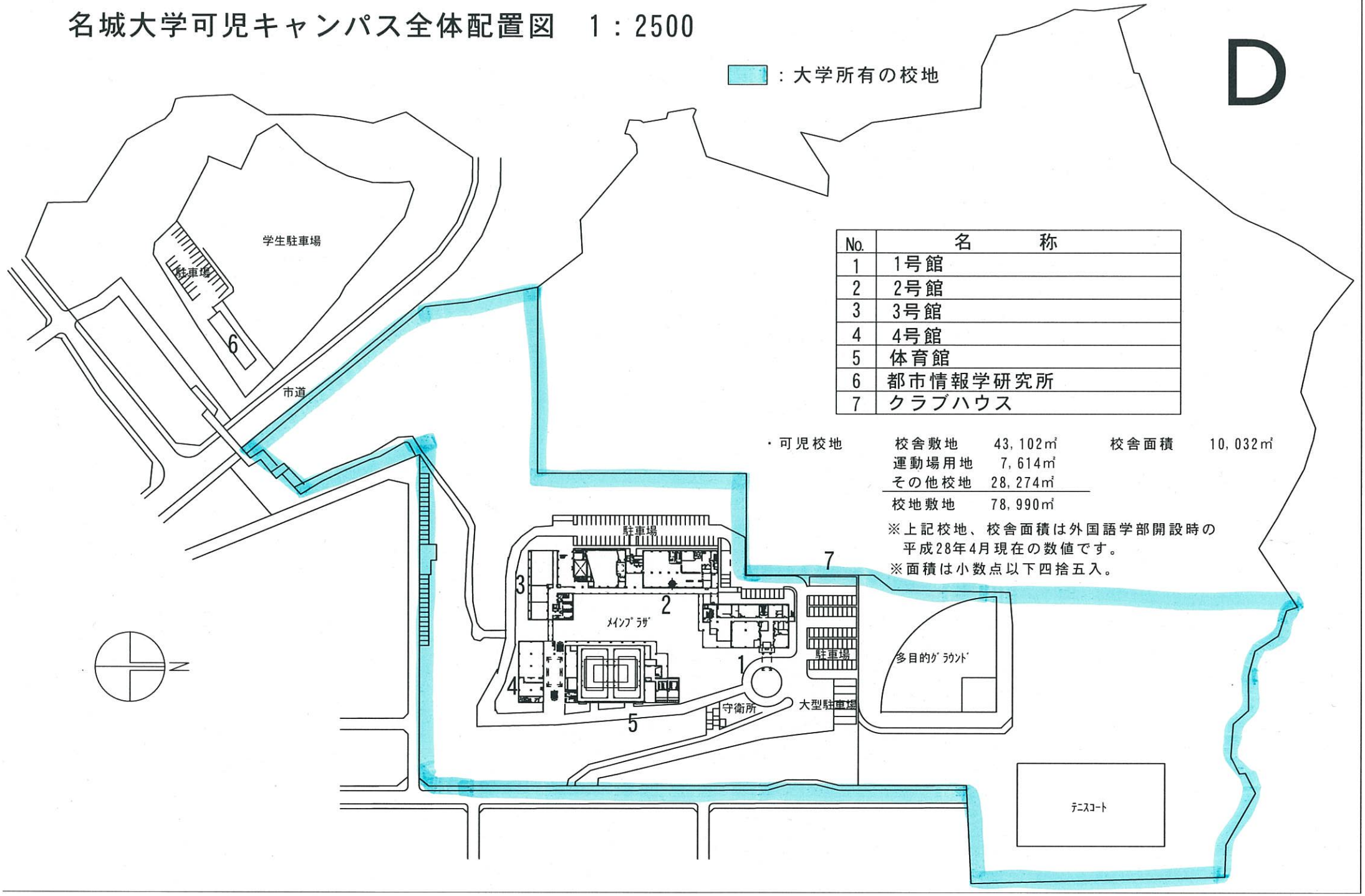
校舎面積　516㎡

※面積は小数点以下四捨五入。

名城大学可児キャンパス全体配置図　1：2500

D

：大学所有の校地



No.	名　　称
1	1号館
2	2号館
3	3号館
4	4号館
5	体育館
6	都市情報学研究所
7	クラブハウス

・可児校地

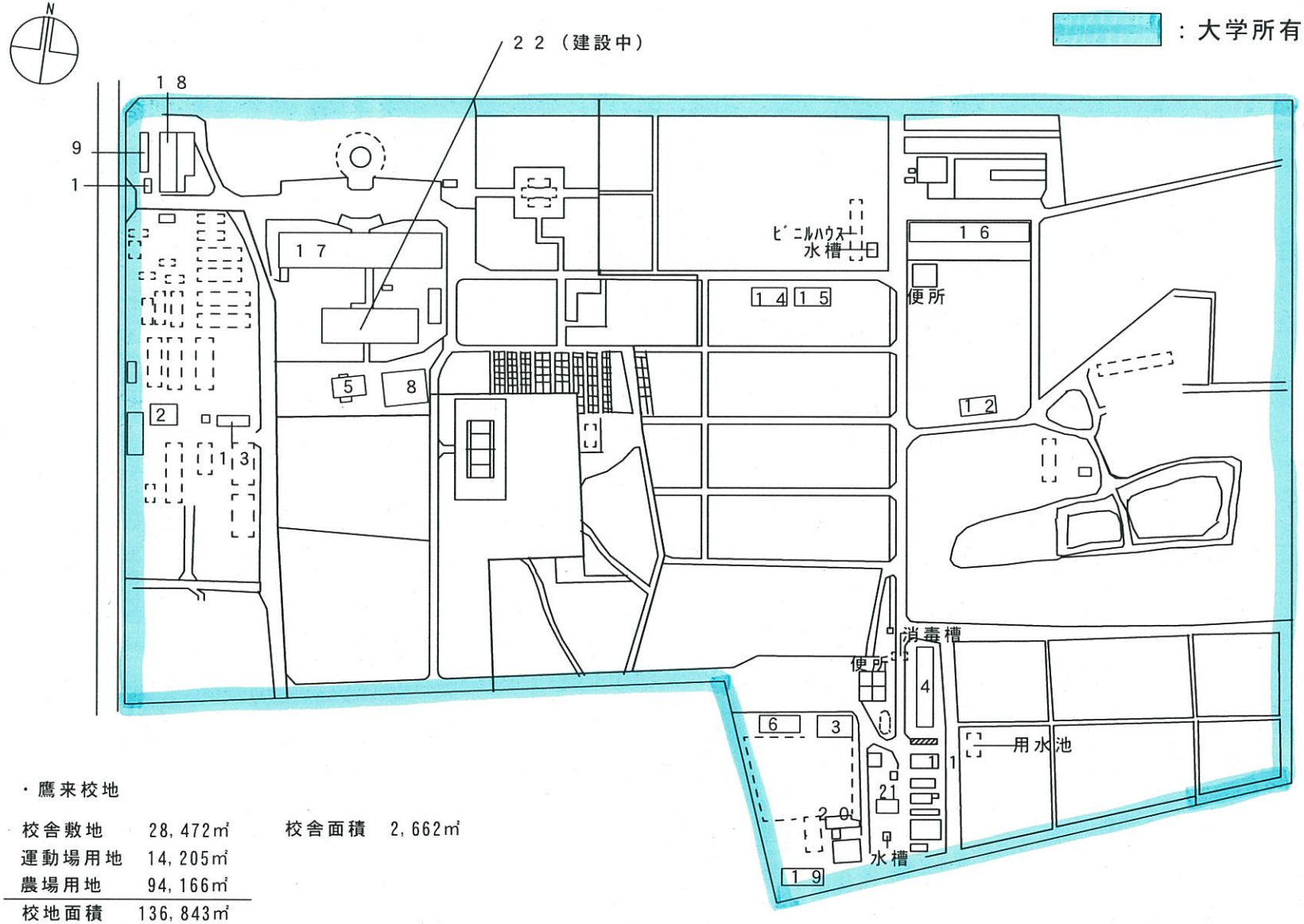
校舎敷地	43,102㎡	校舎面積	10,032㎡
運動場用地	7,614㎡		
その他校地	28,274㎡		
校地敷地	78,990㎡		

※上記校地、校舎面積は外国語学部開設時の平成28年4月現在の数値です。
※面積は小数点以下四捨五入。

名城大学春日井（鷹来）キャンパス全体配置図　1：2500

E

：大学所有の校地



No.	名　　称
1	守衛室
2	蔬菜・作物倉庫
3	牛舎
4	成鶏飼育用鶏舎
5	ｾﾐﾅｰﾊｳｽB
6	畜産飼料調整倉庫
8	ｾﾐﾅｰﾊｳｽA
9	管理資材倉庫
１１	鶏舎
１２	果樹部作業所
１３	花卉部作業所
１４	作物部作業所
１５	造園部作業所
１６	大型農機具庫
１７	本館
１８	蔬菜作物作業所
１９	畜産堆肥倉庫
２０	豚舎
２１	畜産作業所
２２	新本館 （平成27年度建設予定） 校舎　鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積　1497.90㎡（予定） （平成27年6月着工、 平成28年2月完成予定）

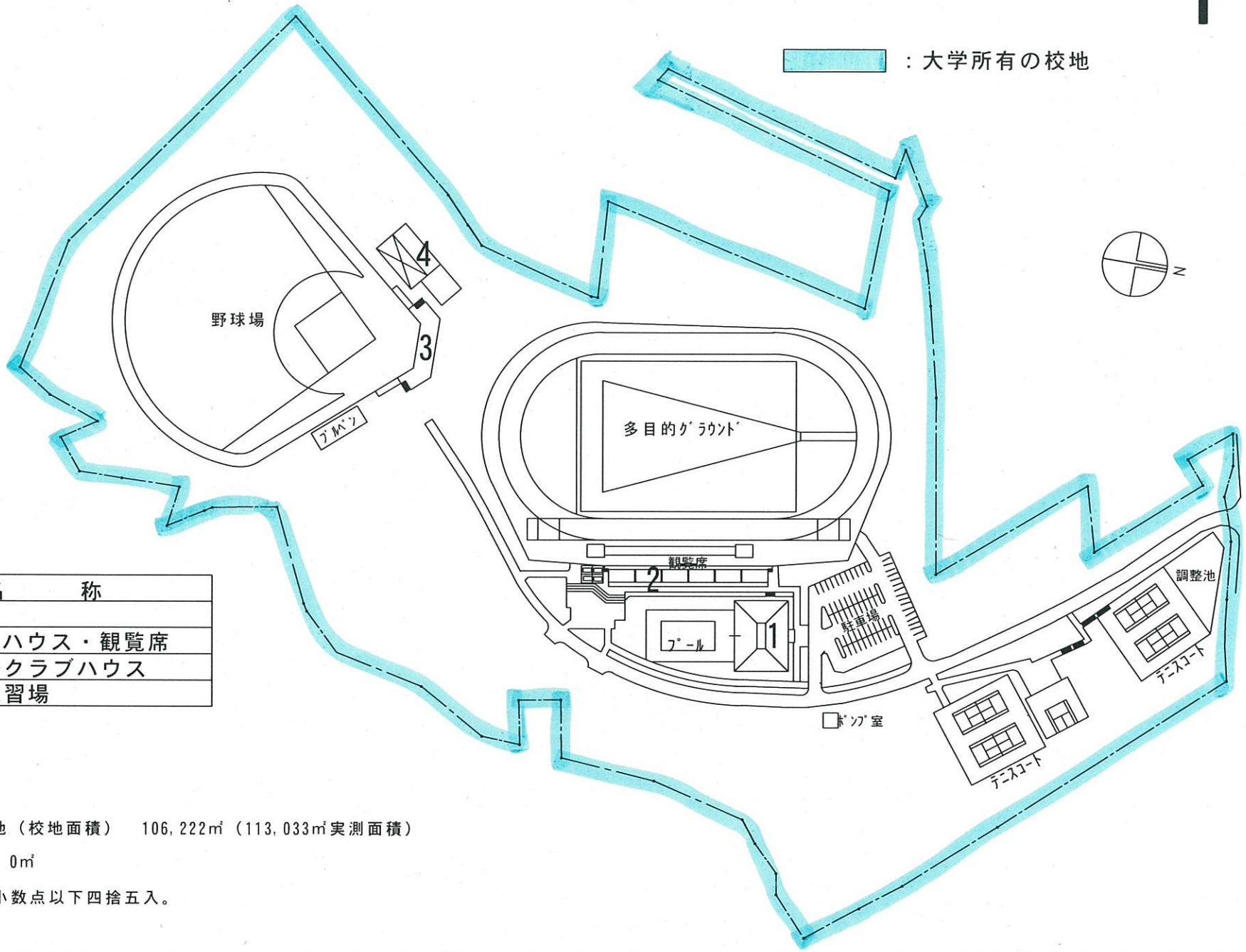
・鷹来校地

校舎敷地	28,472㎡	校舎面積	2,662㎡
運動場用地	14,205㎡		
農場用地	94,166㎡		
校地面積	136,843㎡		

※上記校地、校舎面積は、外国語学部開設時の平成28年4月現在の数値です。
※面積は小数点以下四捨五入。

名城大学日進キャンパス（総合グラウンド）全体配置図　1：2500

F



No.	名　　称
1	管理棟
2	クラブハウス・観覧席
3	野球場クラブハウス
4	雨天練習場

・日進校地

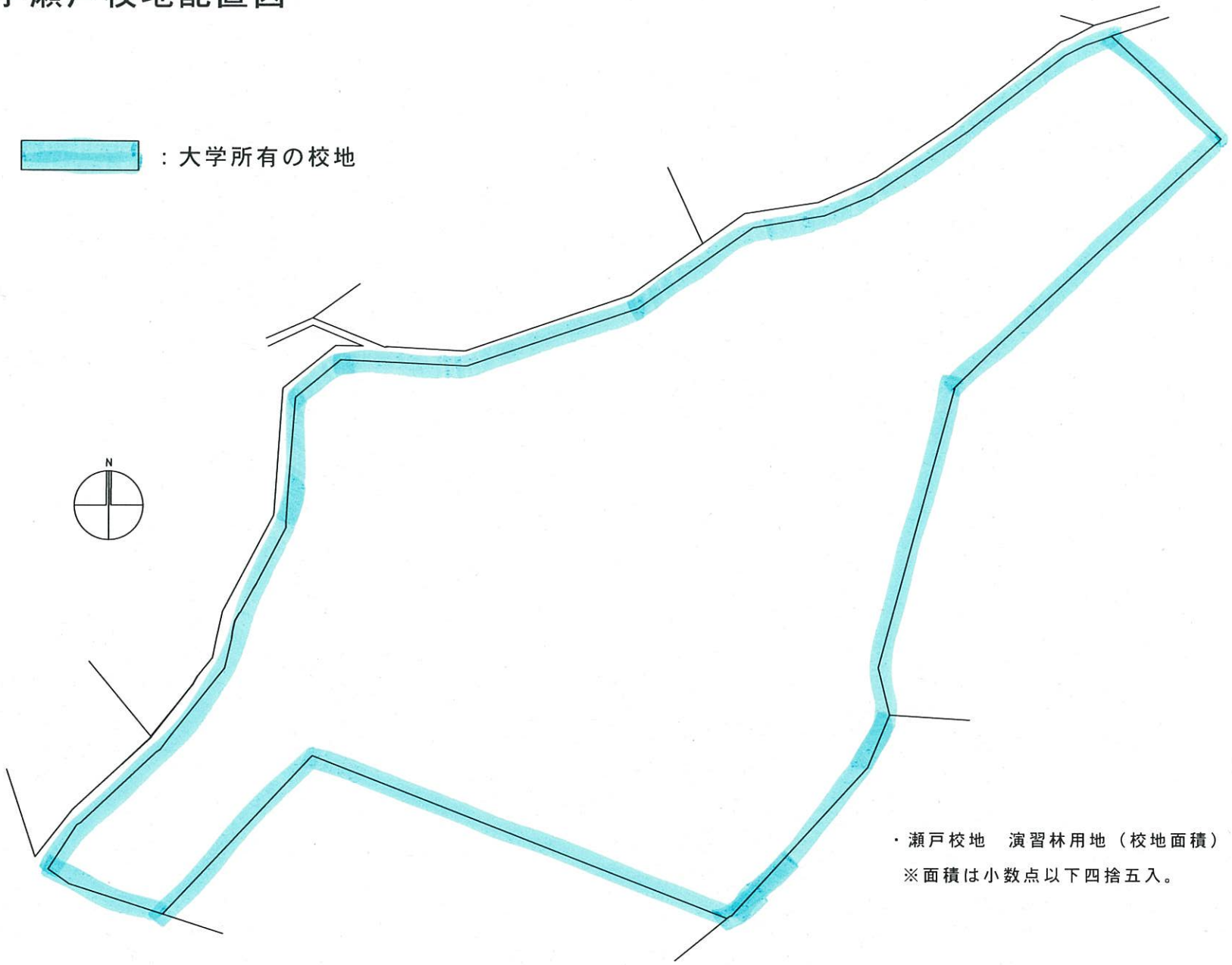
運動場用地（校地面積）　106,222㎡（113,033㎡実測面積）

校舎面積　0㎡

※面積は小数点以下四捨五入。

名城大学瀬戸校地配置図

G

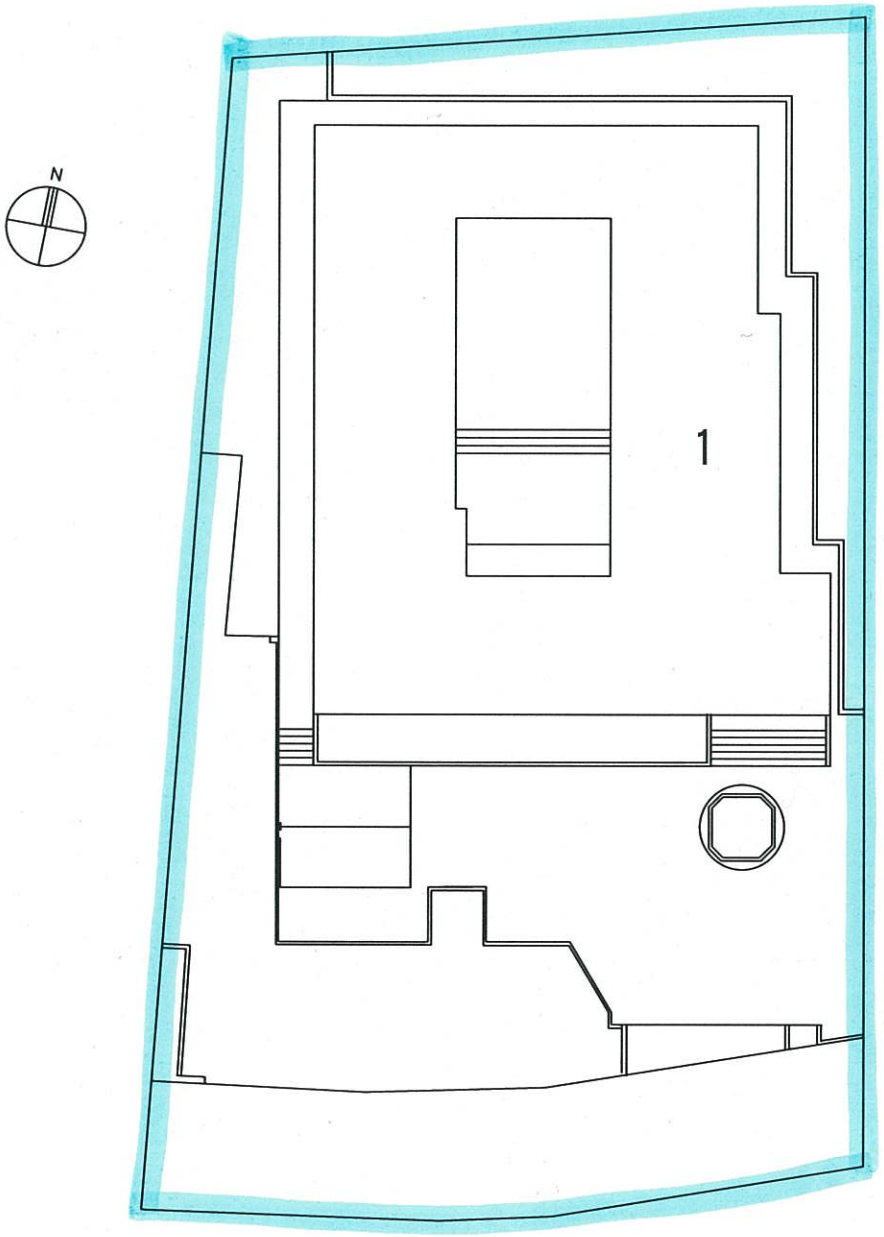


・瀬戸校地　演習林用地（校地面積）　31,795㎡

※面積は小数点以下四捨五入。

名城大学女子駅伝部寮 1:300

H



:大学所有の校地

No.	名称
1	女子駅伝部寮

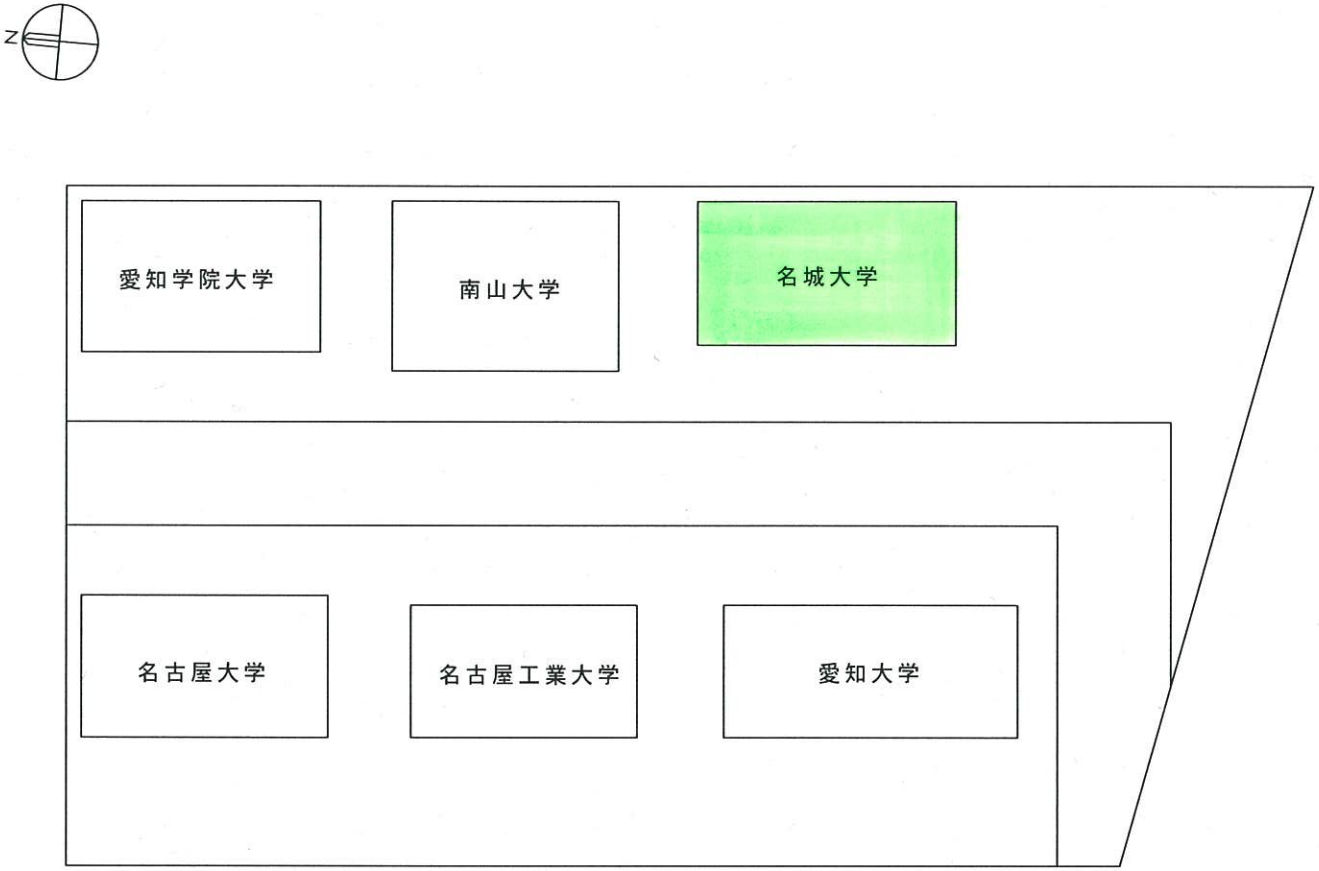
・女子駅伝部寮

校地面積　991㎡

校舎面積　0㎡

※小数点以下四捨五入

名城大学蒲郡校地（ヨット艇庫）



：借用地

・蒲郡校地

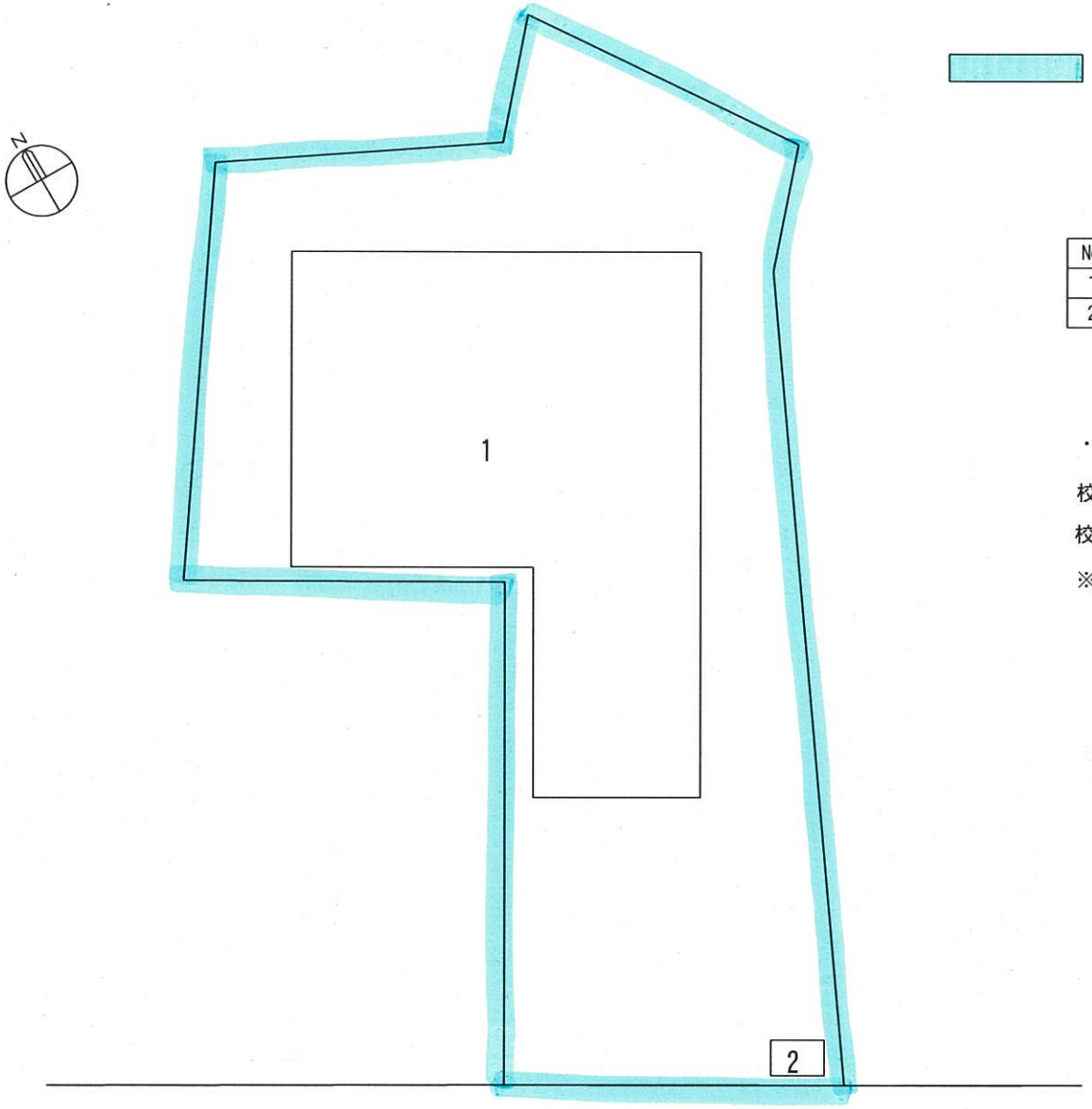
校舎敷地　200㎡（借用）

校舎面積　0㎡

※面積は、小数点以下四捨五入。

科学技術創生館　1:400

J



：大学所有の校地

No.	名　　称
1	科学技術創生館
2	物置

・科学技術創生館

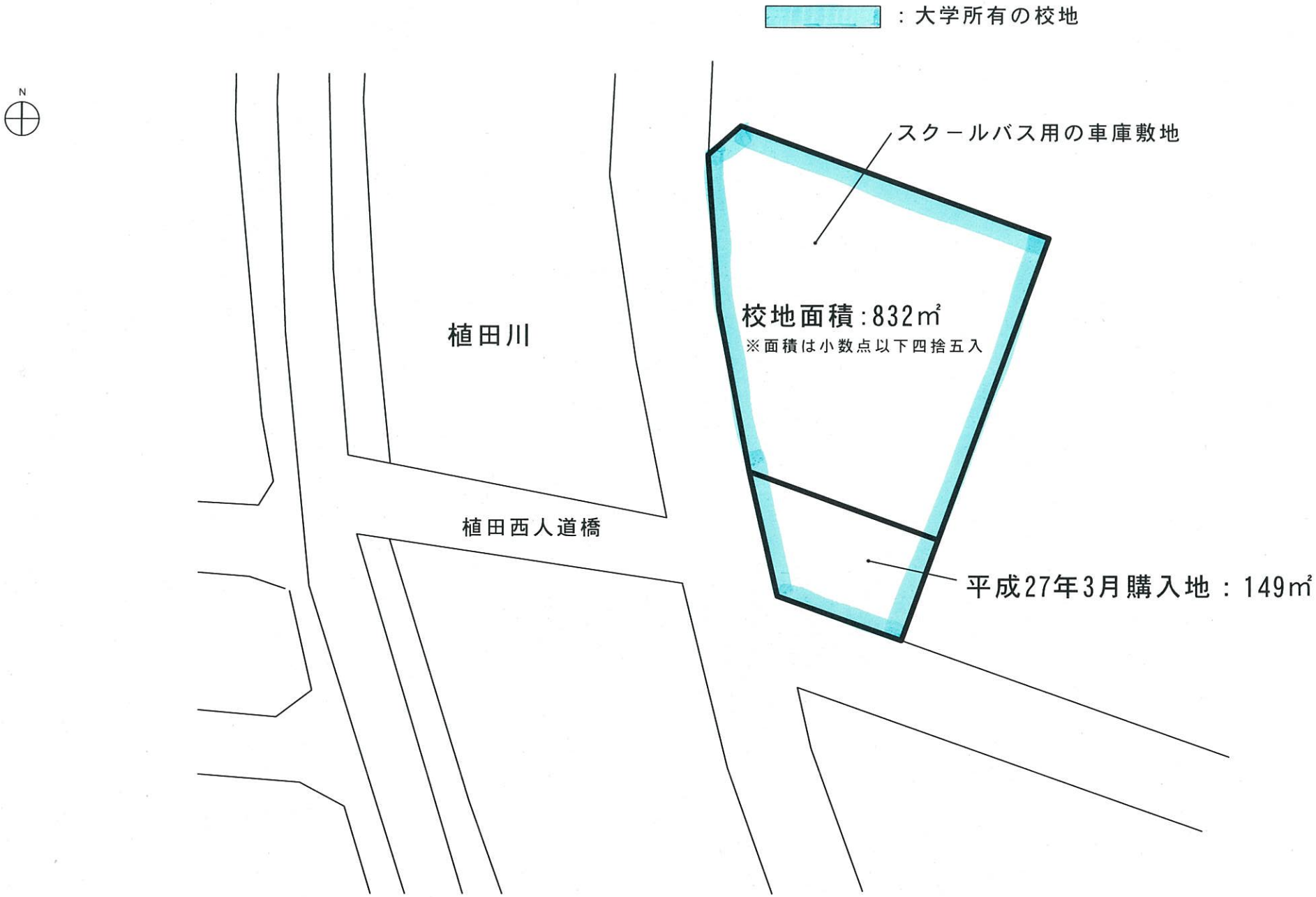
校地面積　1，360㎡

校舎面積　1，438㎡

※面積は小数点以下四捨五入。

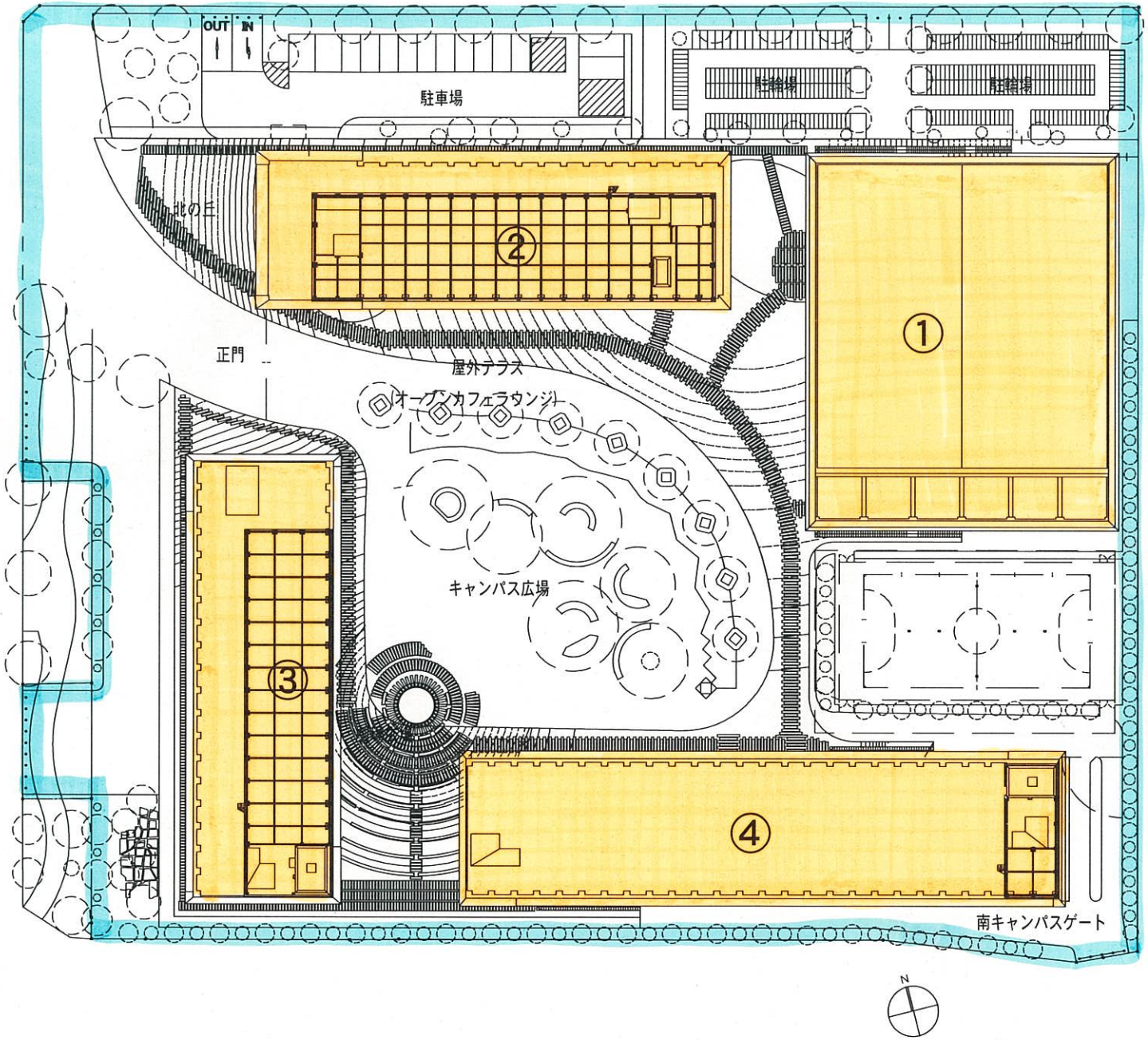
名城大学植田西二丁目敷地　1：500

K



名城大学ナゴヤドーム前キャンパス（平成28年度開設予定）全体配置図　1：800

L



：大学所有の校地

：外国語学部が使用する部分

No.	名称
①	東館（仮称）［地上4階、一部地下1階］
②	北館（仮称）［地上5階］
③	西館（仮称）［地上7階］
④	南館（仮称）［地上7階、一部地下1階］

ナゴヤドーム前キャンパス

校舎敷地：　17,347㎡
運動場用地：　590㎡

校地敷地：　17,937㎡

校舎　鉄骨鉄筋コンクリート造
　　一部鉄骨造、一部コンクリート造

※平成26年7月着工

①～③は、平成28年2月完成予定
【平成28年4月開設時予定校舎面積：18,105㎡】

④は、平成29年2月完成予定
【平成29年4月時予定校舎面積：29,003㎡】

※面積は、小数点以下四捨五入

（案）

平成２８年４月１日改正

名 城 大 学 学 則

名 城 大 学 学 則

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の中心として、深く専門の教育研究を行い、合わせて広汎な教養を培い、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材を養成するとともに学術･文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

②　前項の点検、評価等に関することは、別に定める。

③　第１項の点検及び評価の結果については、本大学の職員以外の者による検証を行う。

（情報の積極的な提供）

第２条の２　本大学における教育研究活動等の状況については､刊行物への掲載等によって、積極的に情報の提供を行う。

第２章　組織

（学部）

第３条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

法学部	法学科
経営学部	経営学科、国際経営学科
経済学部	経済学科、産業社会学科
理工学部	数学科、情報工学科、電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、機械工学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造学科、建築学科
農学部	生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科
薬学部	薬学科
都市情報学部	都市情報学科
人間学部	人間学科
外国語学部	国際英語学科

②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第１のとおりとする。

（学部の人材の養成に関する目的）

第３条の２　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。

（１）　法学部は、法的思考及び法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断することのできる人材の養成を目的とする。

（２）　経営学部は、国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的とする。

（３）　経済学部は、経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成を目的とする。

（４）　理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とする。

（５）　農学部は、生命・食料・環境・自然に対する幅広い専門的学識と洞察力を有し、創造力と実践力を備えた社会に貢献できる人材の養成を目的とする。
（６）　薬学部は、薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成を目的とする。
（７）　都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とする。
（８）　人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とする。
（９）　外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。
①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

（大学院）
第４条　本大学に、大学院を置く。
②　大学院に関することは、別に定める。

（専攻科）
第５条　本大学に、専攻科を置く。
②　専攻科に関することは、別に定める。

（附属施設等）
第６条　本大学に、次の教育研究の施設等を置く。
（１）　研究所
（２）　農学部附属農場
（３）　その他附属施設等
②　教育研究の施設等に関することは、別に定める。

（附属図書館）
第７条　本大学に、附属図書館を置く。
②　附属図書館に関することは、別に定める。

（事務組織）
第８条　本大学に、経営本部、入学センター、学務センター、大学教育開発センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、附属図書館、学部事務室及び教職センター事務室を置く。
②　事務組織に関することは、別に定めるところによる。

（職員）
第９条　本大学に、学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。
②　本大学に、副学長、学部長、講師及びその他必要な職員を置くことができる。

（教授会）
第１０条　各学部に、教授会を置く。
②　教授会は、各学部の教授をもって構成する。ただし、必要に応じ、准教授等専任の教育職員を参加させ、その他の職員を出席させることができる。
③　教授会は、次の場合に学部長が招集し、その議長となる。
（１）　学部長が必要と認めたとき
（２）　教授会構成員の３分の１以上の要請があったとき
（３）　学長が教授会の招集を要請したとき
④　教授会は、次の事項を審議する。

（１）　教育課程及び成績評価に関する事項
（２）　学生の資格認定及びその身分に関する事項
（３）　教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び専任教育職員の進退に関する事項
（４）　教育研究に係る学則の変更に関する事項
（５）　その他教育研究に関する重要な事項
⑤　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学及び卒業に関する事項
（２）　学位の授与に関する事項
（３）　その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
⑥　教授会に関することは、別に定める。
（協議会）
第１１条　本大学に、協議会を置く。
②　協議会に関することは、別に定める。
（学部長会）
第１１条の２　本大学に、学部長会を置く。
②　学部長会に関することは、別に定める。

第３章　学年・学期及び休業日

（学年）
第１２条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。
（学期）
第１３条　学年を次の２学期に分ける。
前期　４月１日から９月１５日まで
後期　９月１６日から翌年３月３１日まで
（休業日）
第１４条　休業日は、次のとおりとする。
（１）　日曜日
（２）　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に定める休日
（３）　夏季休業日　８月上旬から９月１５日まで
（４）　冬季休業日　１２月下旬から翌年１月上旬まで
（５）　春季休業日　２月上旬から３月３１日まで
②　必要がある場合、前項に定めるもののほか、休業日を定め、又は変更することができる。

第４章　修業年限及び在学年限

（修業年限）
第１５条　学部の修業年限は、４年とする。ただし、薬学部においては、６年とする。
（在学年限）
第１６条　学生は、８年を超えて在学することはできない。ただし、第２２条又は第２３条の規定により入学又は転学部等が許可された者の在学年限は、別に定める。
②　前項に規定にかかわらず、薬学部の在学年限は、１２年とする。

第５章　入学

（入学の時期）

第１７条　本大学の入学の時期は、毎年４月とする。ただし、第１０章及び第１１章に定めるものについては、学期の始めとすることができる。

（入学資格）

第１８条　本大学に、入学できる者は、次の各号の１に該当する者とする。

（１）　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

（２）　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者

（３）　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定したもの

（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（５）　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

（６）　文部科学大臣の指定した者（昭和２３年文部省告示第４７号）

（７）　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（８）　高等学校に２年以上在学した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したものであって、本大学において、数学の分野における特に優れた資質を有し、かつ、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（９）　学校教育法第９０条第２項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

（１０）　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者

（入学の出願）

第１９条　本大学に入学を志願する者は、所定の書類を添えて願い出なければならない。

（入学者の選考）

第２０条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

（入学手続及び入学許可）

第２１条　前条の選考結果に基づき、合格通知を受けた者は、指定する期日までに、所定の入学手続きをしなければならない。

②　学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

（編入学・転入学及び再入学）

第２２条　次の各号の１に該当する者で、編入学、転入学又は再入学（以下「編入学等」という。）を志願する者については、選考のうえ、相当年次に編入学等を許可する。

（１）　大学を卒業した者又は退学した者

（２）　短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

（３）　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上、総授業時数が１,７００時間以上であるものに限る。）を修了した者（ただし、学校教育法第９０条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

（４）　学校教育法施行規則附則第７条に定める従前の規定による高等学校、専門学校若しくは教員養成諸学校等の課程を修了、又は卒業した者

（転学部等）

第２３条　転学部・転学科・コース変更（以下「転学部等」という。）を志願する者については、選考のうえ、当該の学部、学科、コースの相当年次に転学部等を許可する。

第６章　教育課程・履修方法等

（教育課程）
第２４条　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目とし、選択科目については、学修方法により選択必修科目又は選択科目に区分する。
②　前項に定める教育課程は、各年次に配当して編成するものとする。
③　授業科目、単位数及び卒業要件は、別表第２及び各学部履修要項のとおりとする。
④　第１１章で定める外国人留学生及び帰国子女として入学した者については、前項別表第２に規定する授業科目のほか、別表第３に定める授業科目を置く。
⑤　履修方法に関することは、別に定める。
（教育内容等の改善）
第２４条の２　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。
②　前項の研修及び研究に関することは、別に定める。
（単位）
第２５条　授業科目の単位は、次の各号の基準によるものとする。
（１）　講義及び演習については、１５時間から３０時間までの授業時間をもって１単位とする。
（２）　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの授業時間をもって１単位とする。
②　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることができる。
（単位の授与）
第２６条　授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。
（入学前の既修得単位等の認定）
第２７条　教育上有益と認めるときは、本大学の第１年次に入学した者が、入学前に、次の教育施設等（外国の大学を含む。）において行った学修及び修得した単位を、大学設置基準に定めるところにより、本大学が定める授業科目を履修して修得したものとみなし、６０単位を超えない範囲で認定することができる。
（１）　大学又は短期大学
（２）　短期大学又は高等専門学校の専攻科
（３）　文部科学大臣の定めるもの
（本大学以外における修得単位等の認定）
第２８条　学生が、本大学以外の教育施設等で行った学修及び修得した単位の認定は、前条の規定を準用する。
②　前項の修得したものとみなす単位数は、第２７条により修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えない範囲で認定することができる。
（編入学等及び転学部等の単位等の認定）
第２９条　編入学等及び転学部等をした学生の既に履修した授業科目及び修得した単位は、各学部において認定する。
（多様なメディアを高度に利用して行う授業）
第２９条の２　本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して行う授業を教室等以外の場所で履修させることができる。
（成績）
第３０条　履修科目の成績は、優(Ａ)、良(Ｂ)、可(Ｃ)及び不可(Ｆ)の４種の評語をもって表わし、優(Ａ)、良(Ｂ)及び可(Ｃ)を合格とする。

第７章　休学・転学・留学・退学等

（休学）
第３１条　疾病その他やむを得ない理由により、３月以上修学することができない者は、学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て休学することができる。

②　休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
③　休学期間は、通算して４年を超えることができない。
④　休学期間は、在学年限に算入しない。
（復学）
第３２条　休学期間中にその理由が消滅したときは、学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て復学することができる。
（転学）
第３３条　他の大学に入学又は転入学を志願する者は、学部長に願い出て、あらかじめその許可を得なければならない。
（留学）
第３４条　外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。
②　留学期間は、第３８条に定める在学期間に含めることができる。
（退学）
第３５条　疾病その他やむを得ない理由により、退学しようとする者は、学部教授会の議を経て、学長の許可を得て退学することができる。
（除籍）
第３６条　次の各号の１に該当する者は、学部教授会の議を経て、学長が除籍する。
（１）　第１６条に定める在学年限を超えた者
（２）　第３１条に定める休学期間を超えてなお修学できない者
（３）　学費を納入しない者
（４）　その他成業の見込みがないと認められる者
（復籍）
第３７条　前条により除籍された者で復籍しようとするものは、学部教授会の議を経て、学長の許可を得て復籍することができる。ただし、前条第１号により除籍された者は除く。

第８章　卒業及び学位の授与

（卒業及び学位の授与）
第３８条　次の各号の１に該当する者には、学部教授会の議を経て、学部長が卒業を認定し、学長は、学士の学位を授与する。
（１）　本大学に４年以上在学し、第２４条に定める１２４以上の単位を修得した者
（２）　本大学に３年以上在学し、別に定める要件を満たした者

第９章　教職課程及び学芸員課程

（教育職員免許状の取得）
第３９条　教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。
②　教職課程に関する授業科目、単位数、履修方法等は、別表第４のとおりとする。
（教育職員免許状の種類）
第４０条　本大学において、所定の単位を修得した者は、別表第５の教育職員免許状を取得することができる。
(学芸員資格の取得)
第４０条の２　学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。
②　学芸員課程に関する授業科目及び単位数は、別表第６のとおりとする。
(教員免許状更新講習)

第４０条の３　本大学において、教育職員免許法に基づく教員免許状更新講習を開設することができる。
②　教員免許状更新講習に関することは別に定める。

第１０章　科目等履修生及び研究生

（科目等履修生）
第４１条　本大学において、授業科目につき履修することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可する。
②　授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。
（研究生）
第４２条　本大学において、専門事項につき研究することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可する。

第１１章　外国人留学生及び帰国子女

（外国人留学生）
第４３条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。
（帰国子女）
第４４条　帰国子女で、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、帰国子女として入学を許可する。

第１２章　賞罰

（表彰）
第４５条　学生として表彰に価する行為があった者は、学部教授会及び協議会の議を経て、学長が表彰する。
（懲戒）
第４６条　本大学の規則に違反又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会及び協議会の議を経て、学長が懲戒する。
②　前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
③　前項の退学は、次の各号の１に該当する場合に行う。
（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（２）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第１３章　厚生施設

（学生寮等）
第４７条　本大学に、学生寮等を置く。
②　学生寮等に関することは、別に定める。

第１４章　公開講座

（公開講座）
第４８条　市民及び地域社会の教育文化の発展に貢献するため、本大学に公開講座を開設することができる。
②　公開講座に関することは、別に定める。

第１５章　学費等

（学費等）
第４９条　学費等の種類及びその額は、学校法人名城大学の設置する学校の学費等に関する規則に定めるところによる。

附　則
この学則は、昭和４２年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４６年４月１日から施行する。ただし、第３０条、第３１条、第３２条、第３７条、第３８条及び第３８条の２は、昭和４６年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和４７年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４８年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和４９年４月１日から施行する。ただし、第２５条及び第２５条の２は、昭和４９年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５０年９月１９日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５２年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５５年４月１日から施行する。ただし、第３４条第４号は、昭和５５年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５６年４月１日から施行する。ただし、第２８条第４号及び第２８条の２第４号は、昭和５６年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５７年４月１日から施行する。ただし、第２５条の３、第３０条及び第３１条は、昭和５７年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５８年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和５８年４月１日から施行し、昭和５８年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和５９年４月１日から施行する。ただし、第３０条の２及び第３１条の２は、昭和５９年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和６０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和６０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和６０年５月３０日から施行する。ただし、第３８条の２は、昭和６０年度入学者から適用する。

附　則
この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。ただし、第２条第２項の規定にかかわらず、昭和６２年度から平成７年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４５０名	１，８００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２５０名	１，０００名
	経済学科	２５０名	１，０００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１２０名	４８０名
	機械工学科	１２０名	４８０名
	交通機械学科	１２０名	４８０名
	土木工学科	１２０名	４８０名
	建築学科	１２０名	４８０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名

農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		２，９００名	１１，６００名

附　則

①　この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。ただし、第２８条及び第２８条の３は、昭和６２年４月１日から適用する。

②　第２５条第１号及び第２５条の４第１号に規定する「情報処理概論Ａ・Ｂ」は、昭和６３年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、昭和６３年４月１日から施行する。ただし、第２８条の２第１号、同条第４号及び第２８条の４第１号並びに同条第４号は、昭和６３年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成元年４月１日から施行する。ただし、第２８条の５は、平成元年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行し、平成２年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

①　この学則は、平成３年４月１日から施行し、平成２年４月１日以後に入学する者から適用する。

②　平成２年３月３１日に在学している者は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

①　第２条第２項及び附則（昭和６２年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成３年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

（１）　平成３年度から平成７年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４５０名	１，８００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２５０名	１，０００名
	経済学科	２５０名	１，０００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１４０名	５６０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１４０名	５６０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名

	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		３，０００名	１２，０００名

（２）　平成８年度から平成１１年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４００名	１，６００名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２００名	８００名
	経済学科	２００名	８００名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	８０名	３２０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１４０名	５６０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１４０名	５６０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１２０名	４８０名
薬学部	薬学科	１６０名	６４０名
	製薬学科	８０名	３２０名
合計		２，８５０名	１１，４００名

②　この学則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

①　この学則は、平成３年４月１日から施行し、第３０条第４号(1)及び第３１条第１項第４号のうち、数学科に係る規定は、平成３年４月１日以後に入学する者から適用し、第４４条第２項は、平成２年４月１日以後に聴講が許可された者から適用する。

②　平成３年３月３１日に在籍している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成３年１０月１日から施行し、平成３年７月１日から適用する。

附　則

①　この学則は、平成４年４月１日から施行する。

②　平成４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、第２４条に定める教育課程の適用に関する経過措置については、別に定める。

附　則

この学則は、平成５年４月１日から施行する。ただし、平成５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行する。ただし、平成６年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

①　この学則は、平成７年４月１日から施行する。ただし、平成７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

②　別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成３年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成７年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

（1）　平成７年度

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	４３０名	１，７２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２３５名	９４０名
	経済学科	２３５名	９４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名
薬学部	薬学科	１５０名	６００名
	製薬学科	８０名	３２０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

（2）平成８年度から１１年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	３８０名	１，５２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	１８５名	７４０名
	経済学科	１８５名	７４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名

	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名
薬学部	薬学科	１５０名	６００名
	製薬学科	８０名	３２０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

附　則

①　この学則は、平成８年４月１日から施行する。

②　従前の薬学部薬学科及び製薬学科は、改正後の規定にかかわらず、平成８年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③　別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成７年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成８年度から平成１１年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部一部	法学科	４３０名	１，７２０名
法学部二部	法学科	２００名	８００名
商学部一部	商学科	２３５名	９４０名
	経済学科	２３５名	９４０名
商学部二部	商学科	２００名	８００名
理工学部一部	数学科	７０名	２８０名
	電気電子工学科	１４０名	５６０名
	機械工学科	１３０名	５２０名
	交通機械学科	１４０名	５６０名
	土木工学科	１４０名	５６０名
	建築学科	１３０名	５２０名
理工学部二部	数学科	５０名	２００名
	電気電子工学科	８０名	３２０名
	機械工学科	８０名	３２０名
	交通機械学科	５０名	２００名
	土木工学科	５０名	２００名
	建築学科	８０名	３２０名
農学部	農学科	１２０名	４８０名
	農芸化学科	１１０名	４４０名
薬学部	医療薬学科	１１５名	４６０名
	薬学科	１１５名	４６０名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

①　この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

②　従前の法学部一部法学科、法学部二部法学科、商学部一部商学科、経済学科、商学部二部商学科、理工学部一部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、理工学部二部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、農学部農学科、農芸化学科は、改正後の規定にかかわらず、平成１１年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③　別表第１（第３条第２項関係）及び附則（平成８年４月１日施行）の学生定員にかかわらず、平成１１年度の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員		収容定員	
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース
法学部	法学科	３８０名	５０名	１，５２０名	２００名
	応用実務法学科	５０名	１５０名	２００名	６００名
商学部	商学科	２３５名	２００名	９４０名	８００名
	経済学科	２３５名		９４０名	
理工学部	数学科	７０名	５０名	２８０名	２００名
	電気電子工学科	１４０名	８０名	５６０名	３２０名
	機械工学科	１３０名	８０名	５２０名	３２０名
	交通機械学科	１４０名	５０名	５６０名	２００名
	土木工学科	１４０名	５０名	５６０名	２００名
	建築学科	１３０名	８０名	５２０名	３２０名
農学部	生物資源学科	１１５名		４６０名	
	応用生物化学科	１１５名		４６０名	
薬学部	医療薬学科	１１５名		４６０名	
	薬学科	１１５名		４６０名	
都市情報学部	都市情報学科	２００名		８００名	

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附　則

この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

附　則

①　この学則は、平成１２年４月１日から施行する。

②　従前の商学部商学科、経済学科、理工学部機械工学科、交通機械学科、土木工学科は、改正後の規定にかかわらず、平成１２年３月３１日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

③　別表第１（第３条第２項関係）の学生定員にかかわらず、平成１２年度から平成１６年度までの学生定員は、次のとおりとする。

（1）　平成１２年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	375 名	50 名	1，500 名	200 名	1，700 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	160 名	60 名	640 名	240 名	880 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	120 名	40 名	480 名	160 名	640 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	交通科学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	建設システム工学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	98 名	50 名	392 名	200 名	592 名

農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，285 名	790 名	9，140 名	3，160 名	12，300 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（２）　平成１３年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	370 名	50 名	1，480 名	200 名	1，680 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	155 名	60 名	620 名	240 名	860 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	115 名	40 名	460 名	160 名	620 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名
	交通科学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名
	建設システム工学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	96 名	50 名	384 名	200 名	584 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，260名	790 名	9，040名	3，160 名	12，200名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（３）　平成１４年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	365 名	50 名	1，460 名	200 名	1，660 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	150 名	60 名	600 名	240 名	840 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	110 名	40 名	440 名	160 名	600 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	交通科学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	建設システム工学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	94 名	50 名	376 名	200 名	576 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名

	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，235 名	790 名	8，940 名	3，160 名	12，100 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（4）　平成１５年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	360名	50名	1，440名	200名	1，640名
	応用実務法学科	50名	150名	200名	600名	800名
経営学部	経営学科	145名	60名	580名	240名	820名
	国際経営学科	70名	40名	280名	160名	440名
経済学部	経済学科	105名	40名	420名	160名	580名
	産業社会学科	110名	60名	440名	240名	680名
理工学部	数学科	50名	40名	200名	160名	360名
	情報科学科	60名	40名	240名	160名	400名
	電気電子工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	材料機能工学科	60名	40名	240名	160名	400名
	機械システム工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	交通科学科	92名	45名	368名	180名	548名
	建設システム工学科	92名	45名	368名	180名	548名
	環境創造学科	60名	40名	240名	160名	400名
	建築学科	92名	50名	368名	200名	568名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，210 名	790 名	8，840 名	3，160 名	12，000 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

（5）　平成１６年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	355 名	50 名	1，420 名	200 名	1，620 名
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	140 名	60 名	560 名	240 名	800 名
	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	100 名	40 名	400 名	160 名	560 名
	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
理工学部	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	100 名	45 名	400 名	180 名	580 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	機械システム工学科	100 名	45 名	400 名	180 名	580 名
	交通科学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名
	建設システム工学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	90 名	50 名	360 名	200 名	560 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名

薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2，185 名	790 名	8，740 名	3，160 名	11，900 名

備考　農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附　則

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１２年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成１２年６月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１２年１２月６日から施行する。

附　則

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年１月２６日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則
①　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。
②　第９条第２項に規定するその他必要な職員として、当分の間、助教授を置くことができるものとする。

附　則
この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２０年８月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２３年４月１日から施行し、平成２３年度入学者から適用する。ただし、平成２３年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２３年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２５年４月１日から施行し、平成２５年度入学者から適用する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２５年４月１日から施行し、平成２５年度入学者から適用する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２５年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２７年４月１日から施行し、平成２７年度入学者から適用する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
①　この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
②　法学部法学科及び応用実務法学科については、平成２８年４月１日から適用する。ただし、

平成２８年３月３１日に在学している者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則

①　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

②　法学部応用実務法学科は、平成２８年４月から募集を停止し、当該学科に在学している者がいなくなった時に廃止する。

別表第１（第３条第２項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法学科	４００名	１，６００名
経営学部	経営学科	１９５名	７８０名
	国際経営学科	９０名	３６０名
経済学部	経済学科	１８５名	７４０名
	産業社会学科	１００名	４００名
理工学部	数学科	８５名	３４０名
	情報工学科	１４５名	５８０名
	電気電子工学科	１３０名	５２０名
	材料機能工学科	６５名	２６０名
	応用化学科	６０名	２４０名
	機械工学科	１２０名	４８０名
	交通機械工学科	１１０名	４４０名
	メカトロニクス工学科	７５名	３００名
	社会基盤デザイン工学科	９０名	３６０名
	環境創造学科	９０名	３６０名
	建築学科	１３５名	５４０名
農学部	生物資源学科	１００名	４００名
	応用生物化学科	１００名	４００名
	生物環境科学科	１００名	４００名
薬学部	薬学科	２５０名	１，５００名
都市情報学部	都市情報学科	２００名	８００名
人間学部	人間学科	２００名	８００名
外国語学部	国際英語学科	１３０名	５２０名
合　　計		３，１５５名	１３，１２０名

別表第２（第２４条第３項関係）

１（法学部法学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	哲学Ⅰ		2	
	哲学Ⅱ		2	
	倫理学Ⅰ		2	
	倫理学Ⅱ		2	
	国文学Ⅰ		2	
	国文学Ⅱ		2	
	外国文学Ⅰ		2	
	外国文学Ⅱ		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	自然地理学		2	
	社会学Ⅰ		2	
	社会学Ⅱ		2	
	心理学Ⅰ		2	
	心理学Ⅱ		2	
	経済学Ⅰ		2	
	経済学Ⅱ		2	
	会計学Ⅰ		2	
	会計学Ⅱ		2	
	論理的思考法		2	
	社会科学のための数学Ⅰ		2	
	社会科学のための数学Ⅱ		2	
	情報リテラシーⅠ		2	
	情報リテラシーⅡ		2	
	ボランティア入門		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	教養特設科目A		4	
	教養特設科目B		2	
	実践英語Ⅰ		1	
	実践英語Ⅱ		1	
	実践英語Ⅲ		1	
	実践英語Ⅳ		1	
	英語講読Ⅰ		1	
	英語講読Ⅱ		1	
	英語講読Ⅲ		1	
	英語講読Ⅳ		1	
	英会話Ⅰ		1	

教養教育部門	英会話Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅴ		1	
	ドイツ語Ⅵ		1	
	応用ドイツ語		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅴ		1	
	フランス語Ⅵ		1	
	応用フランス語		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	中国語Ⅴ		1	
	中国語Ⅵ		1	
	応用中国語		1	
	生涯体育		2	
	健康スポーツと実践		2	
	生涯スポーツと実践		2	
共通部門	法学入門		4	
	政治学入門		4	
	外国語文献講読		2	
	特設科目Ａ		4	
	特設科目Ｂ		2	
演習部門	基礎演習Ⅰ		2	
	基礎演習Ⅱ		2	
	応用演習Ⅰ		2	
	応用演習Ⅱ		2	
	専門演習Ⅰ		4	
	専門演習Ⅱ		4	
基礎法学部門	法哲学		4	
	法社会学		4	
	日本法制史		4	
	日本近代法史		4	
	西洋法制史		4	
	東洋法史論		4	
	比較法		2	
	外国法Ⅰ		2	
	外国法Ⅱ		2	

公法部門	憲法Ⅰ		4	
	憲法Ⅱ		4	
	行政法Ⅰ		4	
	行政法Ⅱ		4	
	行政法Ⅲ		2	
	環境法		2	
	地方自治法		4	
	租税法		4	
刑事法部門	刑法Ⅰ		4	
	刑法Ⅱ		4	
	刑事訴訟法		4	
	刑事政策		4	
民事法部門	民法Ⅰ		4	
	民法Ⅱ		4	
	民法Ⅲ		4	
	民法Ⅳ		4	
	民法Ⅴ		4	
	民事訴訟法		4	
	民事執行法		4	
	倒産法		4	
	消費者法		2	
企業・社会法部門	企業法Ⅰ		4	
	企業法Ⅱ		4	
	企業法Ⅲ		4	
	企業法Ⅳ		4	
	労働法		4	
	経済法		4	
	社会保障法		4	
	知的財産法		4	
政治学部門	政治史		4	
	政治思想史		4	
	政治過程論		4	
	現代日本政治		4	
	国際政治学		4	
	行政学		4	
	国際政治史		4	
国際法部門	国際法		4	
	国際私法		4	
	国際組織法		2	
	国際人権法		2	
	国際取引法		2	

② 卒業に必要な要件

選択科目　　124単位以上

２の１（経営学部経営学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語（リーディング）Ⅰ	1		
	英語（リーディング）Ⅱ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅰ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅱ	1		
	英語（リーディング）Ⅲ		1	
	英語（リーディング）Ⅳ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅰ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅱ		1	
	英語特別演習Ⅰ		1	
	英語特別演習Ⅱ		1	
	英語実践演習Ⅰ		2	
	英語実践演習Ⅱ		2	
	英語実践演習Ⅲ		2	
	英語実践演習Ⅳ		2	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	フランス語応用Ⅰ		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	

教養教育部門	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語応用Ⅰ		1	
	ドイツ語応用Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	中国語入門Ⅰ		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級Ⅰ		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用Ⅰ		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ハングル入門Ⅰ		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級Ⅰ		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用Ⅰ		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	フランス語特別演習Ⅰ		1	
	フランス語特別演習Ⅱ		1	
	中国語特別演習Ⅰ		1	
	中国語特別演習Ⅱ		1	
	情報処理実習		1	
	プログラミング実習		1	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論		2	
	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	

専門基礎部門	会計学入門		2	
	ファイナンス入門		2	
	経営学入門		2	
	流通入門		2	
	マーケティング入門		2	
	統計学入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
マネジメント部門	経営史		2	
	国際比較経営史		2	
	現代企業論		2	
	経営管理史		2	
	現代経営管理論		2	
	国際経営論		2	
	ワーク・ライフ・バランス論		2	
	人的資源管理論		2	
	経営組織論		2	
	コーポレート・ガバナンス論		2	
	ベンチャービジネス論		2	
	中小企業論		2	
	経営戦略論		2	
	生産管理論		2	
	ネットワーク組織論		2	
	環境経営論		2	
	労働衛生論		2	
マーケティング部門	マーケティング論		2	
	マーケティング戦略論		2	
	消費者行動論		2	
	マーケティング・コミュニケーション論		2	
	国際流通論		2	
	国際マーケティング論		2	
	マーケティング・リサーチ論		2	
	サービス･マーケティング論		2	
	グリーン･マーケティング論		2	
	マーケティング情報システム論		2	
	小売企業経営論		2	
	卸売企業経営論		2	
	プロダクト･デザイン論		2	
	プロダクト･デザイン実習		2	
	ロジスティクス論		2	
	ソーシャル･マーケティング論		2	
	上級簿記Ⅰ		2	
	上級簿記Ⅱ		2	
	中級簿記		2	

会計・ファイナンス部門	工業簿記		2	
	原価計算論		2	
	経営分析論		2	
	金融論		2	
	金融政策論		2	
	金融商品取引論		2	
	企業財務論		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	財務会計論Ⅲ		2	
	原価管理論		2	
	管理会計論Ⅰ		2	
	管理会計論Ⅱ		2	
	会計監査論		2	
	税務会計論		2	
	キャッシュフロー会計論		2	
	国際会計論		2	
	非営利組織体会計論		2	
	社会環境会計論		2	
	財務戦略論		2	
	国際金融システム論		2	
	国際金融機関論		2	
経営科学・情報システム部門	経営数学		2	
	情報システム論		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	経営科学Ⅰ		2	
	経営科学Ⅱ		2	
	システム設計Ⅰ		2	
	システム設計Ⅱ		2	
	経営シミュレーションⅠ		2	
	経営シミュレーションⅡ		2	
	経済データ実習		2	
	経営データ実習		2	
	意思決定の科学		2	
経済学・法学部門	ミクロ経済学入門		2	
	マクロ経済学入門		2	
	現代産業組織論		2	
	情報産業組織論		2	
	会社法入門		2	
	産業集積論		2	
	社会思想史		2	

実務・実習部門	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	国際フィールドワーク		4	
	職業指導論		2	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ		4	
	特殊講義		1	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

２の２（経営学部国際経営学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語（リーディング）Ⅰ	1		
	英語（リーディング）Ⅱ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅰ	1		
	英語（コミュニケーション）Ⅱ	1		
	英語（リーディング）Ⅲ		1	
	英語（リーディング）Ⅳ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅰ		1	
	英語（コミュニケーション）中級Ⅱ		1	
	英語特別演習Ⅰ		1	

教養教育部門	英語特別演習Ⅱ		1	
	英語実践演習Ⅰ		2	
	英語実践演習Ⅱ		2	
	英語実践演習Ⅲ		2	
	英語実践演習Ⅳ		2	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	フランス語応用Ⅰ		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語応用Ⅰ		1	
	ドイツ語応用Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	中国語入門Ⅰ		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級Ⅰ		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用Ⅰ		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	
	ハングル入門Ⅰ		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級Ⅰ		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用Ⅰ		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ		1	

教養教育部門	フランス語特別演習Ⅰ		1	
	フランス語特別演習Ⅱ		1	
	中国語特別演習Ⅰ		1	
	中国語特別演習Ⅱ		1	
	情報処理実習		1	
	プログラミング実習		1	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論		2	
専門基礎部門	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	
	会計学入門		2	
	ファイナンス入門		2	
	経営学入門		2	
	流通入門		2	
	マーケティング入門		2	
	統計学入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
国際経営・経済学部門	国際経営論		2	
	国際マーケティング論		2	
	国際流通論		2	
	国際貿易論		2	
	国際経済論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ企業論		2	
	ＥＵ経済論		2	
	ＥＵ企業論		2	
	中国経済論		2	
	中国企業論		2	
	アジア企業論		2	
	アジア経済論		2	
	国際比較経営史		2	
	国際経営戦略論		2	
	国際金融システム論		2	
	国際金融機関論		2	
国際地域部門	国際関係論		2	
	海外ＮＧＯ論		2	
	国際地域文化研究（英語圏）		2	
	国際地域文化研究（フランス）		2	

	国際地域文化研究（中国）		2	
	国際コミュニケーション論		2	
経営学部門	経営組織論		2	
	経営史		2	
	現代企業論		2	
	経営管理史		2	
	現代経営管理論		2	
	マーケティング論		2	
	人的資源管理論		2	
	経営戦略論		2	
	生産管理論		2	
	ワーク・ライフ・バランス論		2	
会計・ファイナンス部門	上級簿記Ⅰ		2	
	上級簿記Ⅱ		2	
	中級簿記		2	
	工業簿記		2	
	原価計算論		2	
	経営分析論		2	
	企業財務論		2	
	金融論		2	
	金融商品取引論		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	財務戦略論		2	
	国際会計論		2	
	非営利組織体会計論		2	
	キャッシュフロー会計論		2	
	社会環境会計論		2	
	管理会計論Ⅰ		2	
	管理会計論Ⅱ		2	
経営科学・情報システム部門	経営数学		2	
	情報システム論		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	経営科学Ⅰ		2	
	経営科学Ⅱ		2	
	経済データ実習		2	
	経営データ実習		2	
	システム設計Ⅰ		2	
	システム設計Ⅱ		2	
	経営シミュレーションⅠ		2	
	経営シミュレーションⅡ		2	
	意思決定の科学		2	

経済学・法学部門	ミクロ経済学入門		2	
	マクロ経済学入門		2	
	現代産業組織論		2	
	情報産業組織論		2	
	環境経済論		2	
	社会思想史		2	
	会社法入門		2	
実務・実習部門	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	国際フィールドワーク		4	
	職業指導論		2	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ		4	
	特殊講義		1	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

３の１（経済学部経済学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	現代社会に生きる		2	
	文学と人間		2	
	芸術文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	地球と宇宙		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	自然地理学		2	
	コンピュータリテラシー		2	
	情報活用リテラシー		2	
	情報処理入門		2	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論Ⅰ		2	
	健康科学論Ⅱ		2	
	キャリア形成論		2	
	職業指導論		2	
	教養演習Ⅰ（日本語表現）		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅳ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅴ		1	
	英語Ⅵ		1	
	英語Ⅶ		1	

教養教育部門	英語Ⅷ		1	
	上級英語Ⅰ		1	
	上級英語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	ハングルⅠ		1	
	ハングルⅡ		1	
	ハングルⅢ		1	
	ハングルⅣ		1	
	スペイン語初級Ⅰ		1	
	スペイン語初級Ⅱ		1	
専門基礎部門	マクロ経済学入門	2		
	ミクロ経済学入門	2		
	経済理論入門	2		
	現代資本主義入門	2		
	経済史総論Ⅰ		2	
	経済史総論Ⅱ		2	
	基本簿記		4	
	経済数学Ⅰ		2	
	経済数学Ⅱ		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	社会思想史		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ（卒業研究）		4	
	外国書講読ゼミナールⅠ		2	
	外国書講読ゼミナールⅡ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
フィールドワーク・実習部門	社会フィールドワークⅠ		4	
	社会フィールドワークⅡ		4	
	経済データ分析Ⅰ		2	
	経済データ分析Ⅱ		2	
	経営データ分析Ⅰ		2	
	経営データ分析Ⅱ		2	
	ビジネスプラン		2	

フィールドワーク・実習部門	ビジネス英語Ⅰ		2	
	ビジネス英語Ⅱ		2	
	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
理論経済部門	マクロ経済学Ⅰ		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
	ミクロ経済学Ⅰ		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	情報の経済学Ⅰ		2	
	情報の経済学Ⅱ		2	
	経済思想史		2	
	経済理論Ⅰ		2	
	経済理論Ⅱ		2	
	現代資本主義論Ⅰ		2	
	現代資本主義論Ⅱ		2	
	応用経済理論Ⅰ		2	
	応用経済理論Ⅱ		2	
	公共経済学Ⅰ		2	
	公共経済学Ⅱ		2	
	計量経済学Ⅰ		2	
	計量経済学Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
歴史・政策・金融部門	日本経済史Ⅰ		2	
	日本経済史Ⅱ		2	
	西洋経済史Ⅰ		2	
	西洋経済史Ⅱ		2	
	イギリス近代思潮		2	
	経済政策論Ⅰ		2	
	経済政策論Ⅱ		2	
	労働経済論Ⅰ		2	
	労働経済論Ⅱ		2	
	財政学Ⅰ		2	
	財政学Ⅱ		2	
	地方財政論Ⅰ		2	
	地方財政論Ⅱ		2	
	商法入門Ⅰ		2	
	商法入門Ⅱ		2	
	金融論		2	
	金融政策論		2	
	国際金融論		2	
	国際通貨論		2	
	証券市場論Ⅰ		2	
	証券市場論Ⅱ		2	
	国際経済論Ⅰ		2	
	国際経済論Ⅱ		2	
	開発経済論		2	

歴史・政策・金融部門	アジア経済論		2	
	アメリカ経済論		2	
	ＥＵ経済論		2	
	中国経済論Ⅰ		2	
	中国経済論Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

３の２（経済学部産業社会学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	現代社会に生きる		2	
	文学と人間		2	
	芸術文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	地球と宇宙		2	
	物質の成り立ち		2	
	生命の多様性		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	自然地理学		2	
	コンピュータリテラシー		2	
	情報活用リテラシー		2	
	情報処理入門		2	
	情報社会と倫理		2	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		2	
	健康科学論Ⅰ		2	
	健康科学論Ⅱ		2	

教養教育部門	キャリア形成論		2	
	職業指導論		2	
	教養演習Ⅰ（日本語表現）		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅳ（コミュニケーション）		1	
	英語Ⅴ		1	
	英語Ⅵ		1	
	英語Ⅶ		1	
	英語Ⅷ		1	
	上級英語Ⅰ		1	
	上級英語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	ハングルⅠ		1	
	ハングルⅡ		1	
	ハングルⅢ		1	
	ハングルⅣ		1	
	スペイン語初級Ⅰ		1	
	スペイン語初級Ⅱ		1	
専門基礎部門	マクロ経済学入門	2		
	ミクロ経済学入門	2		
	経済理論入門	2		
	現代資本主義入門	2		
	経済史総論Ⅰ		2	
	経済史総論Ⅱ		2	
	基本簿記		4	
	経済数学Ⅰ		2	
	経済数学Ⅱ		2	
	統計学Ⅰ		2	
	統計学Ⅱ		2	
	社会思想史		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
ゼミナール部門	基礎ゼミナール		4	
	専門ゼミナールⅠ		4	
	専門ゼミナールⅡ		4	
	専門ゼミナールⅢ（卒業研究）		4	
	外国書講読ゼミナールⅠ		2	
	外国書講読ゼミナールⅡ		2	

	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
フィールドワーク・実習部門	社会フィールドワークⅠ		4	
	社会フィールドワークⅡ		4	
	経済データ分析Ⅰ		2	
	経済データ分析Ⅱ		2	
	経営データ分析Ⅰ		2	
	経営データ分析Ⅱ		2	
	ビジネスプラン		2	
	ビジネス英語Ⅰ		2	
	ビジネス英語Ⅱ		2	
	インターンシップ		2	
	海外語学実習		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
理論経済部門	マクロ経済学Ⅰ		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
	ミクロ経済学Ⅰ		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	経済思想史		2	
	情報の経済学Ⅰ		2	
	情報の経済学Ⅱ		2	
	経済理論Ⅰ		2	
	経済理論Ⅱ		2	
	現代資本主義論Ⅰ		2	
	現代資本主義論Ⅱ		2	
	応用経済理論Ⅰ		2	
	応用経済理論Ⅱ		2	
	公共経済学Ⅰ		2	
	公共経済学Ⅱ		2	
	計量経済学Ⅰ		2	
	計量経済学Ⅱ		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	
現代社会部門	農業経済論		2	
	食料経済論		2	
	工業経済論		2	
	産業技術論		2	
	商業経済論		2	
	中小企業論		2	
	中小企業政策論		2	
	交通論		2	
	産業集積論		2	
	経営戦略論		2	
	サービス経済論		2	
	起業経営論		2	
	物流論		2	
	経済地理学		2	
	地域福祉論		2	
	地域政策論		2	
	地域経済論		2	
	社会保障論		2	

現代社会部門	環境ビジネス論		2	
	環境経済論		2	
	公共政策論		2	
	特殊講義Ⅰ		2	
	特殊講義Ⅱ		4	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　114単位以上

合計　124単位以上

４の１（理工学部数学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	微分積分Ⅰ演習	1		
	微分積分Ⅱ演習	1		

専門教育部門	線形代数Ⅰ演習	1		
	線形代数Ⅱ演習	1		
	数学序論Ⅰ	2		
	数学序論Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	コンピューターサイエンス		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	総合数理基礎演習Ⅰ			1
	総合数理基礎演習Ⅱ			1
	総合数理基礎演習Ⅲ			1
	総合数理基礎演習Ⅳ			1
	数理科学Ⅰ		2	
	数理科学Ⅱ		2	
	数理物理学Ⅰ		2	
	数理物理学Ⅱ		2	
	情報科学Ⅰ		2	
	情報科学Ⅱ		2	
	情報科学Ⅲ		2	
	情報科学Ⅳ		2	
	情報社会と情報倫理		2	
	情報技術の応用と職業		2	
	アルゴリズム･データ構造論		2	
	経営情報論		2	
	情報ネットワーク論		2	
	パターン情報処理論		2	
	人間情報処理論		2	
	サイエンス・ボランティア入門Ⅰ			1
	サイエンス・ボランティア入門Ⅱ			1
	探究活動入門Ⅰ			2
	探究活動入門Ⅱ			2
	微分積分Ⅲ		2	
	微分積分Ⅳ		2	
	線形代数Ⅲ		2	
	線形代数Ⅳ		2	

専門教育部門	数学通論Ⅰ		2	
	数学通論Ⅱ		2	
	解析学Ⅰ		2	
	解析学Ⅱ		2	
	解析学Ⅲ		2	
	解析学Ⅳ		2	
	解析学Ⅴ		2	
	解析学Ⅵ		2	
	解析学Ⅶ		2	
	解析学Ⅷ		2	
	代数学Ⅰ		2	
	代数学Ⅱ		2	
	代数学Ⅲ		2	
	代数学Ⅳ		2	
	代数学Ⅴ		2	
	代数学Ⅵ		2	
	代数学Ⅶ		2	
	代数学Ⅷ		2	
	幾何学Ⅰ		2	
	幾何学Ⅱ		2	
	幾何学Ⅲ		2	
	幾何学Ⅳ		2	
	幾何学Ⅴ		2	
	幾何学Ⅵ		2	
	幾何学Ⅶ		2	
	幾何学Ⅷ		2	
	数理情報Ⅰ		2	
	数理情報Ⅱ		2	
	数理情報Ⅲ		2	
	数理情報Ⅳ		2	
	数理情報Ⅴ		2	
	数理情報Ⅵ		2	
	数理情報Ⅶ		2	
	数理情報Ⅷ		2	
	計算機科学Ⅰ		4	
	計算機科学Ⅱ		4	
	計算機科学Ⅲ		2	
	計算機科学Ⅳ		2	
	計算機科学Ⅴ		2	
	計算機科学Ⅵ		2	
	計算機科学Ⅶ		2	
	計算機科学Ⅷ		2	
	教職研究Ⅰ			1
	教職研究Ⅱ			1
	数学基礎研究		4	
	数学講究	8		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　24単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　80単位以上

計　100単位以上

合計　124単位以上

４の２（理工学部情報工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	

	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
専門教育部門	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	情報通信ネットワーク		2	
	情報理論		2	
	情報セキュリティ		2	
	情報通信システム		2	
	信号伝送論		2	
	符号理論		2	
	ワイヤレス通信		2	
	コンピュータアーキテクチャⅠ		2	
	コンピュータアーキテクチャⅡ		2	
	ディジタル回路Ⅰ		2	
	ディジタル回路Ⅱ		2	
	電気電子回路Ⅰ		2	
	電気電子回路Ⅱ		2	
	ディジタル信号処理Ⅰ		2	
	ディジタル信号処理Ⅱ		2	
	組込システム		2	
	システム制御Ⅰ		2	
	システム制御Ⅱ		2	

専門教育部門	ハードウェア記述言語		2	
	センサ工学		2	
	ロボットシステム		2	
	アルゴリズム・データ構造Ⅰ		2	
	アルゴリズム・データ構造Ⅱ		2	
	オペレーティングシステム		2	
	データベース		2	
	ソフトウェア工学		2	
	言語・オートマトン		2	
	人工知能		2	
	数値解析		2	
	コンパイラ		2	
	プログラミング言語論		2	
	パターン認識		2	
	アドバンストアルゴリズム		2	
	数理計画法		2	
	マルチメディア基礎		2	
	画像処理		2	
	コンピュータグラフィックス		2	
	コンピュータビジョン		2	
	感性情報処理		2	
	音声・音響信号処理		2	
	バーチャルリアリティ		2	
	言語情報処理		2	
	情報工学の世界	2		
	情報工学基礎演習	1		
	テクニカルリテラシー	2		
	離散数学		2	
	確率論		2	
	統計解析		2	
	情報数学基礎	2		
	応用解析		2	
	電磁気学Ⅰ		2	
	電磁気学Ⅱ		2	
	プログラミング演習Ⅰ	1		
	プログラミング演習Ⅱ	1		
	プログラミング演習Ⅲ		1	
	プログラミング演習Ⅳ		1	
	情報工学実験Ⅰ	2		
	情報工学実験Ⅱ		2	
	情報工学実験Ⅲ		2	
	インターンシップ		1	
	ゼミナール	2		
	情報技術の応用と職業		2	
	卒業研究	4		
教科部門	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　17単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　87単位以上

計　107単位以上

合計　124単位以上

４の３（理工学部電気電子工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	

	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
専門教育部門	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	電気磁気学Ⅰおよび演習	3		
	電気磁気学Ⅱおよび演習	3		
	電気磁気学Ⅲ		2	
	電気回路Ⅰおよび演習	3		
	電気回路Ⅱおよび演習	3		
	電気回路Ⅲ		2	
	電子回路Ａ	2		
	電子回路Ｂ	2		
	電子回路Ｃ		2	
	デジタル回路Ⅰ	2		
	デジタル回路Ⅱ		2	
	デジタル信号処理Ⅰ		2	
	デジタル信号処理Ⅱ		2	
	コンピューターサイエンス	2		
	プログラミングⅠおよび演習	3		
	プログラミングⅡおよび演習	3		
	組み込みシステムⅠおよび演習		3	
	組み込みシステムⅡおよび演習		3	
	電気計測	2		

専門教育部門	電気基礎理論Ⅰ		2	
	電気基礎理論Ⅱ		2	
	電気基礎理論Ⅲ		2	
	電気基礎理論Ⅳ		2	
	電気電子工学概論		2	
	エネルギー変換・発生工学		2	
	エネルギー伝送工学		2	
	電気機器工学		2	
	高電圧工学		2	
	電力系統工学		2	
	電気設計・製図		2	
	電気法規・施設管理		2	
	制御工学Ⅰ		2	
	制御工学Ⅱ		2	
	パワーエレクトロニクス		2	
	電気電子物性論Ⅰ		2	
	電気電子物性論Ⅱ		2	
	電気電子物性論Ⅲ		2	
	半導体工学Ⅰ		2	
	半導体工学Ⅱ		2	
	電気化学		2	
	電子計測		2	
	センサ・センシング		2	
	基礎通信工学		2	
	情報理論		2	
	通信システム		2	
	電磁波工学		2	
	ネットワーク		2	
	データベース		2	
	電気電子工学基礎実験	1		
	電気電子工学実験Ⅰ	2		
	電気電子工学実験Ⅱ	2		
	電気電子工学実験Ⅲ	2		
	電気電子ゼミナールⅠ		1	
	電気電子ゼミナールⅡ	1		
	卒業研究	4		
教科部門	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　40単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　64単位以上

計　84単位以上

合計　124単位以上

４の４（理工学部材料機能工学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	英語コミュニケーションⅢ	1		
	英語コミュニケーションⅣ	1		
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	

専門教育部門	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	応用数学Ⅰ		2	
	応用数学Ⅱ		2	
	応用数学Ⅲ		2	
	電磁気学Ⅰおよび演習		3	
	電磁気学Ⅱおよび演習		3	
	工業力学		2	
	材料力学Ⅰおよび演習		3	
	材料力学Ⅱおよび演習		3	
	量子力学Ⅰおよび演習		3	
	量子力学Ⅱおよび演習		3	
	物性論Ⅰおよび演習		3	
	物性論Ⅱおよび演習		3	
	熱力学		2	
	統計力学		2	
	製図基礎		2	
	真空工学		2	
	表面工学		2	
	電気回路および演習		3	
	電子回路設計・製作		2	
	アナログ電子回路		2	
	デジタル電子回路		2	
	半導体デバイス		2	

専門教育部門	量子エレクトロニクス		2	
	半導体基礎論		2	
	半導体工学		2	
	結晶材料		2	
	結晶成長		2	
	磁性材料		2	
	光・誘電工学		2	
	鉄鋼材料		2	
	合金材料		2	
	焼結材料		2	
	高分子材料		2	
	複合材料		2	
	材料強度学		2	
	結晶塑性学		2	
	機械加工		2	
	溶融加工		2	
	機械要素		2	
	機械設計・製図		2	
	安全工学		2	
	化学反応論		2	
	量子化学		2	
	高分子物性		2	
	電気化学		2	
	エレクトロニクス材料分析・評価法		2	
	機械材料分析・評価法		2	
	分析化学		2	
	材料機能工学概論	2		
	科学技術リテラシー	2		
	材料機能工学実験Ⅰ	2		
	材料機能工学実験Ⅱ	2		
	材料機能工学実験Ⅲ	2		
	材料機能ゼミナール	2		
	先端技術管理		2	
	卒業研究	4		
教門部科	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　24単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　16単位以上

専門教育部門　84単位以上

計　100単位以上

合計　124単位以上

４の５（理工学部応用化学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ			1
	基礎ゼミナールⅡ			1
専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	

専門教育部門	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ	2		
	化学Ⅱ	2		
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎論	2		
	応用化学数学		2	
	電磁気学		2	
	化学反応論		2	
	量子化学Ⅰ		2	
	量子化学Ⅱ		2	
	量子化学演習		1	
	有機化学Ⅰ		2	
	有機化学Ⅱ		2	
	有機化学演習		1	
	高分子化学		2	
	高分子物性		2	
	高分子材料		2	
	生化学		2	
	生活支援化学		2	
	コロイド化学		2	
	複合材料		2	
	物理化学Ⅰ		2	
	物理化学Ⅱ		2	
	物理化学演習		1	
	化学工学		2	
	物質構造学		2	
	固体物性化学		2	

専門教育部門	金属材料		2	
	電子材料		2	
	半導体工学		2	
	流動現象学		2	
	無機化学Ⅰ		2	
	無機化学Ⅱ		2	
	無機化学演習		1	
	化学結晶学		2	
	錯体化学		2	
	触媒化学		2	
	環境材料		2	
	表面工学		2	
	電気化学		2	
	エネルギー化学		2	
	工業力学		2	
	分析化学		2	
	製図基礎		2	
	機械要素		2	
	機械設計・製図		2	
	真空工学		2	
	機器分析		2	
	先端化学	2		
	安全工学	2		
	実験技術論		2	
	分離精製工学		2	
	科学表現論		2	
	先端技術管理		2	
	応用化学実験Ⅰ	2		
	応用化学実験Ⅱ	2		
	応用化学実験Ⅲ	3		
	応用化学実験Ⅳ	2		
	応用化学ゼミナール	2		
	卒業研究	4		
教職科目部門	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　39単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　18単位以上

専門教育部門　67単位以上

計　85単位以上

合計　124単位以上

４の６（理工学部機械工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
	英語コミュニケーションⅠ		1	

総合基礎部門	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ	2		
	物理学Ⅱ	2		
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	

専門教育部門	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	熱力学Ⅰ	2		
	熱力学Ⅱ		2	
	伝熱工学		2	
	熱機関工学		2	
	流体力学Ⅰ	2		
	流体力学Ⅱ		2	
	流体機械		2	
	応用流体力学		2	
	材料力学Ⅰ	2		
	材料力学Ⅱ		2	
	材料強度学Ⅰ		2	
	材料強度学Ⅱ		2	
	機械材料		2	
	機械設計基礎	2		
	機械設計Ⅰ	2		
	機械設計Ⅱ	2		
	機械要素	2		
	機械加工学		2	
	塑性加工		2	
	生産加工学		2	
	生産管理		2	
	機構学		2	
	機械力学Ⅰ	2		
	機械力学Ⅱ		2	
	機械振動学		2	
	制御工学Ⅰ		2	
	制御工学Ⅱ		2	

専門教育部門	コンピュータープログラミング	2		
	コンピューターシミュレーション		2	
	機械技術者倫理		2	
	基礎電気工学		2	
	基礎電子工学		2	
	機械設計・製作		4	
	機械工学実習	2		
	機械工学実験	2		
	機械工学概論	2		
	応用数学Ⅰ	2		
	応用数学Ⅱ		2	
	応用力学		2	
	電磁気学		2	
	データ解析工学		2	
	ＣＡＥ		2	
	計測工学		2	
	新技術概論		2	
	技術英語		2	
	インターンシップ		1	
	ラボラトリー・セミナー		1	
	卒業研究	4		
教部門科	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　42単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　62単位以上

計　82単位以上

合計　124単位以上

４の７（理工学部交通機械工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	英語コミュニケーションⅢ	1		
	英語コミュニケーションⅣ	1		
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	

総合基礎部門	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ	2		
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ	2		
	物理学Ⅰ	2		
	物理学Ⅱ	2		
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー	2		

専門教育部門	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	環境倫理	2		
	情報技術	1		
	コンピューターシミュレーション		2	
	ＣＡＭ		1	
	ＣＡＥ		1	
	応用数学Ⅰ	2		
	応用数学Ⅱ		2	
	工業力学	2		
	工業力学演習		1	
	材料力学Ⅰ	2		
	材料力学Ⅱ		2	
	材料力学演習		1	
	構造力学		2	
	流体力学Ⅰ	2		
	流体力学Ⅱ		2	
	流体力学演習		1	
	流れ学		2	
	熱力学Ⅰ	2		
	熱力学Ⅱ		2	
	熱力学演習		1	
	エネルギ工学		2	
	材料科学Ⅰ	2		
	材料科学Ⅱ		2	
	交通機工作法		2	
	機構学		2	
	機械要素Ⅰ		2	
	機械要素Ⅱ		2	
	図学		2	
	製図	1		
	設計・ＣＡＤ		1	
	交通機設計	1		
	制御工学Ⅰ		2	
	制御工学Ⅱ		2	
	機械力学		2	
	振動学		2	
	エンジンⅠ	2		
	エンジンⅡ		2	
	自動車工学Ⅰ	2		
	自動車工学Ⅱ		2	

専門教育部門	ビークルダイナミックス		2	
	航空工学Ⅰ	2		
	航空工学Ⅱ		2	
	航空宇宙学		2	
	鉄道車両工学Ⅰ	2		
	鉄道車両工学Ⅱ		2	
	船舶工学		2	
	知的交通システム学		2	
	管理科学		2	
	エレクトロニクスⅠ		2	
	エレクトロニクスⅡ		2	
	計測工学		2	
	スタイリング		1	
	ハンドエンジニアリング	1		
	交通システム実習Ⅰ	1		
	交通システム実習Ⅱ	1		
	交通システム実験Ⅰ	1		
	交通システム実験Ⅱ		1	
	ゼミナール	2		
	卒業研究	4		
教部門科	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　55単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　16単位以上

専門教育部門　53単位以上

計　69単位以上

合計　124単位以上

４の８（理工学部メカトロニクス工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	

総合基礎部門	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1

専門教育部門	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	メカトロニクス概論	2		
	技術日本語	2		
	図学	2		
	電気回路基礎	2		
	コンピュータープログラミング	2		
	機械製図	2		
	材料力学Ⅰ	2		
	材料力学Ⅱ		2	
	機械力学Ⅰ	2		
	機械力学Ⅱ		2	
	電子回路と部品	2		
	電磁気学Ⅰ	2		
	電磁気学Ⅱ		2	
	電気設計・製図	2		
	機構学	2		
	機械要素	2		
	アナログ電子回路	2		
	制御工学Ⅰ	2		
	制御工学Ⅱ	2		
	組み込みソフトウェア	2		
	ベクトルとキネマティクス	2		
	メカトロニクス実験Ⅰ	2		
	メカトロニクス実験Ⅱ	2		
	信号処理工学	2		
	技術英語	2		
	集中演習Ⅰ	2		
	集中演習Ⅱ	2		
	集中演習Ⅲ	2		
	コンピュータ・アーキテクチャ		2	
	応用数学Ⅰ		2	
	応用数学Ⅱ		2	
	流体力学Ⅰ		2	
	流体力学Ⅱ		2	
	熱力学Ⅰ		2	
	熱力学Ⅱ		2	
	コンピューターグラフィクス		2	
	デジタル電子回路		2	
	バイオメカニクス		2	
	機械要素設計		2	
	バイワイヤアーキテクチャ		2	
	医療機械工学		2	

専門教育部門	ネットワーク		2	
	電気機器工学		2	
	振動学		2	
	機械加工学		2	
	自動車工学Ⅰ		2	
	自動車工学Ⅱ		2	
	エネルギ工学		2	
	伝熱工学		2	
	ソフトウェア工学		2	
	生体信号処理		2	
	パワーエレクトロニクス		2	
	センサ・センシング		2	
	生産管理		2	
	機械技術者倫理		2	
	ＣＡＥ		2	
	計測工学		2	
	電気法規・施設管理		2	
	インターンシップ		1	
	機能再現演習	2		
	卒業研究	4		
教部門科	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　56単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　48単位以上

計　68単位以上

合計　124単位以上

４の９（理工学部社会基盤デザイン工学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	

総合基礎部門	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理	2		
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1

専門教育部門	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	応用数学Ⅰ		2	
	応用数学Ⅱ		2	
	数理統計学		2	
	力学基礎		2	
	材料力学		2	
	数値計算・プログラミング演習Ⅰ		1	
	数値計算・プログラミング演習Ⅱ		1	
	図学・ＣＡＤ演習		1	
	構造力学Ⅰ	2		
	構造力学Ⅱ		2	
	構造力学Ⅲ		2	
	水理学Ⅰ	2		
	水理学Ⅱ		2	
	水理学Ⅲ		2	
	土質力学Ⅰ	2		
	土質力学Ⅱ		2	
	土質力学Ⅲ		2	
	社会基盤計画学Ⅰ	2		
	社会基盤計画学Ⅱ		2	
	建設材料学	2		
	基礎現象実験	2		
	測量学		2	
	測量学実習Ⅰ		1	
	測量学実習Ⅱ		1	
	応用測量・ＧＩＳ実習		2	
	社会基盤デザインセミナーⅠ	2		
	社会基盤デザインセミナーⅡ	2		
	社会プロジェクト特別講義		2	
	科学技術英語		2	
	社会基盤デザイン工学概論	2		
	デザイン学入門	2		
	デザイン技法		2	
	都市デザイン学		2	
	都市・国土制度論		2	
	交通デザイン学		2	
	まちづくり実習		1	
	水資源計画論		2	
	都市経済学		2	
	輸送・エネルギー計画論		2	
	プロジェクトマネジメント		2	

専門教育部門	土質・材料試験法		2	
	鋼構造設計論		2	
	コンクリート構造設計論		2	
	建設施工法		2	
	施設維持管理論		2	
	都市安全学		2	
	河川防災工学		2	
	海域防災工学		2	
	地盤防災工学		2	
	耐震工学		2	
	山地防災工学		2	
	ランドスケープデザイン		2	
	地圏環境工学		2	
	水域環境工学		2	
	水質保全学		2	
	自然環境再生論		2	
	シミュレーション実験		1	
	グローバルインターンシップ		1	
	社会基盤デザイン総合演習Ⅰ		1	
	社会基盤デザイン総合演習Ⅱ		1	
	卒業研究	4		
教部門科	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　26単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　78単位以上

計　98単位以上

合計　124単位以上

４の１０（理工学部環境創造学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	

総合基礎部門	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	
	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	

専門教育部門	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1
	環境創造学概論Ⅰ	2		
	環境創造学概論Ⅱ	2		
	コミュニケーションスキル		2	
	応用数学		2	
	確率統計学		2	
	情報処理Ⅰ		2	
	情報処理Ⅱ		2	
	環境計測学		2	
	測量学		2	
	環境アセスメント		2	
	環境化学・分析		2	
	材料力学		2	
	構造力学Ⅰ		2	
	構造力学Ⅱ		2	
	流体力学		2	
	熱・光環境論		2	
	振動・騒音論		2	
	人間行動学		2	
	基礎生態学		2	
	地域環境調査実習Ⅰ		1	
	地域環境調査実習Ⅱ		1	
	測量学実習		2	
	環境創造学実験Ⅰ		2	
	環境創造学実験Ⅱ		2	
	環境材料学		2	
	環境造形学		2	
	環境デザイン図法		2	
	環境倫理		2	
	環境法		2	
	建設法規		2	
	気圏環境学		2	
	環境気象学		2	
	環境リモートセンシング		2	
	水環境学		2	
	水理学		2	
	水域環境創造学		2	
	水処理学		2	
	環境生態学		2	
	地圏環境学		2	
	環境変遷学		2	

専門教育部門	地震・活断層論		2	
	土壌地下水汚染学		2	
	快適性創造学		2	
	空間創造学		2	
	環境文化論		2	
	居住環境設計Ⅰ		2	
	居住環境設計Ⅱ		2	
	環境創造設備学		2	
	環境共生都市論		2	
	交通環境工学		2	
	都市環境設計		2	
	構造設計学Ⅰ		2	
	構造設計学Ⅱ		2	
	材料リサイクル		2	
	建設施工学		2	
	インターンシップ		1	
	ゼミナール	2		
	卒業研究・卒業制作	4		
教職科目	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　10単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　94単位以上

計　114単位以上

合計　124単位以上

４の１１（理工学部建築学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
総合基礎部門	英語コミュニケーションⅠ		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションⅣ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅠ		1	
	プラクティカル･イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語Ⅳ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語Ⅳ		1	

総合基礎部門	体育科学Ⅰ		1	
	体育科学Ⅱ		1	
	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学Ⅳ		1	
	人文科学基礎Ⅰ		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎Ⅰ		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論Ⅰ		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論Ⅰ		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナールⅠ		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
専門教育部門	微分積分Ⅰ		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数Ⅰ		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験Ⅰ		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験Ⅰ		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学Ⅰ		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験Ⅰ		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
	技術者倫理		2	
	コンピューターリテラシー		2	
	数学基礎演習Ⅰ			1
	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習Ⅰ			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習Ⅰ			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習Ⅰ			1
	英語基礎演習Ⅱ			1

専門教育部門	建築史概論	2		
	建築計画概論	2		
	建築環境概論	2		
	建築構造概論	2		
	建築材料概論	2		
	西洋建築史		2	
	日本建築史		2	
	アジア建築史		2	
	近代建築史		2	
	美術史		2	
	建築応用数学		2	
	数値計算法		2	
	建築環境物理		2	
	建築環境工学		2	
	建築設備概論	2		
	構造力学概論	2		
	構造力学Ⅰ	2		
	構造力学Ⅱ		2	
	構造力学Ⅲ		2	
	構造力学Ⅳ		2	
	建築材料実験		2	
	建築構造実験		2	
	建築環境実験		2	
	ＣＡＤデザイン		2	
	デザイン基礎Ⅰ		2	
	デザイン基礎Ⅱ		2	
	基本空間デザインⅠ		2	
	基本空間デザインⅡ		2	
	建築デザインⅠ		2	
	建築デザインⅡ		2	
	建築デザインⅢ		2	
	建築計画Ⅰ		2	
	建築計画Ⅱ		2	
	建築計画Ⅲ		2	
	インテリアデザイン		2	
	建築各種構造Ⅰ		2	
	建築各種構造Ⅱ		2	
	建築構造デザインⅠ		2	
	建築構造デザインⅡ		2	
	建築構造計画	2		
	建築構造設計		2	
	建築環境計画Ⅰ		2	
	建築環境計画Ⅱ		2	
	建築設備工学Ⅰ		2	
	建築設備工学Ⅱ		2	
	都市環境デザイン		2	
	建築材料		2	
	建築工法	2		
	都市計画		2	

専門教育部門	生活空間計画		2	
	地域計画		2	
	耐震工学		2	
	都市防災		2	
	生産工学Ⅰ		2	
	生産工学Ⅱ		2	
	建築維持保全		2	
	建築法規行政	2		
	ワークショップ		1	
	設計総合演習		1	
	インターンシップ		1	
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	1		
	卒業研究・卒業制作	4		
教科部門	職業指導論Ⅰ			2
	職業指導論Ⅱ			2

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　28単位

(2) 選択科目　総合基礎部門　20単位以上

専門教育部門　76単位以上

計　96単位以上

合計　124単位以上

５の１（農学部生物資源学科）
①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	科学の最前線と歴史		2	
	生命・食料・環境・エネルギー		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語初級Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英語初級Ⅱ		1	
	英会話初級Ⅱ		1	
	英語初級Ⅲ		1	
	英会話初級Ⅲ		1	
	英語初級Ⅳ		1	
	英会話初級Ⅳ		1	
	英語中級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅱ		1	
	英会話中級Ⅱ		1	
	英語中級Ⅲ		1	
	英会話中級Ⅲ		1	
	英語中級Ⅳ		1	
	英会話中級Ⅳ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話上級Ⅰ		1	
	英語上級Ⅱ		1	
	英会話上級Ⅱ		1	
	英語上級Ⅲ		1	
	英会話上級Ⅲ		1	
	英語上級Ⅳ		1	
	英会話上級Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	

教養教育部門	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅰ		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
専門教育部門	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験	1		
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物資源学概説	2		
	作物生産科学	2		
	園芸学	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ		2	
	農場実習Ⅰ	1		
	農場実習Ⅱ	1		
	農場実習Ⅲ		2	
	農場実習Ⅳ		1	
	食用作物学Ⅰ	2		
	食用作物学Ⅱ		2	
	遺伝学	2		
	植物病理学	2		
	基礎昆虫学	2		
	応用昆虫学		2	

専門教育部門	生物生産経営学	2		
	生命科学の技術	2		
	生物資源学実験	3		
	作物学実験		1	
	園芸学実験		1	
	遺伝育種学実験		1	
	生物生産経営学演習		1	
	植物病理学実験		1	
	昆虫学実験		1	
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類・形態学		2	
	動物分類・形態学		2	
	微生物学		2	
	生物資源経済学		2	
	有機化学		2	
	生物資源統計学		2	
	果樹園芸学		2	
	野菜園芸学		2	
	花き園芸学		2	
	育種学		2	
	植物生理学		2	
	細胞生物学		2	
	青果保蔵学		2	
	施設園芸学		2	
	土壌学		2	
	肥料学		2	
	資源作物学		2	
	熱帯農業論		2	
	雑草学		2	
	植物細胞工学		2	
	分子生物学		2	
	農業環境微生物学		2	
	植物感染制御学		2	
	農薬学		2	
	農政学		2	
	食品経済学		2	
	食品科学		2	
	動物生産学		2	
	生物資源学特別講義Ⅰ		2	
	生物資源学特別講義Ⅱ		2	
	生物資源学特別講義Ⅲ		2	
	フィールド生産技術論		2	
	フィールドサイエンス		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目	教養教育部門	2単位
	専門教育部門	35単位
	計	37単位
(2) 選択科目	教養教育部門	24単位以上
	専門教育部門	63単位以上
	計	87単位以上
	合　　計	124単位以上

５の２（農学部応用生物化学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	科学の最前線と歴史		2	
	生命・食料・環境・エネルギー		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語初級Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英語初級Ⅱ		1	
	英会話初級Ⅱ		1	
	英語初級Ⅲ		1	
	英会話初級Ⅲ		1	
	英語初級Ⅳ		1	
	英会話初級Ⅳ		1	
	英語中級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅱ		1	
	英会話中級Ⅱ		1	
	英語中級Ⅲ		1	
	英会話中級Ⅲ		1	
	英語中級Ⅳ		1	
	英会話中級Ⅳ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話上級Ⅰ		1	

教養教育部門	英語上級Ⅱ		1	
	英会話上級Ⅱ		1	
	英語上級Ⅲ		1	
	英会話上級Ⅲ		1	
	英語上級Ⅳ		1	
	英会話上級Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅰ		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
専門教育部門	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	応用生物化学概説	2		
	分析化学	2		
	有機化学Ⅰ	2		
	有機化学Ⅱ	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ	2		
	物理化学Ⅰ	2		
	物理化学Ⅱ	2		

専門教育部門	微生物学Ⅰ	2		
	微生物学Ⅱ	2		
	栄養科学Ⅰ	2		
	栄養科学Ⅱ	2		
	畜産食品製造科学Ⅰ	2		
	畜産食品製造科学Ⅱ	2		
	農薬科学Ⅰ	2		
	農薬科学Ⅱ	2		
	応用生物化学実験Ⅰ	1		
	応用生物化学実験Ⅱ	1		
	応用生物化学実験Ⅲ	1		
	応用生物化学実験Ⅳ	1		
	応用生物化学実験Ⅴ	1		
	応用生物化学実験Ⅵ	1		
	応用生物化学実験Ⅶ	1		
	機器分析化学	2		
	食品安全・衛生学	2		
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物生命科学		2	
	無機化学Ⅰ		2	
	無機化学Ⅱ		2	
	食品化学総論		2	
	食物文化論		2	
	細胞生物学		2	
	農場実習		1	
	統計学		2	
	代謝生化学		2	
	バイオテクノロジー		2	
	微生物利用学		2	
	食品原料学		2	
	畜産食品原料学		2	
	食品利用学		2	
	生物有機化学		2	
	天然物有機化学		2	
	生物物理化学		2	
	食品加工実習		1	
	香粧品化学		2	
	食品・環境関連法規		2	
	公衆衛生学		2	
	動物生命科学		2	
	分子生物学		2	
	醸造・発酵科学		2	
	タンパク質・遺伝子工学		2	
	食品機能学Ⅰ		2	
	食品機能学Ⅱ		2	

専門教育部門	食品保蔵学		2	
	生物制御化学		2	
	高分子レオロジー		2	
	化学工学		2	
	応用生物化学特別講義Ⅰ		2	
	応用生物化学特別講義Ⅱ		2	
	フィールド生産技術論		2	
	フィールドサイエンス		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目	教養教育部門	2単位
	専門教育部門	52単位
	計	54単位
(2)選択科目	教養教育部門	24単位以上
	専門教育部門	46単位以上
	計	70単位以上
	合　　計	124単位以上

５の３（農学部生物環境科学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	科学の最前線と歴史		2	
	生命・食料・環境・エネルギー		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語初級Ⅰ		1	
	英会話初級Ⅰ		1	
	英語初級Ⅱ		1	
	英会話初級Ⅱ		1	
	英語初級Ⅲ		1	
	英会話初級Ⅲ		1	
	英語初級Ⅳ		1	
	英会話初級Ⅳ		1	

教養教育部門	英語中級Ⅰ		1	
	英会話中級Ⅰ		1	
	英語中級Ⅱ		1	
	英会話中級Ⅱ		1	
	英語中級Ⅲ		1	
	英会話中級Ⅲ		1	
	英語中級Ⅳ		1	
	英会話中級Ⅳ		1	
	英語上級Ⅰ		1	
	英会話上級Ⅰ		1	
	英語上級Ⅱ		1	
	英会話上級Ⅱ		1	
	英語上級Ⅲ		1	
	英会話上級Ⅲ		1	
	英語上級Ⅳ		1	
	英会話上級Ⅳ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅰ		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅰ		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅴ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
専門教育部門	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験		1	
	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	

専門教育部門	情報科学		2	
	科学英語Ⅰ		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物環境科学概説	2		
	環境基礎理論	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ		2	
	生物環境科学実習	2		
	生物環境科学演習Ⅰ	1		
	生物環境科学演習Ⅱ	1		
	有機化学	2		
	分子生物学	2		
	進化生物学	2		
	生物環境科学実験Ⅰ	2		
	生物環境科学実験Ⅱ	3		
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類学		2	
	無機化学		2	
	生態学		2	
	農場実習		1	
	生物統計学		2	
	保全植物学		2	
	環境動物学		2	
	森林生態学		2	
	ランドスケープ・デザイン学		2	
	緑地環境学		2	
	植物生命化学		2	
	植物栄養学		2	
	物質循環論		2	
	土壌学		2	
	環境分析化学		2	
	水圏環境化学		2	
	微生物学		2	
	環境微生物学		2	
	動物環境生理学		2	
	野生動物管理論		2	
	植物繁殖生態学		2	
	オープン・スペース論		2	
	緑地材料学		2	
	環境法		2	
	環境アセス論		2	
	植物生理学		2	
	植物機能科学		2	
	環境土壌学		2	

専門教育部門	肥料学		2	
	機器分析化学		2	
	細胞分子生物学		2	
	植物環境適応論		2	
	ランドスケープ・デザイン演習		1	
	生物環境科学特別講義Ⅰ		2	
	生物環境科学特別講義Ⅱ		2	
	生物環境科学特別講義Ⅲ		2	
	フィールド生産技術論		2	
	フィールドサイエンス		2	
	農学特別講義Ⅰ		2	
	農学特別講義Ⅱ		2	

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目	教養教育部門	2単位
	専門教育部門	30単位
	計	32単位
(2)選択科目	教養教育部門	24単位以上
	専門教育部門	68単位以上
	計	92単位以上
	合　　計	124単位以上

6 （薬学部薬学科）

① 授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目群	人間と環境		2	
	教養教育科目群	心の科学		2	
		経営と社会		2	
		法と社会		2	
		芸術文化論		2	
		ジェンダーと社会		2	
		数と論理		2	
		情報活用リテラシー		2	
		コンピュータリテラシー		2	
		教養演習Ⅰ		2	
		教養演習Ⅱ		2	
	薬学準備教育科目群	基礎物理	1.5		
		基礎化学	1.5		
		基礎生物	1.5		
		薬剤師の使命Ⅰ	1.5		
		薬剤師の使命Ⅱ	1.5		
		薬学概論Ⅰ	1		
		薬学概論Ⅱ	1		
		コミュニケーション基礎	1		
		キャリア形成	1		
		入門実験	1		
	語学科目群	英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（リーディング）		1	
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
		英語中級Ⅰ（リーディング）		1	
		英語中級Ⅰ（コミュニケーション）		1	
		英語中級Ⅱ（リーディング）		1	
		英語中級Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	健康・スポーツ科学科目群	健康・スポーツ科学Ⅰ	1		
		健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
		健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅳ		1	
		健康・スポーツ科学理論		2	
専門薬学教育部門	基幹科目群	物理化学Ⅰ	1.5		
		物理化学Ⅱ	1.5		
		基礎有機化学	1.5		
		有機薬化学Ⅰ	1.5		
		有機薬化学Ⅱ	1.5		

専門薬学教育部門	基幹科目群	有機薬化学Ⅲ	1.5		
		機能形態学Ⅰ	1.5		
		機能形態学Ⅱ	1.5		
		機能形態学Ⅲ	1.5		
		生化学Ⅰ	1.5		
		生化学Ⅱ	1.5		
		生化学Ⅲ	1.5		
		薬学英語Ⅰ	1.5		
		薬学英語Ⅱ	1.5		
		薬局方試験法	1.5		
		医薬資源化学	1.5		
		微生物学	1.5		
		分子生物学Ⅰ	1.5		
		分子生物学Ⅱ	1.5		
		社会保障と医療経済	1.5		
		薬用植物と生薬	1.5		
		構造解析学	1.5		
		免疫学	1.5		
		薬物動態学Ⅰ	1.5		
		薬物動態学Ⅱ	1.5		
		薬の作用	1.5		
		製剤学Ⅰ	1.5		
		製剤学Ⅱ	1.5		
		分析化学	1.5		
		生物有機化学	1.5		
		感染予防学	1.5		
		公衆衛生学	1.5		
		衛生化学Ⅰ	1.5		
		衛生化学Ⅱ	1.5		
		薬理・病態Ⅰ	1.5		
		薬理・病態Ⅱ	1.5		
		薬理・病態Ⅲ	1.5		
		薬理・病態Ⅳ	1.5		
		薬理・病態Ⅴ	1.5		
		薬理・病態Ⅵ	1.5		
		身体変化のメカニズム	1.5		
		異常値のメカニズム	1.5		
		薬剤学	1.5		
		環境科学	1.5		
		医薬品情報学	1.5		
		製剤設計学	1.5		
		医療法規	1.5		
		和漢医薬学	1.5		
		薬物投与設計	1.5		
		セルフメディケーション・医療統計	1.5		
		化学療法・緩和医療	1.5		

専門薬学教育部門	基幹科目群	放射科学	1.5		
		臨床心理・倫理学		1.5	
		栄養学		1.5	
		臨床コミュニケーション		1.5	
	実習科目群	分析系基礎実習（分析化学）	0.5		
		分析系基礎実習（生化学）	0.5		
		化学系基礎実習（有機化学１）	0.5		
		化学系基礎実習（有機化学２）	0.5		
		生物系基礎実習（生理学）	0.5		
		生物系基礎実習（微生物学）	0.5		
		化学系応用実習（有機化学３）	0.5		
		化学系応用実習（天然物化学・生薬）	0.5		
		生物系応用実習（薬理１）	0.5		
		生物系応用実習（薬理２）	0.5		
		物理系基礎実習（物理化学）	0.5		
		物理系基礎実習（製剤）	0.5		
		分析系応用実習（環境科学）	0.5		
		分析系応用実習（衛生化学）	0.5		
		物理系応用実習（薬剤）	0.5		
		物理系応用実習（医薬品情報）	0.5		
		病院実務実習	10		
		薬局実務実習	10		
	アドバンスト演習科目群	基礎化学演習		0.5	
		基礎生物演習		0.5	
		基礎物理演習		0.5	
		物理化学Ⅰ演習		0.5	
		物理化学Ⅱ演習		0.5	
		基礎有機化学演習		0.5	
		有機薬化学Ⅰ演習		0.5	
		有機薬化学Ⅱ演習		0.5	
		有機薬化学Ⅲ演習		0.5	
		機能形態学Ⅰ演習		0.5	
		機能形態学Ⅱ演習		0.5	
		機能形態学Ⅲ演習		0.5	
		生化学Ⅰ演習		0.5	
		生化学Ⅱ演習		0.5	
		生化学Ⅲ演習		0.5	
		薬学英語Ⅰ演習		0.5	
		薬学英語Ⅱ演習		0.5	
		薬局方試験法演習		0.5	
		医薬資源化学演習		0.5	
		微生物学演習		0.5	
		分子生物学Ⅰ演習		0.5	
		分子生物学Ⅱ演習		0.5	
		社会保障と医療経済演習		0.5	
		薬用植物と生薬演習		0.5	

専門薬学教育部門	アドバンスト演習科目群	構造解析学演習		0.5	
		免疫学演習		0.5	
		薬物動態学Ⅰ演習		0.5	
		薬物動態学Ⅱ演習		0.5	
		薬の作用演習		0.5	
		製剤学Ⅰ演習		0.5	
		製剤学Ⅱ演習		0.5	
		分析化学演習		0.5	
		生物有機化学演習		0.5	
		感染予防学演習		0.5	
		公衆衛生学演習		0.5	
		衛生化学Ⅰ演習		0.5	
		衛生化学Ⅱ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅰ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅱ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅲ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅳ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅴ演習		0.5	
		薬理・病態Ⅵ演習		0.5	
		身体変化のメカニズム演習		0.5	
		異常値のメカニズム演習		0.5	
		薬剤学演習		0.5	
		環境科学演習		0.5	
		医薬品情報学演習		0.5	
		製剤設計学演習		0.5	
		医療法規演習		0.5	
		応用演習１（機能形態学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習２（生化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習３（物理化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習４（分析化学）		0.5	
		応用演習５（医薬資源化学／薬用植物と生薬）		0.5	
		応用演習６（基礎有機化学／有機薬化学Ⅰ）		0.5	
		応用演習７（機能形態学Ⅲ）		0.5	
		応用演習８（生化学Ⅲ）		0.5	
		応用演習９（薬局方試験法／構造解析学）		0.5	
		応用演習１０（分子生物学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習１１（微生物学／免疫学）		0.5	
		応用演習１２（異常値／身体変化のメカニズム）		0.5	
		応用演習１３（有機薬化学Ⅱ／Ⅲ）		0.5	
		応用演習１４（環境科学／公衆衛生学）		0.5	
		応用演習１５（薬の作用／薬理・病態Ⅰ）		0.5	
		応用演習１６（薬物動態学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習１７（製剤学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習１８（生物有機化学／製剤設計学）		0.5	
		応用演習１９（衛生化学Ⅰ／Ⅱ）		0.5	
		応用演習２０（薬理・病態Ⅳ／感染予防学）		0.5	

		応用演習２１（薬剤学／医薬品情報学）		0.5	
		応用演習２２（薬理・病態Ⅱ／Ⅲ）		0.5	
		応用演習２３（薬理・病態Ⅴ／Ⅵ）		0.5	
統合型薬学教育部門		薬物治療マネジメント	10		
		基礎薬学総論	3		
		実務実習事前講義・演習	4		
		薬学特別講義	3		
		薬学特別演習		3	
薬学アドバンスト教育部門	実践薬学科目群	発展キャリア形成１（物理・分析系）		1	
		発展キャリア形成２（化学系）		1	
		発展キャリア形成３（生物系）		1	
		発展キャリア形成４（衛生系）		1	
		発展キャリア形成５（薬理病態系）		1	
		発展キャリア形成６（薬剤製剤系）		1	
		発展キャリア形成７（プロフェッショナリズム）		1	
		医療の最前線		1	
		薬剤師の専門性		1	
		エクスターンシップ		1	
		多職種連携		0.5	
		医療を知る		1	
		臨床栄養療法学		1	
		医療英語コミュニケーション		1	
		セルフケア・介護		1	
		救命救急・院内感染予防		1	
		運動療法		1	
		医薬品開発論		1	
	薬学研究科目群	薬学卒業研究基礎	3		
		薬学卒業研究Ⅰ	5		
		薬学卒業研究Ⅱ	5		
		薬学卒業演習Ⅰ		1	
		薬学卒業応用演習Ⅰ		1	
		薬学卒業演習Ⅱ		1	
		薬学卒業応用演習Ⅱ		1	
関連教育部門		医用電子工学概論			1.5
		医用電子工学概論実習			1
		放射化学実習			1
		臨床実習			3

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目　教養教育部門　14.5単位

専門薬学教育部門

基幹科目群　78単位

実習科目群　28単位

統合型薬学教育部門　20単位

薬学アドバンスト教育部門

薬学研究科目群　13単位

計　153.5単位

(2) 選択科目	教養教育部門	23単位以上
	専門薬学教育部門	
	基幹科目群	3単位以上
	アドバンスト演習科目群	6.5単位以上
	薬学アドバンスト教育部門	
	実践薬学科目群	8単位以上
	薬学研究科目群	2単位以上
	計	42.5単位以上
合	計	196単位以上

7（都市情報学部都市情報学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	歴史と文化		2	
	芸術文化論		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経済と社会		2	
	経営と社会		2	
	政治と社会		2	
	国際化時代の人間と社会		2	
	社会学		2	
	都市と人間		2	
	ジェンダーと社会		2	
	人間と社会の演習		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
	英語基礎Ⅰ（リーディング）		1	
	英語基礎Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語基礎Ⅱ（リーディング）		1	
	英語基礎Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅱ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅱ（リーディング）		1	
	英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）		1	
	フランス語入門Ⅰ		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級Ⅰ		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語入門Ⅰ		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級Ⅰ		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー		2	

教養教育部門		コンピュータシステム		2	
		プログラミング入門		2	
		情報社会と倫理		2	
		健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
		健康科学論Ⅰ		2	
		健康科学論Ⅱ		2	
		教養演習Ⅰ		2	
専門基礎部門		都市情報学概論Ⅰ	2		
		都市情報学概論Ⅱ	2		
		都市学英語Ⅰ	1		
		都市学英語Ⅱ	1		
		情報管理の基礎	2		
		情報管理の応用	2		
		情報処理の基礎	2		
		情報処理の応用	2		
		コンピュータ演習Ⅰ（リテラシー）	2		
		コンピュータ演習Ⅱ（基礎プログラミング）	2		
		コンピュータ演習Ⅲ（オペレーティングシステム）	2		
		コンピュータ演習Ⅳ（応用プログラミング）	2		
		コンピュータ演習Ⅴ（プレゼンテーション）		2	
		コンピュータ演習Ⅵ（データベース）		2	
		情報とビジネス		2	
		ユビキタスと社会		2	
		都市と文化		2	
		都市の構造		2	
		数学の基礎Ａ－Ⅰ		2	
		数学の基礎Ａ－Ⅱ		2	
		数学の基礎Ｂ－Ⅰ		2	
		数学の基礎Ｂ－Ⅱ		2	
		ディジタルメディア表現入門		2	
専門部門	経済・経営	都市の経済		2	
		企業の経営		2	
		事業のマネジメント		2	
		企業の経済		2	
		企業の会計		2	
		経済の政策		2	
		都市と社会		2	
		経済と地理		2	
		貨幣の経済		2	
		都市と金融		2	
	財政・行政	都市と行政		2	
		都市と財政		2	
		地方と財政		2	
		都市と自治		2	
		都市と社会保障		2	

専門部門	財政・行政	都市と福祉		2	
		公共の政策		2	
		都市と公企業		2	
		都市と国際関係		2	
		国際社会と政治		2	
	地域計画	都市の計画		2	
		都市のデザイン		2	
		都市の再生		2	
		防災とまちづくり		2	
		交通の計画		2	
		交通とまちづくり		2	
		水利用の計画		2	
		水環境とまちづくり		2	
		観光と政策		2	
		観光と経営		2	
	開発・環境	都市の環境		2	
		国際化と地域開発		2	
		都市と事業構想		2	
		環境の政策		2	
		環境の評価		2	
		事業の評価		2	
		紛争のマネジメント		2	
		危機のマネジメント		2	
		都市と生態環境		2	
		地域環境の保全		2	
	情報・数理	データ分析と確率		2	
		データ分析と統計		2	
		情報と基礎解析		2	
		情報と応用解析		2	
		計画の数理		2	
		意思決定の数理		2	
		評価のＯＲ		2	
		経営のＯＲ		2	
		数理と情報処理		2	
		知識と情報処理		2	
		画像と情報処理		2	
		図形と情報処理		2	
		視環境と情報処理		2	
		認知と情報処理		2	
		知覚情報と脳の働き		2	
		都市生活とストレス		2	
	総合科目	コンピュータ総合演習Ⅰ		4	
		コンピュータ総合演習Ⅱ		4	
		サービスサイエンス特別講義Ⅰ		2	
		サービスサイエンス特別講義Ⅱ		2	
		キャリアアップ講座Ⅰ		2	

専門部門	総合科目	キャリアアップ講座Ⅱ		2	
		インターンシップ		2	
		異文化コミュニケーション		1	
		ゼミナール	8		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目	専門基礎部門	22単位
	専門部門	8単位
	計	30単位
(2) 選択科目	教養教育部門	32単位以上
	専門基礎部門	8単位以上
	専門部門	54単位以上
	計	94単位以上
	合計	124単位以上

8（人間学部人間学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる		2	
	人間と文化	歴史と文化		2	
		文学と人間		2	
		芸術文化論		2	
		欧米文化論		2	
		アジア文化論		2	
		文化人類学の世界		2	
		哲学		2	
		宗教の世界		2	
	人間と社会	日本国憲法		2	
		法と社会		2	
		経済と社会		2	
		政治と社会		2	
		社会学		2	
		都市と人間		2	
		ジェンダーと社会		2	
	自然と環境	地球と宇宙		2	
		物質の成り立ち		2	
		生命の多様性		2	
		数と論理		2	
		人間とデザイン		2	
	言語コミュニケーション	英語基礎Ⅰ（コミュニケーション）	1		
		英語基礎Ⅱ（コミュニケーション）	1		
		英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）	1		
		英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）	1		
		英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）	1		
		英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）	1		
		英語中級Ⅰ（コミュニケーション）	1		
		英語中級Ⅱ（コミュニケーション）	1		
		フランス語入門Ⅰ		1	
		フランス語入門Ⅱ		1	
		フランス語応用Ⅰ		1	
		フランス語応用Ⅱ		1	
		ドイツ語入門Ⅰ		1	
		ドイツ語入門Ⅱ		1	
		ドイツ語応用Ⅰ		1	
		ドイツ語応用Ⅱ		1	
		中国語入門Ⅰ		1	
		中国語入門Ⅱ		1	
		中国語応用Ⅰ		1	
		中国語応用Ⅱ		1	

教養教育部門	言語コミュニケーション	ハングル入門Ⅰ		1	
		ハングル入門Ⅱ		1	
		ハングル応用Ⅰ		1	
		ハングル応用Ⅱ		1	
		スペイン語初級Ⅰ		1	
		スペイン語初級Ⅱ		1	
	情報技術	コンピュータリテラシー		2	
		情報活用リテラシー		2	
		情報処理入門		2	
		情報社会と倫理		2	
	健康とスポーツ科学	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	教養演習	教養演習		2	
	キャリア・デザイン	キャリア形成論	2		
専門教育部門	基礎科目	人間学総論	2		
		心理学概論	2		
		社会学概論	2		
		国際コミュニケーション概論	2		
		生命倫理入門		2	
		環境人間学		2	
		データ解析入門		2	
	心理系	発達心理学		2	
		教育心理学		2	
		生徒・進路指導論		2	
		性格心理学		2	
		社会心理学		2	
		認知心理学		2	
		学習心理学		2	
		生涯発達心理学		2	
		臨床心理学		2	
		福祉心理学		2	
		対人関係の心理学		2	
		家族心理学		2	
		心理検査法		2	
		心理学研究法		2	
		心理データ解析		2	
		学校教育相談		2	
		発達臨床心理学		2	
		カウンセリング論		2	
		臨床社会心理学		2	
		アイデンティティの心理学		2	

専門教育部門	心理系	産業心理学		2	
		心理学演習Ⅰ		2	
		心理学演習Ⅱ		2	
		特殊講義Ａ		2	
	社会・教育系	現代社会論		2	
		家族社会学		2	
		教育学概論		2	
		地域文化論		2	
		環境社会学		2	
		社会福祉論		2	
		政治学		2	
		学習社会論		2	
		学校教育論		2	
		教育行政論		2	
		教育社会学		2	
		道徳教育論		2	
		日本文化史		2	
		西洋文化史		2	
		ジャーナリズム論		2	
		ジェンダー論		2	
		人口社会学		2	
		日本社会史		2	
		西洋社会史		2	
		西洋芸術史		2	
		都市文明史		2	
		人材育成学		2	
		教育史		2	
		地域教育論		2	
		現代メディア論		2	
		日本史		2	
		外国史		2	
		自然地理学		2	
		地理学		2	
		地誌学		2	
		特殊講義Ｂ		2	
	国際・コミュニケーション系	国際関係論		2	
		コミュニケーション論		2	
		言語文化論		2	
		国際コミュニケーション		2	
		国際文化論		2	
		異文化理解		2	
		国際協力論		2	
		地域研究Ａ		2	
		地域研究Ｂ		2	
		地域研究Ｃ		2	
		イングリッシュ・コミュニケーション		2	

専門教育部門	国際・コミュニケーション系	ビジネス・コミュニケーション		2	
		プレゼンテーション		2	
		インテンシィブ・イングリッシュ		2	
		パラグラフ・ライティング		2	
		アドヴァンスト・イングリッシュ		2	
		英語学		2	
		異文化コミュニケーション		2	
		英米文学概論		2	
		英語音声学		2	
		国際組織論		2	
		文化表現論		2	
		比較言語論		2	
		社会言語学		2	
		エッセイ・ライティング		2	
		比較文化論		2	
		多文化社会論		2	
		英米文学研究		2	
		特殊講義C		2	
	体験科目	フィールドワーク入門		2	
		ボランティア入門		2	
		海外体験入門		2	
		語学研修		2	
		フィールドワーク		2	
		ボランティア		2	
		インターンシップ		2	
		海外研修		4	
		海外インターンシップ		4	
	文献講読	文献講読A		2	
		文献講読B		2	
		文献講読C		2	
	ゼミナール	基礎ゼミナール	2		
		基幹ゼミナール	2		
		卒業研究ゼミナール	4		

② 卒業に必要な要件

(1)	必修科目	教養教育部門	10単位
		専門教育部門	16単位
		計	26単位
(2)	選択科目	教養教育部門	22単位以上
		専門教育部門	76単位以上
		計	98単位以上
		合計	124単位以上

9（外国語学部国際英語学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる		2	
	発展科目	歴史と文化		2	
		芸術と人間		2	
		哲学		2	
		心の科学		2	
		文化人類学		2	
		日本国憲法		2	
		経済学		2	
		市民と社会		2	
		ジェンダーと社会		2	
		科学と技術の歩み		2	
		海外留学入門		2	
		人間と自然		2	
		地球と宇宙		2	
		生命の多様性		2	
		数と論理		2	
	情報教育科目	コンピュータリテラシー		2	
		ウェブデザイン		2	
		情報社会と倫理	2		
	体育科目	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	キャリア教育科目	キャリア形成論		2	
		インターンシップ		2	
		日本とグローバル人材		2	
専門教育部門	外国語科目群	英語コミュニケーションⅠ（基礎1）	2		
		英語コミュニケーションⅡ（基礎2）	2		
		英語コミュニケーションⅢ（応用1）	2		
		英語コミュニケーションⅣ（応用2）	2		
		英語コミュニケーションⅤ（発展）	2		
		英語リーディングⅠ（基礎1）	1		
		英語リーディングⅡ（基礎2）	1		
		英語リーディングⅢ（応用1）	1		
		英語リーディングⅣ（応用2）	1		
		英語リーディングⅤ（発展）	1		
		英語ライティングⅠ（基礎1）	1		
		英語ライティングⅡ（基礎2）	1		
		英語ライティングⅢ（応用1）	1		
		英語ライティングⅣ（応用2）	1		
		英語ライティングⅤ（発展）	1		
		英語ディスカッションⅠ（基礎1）	1		
		英語ディスカッションⅡ（基礎2）	1		

専門教育部門	外国語科目群	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1		
		英語ディスカッションⅣ(応用2)	1		
		パブリック・スピーキング	1		
		ディベート	1		
		中国語入門Ⅰ		1	
		中国語入門Ⅱ		1	
		中国語初級Ⅰ		1	
		中国語初級Ⅱ		1	
		中国語中級Ⅰ		1	
		中国語中級Ⅱ		1	
		中国語応用Ⅰ		1	
		中国語応用Ⅱ		1	
		韓国語入門Ⅰ		1	
		韓国語入門Ⅱ		1	
		韓国語初級Ⅰ		1	
		韓国語初級Ⅱ		1	
		韓国語中級Ⅰ		1	
		韓国語中級Ⅱ		1	
		韓国語応用Ⅰ		1	
		韓国語応用Ⅱ		1	
		フランス語入門Ⅰ		1	
		フランス語入門Ⅱ		1	
		フランス語初級Ⅰ		1	
		フランス語初級Ⅱ		1	
		フランス語中級Ⅰ		1	
		フランス語中級Ⅱ		1	
		フランス語応用Ⅰ		1	
		フランス語応用Ⅱ		1	
		スペイン語入門Ⅰ		1	
		スペイン語入門Ⅱ		1	
		スペイン語初級Ⅰ		1	
		スペイン語初級Ⅱ		1	
		スペイン語中級Ⅰ		1	
		スペイン語中級Ⅱ		1	
		スペイン語応用Ⅰ		1	
		スペイン語応用Ⅱ		1	
	専門基礎科目群	英語学概論	2		
		英米文学概論	2		
		異文化理解	2		
		英語音声学		2	
		英語の構造と仕組み		2	
		コミュニケーションのための英文法		2	
		イギリス文学研究		2	
		アメリカ文学研究		2	
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		2	
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		2	

専門教育部門	専門基礎科目群	異文化コミュニケーション		2	
		多文化共生論		2	
		日本中世近世史		2	
		日本文学研究		2	
		日本の伝統文化		2	
		日本の先端文化		2	
		アジアを学ぶ	2		
		地域研究論		2	
	専門基幹科目群	アカデミック・イングリッシュⅠ		2	
		アカデミック・イングリッシュⅡ		2	
		メディア・イングリッシュⅠ		2	
		メディア・イングリッシュⅡ		2	
		英語の拡がりと多様性		2	
		第二言語習得論		2	
		英語科教育法Ⅰ		2	
		英語科教育法Ⅱ		2	
		アメリカ地域研究		2	
		イギリス地域研究		2	
		中国地域研究		2	
		韓国地域研究		2	
		ベトナムの言語と文化Ⅰ		2	
		ベトナムの言語と文化Ⅱ		2	
		タイの言語と文化Ⅰ		2	
		タイの言語と文化Ⅱ		2	
		インドネシアの言語と文化Ⅰ		2	
		インドネシアの言語と文化Ⅱ		2	
		国際フィールドワークⅠ(英語圏)		4	
		国際フィールドワークⅡ(非英語圏)		4	
		海外研修		4	
		日本近現代史	2		
		日本の宗教		2	
		日本の経済		2	
		日本の政治		2	
		現代の日本社会		2	
		パブリックリレーションズ		2	
		仏教文化論		2	
		キリスト教文化論		2	
		イスラム教文化論		2	
	専門展開科目群	英語通訳演習		2	
		ビジネス英語		2	
		英語プレゼンテーション		2	
		英語科指導法Ⅰ		2	
		英語科指導法Ⅱ		2	
		日本のものづくり		2	
		日本のツーリズム		2	
		国際関係論		2	

専門教育部門	専門展開科目群	国際経済論		2	
		近現代の日中関係		2	
		近現代の日韓関係		2	
		アセアン事情		2	
		南アジア事情		2	
		ヨーロッパの文学と社会		2	
	ゼミナール科目群	基礎演習Ⅰ	2		
		基礎演習Ⅱ	2		
		基礎演習Ⅲ		2	
		基礎演習Ⅳ		2	
		ゼミナールⅠ	2		
		ゼミナールⅡ	2		
		ゼミナールⅢ	2		
		ゼミナールⅣ	2		

② 卒業に必要な要件

(1) 必修科目 50単位

(2) 選択科目 74単位以上

合計 124単位以上

別表第３（第２４条第３項関係）

①　日本語に関する授業料目及び単位数

授　業　科　目	単位数
日本事情概説Ⅰ	2
日本事情概説Ⅱ	2
日本語Ⅰ	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語Ⅳ	2
日本語Ⅴ	2

②　外国人留学生及び帰国子女として入学した者が、前号に定める授業科目を履修し、単位を修得した場合は，その単位を別表第２に規定する授業科目のうち，全学共通教育部門の選択科目に代えることができる。

③　全学共通教育を導入しない学部においては、従前の規定に従う。

別表第４（第３９条第２項関係）

①　教職に関する授業科目及び単位数

授　業　科　目	単　位　数	
	必修科目	選択科目
教職入門		2
教育原論		2
生涯学習論		2
教育史		2
教育心理学		2
発達心理学		2
認知心理学		2
教育行政論		2
教育法規		2
教育課程論		2
教育情報論		2
教育メディア環境論		2
社会･地理歴史科教育法		2
社会・公民科教育法		2
社会･地理歴史科指導法		2
社会・公民科指導法		2
数学科教育法Ⅰ		2
数学科教育法Ⅱ		2
数学科指導法Ⅰ		2
数学科指導法Ⅱ		2
英語科教育法Ⅰ		2
英語科教育法Ⅱ		2
英語科指導法Ⅰ		2
英語科指導法Ⅱ		2
理科教育法Ⅰ		2
理科教育法Ⅱ		2
理科指導法Ⅰ		2

理科指導法Ⅱ		2
商業科教育法		2
商業科指導法		2
工業科教育法		2
工業科指導法		2
農業科教育法		2
農業科指導法		2
情報科教育法		2
情報科指導法		2
道徳教育の指導法		2
特別活動の指導法		2
教育方法論		2
生徒・進路指導論		2
学校教育相談		2
教職実践演習(中・高)		2
教育実習Ⅰ		2
教育実習Ⅱ		2
教育実習の研究		1

② 教育職員免許状を取得しようとする者は、免許教科の種類に応じて、前号の授業科目及び別表第２に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

別表第５（第４０条関係）

学　部	学　科	種　別	教　科
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
経営学部	経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
	国際経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
	産業社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
理工学部	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	情報工学科	高等学校教諭一種免許状	工業・情報
	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	材料機能工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	応用化学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	交通機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業

理工学部	メカトロニクス工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	社会基盤デザイン工学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	環境創造学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	建築学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
農学部	生物資源学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業
	応用生物化学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業
	生物環境科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・農業
都市情報学部	都市情報学科	高等学校教諭一種免許状	公民・情報
人間学部	人間学科	中学校教諭一種免許状	社会・英語
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・英語
外国語学部	国際英語学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語

別表第６（第４０条の２関係）

①　学芸員に関する授業科目及び単位数

授　業　科　目		単位数
博物館に関する科目	生涯学習論	2
	博物館原論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論Ⅰ	2
	博物館資料論Ⅱ	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館実習Ⅰ	2
	博物館実習Ⅱ	1
	博物館実習Ⅲ	1
	博物館情報論	1
	教育メディア環境論	2
	博物館教育論	2
専門分野に関する科目	日本文化の歴史	2
	民俗学	2
	古文書学	2
	考古学	2
	芸術史	2

②　学芸員の資格を取得しようとする者は、前号の授業科目及び別表第２に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

変更の事項を記載した書類

１．名城大学学則の変更の事由

（１）第３条の改正
（事由）外国語学部国際英語学科を設置するため。

（２）第３条の２の改正
（事由）外国語学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるため。

（３）別表第１（第３条第２項関係）の改正
（事由）外国語学部国際英語学科の入学定員及び収容定員を定めるため。

（４）別表第２（第２４条第３項関係）の改正
（事由）外国語学部国際英語学科の授業科目、単位数及び履修方法を定めるため。

（５）別表第５（第４０条関係）
（事由）外国語学部国際英語学科の教育職員免許状の種類を定めるため。

附則
（事由）施行日を明確にするため。

新旧比較対照表

改正規定

（略）

第2章　組織

（学部）

第3条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

（略）

都市情報学部　都市情報学科

人間学部　　人間学科

外国語学部　　国際英語学科

②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第1のとおりとする。

（学部の人材の養成に関する目的）

第3条の2　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。

（略）

(7)　都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とする。

(8)　人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とする。

(9)　外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。

①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材

②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材

③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

（略）

別表第1（第3条第2項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
（略）			
都市情報学部	都市情報学科	200名	800名
人間学部	人間学科	200名	800名
外国語学部	**国際英語学科**	**130名**	**520名**
合計		3,155名	13,120名

（略）

別表第2（第24条第3項関係）

（略）

9（外国語学部国際英語学科）

①　授業科目及び単位数

授業科目			単位数		
			必修科目	選択科目	自由科目
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる		2	
	発展科目	歴史と文化		2	
		芸術と人間		2	
		哲学		2	
		心の科学		2	
		文化人類学		2	
		日本国憲法		2	
		経済学		2	
		市民と社会		2	
		ジェンダーと社会		2	
		科学と技術の歩み		2	
		海外留学入門		2	
		人間と自然		2	
		地球と宇宙		2	
		生命の多様性		2	
		数と論理		2	
	情報教育科目	コンピュータリテラシー		2	
		ウェブデザイン		2	
		情報社会と倫理	2		
	体育科目	健康・スポーツ科学Ⅰ		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	キャリア教育科目	キャリア形成論		2	
		インターンシップ		2	
		日本とグローバル人材		2	
専門教育部門	外国語科目群	英語コミュニケーションⅠ（基礎1）	2		
		英語コミュニケーションⅡ（基礎2）	2		
		英語コミュニケーションⅢ（応用1）	2		
		英語コミュニケーションⅣ（応用2）	2		
		英語コミュニケーションⅤ（発展）	2		
		英語リーディングⅠ（基礎1）	1		
		英語リーディングⅡ（基礎2）	1		
		英語リーディングⅢ（応用1）	1		
		英語リーディングⅣ（応用2）	1		
		英語リーディングⅤ（発展）	1		
		英語ライティングⅠ（基礎1）	1		
		英語ライティングⅡ（基礎2）	1		
		英語ライティングⅢ（応用1）	1		
		英語ライティングⅣ（応用2）	1		
		英語ライティングⅤ（発展）	1		
		英語ディスカッションⅠ（基礎1）	1		
		英語ディスカッションⅡ（基礎2）	1		
		英語ディスカッションⅢ（応用1）	1		
		英語ディスカッションⅣ（応用2）	1		
		パブリック・スピーキング	1		
		ディベート	1		

改正前の規定

（略）

第2章　組織

（学部）

第3条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

（略）

都市情報学部　都市情報学科

人間学部　　人間学科

②　前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第1のとおりとする。

（学部の人材の養成に関する目的）

第3条の2　前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関しては、以下のように定める。

（略）

(7)　都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とする。

(8)　人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とする。

（略）

別表第1（第3条第2項関係）

学部	学科	入学定員	収容定員
（略）			
都市情報学部	都市情報学科	200名	800名
人間学部	人間学科	200名	800名
合計		3,155名	13,120名

（略）

別表第2（第24条第3項関係）

（略）

改正規定					改正前の規定
	中国語入門Ⅰ		1		
	中国語入門Ⅱ		1		
	中国語初級Ⅰ		1		
	中国語初級Ⅱ		1		
	中国語中級Ⅰ		1		
	中国語中級Ⅱ		1		
	中国語応用Ⅰ		1		
	中国語応用Ⅱ		1		
	韓国語入門Ⅰ		1		
	韓国語入門Ⅱ		1		
	韓国語初級Ⅰ		1		
	韓国語初級Ⅱ		1		
	韓国語中級Ⅰ		1		
	韓国語中級Ⅱ		1		
	韓国語応用Ⅰ		1		
	韓国語応用Ⅱ		1		
	フランス語入門Ⅰ		1		
	フランス語入門Ⅱ		1		
	フランス語初級Ⅰ		1		
	フランス語初級Ⅱ		1		
	フランス語中級Ⅰ		1		
	フランス語中級Ⅱ		1		
	フランス語応用Ⅰ		1		
	フランス語応用Ⅱ		1		
	スペイン語入門Ⅰ		1		
	スペイン語入門Ⅱ		1		
	スペイン語初級Ⅰ		1		
	スペイン語初級Ⅱ		1		
	スペイン語中級Ⅰ		1		
	スペイン語中級Ⅱ		1		
	スペイン語応用Ⅰ		1		
	スペイン語応用Ⅱ		1		
専門基礎科目群	英語学概論	2			
	英米文学概論	2			
	異文化理解	2			
	英語音声学		2		
	英語の構造と仕組み		2		
	コミュニケーションのための英文法		2		
	イギリス文学研究		2		
	アメリカ文学研究		2		
	インタラクティブ・イングリッシュⅠ		2		
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ		2		
	異文化コミュニケーション		2		
	多文化共生論		2		
	日本中世近世史		2		
	日本文学研究		2		
	日本の伝統文化		2		
	日本の先端文化		2		
	アジアを学ぶ	2			
	地域研究論		2		
専門基幹科目群	アカデミック・イングリッシュⅠ		2		
	アカデミック・イングリッシュⅡ		2		
	メディア・イングリッシュⅠ		2		
	メディア・イングリッシュⅡ		2		
	英語の拡がりと多様性		2		
	第二言語習得論		2		
	英語科教育法Ⅰ		2		
	英語科教育法Ⅱ		2		
	アメリカ地域研究		2		
	イギリス地域研究		2		
	中国地域研究		2		
	韓国地域研究		2		
	ベトナムの言語と文化Ⅰ		2		
	ベトナムの言語と文化Ⅱ		2		
	タイの言語と文化Ⅰ		2		
	タイの言語と文化Ⅱ		2		
	インドネシアの言語と文化Ⅰ		2		
	インドネシアの言語と文化Ⅱ		2		
	国際フィールドワークⅠ（英語圏）		4		
	国際フィールドワークⅡ（非英語圏）		4		
	海外研修		4		
	日本近現代史	2			
	日本の宗教		2		
	日本の経済		2		
	日本の政治		2		
	現代の日本社会		2		
	パブリックリレーションズ		2		
	仏教文化論		2		
	キリスト教文化論		2		
	イスラム教文化論		2		

改正規定						改正前の規定
	専門展開科目群	英語通訳演習		2		
		ビジネス英語		2		
		英語プレゼンテーション		2		
		英語科指導法Ⅰ		2		
		英語科指導法Ⅱ		2		
		日本のものづくり		2		
		日本のツーリズム		2		
		国際関係論		2		
		国際経済論		2		
		近現代の日中関係		2		
		近現代の日韓関係		2		
		アセアン事情		2		
		南アジア事情		2		
		ヨーロッパの文学と社会		2		
	ゼミナール科目群	基礎演習Ⅰ	2			
		基礎演習Ⅱ	2			
		基礎演習Ⅲ		2		
		基礎演習Ⅳ		2		
		ゼミナールⅠ	2			
		ゼミナールⅡ	2			
		ゼミナールⅢ	2			
		ゼミナールⅣ	2			

② 卒業に必要な要件

（1） 必修科目　50単位

（2） 選択科目　74単位以上

合計　124単位以上

（略）

別表第5（第40条関係）

学部	学科	種別	教科
（略）			
都市情報学部	都市情報学科	高等学校教諭一種免許状	公民・情報
人間学部	人間学科	中学校教諭一種免許状	社会・英語
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・英語
外国語学部	**国際英語学科**	**中学校教諭一種免許状**	**英語**
		高等学校教諭一種免許状	**英語**

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

別表第5（第40条関係）

学部	学科	種別	教科
（略）			
都市情報学部	都市情報学科	高等学校教諭一種免許状	公民・情報
人間学部	人間学科	中学校教諭一種免許状	社会・英語
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・英語

名城大学外国語学部教授会要項（案）

（趣旨）

第１条　この要項は、名城大学学則（以下「学則」という。）第１０条第６項の規定に基づき、外国語学部に置く教授会の組織、審議事項等に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　教授会は、学部長及び学部に所属する専任の教授をもって組織する。

②　前項の規定にかかわらず、学部長が必要と認めたときは、教授会に准教授等専任の教育職員を構成員に加えるとともに、その他の職員を出席させ、説明させることができる。

（審議事項等）

第３条　教授会は、次に掲げる事項を審議する。

（１）　教育課程及び成績評価に関する事項

（２）　学生の資格認定及びその身分に関する事項

（３）　教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び進退に関する事項

（４）　教育研究に係る学則の変更に関する事項

（５）　その他教育研究に関する重要な事項

②　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

（２）　学位の授与に関する事項

（３）　その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

（議長）

第４条　教授会には議長を置き、学部長をもって充てる。

（１）　議長は、教授会を主宰する。

（２）　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する構成員が、その職務を代行する。

（議事）

第５条　教授会は、構成員の３分の２以上が出席しなければ、議事を開き、審議することができない。

②　教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは，議長の決するところによる。

（議事録）

第６条　教授会の議事内容については、議事録に記録する。

（事務）

第７条　教授会の事務は、本学部の事務室が分掌する。

（補則）

第８条　この要項に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

附　則

この要項は、平成２８年４月１日から施行する。

目次

1.　設置の趣旨及び必要性　…p. 1

2.　学部・学科等の特色　…p. 2

3.　学部・学科等の名称及び学位の名称　…p. 3

4.　教育課程の編成の考え方及び特色　…p. 4

5.　教員組織の編成の考え方及び特色　…p. 7

6.　教育方法、履修指導方法及び卒業要件　…p. 8

7.　施設、設備等の整備計画　…p. 12

8.　入学者選抜の概要　…p. 14

9.　取得可能な資格　…p. 17

10.　実習の具体的計画　…p. 17

11.　企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画　…p. 19

12.　管理運営　…p. 22

13.　自己点検・評価　…p. 23

14.　情報の公表　…p. 24

15.　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　…p. 26

16.　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　…p. 27

1.　設置の趣旨及び必要性

新学部の設置を目指すに至った経緯

（1）グローバル人材育成の社会的必要性

21 世紀の国際社会は、世界の大きな潮流であるグローバリゼーションの渦中にある。情報技術・交通手段などの飛躍的な発展と、NAFTA、EU、AFTA といった広域経済圏の形成を背景に、グローバリゼーションが急速に、かつ不可逆的に進展している。我が国においても、新たな市場や生産拠点の確保などを目的とした企業の海外展開、とりわけアジアへの進出を通じて、グローバリゼーションが日々深化しており、それを支えるグローバル人材の育成が求められている。

グローバリゼーションは、人と人との相互理解に基づく交流とコミュニケーションにより推進されており、グローバル人材とはそれらを実現、実行する能力を備えた人材である。

グローバル化社会で必要とされる人材には、第一に、コミュニケーションのツールとして高い語学運用能力を身につけていることが求められる。第二に、他者の文化、社会、思考法を理解する能力、すなわち異文化理解力が求められる。異文化理解力は幅広い知識の修得に加え、自文化との比較を通じて身につくものである。この点から、自文化である日本文化や社会に関する知識や歴史への理解を深めることが求められる。第三に、文化的背景や生活習慣の異なる人々及びコミュニティとの共生が進むグローバリゼーションにおいては、フィーリングや暗黙の理解に頼るのではなく、自らの見解を言語化し、論理的・明示的に他者に伝達する能力が必要となる。

グローバリゼーションが急速に深化する世界の中で、我が国が将来にわたり持続可能な成長を実現し、世界の各国から信頼を得るためには、上述のような能力を備えたグローバル人材を育成して行くことが不可欠であり、その中心的役割は高等教育機関である大学こそが果たさなければならない。今や国家戦略の一環と位置づけられているグローバル人材の育成は、大学に与えられた大きな社会的使命である。

（2）名城大学に新学部を設置する必要性

これまで名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を立学の精神とし、その実現のために、教育・研究の「総合化」、「高度化」、「国際化」の推進を 3 つのキーワードとして掲げ、改革・改善に取り組んできた。とりわけ、「国際化」については、留学生の受け入れ、世界各国の大学との学術交流協定締結をはじめ、各学部・研究科や国際化推進センターにおける様々な国際教育プログラムの提供などを通じ一歩ずつ前進してきた。

しかしながら、加速度的にグローバル化が進む現代社会において、これまで以上に本学の「国際化」を進めるためには、国際化の拠点として、中心的な役割を担う新たな学部を設置する必要性があることが全学で合意された。

（3）名城大学外国語学部国際英語学科の設置

グローバル人材の育成という社会の要請に対応すべく、本学の更なる国際化推進に向け、新たな学部の設置が構想された。この学部は、英語の実践的な運用能力を有し、世界に向けて情報発信ができ、多様な文化への適応能力を身につけ、対話と協働により課題に取り組むことができる人材を養成する学部として、学内の合意のもとに設計されている。

現代における中国、韓国、アセアン諸国などの著しい経済成長は、世界におけるアジア地域の重要性、存在感を急速に高めることになった。今後はこれまで以上に、アジアの歴史、文化、社会を深く

理解し、「アジアの中の日本」を明確に認識するとともに、異文化との相違を認識した上で、日本の歴史、文化、社会を世界に説明し、相互に理解し協調しあうことが強く求められる。こうした認識から、アジアを重視しつつ、世界に日本を発信できる人材を養成することを目的とし、外国語学部国際英語学科を設置することとなった。

（4）人材養成の目的及び学生にどのような能力を習得させるのか等の教育上の目的

＜人材養成目的＞

外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。

① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材

② アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材

③ 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

＜教育研究上の目的＞

外国語学部では、以下に掲げる能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

・グローバル化社会で必要な英語の実践的運用能力

・アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化を深く理解する能力

・日本に関する知識を基に、日本のことを国際社会に発信することのできる能力

（5）組織として研究対象とする中心的な学問分野

当該学問分野は外国語学である。外国語学は言語習得と地域研究から成り立つが、本学部は自国との比較を通してより深く外国語学を研究するため、日本研究を加えた学問分野を研究対象とする。

2. 学部・学科等の特色

外国語学部国際英語学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で提示されている7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」、「総合的教養教育」を重点的に担う。本学部は、実践的コミュニケーション力を基盤とし、グローバル化社会で活躍するために必要な英語力を有し、アジアをはじめとした異文化・国際社会を理解すると共に、自国について熟知し、言語により世界に発信できる力を備えた人材の養成に重点を置く。英語は国を超えた多様なコミュニケーションの場面で使用される事実上の国際共通語としての役割を担っており、グローバル化社会において、高い英語の運用能力を有し、外国の文化・社会・思考法への深い理解力を備え、異文化適応力を持った人材は、国際的にも、国内的にも需要が高い。また、日本が文化的にも、経済的にも離れて存立し得ないアジア圏に精通することは、国際社会で活躍するために不可欠である。更に、異文化の理解には、自文化の理解が不可欠であり、日本の歴史、文化、社会などについての理解を深め、異文化との相違を認識した上で、日本の歴史、文化、社会などを言語により、情報発信して行く能力が強く求められる。外国語学部国際英語学科は「英語を実践的に運用する力」、「異文化理解力」、「日本理解・発信力」を基盤とし、「生きる力」、「課題発見・解決能力」を備え、実践的なコミュニケーション力を有するグローバル人材を育成することを特色とする。

3.　学部・学科等の名称及び学位の名称

学部名称	外国語学部
学部名称（英訳）	Faculty of Foreign Studies
学科名称	国際英語学科
学科名称（英訳）	Department of English and International Studies
学位名称	学士（外国語学）
学位名称（英訳）	Bachelor of Arts in Foreign Studies

（1）学部・学科名称

新設学部は、国際化の推進を理念とし、「英語を実践的に運用する力」、「異文化理解力」、「日本理解・発信力」の３つの力を備え、国境を越えて活躍できる実践的コミュニケーション力を身につけたグローバル人材の育成を目的としている。外国語学とは、本来、ある国や地域の言語の習得及びその言語が使われている国や地域に関する研究であるが、本学部は、更に日本の文化、歴史、社会などの理解を加えることにより、他国と自国の対比を通した、外国語学研究・教育を行う。従って、本学部は、外国語学を幅広く捉えた学部であることから、学部名称を「外国語学部」とする。

また、学科の内容を簡潔かつ明確に表す学科名称にするため「英語を実践的に運用する力」の育成を「英語」、また「異文化理解力」・「日本理解・発信力」の育成を「国際」という概念で捉え、学科名称は国際英語学科とする。

（2）学位名称

上述のとおり、外国語学は、言語の習得及び言葉の背景にある言葉が使用されている国や地域の文化や事情を理解する研究である。また、異文化の理解は自文化との比較を通じて深まるものであることから、本学部は日本文化や日本の事情に対する理解とともに、異なる文化への理解を深めることが、言語習得と異文化理解で構成される外国語学の理解を一層深めると考える。

つまり、本学部は、専攻分野名称の「外国語学」を、言語の習得及び言葉が使用されている国や地域の文化や事情の研究、更に、異文化を対比により深く理解するための日本研究を含んだ包括的意味で使用する。

外国語学部の教育課程は、これらを理解する能力を高いレベルで育成すべく、体系的に設計されている。人材養成の最も重要な目的を実践的な英語力の養成としていることから、英語は26単位を必修として手厚く履修する要件としているが、これを以て、学位に付記する名称を「英語学」のような名称にすると英語以外の言語や日本を含んだ英語圏以外の文化や事情に対する理解力を身につけることにも力点を置く本学外国語学部の趣旨を十分に表しているとは言い難い。従って、本学部では、「外国語学」という表現で、身につけるべき3つの基礎的能力（①英語力、②異文化理解力、③日本理解・発信力）の育成を体系的教育課程にて目指す学部であることを表現している。具体的には、英語必修26単位、第二外国語選択必修4単位、「英語学概論」必修2単位、「英米文学概論」必修2単位、「異文化理解」必修2単位、「アジアを学ぶ」必修2単位、英語・異文化理解に関する基礎科目（選択必修科目枠①）から10単位を選択必修、日本に関する基礎科目（選択必修科目枠②）から4単位を選択必修、「日本近現代史」2単位を必修、地域研究・フィールドワーク等に関する科目（選択必修科目枠）から8単位を選択必修とするなどして人材の育成を行う。従って、本学部が養成を目指す人材の学修する専攻分野を最も適切に表す「外国語学」を学位に付記し、学位名称は学士（外国語学）とするのが最も適切と考える。

（３）英訳名称（学部・学科・学位名称）

「外国語学部」を最も適切に表す英語表記として、国際的に使用されている「Faculty of Foreign Studies」を学部英訳名称とする。また、学科名称は学科内容を端的に表す概念である「国際」と「英語」で構成された「国際英語学科」であるので、英語として自然な語順にも留意して「Department of English and International Studies」を学科英訳名称とする。更に、国際通用性を踏まえ、学士（外国語学）の英訳名称は、「Bachelor of Arts in Foreign Studies」とする。

4.　教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程編成方針

外国語学部の教育課程は、厳選された科目により、教養教育部門、専門教育部門の２部門で体系的に編成されている。

①　教養教育部門には、豊かな教養及び幅広い視野を備えた社会の担い手として生きる力を身につけるための科目を配置する。

②　専門教育部門には次のとおり科目を配置する。

・「話す・聞く・読む・書く」の４技能をバランスよく備え、グローバル化社会で活躍するため必要な英語力を身につけるための科目
・グローバル化社会を多面的に理解する力を養うための第二外国語科目
・言語の仕組みやその背景にある文化、思考法などについて幅広い知識の修得や理解を深めるための科目
・アジアの事情、異文化、国際社会への理解や関心を深めるための科目
・日本の歴史、文化、社会などを世界に説明し、情報発信できる力を養うための科目
・コミュニケーション力を育成するための科目
・対話と協働により、自ら課題を見出し解決する実践力を養うための科目
・主体的な学習習慣、研究を深めることによる優れた洞察力及び分析力を身につけるための科目

（２）教育課程の編成内容

人材養成目的を踏まえ、教育課程の編成内容は以下のとおりである。

①教養教育部門（基軸科目、発展科目、情報教育科目、体育科目、キャリア教育科目）
②専門教育部門（外国語科目群[第一外国語科目、第二外国語科目]）
（専門基礎科目群）
（専門基幹科目群）
（専門展開科目群）
（ゼミナール科目群）

①教養教育部門

教養教育部門は、豊かな教養及び幅広い視野を備えた社会の担い手として生きる力を身につけるために、専門の如何を問わず学士教育の礎として修得することが必要とされる科目を配置する。

基軸科目の「現代に生きる」は、教養教育の導入として、社会科学、人文科学、自然科学における諸問題を取り上げながら、主体的な学びの基礎を身につけることを目的としている。発展科目の「人間を考える」、「社会に生きる」、「自然と生きる」では、人間、社会、自然の諸現象に存在する

構造・体系や法則を理解すること、「情報教育科目」では、情報化社会に不可欠である基本的な情報技術やインターネットで情報発信する能力を修得すること、「体育科目」では、生涯にわたる健康の重要性を自覚し、それを維持して行くこと、「キャリア教育科目」では、社会的に自立し、自己の役割を果たしながら生きる力を身につけ、職業現場の現実を見聞きし、将来のキャリアを見い出す手がかりを与えることを目的とする。

②専門教育部門

＜外国語科目群[第一外国語科目]＞

グローバル化社会に不可欠な英語力の習得を目指した科目群である。英語の「話す・聞く・読む・書く」の 4 技能を実践的かつ総合的に習得するために少人数（15 名程度）で授業を行う。「話す・聞く・読む・書く」の 4 技能をバランスよく身につけるために「英語コミュニケーションⅠ～Ⅴ」、「英語リーディングⅠ～Ⅴ」、「英語ライティングⅠ～Ⅴ」を必修で配置する。また、語学の基礎的技能を習得するための練習と実践の場を想定した訓練を有機的に組み合わせた教育方法により、効果的な英語教育を行う。「英語コミュニケーションⅠ～Ⅴ」では、話すこと、聞くことを中心に課題解決型の英語教育を導入する。つまり、英語圏や英語使用時に遭遇する様々な状況を想定し、そこで生じる課題を解決できるようになるための実践的トレーニングを行う。「英語リーディングⅠ～Ⅴ」、「英語ライティングⅠ～Ⅴ」では、読むこと、書くことに重点を置きつつ、正確に英語を理解するための基礎的な訓練を行う。更に、発信能力やコミュニケーション力の強化を目的として「英語ディスカッションⅠ～Ⅳ」、「パブリック・スピーキング」、「ディベート」を必修科目として配置する。効果的に外国語を習得するためには、集中的、継続的に学習を行うことが重要である。そのために 1、2 年次は週 5 コマ、3 年次は週 3 コマの英語科目を必修で配置し、外国語の運用能力の習得に欠かせない継続的な学習を習慣化するようカリキュラムを構築している。

＜外国語科目群[第二外国語科目]＞

グローバル化した社会を多面的に理解する能力を養うために第二外国語を設ける。第二外国語は、日本にとって重要度が高い中国語、韓国語に加え、英語に次いで世界で 2 番目、3 番目に多い国や地域で使用されているフランス語、スペイン語を配置する。第二外国語は、4 言語から 1 言語を選び、2 年次は必修、3 年次は選択で履修するようになっている。これは、1 年次は外国語においては英語の習得に注力し、その基礎力を固める時期とし、多くの学生にとって初めて学ぶことになる第二外国語はじっくり学ぶことができるように 2 年次から配当し、更に勉学を深めたい場合は 3 年次に引き続き学ぶことができるようにするためである。

＜専門基礎科目群・専門基幹科目群・専門展開科目群＞

専門科目部門の 3 つの科目群は、段階を追って専門分野について学ぶことを可能とするためのものである。

＜専門基礎科目群＞

英語の仕組みの理解や英語運用能力、アジアの事情をはじめとする異文化理解、日本理解に関する基礎的な知識の修得を目指す科目群である。その中で重要度が高い「英語学概論」、「英米文学概論」、「異文化理解」、「アジアを学ぶ」を必修で配置する。また、選択必修科目枠を設け、英語の仕組みへの理解を深めるための科目として「英語の構造と仕組み」、異文化に関する基礎的知識を修得するための科目として「異文化コミュニケーション」、「多文化共生論」、実践的な英語によるコミュニケーション能力を身につける科目として「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」、「インタラクティブ・イングリッシュⅡ」など 9 科目を配置し、英語基礎力、異文化理解力の重点的な養成

を行う。更に、別に選択必修科目枠を設け、日本を理解するための基礎科目として「日本中世近世史」、「日本文学研究」、「日本の伝統文化」、「日本の先端文化」の 4 科目を配置し、日本の歴史や文化の基礎を身につける。

＜専門基幹科目群＞

教養教育部門、専門教育部門（外国語科目群、専門基礎科目群）で修得した知識を基に、英語運用の基幹となる能力、アジアをはじめとする海外の事情に対する理解、日本の歴史、文化、社会に対する理解を深めるための科目群である。この科目群には選択必修科目枠を設け、世界の各地域の事情や文化に対する理解を深める科目として、「アメリカ地域研究」、「中国地域研究」、「韓国地域研究」などを、また、海外の事情を現地で学ぶ科目として、「国際フィールドワークⅠ（英語圏）」、「国際フィールドワークⅡ（非英語圏）」、「海外研修」を配置する。更に日本企業が進出している東南アジアの主要国であるタイ、ベトナム、インドネシアの言語や文化の基礎を学ぶための科目を配置し、社会のニーズに対応する。これらの選択必修科目は、地域に対する理解や現場で学ぶことに重点を置く本学部の特色を踏まえたものである。また、英語力向上のため、言語習得の理論を学ぶ「第二言語習得論」、メディアで使われる英語を理解するために「メディア・イングリッシュⅠ」、「メディア・イングリッシュⅡ」を配置する。また、日本を理解するための科目として、「日本近現代史」を必修で、「日本の宗教」、「日本の経済」、「日本の政治」などを選択で配置し、日本の歴史、日本人的思考、日本社会などへの理解を深める。

＜専門展開科目群＞

専門基礎、専門基幹科目で修得した知識を活かしながら、専門性の高い内容を発展的に学修する科目群である。高い英語運用力を養う「英語通訳演習」、「ビジネス英語」、国際社会を深く理解するための「国際関係論」、「国際経済論」、アジアについて幅広く学ぶ「アセアン事情」、「南アジア事情」、日本社会を深く理解するための「日本のものづくり」、「日本のツーリズム」などを配置する。

＜ゼミナール科目群＞

コミュニケーション力、主体性、課題発見・解決能力等の育成を目的とする科目群である。演習形式の授業を通じて、洞察力、分析力、情報発信力も併せて身につける。「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」においては、主体的な学習習慣の形成を図るとともに、研究活動の基礎となる文献や情報収集方法、レポートの作成方法などについて学び、「基礎演習Ⅲ」、「基礎演習Ⅳ」においては、現地調査により資料を収集、分析するための基礎的能力を育成する。「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」では、発表、討議を重ねることで研究を深める。更に、「ゼミナールⅢ」、「ゼミナールⅣ」では 4 年間の集大成となる卒業研究を行う。

（3）教育課程編成の特色

・厳選された科目による体系的な科目編成
・生きる力を身につけるための教養教育
・実践的な英語運用能力習得のために欠かせない少人数教育
・課題解決型の英語教育
・スピーキングに重点を置いた英語での発信力やコミュニケーション力を高めるための科目の配置
・継続的な英語学習を可能とする科目の配置
・学習効果を高めるための第二外国語の 2 年次からの配当

・アジアをはじめとする地域の研究を基に、海外の事情や異文化についての理解を深めるための科目の配置
・国内外におけるフィールドワークにより現場で学ぶ科目の配置
・日本の歴史、文化、社会などに関する幅広い知識の修得を可能とするための科目の配置
・コミュニケーション力を育成するための科目の配置
・アドバイスを受けながら学習の方向性を定める基礎演習、専門分野での研究を進め、主体的に課題を発見し、解決する力を養成するゼミナール科目の配置

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織は、人材養成目的の 3 つの柱を備えた実践力のある学生を育成するために、十分な数の専任教員を配置する。

まず、一つ目の柱である「グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材」育成を可能とするために英語関連の教員を 16 名（教授：2 名、准教授：6 名、講師：6 名、助教：2 名）配置する。これらの教員は英語関連の主要科目を重点的に担当する。この中には実践的な英語運用能力育成に欠かせない英語母語話者 10 名を含む。二つ目の柱である「アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材」育成を可能とするために、教員を 6 人（教授：5 名、准教授：1 名）配置する。内訳として、キーワードの一つであるアジア重視の教育を行うために、アジアに関連する分野を専門する教員を、4 名（教授：3 名、准教授：1 名）、アメリカ地域研究を専門とする教員 1 名（教授）、フランス文学を専門とする教員 1 名（教授）を配置する。三つ目の柱である「日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材」育成のため、日本の歴史を専門とする教員 1 名（教授）、日本の伝統文化を専門とする教員 1 名（教授）を配置する。

教育課程において、専任教員を必修科目に重点的に配置する。具体的には専門教育部門外国語科目群第一外国語科目として、英語科目を必修で 21 科目配置する。クラス分けをするため半期ベースで 234 コマ開講予定であるが、74%にあたるコマ数を専任教員が担当する。専門教育科目の必修科目「英語学概論」、「異文化理解」、「アジアを学ぶ」、「日本近現代史」、「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」はすべて専任教員を配置する。「英米文学概論」は、オムニバスで専任教員を配置する。また、語学、異文化理解や海外の事情を学ぶ際に不可欠な外国籍の専任教員は 24 名中 12 名である。その国籍は、アメリカ 4 名、オーストラリア 3 名、カナダ 2 名、イギリス 1 名、韓国 1 名、スリランカ 1 名であり、多様な文化背景を持った教員で教育を行う。また、日本人教員のうち、海外の大学で Ph.D. を取得した者は 3 名、博士は日本で取得したものの、修士を海外で取得した者が 1 名であり、更に多面的な視点からの教育を可能とする。

大学設置基準上求められる専任教員数は最低 10 名であるが、基準を大幅に超える合計 24 名（教授 9 名、准教授 7 名、講師 6 名、助教 2 名）の専任教員で教育を行う（学生 21．6 名あたり 1 名の専任教員）。また、必要な教授数は 5 名以上であるが、充実した教育を行うため、9 名の教授を配置する。また、年齢構成も 30 代から 60 代までの教員をバランスに配慮し配置した。

専任教員 24 名の学位の取得状況は、博士又は Ph.D. 取得者 11 名、修士取得者 13 名である。

■教員配置（職位）

人材養成 キーワード	教員の 専門分野	教授	准教授	講師	助教	計	備考
①英語力	英語関連	2 名	6 名	6 名	2 名	16 名	英語母語話者 10 名を含む
②異文化理解力	異文化 理解関連	5 名	1 名			6 名	アジア理解関連 4 名を含む
③日本理解/発信力	日本関連	2 名				2 名	
	計	9 名	7 名	6 名	2 名	24 名	

■学位

博士/Ph.D.	11 名
修士	13 名

■国籍

日本	12 名
外国	12 名

■年齢構成（就任時満年齢）

30 代	9 人
40 代	7 名
50 代	4 名
60 代	4 名

本学の定年制度では、平成 7 年 4 月 1 日以前に採用された教育職員の定年は満 72 歳、平成 7 年 4 月 2 日以降に採用された教育職員の定年は満 68 歳、更に、平成 17 年 4 月 2 日以降に採用された教育職員の定年は満 65 歳である。【資料 1】なお、本学部においては、学部完成年度までに定年を迎える教員はいない。

外国語学部の教員組織においては、研究分野の中心は日本研究を含んだ外国語学研究である。また、言語研究、異文化研究、日本研究が連携、融合した研究体制で外国語学の研究を深める。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

教育方法は、実践的コミュニケーション力、課題発見・解決能力等を身につけるための教育方法を取り入れる。例えば、実践的コミュニケーション力を身につけるため、語学教育は CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）に準拠した教育を行う。CEFR は、言葉を使って何ができるか（CAN－DO リスト）を 6 段階で明示した参照基準である。つまり、本学部の語学教育では、何を学んだかではなく、言語を使用して何ができるようになったかに視点を置く。そのために、英語教育における中心的授業である「英語コミュニケーション」では、課題解決型の授業を取り入れる。つまり、社会生活で出会う様々な場面や状況を想定し、英語を使って課題に対応する方法を実践的練習を通して学ぶ。

また、実践力、課題発見・解決能力の育成のため、「基礎演習Ⅲ」、「基礎演習Ⅳ」では、フィールドワークを取り入れた演習を行う。また、「国際フィールドワークⅠ（英語圏）」、「国際フィールドワークⅡ（非英語圏）」では、海外での現地調査を通じ、学んだ知識を現場で実証的に検証する。また、授業は少人数での教育を基本とする。英語授業は、1 クラスの授業を 15 人程度の少人数で行う。「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は 1 クラス平均 12 名程度、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」は 1 クラス平均 10 名程度の規模で演習を行う。学生の履修動向によって変動はあるものの、講義科目についても、教

員と学生の双方向からの議論に基づく能動的な授業となるように、30～50 名程度の少人数での教育を行う。

外国語学部は少人数教育、学生・教員の双方向からの能動的学修、実践的コミュニケーション力を身につける教育方法を実施する。

卒業要件及び履修方法は、以下のとおりである。

大学に 4 年以上在学し、次に定める方法で、124 単位以上修得しなければならない。

(1)　教養教育部門から必修 2 単位、選択 22 単位、計 24 単位以上、

(2)　専門教育部門の外国語科目群から計 30 単位（第一外国語科目から必修 26 単位、第二外国語科目から 1 言語を選択して 4 単位[各言語「入門Ⅰ・Ⅱ」、「初級Ⅰ・Ⅱ」]）以上、

(3)　専門教育部門の専門基礎科目群から必修 8 単位、選択必修科目枠①から 10 単位以上、選択必修科目枠②から 4 単位以上、

(4)　専門教育部門の専門基幹科目群から必修 2 単位、選択必修科目枠から 8 単位以上、

(5)　専門教育部門のゼミナール科目群から必修 12 単位、

(6)　専門教育部門の専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門展開科目群、ゼミナール科目群から計 16 単位以上、

(7)　教養教育部門、専門教育部門から計 10 単位以上

<table>
<tr><th colspan="3">区分</th><th>必修</th><th colspan="3">選択</th></tr>
<tr><td rowspan="6">教養教育部門</td><td>基軸科目</td><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="6">22 単位以上</td><td rowspan="13">10 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">発展科目</td><td>人間を考える</td><td></td></tr>
<tr><td>社会に生きる</td><td></td></tr>
<tr><td>自然と生きる</td><td></td></tr>
<tr><td>情報教育科目</td><td></td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>体育科目</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>キャリア教育科目</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="7">専門教育部門</td><td rowspan="2">外国語科目群</td><td>第一外国語科目</td><td>26 単位</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第二外国語科目</td><td></td><td colspan="2">4 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門基礎科目群</td><td></td><td>8 単位</td><td></td><td rowspan="6">16 単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目枠①</td><td></td><td>10 単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目枠②</td><td></td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基幹科目群</td><td></td><td>2 単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択必修科目枠</td><td></td><td>8 単位以上</td></tr>
<tr><td>専門展開科目群</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ゼミナール科目群</td><td></td><td>12 単位</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">合　計</td><td colspan="4">124 単位以上</td></tr>
</table>

教育課程の構成

	部門	群		科目配置	設置科目数	設置単位数
教養教育部門・専門教育部門から（10単位）	教養教育部門（24単位）（内必修2単位）	基軸科目 発展科目 ・人間を考える ・社会に生きる ・自然と生きる 情報教育科目 体育科目 キャリア教育科目		「情報社会と倫理」（必修2単位）	24	46
	専門教育部門（90単位）	（16単位）	外国語科目群（必修26単位）（選択必修4単位）	第一外国語科目（英語）（必修26単位） 「英語コミュニケーションⅠ（基礎1）」等21科目配置	21	26
				第二外国語科目（中国語、韓国語、フランス語、スペイン語） （1言語選択：選択必修4単位、選択4単位）各言語8科目配置 （選択必修：入門Ⅰ・Ⅱ、初級Ⅰ・Ⅱ） （選択：中級Ⅰ・Ⅱ、応用Ⅰ・Ⅱ） 1年次は英語の習得に重点を置くため、第二外国語は2年次から配当	32	32
			専門基礎科目群（必修8単位）（選択必修10＋4単位）	「英語学概論」「英米文学概論」「異文化理解」「アジアを学ぶ」 （必修8単位:各2単位） 英語・異文化理解に関する重要基礎科目 選択必修科目枠①（10単位以上修得） 英語・異文化理解に関する基礎科目 選択必修科目枠②（4単位以上修得） 日本に関する基礎科目	18	36
			専門基幹科目群（必修2単位）（選択必修8単位）	「日本近現代史」（必修2単位） 日本に関する重要科目 選択必修科目枠（8単位以上修得） 地域研究・フィールドワーク等に関する科目	30	66
			専門展開科目群	高い専門性の育成	14	28
			ゼミナール科目群（必修12単位）	コミュニケーション力、主体性、課題発見・解決能力等の育成	8	16
合計					147	250

卒業必要単位数 124（必修50単位）

科目を体系的に履修にすることにより、人材養成目的に適った学生を育成するために以下のとおり、部門、科目群ごとの履修要件を設定する。

(1)　教養教育部門

本学部は発信力の育成に重点を置いており、グローバル化社会で最大の情報発信ツールとなるインターネットを活用する際の前提となる情報倫理は必ず身につける必要があるため、「情報社会と倫理」を必修で1年次に配当する。その他の教養科目は幅広い教養を身につけるため、選択科目とし、配当年次は、原則1・2・3・4年次又は2・3・4年次とする。必修2単位、選択22単位で計24単位以上修得する。

(2)　専門教育部門外国語科目群

第一外国語科目は、実践的な英語力を身につけるため26単位を必修とし、1年次に基礎レベル、2年次に応用レベル、3年次に発展レベルの科目を配当する。第二外国語科目（中国語、韓国語、フランス語、スペイン語）は、1年次は英語の習得に重点を置くため2年次からの配当とする。2年次は入門レベル、初級レベルの科目をそれぞれの言語で4単位配置し、4言語から1言語を選択し4単位を必修で履修する。中級レベル、応用レベルの科目は3年次配当とし、選択科目としてそれぞれの言語を4単位配置する。

(3)　専門教育部門専門基礎科目群

英語・異文化理解に関する重要基礎科目を必修で8単位配置し、配当年次は専門教育の礎になる科目であるので1年次とする。また、英語・異文化理解に関する基礎科目を選択必修科目枠①に18単位配置し、10単位以上選択する。更に、日本に関する基礎科目を選択必修科目枠②に8単位配置し4単位以上選択する。本科目群の科目は、専門教育の基礎となる科目のため、配当年次は1年次又は2年次とする。

(4)　専門教育部門専門基幹科目群

2年次に日本に関する重要科目を2単位必修で配置する。また、選択必修科目枠に地域研究、フィールドワーク等に関する科目を32単位分配置し、8単位以上選択する。本科目群の科目の配当年次は学修の進展に応じて履修できるように原則2年次又は3年次とする。

(5)　専門教育部門ゼミナール科目群

コミュニケーション力、主体性、課題発見・解決能力等を育成するため、演習科目12単位を必修で、4単位を選択で配置する。バランスよく履修できるように、配当年次は、1年から4年のそれぞれの年次で4単位ずつ配置する。

(6)　専門教育部門専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門展開科目群、ゼミナール科目群

専門性を高めるため計16単位以上選択する。

(7)　教養教育部門、専門教育部門から計10単位以上

教養力、専門性を高めるため計10単位以上選択する。

履修モデル　【資料2】

＜学位授与方針＞

外国語学部において、4年以上在学し、外国語学部が定める卒業に必要な124単位以上を修得し、次の学士力を身につけた学生に対して学士（外国語学）の学位を授与する。

①　豊かな教養及び幅広い視野で生きる力

②　英語を実践的に運用する力

③　海外の事情に通じ、深く異文化を理解する力
④　日本の立場や事情を積極的に情報発信できる力
⑤　対話と協働により、主体的に課題を発見し取り組む力

（２）履修指導
新入生オリエンテーション時に、履修登録ガイドを配付し、教育課程、科目履修の方法について指導を行う。また、その後も事務窓口において、履修に関する照会に応じ適宜説明を行う。

（３）履修科目の年間登録上限
単位の実質化を図るために、履修科目の年間登録上限は 46 単位とする。年間の履修登録単位数を適切に制限することにより、自学・自習のための準備学習の時間を確保するとともに、4 年間を通したバランスのよい学修を可能とする。

（４）他大学における授業科目の履修
愛知県下の大学コンソーシアムである愛知学長懇談会の単位互換制度に基づき、2 年次より他大学の授業の履修が可能である。年間登録上限単位数以内なら履修登録単位数には制限はない。また、10 単位まで卒業単位数として認める。

7.　施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画
設置予定の外国語学部は、平成 28 年 4 月新設のナゴヤドーム前キャンパス（愛知県名古屋市東区矢田南四丁目 102 番 9）に開設をする。
ナゴヤドーム前キャンパスには、平成 28 年 4 月に外国語学部を設置し、平成 29 年 4 月には既設の都市情報学部、人間学部、大学院都市情報学研究科、大学院人間学研究科を同キャンパスに移転の予定で、3 学部 2 研究科体制となる。開設時となる平成 28 年度には外国語学部の入学定員 130 名での使用となるが、外国語学部の完成年度となる平成 31 年度には、同キャンパスに約 2,200 名の学生が在籍する予定である。
同キャンパスの校地面積は、約 17,347 ㎡で、八事キャンパス（約 17,553 ㎡）と本学の中心キャンパスとなる天白キャンパス（約 114,338 ㎡）とを合わせた校地面積は、約 149,238 ㎡となり、大学設置基準に定める面積を十分満たしている。
学生の休息などに関わる空地の整備状況は、キャンパス中央に、水を利用したせせらぎや、屋外劇場を連想させる雰囲気をもつ「キャンパス広場」（約 1,200 ㎡）を整備し、各所に樹木・芝生を植え、テーブル・ベンチ・パラソルなどを設置し、学生の憩いのスペースとなる場を設ける。
ナゴヤドーム前キャンパス内に、運動場を整備できる敷地が不足しているため、やむを得ず天白キャンパスに隣接する第一グラウンド（約 21,188 ㎡）・第二グラウンド（約 25,143 ㎡）を使用する。ナゴヤドーム前キャンパスからいずれのグラウンドへも公共交通機関（地下鉄）を利用し、約 50 分（含む、地下鉄の待ち時間及び徒歩移動時間）で移動が可能である（ナゴヤドーム前キャンパス→[徒歩約 3 分]→地下鉄ナゴヤドーム前矢田駅→[約 13 分]→地下鉄八事駅→[徒歩約 14 分]→第一・第二グラウンド）。授業に関しては、運動場を使用せず、ナゴヤドーム前キャンパスに設置する体育館やアリーナを使用して行うため、移動時間に関わる問題は生じない。課外活動等で天白キャンパスに隣

接する運動場を使用する場合も、公共交通機関を利用して1時間以内で移動が可能であるため支障はないと考える。第一グラウンドは、一部人工芝を敷き詰めた運動場で、テニスコート（9面）が敷設される。また、第二グラウンドは、トラックが整備されている人工芝を敷き詰めた全天候型運動場である。

ナゴヤドーム前キャンパスには体育館、バスケットボール・バレーボールコートなどが2面設置可能なアリーナ（約1,471㎡）、卓球・エアロビクスなどができる小アリーナ（約623㎡）、屋外にテニスコート1面〔平成29年2月完成〕（約590㎡）を整備する。

イ　校舎等施設の整備計画

外国語学部の専任教員数は24名、入学定員130名（収容定員520名）であり、少人数教育を基本とする外国語学部の教育環境については、授業で使用する講義室・演習室、正課外で使用する自習室を中心に施設整備の充実を図る。具体的には、以下のとおり、平成28年4月に開設するナゴヤドーム前キャンパス4棟〔4棟中の1棟（南館（仮称））については平成29年2月完成予定〕の施設・設備を中心に、その環境設備を行う。平成28年度は南館（仮称）については未完成であるが、学部開設までに完成する3棟で授業は支障なく実施できる。

外国語学部専用で使用する主な施設は以下のとおりである。

(1) 教員研究室

個人研究室（18室）及び共同研究室[講師6名用]（1室）計19室を設置し、研究室においても学生指導ができる環境を整備する。

(2) 演習室

専用演習室（定員20名～30名）を14室整備し、語学の授業、ゼミナール、グループワークなどに対応できるよう環境を整備する。

(3) 自習室

自学自習を行う場として、1室（約105㎡）整備する。

共用で使用する主な施設は以下のとおりである。

(4) 講義室　　定員50名～420名 の教室を21室整備する。

(5) 演習室　　定員30名の教室を7室整備する。

(6) 情報処理室　定員50名の教室を4室整備する。

(7)「ラーニングコモンズ」（約100㎡）

自律的学習支援施設として、グループワークやパソコンを使用した情報収集や学習が行えるスペースを整備する。

(8)「グローバルプラザ」（約538㎡）

正課外での英語学習を支援する自律英語学習施設である。「話す・聞く・読む・書く」力を伸ばすとともに実践的英語コミュニケーション力育成の支援を行う。

(9) 事務室 他　「事務室」（約481㎡）「応接室」「学部長室」「会議室」等を整備する。

(10) 医務室 他　「保健センター」（約64㎡）、学生が心を落ち着かせ、リラックスできる空間の場として「フレンドリーサロン」2室（約42㎡［2室合計］）及び学生相談室として「カウンセリング室」2室（約36㎡〔2室合計〕）を整備する。

(11) その他施設

学生の休息・談話スペースの主なものとして、北館・東館1・2階を中心に「食堂」（約591㎡）、

学生ホール（約 515 ㎡〔1・2 階合計〕）を、西館 2 階には、カフェ（約 120 ㎡）などを整備する。時間割表は【資料 3】のとおりであり、施設、設備は授業の実施に支障はない。

ウ　図書等の資料及び図書館の整備計画

本学附属図書館は、附属図書館本館、薬学部分館、都市情報学部分館と平成 28 年度開設予定のナゴヤドーム前キャンパス図書館があり、全体の蔵書数は約 103 万冊、雑誌の種類は約 2 万種である。

その中で、外国語学部に関する図書は約 9 万冊あり、種類においても外国語学部の教育課程をカバーする図書を揃えている。その蔵書に加え、開設前年度に一層の充実を図り、かつ開設後も毎年充実させて行く予定である。学術雑誌も同様に、既存のものに加えて外国語学部に関連の深い内容のものを追加する予定である。【資料 4】その他、デジタル化された資料においては、データベース約 32 種、電子ジャーナル約 2 万タイトルが利用可能となっており、今後も整備を進める。

ナゴヤドーム前キャンパス図書館の設備としては、【グループ学習室、マルチメディア学習席、ＡＶブース、レファレンス学習席、フリー閲覧ラウンジを含む 322 席】を整備する予定である。また、学生及び教職員の利便性向上のため、蔵書検索用パソコンを設置する。検索の結果、目的の図書が他キャンパスの図書館に有る場合でも、取り寄せることが可能となる。

他機関との連携の面では、国立情報学研究所の図書館間相互利用システム（NACSIS ILL）に加盟している他大学や研究機関とも図書及び複写等において相互協力をしている。

8.　入学者選抜の概要

（1）入学者選抜方法及び選抜体制

1）入学者受け入れ方針

外国語学部で学ぶためには、高校までの学習による基礎学力を身につけていることを前提として、次のような人物であることが望まれる。

① コミュニケーションを通じて自ら進んで国際社会の課題に実践的に取り組みたいと思っている人

② グローバル化時代において、英語を駆使して活躍したいと思っている人

③ 言語の背景にある文化や社会を深く理解したいと思っている人

④ 世界に向けて日本のことを積極的に情報発信したいと思っている人

⑤ 向上心やチャレンジ精神が旺盛で、高い志と強固な意思を持って勉学に取り組むことのできる人

2）募集人数・募集区分

本外国語学部国際英語学科の募集人員は、入学定員のとおり 130 名とする。

また、募集区分については、(1)推薦入学試験、(2)一般入学試験、(3)帰国子女・海外留学経験者特別入学試験、(4)英語資格取得者特別入学試験の 4 種類とする。なお、それぞれの試験制度の募集人員については、アドミッションポリシーに沿った多様な人材を受け入れ、本学部の人材養成目的を達成することを旨に、推薦入学試験 55 名｛公募制推薦 20 名、附属高等学校特別推薦 20 名、指定校推薦 15 名、スポーツ推薦 若干名｝、一般入学試験 70 名｛A 方式（3 教科型）30 名、B 方式（2 教科型）10 名、F 方式（大学入試センター試験結果＋本学個別学力試験）15 名、C

方式（大学入試センター試験結果利用型）15 名〕とし、その他、帰国子女・海外留学経験者特別入学試験（若干名）、英語資格取得者特別入学試験（5 名）も実施し、合計 130 名として募集する。

なお、募集定員全体に占める募集区分毎の割合は、推薦入学試験が 42%、一般入学試験が 54%、その他の特別試験が 4%となっている。

３）出願資格

出願資格については、基本事項を以下のとおりに定め、推薦入学試験、帰国子女・海外留学経験者特別入学試験、英語資格取得者特別入学試験については、多様な人材の受け入れを旨として、それぞれのバックグラウンドに合わせた出願要件を設定し、入学試験を行う。

【基本軸とする出願資格】

①高等学校または中等教育学校を卒業した者および卒業見込みの者。

②通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）および修了見込みの者。

③外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者および修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。

④文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および修了見込みの者。

⑤専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および修了見込みの者。

⑥文部科学大臣の指定した者。

⑦高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者および合格見込みの者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）。

⑧学校教育法第 90 条第 2 項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。

⑨本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者。

４）個別入学試験の基本的方針

(1)　推薦入学試験

（イ）　公募制推薦入学試験　20 名

日本の高等学校または中等教育学校を卒業見込みで、出身学校長が学力・人物とも優良な志願者として推薦する者、もしくは卒業した者で自己推薦する者を対象に実施する。選抜方法としては、小論文試験、面接試験を実施し、調査書と併せて評価する。

（ロ）　附属高等学校特別推薦入学試験　20 名

7 年間の高大連携による教育を可能とするため、附属高等学校における高校生活を通して、外国語学の基本的な学力と幅広い素養を身につけている者で、附属高等学校長が学力・人物とも優良な志願者として推薦する者を対象として実施する。出願条件は、普通科一般進学クラス文系・総合学科、普通科国際クラスのそれぞれに設ける基準を満たすこととする。選抜方法としては、面接試験を実施する。

（ハ） 指定校推薦入学試験　15 名

日本の高等学校または中等教育学校を卒業見込みで、本学部・本学科への入学を第一志望とし、自己の意欲・目的が明確で、本学科に入学した後の学習目標を設定できる者で、出身学校長が学力・人物とも優秀な志願者として推薦する者を対象として実施する。選抜方法としては、面接試験を実施する。

（二） スポーツ推薦入学試験　若干名

募集種目（硬式野球、ハンドボール、女子駅伝、柔道、ラグビー、アメリカンフットボール、バレーボール）に該当する者で、以下の（a）～（d）の基準を満たしている者を対象として実施する。ただし、女子は柔道と女子駅伝のみで実施する。

(a) 高等学校または中等教育学校卒業見込みの者

(b) 高等学校または中等教育学校後期課程における 3 学年 1 学期または前期までの「全体の評定平均値」が 3．0 以上、かつ「英語の評定平均値」が 3．8 以上の者。

(c) 本学が定める競技実績基準を満たしている者

(d) 出身学校長が推薦する者

選抜方法としては、面接試験を実施する。

(2) 一般入学試験　70 名

上記出願資格の①～⑨のいずれかの条件を満たしている者を対象に実施するもので、選抜方法としては、外国語（英語）、国語、地理歴史、公民、数学の 5 教科のうちから、外国語（英語）と国語を含む 3 教科、または外国語（英語）を含む 2 教科、大学入試センター試験と併用する場合は、A 方式（3 教科型）の個別学力試験の 1 教科を利用して評価する。また、大学入試センター試験のみで選抜する場合には、上記 5 教科のうち、外国語（英語）と国語を含む 3 教科の成績に基づき評価する。

(3) 帰国子女・海外留学経験者特別入学試験　若干名

下記の条件を満たし、本学部・学科の出願資格確認を受けた者を対象に実施する。

(a) 日本の国籍を有する者、または日本に永住する外国人で出入国管理及び難民認定法に定める「永住者」の在留資格を有する者で、学校教育における 12 年以上の課程を修了した者および修了見込みの者。

(b) 日本もしくは外国の高等学校を卒業見込みの者、または外国の高等学校を卒業後 1 年未満の者。

(c) 中学校・高等学校を通じて、外国で 1 学年以上の教育を受けた者。

(4) 英語資格取得者特別入学試験

上記の出願資格の①～⑦のいずれかを満たしている者で次の英語資格のいずれかを有する者を対象に実施する。

ア．実用英語技能検定試験（英検）：2 級以上

イ．TOEIC®：500 点以上（公開テストのみ）

ウ．TOEIC® Bridge：155 以上

エ．TOEFL® iBT：50 点以上

オ．IELTS：4.0 以上

カ．GTEC for STUDENTS：580 点以上（オフィシャルスコアのみ）

キ．GTEC CBT：840 点以上

ク．TEAP(R+L)：100 点以上

ケ．ケンブリッジ英語検定試験：PET 以上

コ．国際連合公用語英語検定試験：C 級以上

＜非正規生の受け入れ＞

〈科目等履修生〉

大学の社会への開放の一環として、科目等履修生制度を設ける。

志願条件：原則、制限なし

受入人数：若干名

受入科目：原則、講義科目

履修単位数：年間 30 単位以内

〈研究生〉

特定の専門事項について研究を認めるため、研究生制度を設ける。

志願条件：原則、修業年限 4 年以上の大学を卒業した者

研究期間：原則 1 年間

受入人数：若干名

科目等履修生、研究生とも本学部正規生の履修に支障がない範囲で受け入れを行う。

9.　取得可能な資格

・中学校教諭一種免許状（英語）

国家資格

資格取得可能

卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職課程科目の履修が必要

・高等学校教諭一種免許状（英語）

国家資格

資格取得可能

卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職課程科目の履修が必要

・学芸員

国家資格

資格取得可能

卒業要件単位に含まれる科目のほか，学芸員課程科目の履修が必要

10.　実習の具体的計画

（1）教育実習

ア　実習先の確保の状況　【資料 5】

名城大学附属高等学校：受入可能人数（平成 30 年度予定）8 名

愛知県教育委員会：中学校 418 校、高等学校 163 校（平成 26 年度現在）

中学校　受入可能人数（平成 30 年度予定）74 名

高等学校　受入可能人数（平成 30 年度予定）155 名

イ　実習先との契約内容

特に契約は交わしていない。各学校へ教育実習の受け入れを依頼する際に、大学と実習校とで必要な協議を行ったうえで「学習指導、実習の具体的運営については、学校の方針を尊重する」

こととしている。

愛知県教育委員会については、「教育実習担当者説明会」における説明を基に、受入基準、期間、実習時の注意を全面的に受け入れ、教育実習を希望する学生に対して、実習先の諸注意を個別に説明する。

ウ　実習水準の確保の方策

①参加資格審査

3 年次末に、教育実習参加希望者を対象に、教育実習参加資格審査を実施する。指導法科目等の特定の科目が未履修の者、卒業単位修得数が著しく不足している者、介護等体験で問題があった者等を面接した上で審査し、不合格の場合には翌年度の実習に参加させない。

②事前指導における模擬授業の実施

3 年次後期の事前指導において、実習参加希望者全員に模擬授業を課す。1 時間分の学習指導案を作成の上、実際に授業を行わせる。指導法科目でも模擬授業は行われるが、更に機会を提供して教科指導の理念と技術を上達させるとともに、もし模擬授業に著しく問題があった場合は、上記の参加資格審査にはかることになる。

エ　実習先との連携体制

実習先への受け入れ依頼から実習終了までのすべてに対して、「教職センター会議」が教育実習運営組織として係わり、連絡調整にあたる。また、学生が所属する各学部・学科とは「教職センター委員会」を組織し、教育実習等教員養成に係わる諸課題の審議、実習の実施に係わる連絡調整、情報の共有を行っている。

オ　実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

①感染症予防対策について

入学時に、「感染症の流行に備えて」と題して、予防接種の有無、抗体価の測定の必要性について説明している。また、実習前に、インフルエンザ等も含めた感染症予防について注意喚起している。

②保険等の加入について

大学が全学生を対象として加入している「学生教育研究災害障害保険」に、教育実習実施学生については「付帯賠償責任保険（インターン賠)」を付加している。

カ　事前・事後における指導計画

①時期及び時間数

事前指導

3 年次	4 月　　2 時間	9 月　2 時間	10 月　　8 時間	11 月～12 月　8 時間
4 年次	4 月　　2 時間	5 月から適宜　2 時間		

事後指導

4 年次	9～10 月 4 時間	11～12 月　　2 時間

②内容

事前指導

a.　教育実習参加前年度の４月に教育実習参加資格の再確認と、教育実習の意義と手続きなどを指導する

b.　教育実習を済ませた４年生による教育実習実施報告を手がかりに、実習の意義を指導する

c.　現代の中・高校生の特性、実態を含め、学校環境について指導する

d.　教育実習における生徒指導について指導する

e.　学習指導案の作成の仕方を指導する

f.　学習指導案を作成した上で模擬授業を体験させ、教科指導について指導する

g.　教育実習を前に、心得、基本的姿勢を再度指導する

h.　指導教員により直前個別面接指導を行う

事後指導

a.　指導教員別に実習報告会を開催する

b.　報告会において、実習記録等を基に教科指導、生徒指導について振り返り、討論する

c.　最後に、教師になる上での資質上の課題について討論する

キ　教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教職センターの専任教員及び教育実習生所属学部のゼミ（若しくは卒業研究）担当の専任教員が、教育実習期間中に各実習校の実習計画に基づき、訪問指導を行う。実習生の授業（研究授業若しくは実習授業）を参観するほか、実習校実習担当教諭とともに実習生への指導、助言を行う。

ク　実習施設における指導者の配置計画

名城大学附属高等学校

教育実習生１人に対して、実習希望教科ごとに教科専門教諭１人が配置される。

愛知県教育委員会

愛知県教育委員会の受け入れ基準により、教育実習生１人に対して第１学年の学級担任１人が配置される。授業実習に対しては教科専門の教諭１人が配置される。

ケ　成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの成績評価及び訪問指導時の内容を基に、担当教員が評価を行い、教職センター会議の承認を経て、成績評価を確定している。

コ　その他特記事項

特になし

11.　企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（１）企業実習

「インターンシップ」（2・3・4年次前期開講／2単位「集中講義」[選択科目]）実習期間:2週間程度

インターンシップは授業科目として位置づけられ、授業の概要は、企業や事業所などにおいて、実際の業務を体験し、大学で学ぶ社会の現状や諸課題と就業現場との関わりや相違などを学びながら、自

己の職業適性に対する理解を進め、キャリア形成への支援や就業意識の啓発を図る。また、大学における学びと社会での就業体験を結びつけることにより、新たな学習意欲を喚起させる。現場での実習に加え、実習前の研修、実習報告書の提出、実習後の報告会における発表などを行う。就業体験を通じ、仕事を円滑に行うために必要な基本的知識や能力を理解し、職業観や社会人基礎力を育みながら、就業意識を養うことを目的としている。

ア　実習先の確保の状況

本学全体の過去5年間のインターンシップ参加者は以下のとおりであり、毎年当該人数を受け入れる十分な数の企業、事業所等を確保している。

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
377名	291名	330名	440名	496名

イ　実習先との連携体制

本学キャリアセンターが中心となり、受け入れ先企業、事業所等の実習先と連携をとりインターンシップを実施する。実習内容は受け入れ先の方針を尊重する。受け入れ先が作成する実習評価書にて詳細な実習内容、実習責任者、学生の出欠状況等を確認する。

ウ　成績評価体制及び単位認定の方法

受け入れ先作成の実習評価書、参加者作成の実習報告書、インターンシップ体験報告会での発表内容等に基づき、成績評価及び単位認定を行う。

エ．その他特記事項

特になし

（2）海外研修制度

実践的英語運用能力を育み、異文化や国際社会に対する理解を深めるために、以下の海外研修制度を設ける。

①「海外研修」(2年次前期開講／4単位[選択科目])

「海外研修」は授業科目として位置づけられ、講義と実習で構成される。海外での研修に先立ち、事前学習として、研修実施国の文化・社会・歴史等に関して講義で学ぶ。その後、英語運用能力やコミュニケーション能力育成のために、海外における受け入れ大学にて 3～4 週間の英語研修プログラムに参加する。事前学習、現地英語研修や異文化での学修、生活体験を通じて、英語力、自分とは異なる背景の中で育った人々とのコミュニケーション力の育成、異文化に対する理解力、また、外から日本について見る力を身につける。

②「国際フィールドワークⅠ（英語圏)」(3年次前期開講／4単位[選択科目])

「国際フィールドワークⅡ（非英語圏)」(3年次後期開講／4単位[選択科目])

グローバル化社会においては、課題を知識で学ぶだけでなく、現地での調査を通じて実証的に理解することが重要である。「国際フィールドワークⅠ（英語圏)」では、調査、学修対象を英語圏の国、地域に、また、「国際フィールドワークⅡ（非英語圏)」では、非英語圏の国、地域に定め、そ

こで暮らす人々のものの見方・考え方や課題を学び、現地調査や海外での暮らしを通し理解を深める。授業は、講義と実習に分け、講義では海外での研修に先立ち、研修実施国の文化や社会などを学び、課題を設定し事前調査を行う。実習では、受け入れ大学を拠点とし、訪問国、地域の企業や事業体などを訪問し、また、現場を見聞きしながら、フィールドワークを行い、知識と実際を結びつけ、国際理解を深める。

③「セメスター留学」

セメスター留学は、海外において学びの機会を与え、異文化を経験するとともに、英語コミュニケーション力を身につけるための英語圏に所在する大学での 13～16 週間の英語研修プログラムである。留学先では、他国からの留学生とともに、英語の 4 技能に加え、語彙、文法、発音等を学び、実践的な英語運用能力を身につける。また、十数週間にわたる海外での生活を通じて、グローバル化社会で求められる英語コミュニケーション力、外から日本を見ることによって深まる自文化への理解力、留学先英語圏の事情や文化を自らの体験を通じて身につける。

ア．実習先の確保の状況　【資料 6】

■「海外研修」 研修期間：3～4 週間

研修先大学	所在地	受入可能人数
ディクシー州立大学	アメリカ、ユタ州、St George	20 名

■「国際フィールドワーク Ⅰ（英語圏）」研修期間：2 週間程度

研修先大学	所在地	受入可能人数
ハワイ大学/ Global Cultural Exchange Program	アメリカ、ハワイ州、Honolulu	20 名

■「国際フィールドワーク Ⅱ（非英語圏）」研修期間：2 週間程度

研修先大学	所在地	受入可能人数
コーンケーン大学	タイ、Khon Kaen	20 名

■ セメスター留学　研修期間：13～16 週間

研修先大学	所在地		受入可能人数
ソノマ州立大学	アメリカ	カリフォルニア州、Rohnert Park	10 名
マレー州立大学		ケンタッキー州、Murray	20 名
ノースフロリダ大学		フロリダ州、Jacksonville	20 名
メリルハースト大学		オレゴン州、Marylhurst	20 名
ディクシー州立大学		ユタ州、St George	20 名
ルイスクラーク州立大学		アイダホ州、Lewiston	20 名

カルガリー大学	カナダ	アルバータ州、Calgary	20 名
レスブリッジ大学		アルバータ州、Lethbridge	20 名
ウィニペグ大学		マニトバ州、Winipeg	20 名
ブロック大学		オンタリオ州、St. Catharines	20 名
ｸｨｰﾝｽﾞﾗﾝﾄﾞ工科大学	オーストラリア	クィーンズランド州、Brisbane	20 名
ディーキン大学		ビクトリア州、Burwood	20 名
ニューカッスル大学		ニューサウスウェールズ州、Newcastle	20 名
合計			250 名

イ．実習先との連携体制

本学の教職員が協調し研修実施先と随時連絡を取り、プログラム内容や留学環境について調整を行う。海外への渡航や滞在に伴うリスクをできるだけ軽減するため、外務省海外安全ホームページや現地研修先からの情報に基づき海外研修・留学のオリエンテーションを実施する。留学期間中も、研修先から最新の情報を得ながら、安全に最大限配慮した海外研修・留学プログラムを受け入れ大学と連携して実施する。

ウ．　成績評価体制及び単位認定の方法

「海外研修」、「国際フィールドワークⅠ（英語圏）」、「国際フィールドワークⅡ（非英語圏）」は、科目担当者が講義及び現地実習の成果に基づき、成績評価及び単位認定を行う。なお、履修希望者が受け入れ人数を超えた場合は、成績等によって人数を調整する。セメスター留学は、研修機関における履修科目や成績評価に基づき、帰国後単位認定手続きを行う。

エ．その他特記事項

特になし

12.　管理運営

本学は、教学の意思決定機関として大学協議会を置く。構成員は学長、副学長、学部長、研究科長、各学部選出の教授１名とし、その他学長が指名するものを陪席者とする。大学協議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり審議するものとする。

(1)　学則その他の教育研究に係わる重要事項の規則の制定又は改廃に関する事項
(2)　教育研究の基本組織に関する事項
(3)　教育課程の編成に関する事項
(4)　教員人事に関する事項
(5)　学生の修学等を支援するための指導・助言及び援助に関する事項
(6)　学生の入学、卒業、課程の修了又はその他在籍に関する事項
(7)　学位の授与に関する事項
(8)　教育研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
(9)　教育研究に係わる施設・設備・環境に関する事項
(10)　その他学長の諮問に関する事項

外国語学部には教授会を置く。教授会は学部長及び学部に所属する専任の教授をもって組織し、議長は学部長とする。また、学部長が必要と認めたときは、教授会に准教授等専任の教育職員を構成員に加える。教授会は、原則月 2 回開催し、次に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程及び成績評価に関する事項
(2) 学生の資格認定及びその身分に関する事項
(3) 教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び進退に関する事項
(4) 教育研究に係る学則の変更に関する事項
(5) その他教育研究に関する重要な事項

また、教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(2) 学位の授与に関する事項
(3) その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

教授会の下に、教務委員会、学生委員会、FD 委員会等を設置し、学部内の管理運営体制を整備する。また、全学組織の委員会として、学務センター委員会、入学センター委員会、キャリアセンター委員会等の委員会を設置している。これらの委員会と学部とが有機的連携を図りながら、管理運営を行う。

13. 自己点検・評価

（1）実施方法、実施体制

本大学及び大学院は、その教育研究水準の向上を図り、本大学及び大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する旨を名城大学学則及び名城大学大学院学則で定めている。

これに基づき、大学評価に関する規程を制定するとともに、大学評価委員会及び学部等評価委員会を設置している。全学的な評価活動を掌る大学評価委員会は学長を委員長とし、副学長、学部長及び研究科長、入学センターや学務センター等の各センター長、経営本部長、更に学長が必要と認めた者を委員として構成されている。一方、学部等評価委員会は学部、研究科、センター等の教育目的等の達成に資することを目的としており、学部長、研究科長、センター長等を委員長とし、それぞれの学部等から選出される教職員等により構成されている。

また、大学全体と各学部との橋渡しをしながら点検・評価を実質化するための組織として、副学長をチームリーダーとする大学評価プロジェクトチームを結成し、点検・評価活動の運営支援等を行っている。更に、実施大綱の策定、内部質保証の方針の策定に取り組んだ上で、公益財団法人大学基準協会が定める 10 の大学基準に準じて、名城大学点検・評価報告書を作成している。外国語学部においても、学部長のもと、自己点検・評価に関する検討委員会を設け組織的に対応する。

（2）認証評価、結果の活用・公表

平成 19 年度に自己点検・評価報告書を取り纏め、平成 20 年度に財団法人大学基準協会（当時）による「大学評価（認証評価）」を受審し、平成 21 年 3 月 12 日付けにて、当該協会の「大学基準

に適合している」との認定を受けた。なお、認定期間は平成 28 年 3 月 31 日までである。

点検・評価報告書及び受審結果については、名城大学ホームページで広く社会に開示している。また、認証評価結果を受けて改善に取り組み、「提言に対する改善報告書」を平成 22 年 7 月末に大学基準協会へ提出した。現在では、更に全学及び各学部等で改善を重ね、進捗状況を大学評価委員会で確認している。

なお、本学では第 2 期となる機関別認証評価を平成 27 年度に公益財団法人大学基準協会で受審する予定である。

14. 情報の公表

(1) 実施方法・情報提供項目

平成 22 年 6 月 15 日付けで学校教育法施行規則の一部が改正され、平成 23 年 4 月 1 日から各大学等において教育情報の公表を行う必要がある項目が明確化された。本学ではこの動きに先んじて、様々な情報公表の環境整備を行ってきたが、本学の教育研究の強み、また、それを支える経営環境の情報も含めて、公表・発信を行うこととした。この指針の策定においては、教学マネジメントと経営マネジメントの視点から設計を行い、可能な限り、平易かつ一元的な情報として整理し、体系的な情報公表を旨として Web サイトにおいて公表することとし、現在に至る。

(http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/public.html)

公表している内容は【資料 7】のとおりであり、数量的な基本情報（データ）と教育研究に係わる質的情報、更には、従前から公表していた財務諸表、本学の戦略プランの情報というように、大学の営みが網羅できるように設計されているところに特色がある。また、教員データベースとのデータ連携の環境も整い、本学の教育研究基盤を支える専任教員の様々な取り組みも広く網羅できるようになった。学生数、教員数というような量的な統計情報に関しては、データベース化の環境づくりも進めており、今後、学内での情報共有環境や経営支援の視点に立った利活用を推進して行く計画となっている。

本学が、その教育の質を向上させるためのツールとして、これからも質的・量的に発信する情報の充実を図って行くことを全学的に確認している。

情報の公表にあたっては、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たす観点から、①本学の教育研究の現状に関する統計情報をわかりやすく公開する、②本学における強み・特色ある教育研究を公開し、学生が成長するプロセスを発信する、③本学の教育の質を支える財務情報、年度ごとの事業計画やその履行状況を発信する、の 3 点を公表ポリシーとしている。具体的な方法は、Web 環境を活用した情報発信を中心に、学部・学科、研究科・専攻の分野を問わず、統一性を持った内容、かつ、統一感のある表示として取り纏めている。

なお、個別公表項目の概要については以下のとおりである。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

HP アドレス：http://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学部ページへ進む）

【公表内容】学部・大学院研究科の目的、教育課程の概要、学びの成果等に関する基本方針

イ　教育研究上の基本組織に関すること

HP アドレス：http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

【公表内容】組織機構図

ウ　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

HP アドレス：

・教員数：http://www.meijo-u.ac.jp/about/data/teacher/

【公表内容】教員数、男女別職位構成、年齢構成

・各教員が有する学位及び業績：http://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学部ページ「教員一覧」から教員を探し、項目を選択）

【公表内容】教員の氏名、職位、所属、最終学歴、職歴、受賞歴、所属学会、研究活動（研究分野、教育研究への取り組み・抱負、著書）、学術論文、外部資金、担当授業科目（学部・大学院）

エ　入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在籍する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

HP アドレス

・入学者受け入れ方針：http://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学部ページ「人材養成目的・3 つのポリシー」を選択）

【公表内容】学部長メッセージ、学びのポイント、人材養成目的・3 つのポリシー等

・入学者数、収容定員及び在籍者数、卒業又は修了者数

http://www.meijo-u.ac.jp/about/data/student/

【公表内容】学部・学科単位、研究科・専攻単位、学年別、男女別

・進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

http://www.meijo-u.ac.jp/career/results/academics/

【公表内容】就職率、卒業者の進路、就職先区分、業種別就職状況、主な就職先

オ　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

HP アドレス：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/syllabus/find

【公表内容】科目名、担当者氏名、開講学科、開講年次、講義学期、単位数、必修・選択区分、科目部門、準備学習、履修上の留意、授業の概要と目的、サブタイトル、到達目標、授業計画、授業形態・方法、成績評価方法及び評価基準、受講生へのメッセージ、テキスト

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

HP アドレス：http://www.meijo-u.ac.jp/academics/

（各学部ページ「学科」を選択し、下部「学科情報」の「カリキュラム」「履修モデル」「取得可能な学位・卒業要件」を選択）

【公表内容】カリキュラム、履修系統図、履修モデル、修業年限及び卒業に必要な修得単位数、取得可能な学位、学習成果にかかわる評価

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

HP アドレス：http://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/

【公表内容】キャンパス単位の施設・設備の概要、交通アクセスの状況

ク　授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

HP アドレス：http://www.meijo-u.ac.jp/campus/tuition/

【公表内容】入学年度別学費（学年、納入時期、入学金、授業料、実験実習費、施設費／学部・研究科単位）、その他の学費（休学中の在籍料、教職履修費、学芸員履修費）

ケ　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

HP アドレス：

・学生生活：http://www.meijo-u.ac.jp/campus/

【公表内容】学修基本情報、学習環境、様々な学び(他学部履修制度、英語多読教育)、健康管理

・国際交流：http://www.meijo-u.ac.jp/international/

【公表内容】国際交流支援組織、交換留学、海外英語研修

・就職・資格：http://www.meijo-u.ac.jp/career/

【公表内容】就職・資格取得支援組織、インターンシップ

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

＊設置認可申請書等については、適宜、公表対応。

HP アドレス

・学則：http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/regulations.html

【公表内容】大学学則、大学院学則、学位規程

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果等：

http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/01.html

【公表内容】自己点検・評価報告書、基礎データ、認証評価結果資料

・事業計画書、事業報告書、計算書類、基本戦略：

HP アドレス

・事業計画書、事業報告書：http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/report.html

【公表内容】事業計画、事業報告

・財務報告：http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html

【公表内容】予算書、決算書、過去 5 ヵ年の財務比率推移

・学校法人名城大学の基本戦略 MS-26：http://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/ms26.html

【公表内容】MS-26 戦略プラン、MS-15 活動報告書・事業報告書

15.　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教員の資質の維持向上の方策

（1）全学的な FD 活動の推進

本学では、教育内容等の改善のための全学的な委員会組織として、FD 委員会を設置し、全学的な視点から授業内容及び方法の改善を図る活動を展開している。活動の根拠は、FD 委員会要項（平成 13 年 7 月 21 日施行）に定め、教員の教育能力向上を目的に、以下の FD 活動を展開している。

①　学生による授業改善アンケートの実施

各学期末にそれぞれ一定の期間を設けて、全学的に「授業改善アンケート」を実施している。授業内容に対する学生の評価を集計し、各教員には、各々のアンケート結果を基に結果に対する分析等のコメントや授業改善の方法等を記載させ、学生へのメッセージとして報告書にまとめている。

②　FD フォーラム（講演会）の実施

本学においては、本学の教育研究のあり方等、教育に関する全学的な問題を考える機会として、これまで 16 回にわたり、FD フォーラム（講演会）を実施している。具体的な取り組みとしては、外部識者を招聘した基調講演、ワークショップによる討議形式による実施のほか、①で示した授業

改善アンケート結果で高い評価を得た教員による事例報告会などを通じて、FD 活動の推進を図っている。

③　名城大学教育年報

FD 活動の成果を教育実績として積み重ね、本学における教育成果を内外に示し、「教育力」の更なる向上を図る礎となるよう、「名城大学教育年報」を刊行している。この教育年報については、ホームページでの公開や全国の各大学への送付を通じて、教育に係わる研究の相互交流の一翼を担っている。

④　教育功労賞制度

本学においては、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、平成 25 年度に「教育功労賞要項」を制定している。

教育功労賞受賞者については、同要項に基づき、FD 委員会において候補者を選考し、全学的な意思形成機関である大学協議会における議を経て、学長が決定している。

また、表彰の対象となった取り組みの成果等は、FD フォーラムや名城大学教育年報を通じて発信し、その教育手法を全学的に普及させ、組織全体の教育の質向上を促す効果に結び付けている。

以上の FD 活動の取り組みについては、刊行物（授業改善アンケート結果報告書、FD 活動報告書）として、学内に留まることなく Web 環境を通じて広く社会に公表し、また、学生にもその活動状況を理解できるように附属図書館にも配架し、教育研究機関としての責務を履行するために、積極的な情報開示を推進している。

（2）学部としての取り組み

外国語学部では、授業担当教員の資質向上のため、学生の授業改善アンケート、教員による指導経験、他学部、他大学の指導方法調査を通し、本学部が養成を目指す人材育成に向け、教育内容、教育方法を改善し、教員の指導力向上を図る。

16.　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア　教育課程内の取り組み

社会的・職業的自立を図るため、教育課程に「キャリア形成論」、「インターンシップ」を開講し、キャリア教育を行う。

「キャリア形成論」では、社会にはどのようなキャリアがあるかを学び、「自分を知る」、「進路の可能性を知る」、「社会を知る」ことにより、卒業後の進路について考える糧を与える。「インターンシップ」では、企業や事業所などにおいて、実務を体験し、大学で学ぶ社会の現状や諸課題と就業現場との関わりや相違などを学びながら、自己の職業適性に対する理解を進め、キャリア形成への支援や就業意識の啓発を図る。「インターンシップ」では、2 週間程度の企業等での実習に先立ち、事前学習として、実習のための基礎的知識、マナーなどを学ぶとともに、実習先の企業等やその業界について情報収集し、インターンシップに対して十分な準備を行う。インターンシップ後は報告会で学んだ経験や意見を報告し総括を行う。事前学習、現場実習、事後報告を通して、職業観や社会人としての基礎力を養う。

イ　教育課程外の取り組み

キャリアセンターにて、学生の進路・就職指導及び斡旋、求人先の開拓及び求人情報の提供、学生の就職に関する調査及び統計、各学部等の進路・就職に係る連絡調整、インターンシップ、就職対策及び各種資格取得等の講座に関する事項について取扱いを行い、社会的、職業的自立を支援する。

また、学生が就職サポーターとして、キャリアセンターの就職支援業務を補助することにより、就職観の養成及びボランティア精神の向上を図ることを目的とした就職サポーター制度を導入している。具体的には、学内の就職ガイダンス、学内企業研究セミナーのサポート（学生の誘導、企業の採用担当者の受付等）などを行う。また、会社見学や就職活動終了者・企業のOB・OGによる就職報告会の開催など、就職サポーターの自主活動も行う。これらの活動を通じ、就職活動に対する意識を高め、業界・企業研究やマナーなどを学ぶことを可能とする。

ウ　適切な体制整備について

キャリアセンターに、学生の進路・就職関係事項を審議するため、 キャリアセンター委員会を設置し、学生の進路・就職支援に関する事項、就職対策及び各種資格取得等の講座に関する事項、インターンシップに関する事項等について検討を行う。同委員会は、キャリアセンター長、キャリアセンター事務部長、各学部から選出された教員などから構成され、キャリアセンターと学部が一体になり、組織的に学生の社会的、職業的自立に向けた支援を行う体制が整備されている。

外国語学部においても教員がキャリアセンターと連携を図りながら学生一人ひとりの希望、特性にふさわしい就職の実現を目指し支援を行う。

以　上

資料目次

【資料１】　学校法人名城大学職員規則（抜粋）

【資料２】　履修モデル①～③

【資料３】　時間割表

【資料４】　学術雑誌

【資料５】　教育実習受入承諾書

【資料６】　留学受入承諾書

【資料７】　大学からの公開情報

【資料1】

学校法人名城大学職員規則（抜粋）

昭和40年６月１日
規則

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、学校法人名城大学の職員について適用すべき各般の根本基準を確立することにより、その業務の円滑な運営を保障し、もって事業の健全な発展に資することを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　法人　学校法人名城大学をいう。

（２）　大学　法人の設置する名城大学をいう。

（３）　高等学校　法人の設置する名城大学附属高等学校をいう。

（４）　学長　名城大学学長をいう。

（５）　学校長　名城大学附属高等学校校長をいう。

（６）　学長等　名城大学学長及び名城大学附属高等学校校長をいう。

（７）　職員　教育職員（名城大学の教授、准教授、助教、講師、助手、教務技術員及び終身教授並びに名城大学附属高等学校の学校長、教諭、司書教諭、養護教諭、特任教諭及び講師をいう。）、事務職員及び技術職員をいう。

（８）　大学教員　名城大学の教育職員をいう。

（９）　高等学校教員　名城大学附属高等学校の教育職員をいう。

(10)　事務職員等　事務職員及び技術職員をいう。

(11)　専任の職員　専任の教育職員、専任の事務職員及び専任の技術職員をいう。

②　職員に準ずる者等　契約教育職員、契約事務職員、アルバイト、大学非常勤講師、高等学校非常勤講師および高等学校特任教諭をいう。

（管理監督者の定義）

第２条の２　管理監督者とは、事務職員等を指揮監督する次の者をいう。

（１）　経営本部長

（２）　センター長等、事務部長

（３）　課長、室長、事務長

②　管理監督者については、第32条及び第34条の規定は適用するが、その管理を本人が自主的に行うものとする。

（適用範囲）

第２条の３　この規則は、専任の職員のうち、労働契約期間の定めのない者に適用する。

（略）

（定年）

第20条　職員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これを定年とし、定年に達した日の属する学年度末をもって退職するものとする。

（１）　大学教員及び教務技術員は、満65歳。ただし、65歳以降の任用については別に定める。

（２）　高等学校教員は、満65歳。ただし、学校長の任期がこれを超える場合については、任期満了の日。

（３）　事務職員等は、満65歳

②　任命権者は、前項の各号のいずれかに定める定年年齢によらない職員を任用をすることができる。なお、この任用の場合は、別に定めるものとする。

（略）

附　則

①　この規則は、昭和40年６月１日から施行する。

②　この規則のうち、第20条の規定は前項の規定にかかわらず、昭和41年４月１日から施行し、これに関する経過規定は別にこれを定める。

（略）

附　則

①　この規則は、昭和59年４月１日から施行する。

②　教務技術員に移行した者（昭和59年３月31日以前の在職者に限る。）の定年は、第20条第１号ただし書の規定にかかわらず、満72歳とする。

③　昭和59年３月31日以前に技術員の職に発令されている者で、教務技術員に移行しないものの定年は、なお従前の例による。

（略）

附　則

①　この規則は、平成７年４月２日から施行する。

②　平成７年４月１日に在職する大学教員等（教務技術員は除く。）の定年は、第20条第１号イの規定にかかわらず、なお従前の例（満72歳）による。

③　都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成７年４月２日以降に採用した場合の定年は、第20条第１号イの規定にかかわらず、なお従前の例（満72歳）による。

④　教務技術員に移行した者（昭和59年３月31日以前の在職者に限る。）の定年は、第20条第１号ロの規定にかかわらず、満72歳とする。

（略）

附　則

①　この規則は、平成17年４月２日から施行する。

②　平成17年４月１日に在職する大学教員（教務技術員を除く。以下同じ。）の定年は、第20条第１号の規定にかかわらず、なお従前の例（平成７年４月１日に在職する大学教員は満72歳、都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成７年４月２日以降に採用した大学教員は満72歳、平成７年４月２日から平成17年４月１日までに採用した大学教員は満68歳又は当該学部教授会等で特に必要と認めた者で大学協議会等の議を経て満70歳を定年とした者は当該年齢）による。

（略）

附　則

①　この規則は、平成19年４月１日から施行する。

②　改正後の第２条第７号の規定にかかわらず、専任の教育職員として、当分の間、助教授を置くことができるものとする。

【資料２】

履修モデル①　グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材を目指す履修モデル

想定される進路　商社、国際機関職員、外資系企業など

		1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・科目群		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる	2															24
	発展科目 人間を考える			芸術と人間	2			心の科学	2					哲学	2			
	発展科目 社会に生きる	海外留学入門	2	市民と社会	2			科学と技術の歩み	2									
	発展科目 自然と生きる			地球と宇宙	2							数と論理	2					
	情報教育科目	コンピュータリテラシー	2	情報社会と倫理	2													
	体育科目																	
	キャリア教育科目					キャリア形成論	2											
専門教育部門 外国語科目群 第一外国語科目		英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	2	英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	2	英語コミュニケーションⅢ(応用1)	2	英語コミュニケーションⅣ(応用2)	2	英語コミュニケーションⅤ(発展)	2							26
		英語リーディングⅠ(基礎1)	1	英語リーディングⅡ(基礎2)	1	英語リーディングⅢ(応用1)	1	英語リーディングⅣ(応用2)	1			英語リーディングⅤ(発展)	1					
		英語ライティングⅠ(基礎1)	1	英語ライティングⅡ(基礎2)	1	英語ライティングⅢ(応用1)	1	英語ライティングⅣ(応用2)	1			英語ライティングⅤ(発展)	1					
		英語ディスカッションⅠ(基礎1)	1	英語ディスカッションⅡ(基礎2)	1	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1	英語ディスカッションⅣ(応用2)	1	パブリック・スピーキング	1	ディベート	1					
専門教育部門 外国語科目群 第二外国語科目						フランス語入門Ⅰ	1	フランス語初級Ⅰ	1									4
						フランス語入門Ⅱ	1	フランス語初級Ⅱ	1									
専門教育部門 専門基礎科目群		英語学概論	2	異文化理解	2	英語の構造と仕組み	2	コミュニケーションのための英文法	2									28
		英米文学概論	2	英語音声学	2	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	2	アメリカ文学研究	2									
		アジアを学ぶ	2	地域研究論	2	異文化コミュニケーション	2	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	2									
						日本の伝統文化	2	日本文学研究	2									
専門教育部門 専門基幹科目群						日本近現代史	2	イギリス地域研究	2	国際フィールドワークⅠ(英語圏)	4	ベトナムの言語と文化Ⅱ	2					18
						第二言語習得論	2			ベトナムの言語と文化Ⅰ	2	メディア・イングリッシュⅡ	2					
										メディア・イングリッシュⅠ	2							
専門教育部門 専門展開科目群										英語プレゼンテーション	2	英語通訳演習	2	ビジネス英語	2	ヨーロッパの文学と社会	2	12
												国際経済論	2			近現代の日中関係	2	
専門教育部門 ゼミナール科目群		基礎演習Ⅰ	2	基礎演習Ⅱ	2					ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2	ゼミナールⅢ	2	ゼミナールⅣ	2	12
単位小計			19		21		21		21		15		15		6		6	
単位合計		124		網掛：必修科目														

履修モデル②　アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材を目指す履修モデル

想定される進路　旅行社、製造、運輸など

		1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・科目群		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる	2															24
	発展科目 人間を考える	歴史と文化	2					心の科学	2			文化人類学	2					
	発展科目 社会に生きる	経済学	2	市民と社会	2					ジェンダーと社会	2							
	発展科目 自然と生きる							数と論理	2					人間と自然	2			
	情報教育科目			情報社会と倫理	2													
	体育科目	健康・スポーツ科学Ⅰ	1	健康・スポーツ科学Ⅱ	1													
	キャリア教育科目					インターンシップ	2											
専門教育部門 外国語科目群 第一外国語科目		英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	2	英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	2	英語コミュニケーションⅢ(応用1)	2	英語コミュニケーションⅣ(応用2)	2	英語コミュニケーションⅤ(発展)	2							26
		英語リーディングⅠ(基礎1)	1	英語リーディングⅡ(基礎2)	1	英語リーディングⅢ(応用1)	1	英語リーディングⅣ(応用2)	1			英語リーディングⅤ(発展)	1					
		英語ライティングⅠ(基礎1)	1	英語ライティングⅡ(基礎2)	1	英語ライティングⅢ(応用1)	1	英語ライティングⅣ(応用2)	1			英語ライティングⅤ(発展)	1					
		英語ディスカッションⅠ(基礎1)	1	英語ディスカッションⅡ(基礎2)	1	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1	英語ディスカッションⅣ(応用2)	1	パブリック・スピーキング	1	ディベート	1					
専門教育部門 外国語科目群 第二外国語科目						中国語入門Ⅰ	1	中国語初級Ⅰ	1	中国語中級Ⅰ	1	中国語応用Ⅰ	1					8
						中国語入門Ⅱ	1	中国語初級Ⅱ	1	中国語中級Ⅱ	1	中国語応用Ⅱ	1					
専門教育部門 専門基礎科目群		英語学概論	2	異文化理解	2	イギリス文学研究	2	アメリカ文学研究	2									24
		英米文学概論	2	英語音声学	2	異文化コミュニケーション	2	多文化共生論	2									
		アジアを学ぶ	2	日本中世近世史	2	日本の伝統文化	2											
				地域研究論	2													
専門教育部門 専門基幹科目群						日本近現代史	2	韓国地域研究	2	タイの言語と文化Ⅰ	2	タイの言語と文化Ⅱ	2					16
						キリスト教文化論	2	イスラム教文化論	2			国際フィールドワークⅡ(非英語圏)	4					
専門教育部門 専門展開科目群										国際関係論	2			近現代の日韓関係	2	国際経済論	2	10
										アセアン事情	2					近現代の日中関係	2	
専門教育部門 ゼミナール科目群		基礎演習Ⅰ	2	基礎演習Ⅱ	2	基礎演習Ⅲ	2	基礎演習Ⅳ	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2	ゼミナールⅢ	2	ゼミナールⅣ	2	16
単位小計			20		20		21		21		15		15		6		6	
単位合計		124		網掛：必修科目														

履修モデル③

日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことのできる人材を目指す履修モデル

想定される進路　ＮＧＯ・ＮＰＯ職員、公務員、メディアなど

		1年次				2年次				3年次				4年次				単位小計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
部門・科目群		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
教養教育部門	基軸科目	現代に生きる	2															26
	発展科目 人間を考える	歴史と文化	2	芸術と人間	2							文化人類学	2					
	発展科目 社会に生きる	経済学	2			日本国憲法	2					科学と技術の歩み	2					
	発展科目 自然と生きる							地球と宇宙	2									
	情報教育科目	コンピュータリテラシー	2	ウェブデザイン	2													
				情報社会と倫理	2													
	体育科目																	
	キャリア教育科目			日本とグローバル人材	2					インターンシップ	2							
専門教育部門 外国語科目群 第一外国語科目		英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	2	英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	2	英語コミュニケーションⅢ(応用1)	2	英語コミュニケーションⅣ(応用2)	2	英語コミュニケーションⅤ(発展)	2							26
		英語リーディングⅠ(基礎1)	1	英語リーディングⅡ(基礎2)	1	英語リーディングⅢ(応用1)	1	英語リーディングⅣ(応用2)	1			英語リーディングⅤ(発展)	1					
		英語ライティングⅠ(基礎1)	1	英語ライティングⅡ(基礎2)	1	英語ライティングⅢ(応用1)	1	英語ライティングⅣ(応用2)	1			英語ライティングⅤ(発展)	1					
		英語ディスカッションⅠ(基礎1)	1	英語ディスカッションⅡ(基礎2)	1	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1	英語ディスカッションⅣ(応用2)	1	パブリック・スピーキング	1	ディベート	1					
専門教育部門 外国語科目群 第二外国語科目						韓国語入門Ⅰ	1	韓国語初級Ⅰ	1									4
						韓国語入門Ⅱ	1	韓国語初級Ⅱ	1									
専門教育部門 専門基礎科目群		英語学概論	2	異文化理解	2	英語の構造と仕組み	2	コミュニケーションのための英文法	2									26
		英米文学概論	2	英語音声学	2	異文化コミュニケーション	2	多文化共生論	2									
		アジアを学ぶ	2	日本中世近世史	2	日本の伝統文化	2	日本文学研究	2									
								日本の先端文化	2									
専門教育部門 専門基幹科目群						日本近現代史	2	日本の政治	2	インドネシアの言語と文化Ⅰ	2	インドネシアの言語と文化Ⅱ	2					16
						海外研修	4					現代の日本社会	2					
						パブリックリレーションズ	2											
専門教育部門 専門展開科目群										日本のものづくり	2	近現代の日中関係	2	ビジネス英語	2	日本のツーリズム	2	14
										近現代の日韓関係	2			アセアン事情	2	国際経済論	2	
専門教育部門 ゼミナール科目群		基礎演習Ⅰ	2	基礎演習Ⅱ	2					ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2	ゼミナールⅢ	2	ゼミナールⅣ	2	12
単位小計			21		21		23		19		13		15		6		6	
単位合計		124		網掛：必修科目														

時間割

【資料3】

前期

時限	学年	月 科目名	月 担当者	月 教室	火 科目名	火 担当者	火 教室	水 科目名	水 担当者	水 教室	木 科目名	木 担当者	木 教室	金 科目名	金 担当者	金 教室
1限	1年	英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	G.J.Minehane、M.Praver、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510				英語コミュニケーションⅠ(基礎1)	G.J.Minehane、M.Praver、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	海外留学入門	G.J.Minehane、村田泰美	N302			
	2年	日本の伝統文化	岩井眞實	S302	英語リーディングⅢ(応用1)	西尾由里、柳沢秀郎、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、(B.Simmonds)、(加藤普由子)、(F.D.Ogura)、(T.J.Fallon)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	ジェンダーと社会	<蓑輪明子>	S301	英語ライティングⅢ(応用1)	藤原康弘、J.M.Rogers、P.S.Rates、SA.R.Ali、A.B.Gallagher、(大達誉華)、(F.D.Ogura)、(竹田真紀子)、(宮浦国江)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	哲学	(小林智)	S301
								第二言語習得論	藤原康弘	S302				生命の多様性	(野呂達哉)	S401
	3年	国際関係論	堅田義明	S202	国際フィールドワークⅠ(英語圏)	二神真美	W305	日本のものづくり	<田中武憲>	S202	インドネシアの言語と文化Ⅰ	(岩田晶子)	W207	パブリック・スピーキング	宮崎新、M.Praver、J.M.Rogers、I.M.Roth、中山麻美、A.B.Gallagher、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
					中国語中級Ⅱ	松浦周子	N402									
					韓国語中級Ⅱ	呉大煥	N404									
					フランス語中級Ⅱ	藤田衆	N405									
	4年															
2限	1年				英語リーディングⅠ(基礎1)	柳沢秀郎、P.D.Wicking、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、中山麻美、(F.D.Ogura)、(T.J.Fallon)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	歴史と文化	岩井眞實	N302	英語ライティングⅠ(基礎1)	西尾由里、P.D.Wicking、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、A.B.Gallagher、<M.S.Rebuck>、(F.D.Ogura)、(竹田真紀子)、(宮浦国江)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510			
	2年	英語コミュニケーションⅢ(応用1)	G.J.Minehane、宮崎新、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	海外研修	村田泰美	S401	英語コミュニケーションⅢ(応用1)	G.J.Minehane、宮崎新、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	英語科教育法Ⅰ	藤原康弘	S401	英語ディスカッションⅢ(応用1)	P.D.Wicking、M.Praver、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(大達誉華)、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
					基礎演習Ⅲ	藤田衆	N403				日本の経済	堅田義明	S402			
	3年	近現代の日韓関係	(金光旭)	S401	英語科指導法Ⅰ	藤原康弘	W306	アセアン事情	A.Kumara	S202	メディア・イングリッシュⅠ	M.Praver	N402	タイの言語と文化Ⅰ	津村文彦	S401
					ビジネス英語	(R.P.Gee)	N402							英語プレゼンテーション	T.M.McCandie	W304
	4年															
3限	1年	英語学概論	村田泰美	N302	基礎演習Ⅰ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、宮崎新、柳沢秀郎、藤原康弘	N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510、N511	健康・スポーツ科学Ⅰ	<冨岡徹>、(吉田文久)	W207	コンピュータリテラシー	(大屋慶太)	W401	英語ディスカッションⅠ(基礎1)	P.D.Wicking、T.M.McCandie、SA.R.Ali、A.B.Gallagher、(S.J.Polzin)、(大達誉華)、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
	2年	アカデミック・イングリッシュⅡ	M.Praver	N402	キャリア形成論	(丹山美香)	N302	アメリカ地域研究	二神真美	S301				日本近現代史	堅田義明	N302
		仏教文化論	(齋藤滋)	S402	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	T.M.McCandie	N403	基礎演習Ⅲ	岩井眞實	N403						
		基礎演習Ⅲ	A.Kumara	N403												
	3年	英語コミュニケーションⅤ(発展)	P.D.Wicking、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	スペイン語中級Ⅱ	(木下智統)	N404	英語コミュニケーションⅤ(発展)	P.D.Wicking、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510				中国語中級Ⅰ	松浦周子	N402
					ビジネス英語	(R.P.Gee)	N402							韓国語中級Ⅰ	呉大煥	N404
														フランス語中級Ⅰ	(佐々木稔)	N405
														スペイン語中級Ⅰ	(ｴﾙﾋﾞｰﾆｱﾕﾘｱ)	W302
	4年															
4限	1年	アジアを学ぶ	A.Kumara	N302				健康・スポーツ科学Ⅰ	<冨岡徹>、(吉田文久)	W207	コンピュータリテラシー	(大屋慶太)	W401	日本国憲法	(蜂須賀知美)	N302
	2年	パブリックリレーションズ	<長尾晃宏>	S301	中国語入門Ⅱ	松浦周子、(西井和弥)	N402、N403	キリスト教文化論	(山崎ランサム和彦)	S401				中国語入門Ⅰ	松浦周子、(西井和弥)	N402、N403
		異文化コミュニケーション	宮崎新	S302	韓国語入門Ⅱ	呉大煥	N405	イギリス文学研究	<西山徹>	S402				韓国語入門Ⅰ	呉大煥	N404
					フランス語入門Ⅱ	藤田衆	W302	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	G.J.Minehane	W302				フランス語入門Ⅰ	(佐々木稔)	N405
					スペイン語入門Ⅱ	(木下智統)	N404							スペイン語入門Ⅰ	(ｴﾙﾋﾞｰﾆｱﾕﾘｱ)	W302
	3年	メディア・イングリッシュⅠ	J.M.Rogers	N402	英語プレゼンテーション	M.Praver	W304	ゼミナールⅠ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、呉大煥、宮崎新、柳沢秀郎、藤原康弘、松浦周子	N402、N403、N404、N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510						
		ベトナムの言語と文化Ⅰ	(金村久美)	S401												
	4年				ゼミナールⅢ	柳沢秀郎	N510									
5限	1年	人間と自然	<堀鈎直、谷口義則>	W306	経済学	<池上彰>	N302	英米文学概論	柳沢秀郎、<西山徹>	N302						
		現代に生きる	A.Kumara、岩井眞實、<大野栄治>	N302												
	2年	基礎演習Ⅲ	堅田義明	N403	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	P.D.Wicking	N402	アカデミック・イングリッシュⅡ	G.J.Minehane	W302				基礎演習Ⅲ	津村文彦	N403
		英語の構造と仕組み	村田泰美	S301										中国地域研究	松浦周子	S401
	3年	英語プレゼンテーション	J.M.Rogers	W304												
	4年							ゼミナールⅢ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、呉大煥、宮崎新、藤原康弘、松浦周子	N402、N403、N404、N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413						
集中講義	2年	インターンシップ	堅田義明	S302												

教室名称は仮称　　<>（）なし：専任　　<　>：兼担　　（　）：兼任

時間割

後期

時限	学年	月 科目名	月 担当者	月 教室	火 科目名	火 担当者	火 教室	水 科目名	水 担当者	水 教室	木 科目名	木 担当者	木 教室	金 科目名	金 担当者	金 教室
1限	1年	英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	G.J.Minehane、M.Praver、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	芸術と人間	<三浦彩子>	N302	英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	G.J.Minehane、M.Praver、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	日本中世近世史	<伊藤俊一>	N302	情報社会と倫理	<村上広一>	N302
	2年	日本の先端文化	(水内智英)	S302	英語リーディングⅣ(応用2)	西尾由里、柳沢秀郎、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、(B.Simmonds)、(加藤昔由子)、(F.D.Ogura)、(T.J.Fallon)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	アメリカ文学研究	柳沢秀郎	N302	英語ライティングⅣ(応用2)	藤原康弘、J.M.Rogers、P.S.Rates、SA.R.Ali、A.B.Gallagher、(大達誉華)、(F.D.Ogura)、(竹田真紀子)、(宮浦国江)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	イギリス地域研究	(大澤広晃)	S302
	3年	近現代の日中関係	(黒田由彦)	S301	国際フィールドワークⅡ(非英語圏)	津村文彦	W305	日本のツーリズム	二神真美	S304	インドネシアの言語と文化Ⅱ	(岩田晶子)	W207	ディベート	宮崎新、M.Praver、J.M.Rogers、I.M.Roth、中山麻美、A.B.Gallagher、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
		英語通訳演習	(長沼美香子)	W407	中国語応用Ⅱ	松浦周子	N402									
					韓国語応用Ⅱ	呉大煥	N404									
					フランス語応用Ⅱ	藤田衆	N405									
	4年															
2限	1年	地域研究論	津村文彦	N302	英語リーディングⅡ(基礎2)	柳沢秀郎、P.D.Wicking、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、中山麻美、(F.D.Ogura)、(T.J.Fallon)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	日本とグローバル人材	A.Kumara	N302	英語ライティングⅡ(基礎2)	西尾由里、P.D.Wicking、J.M.Rogers、P.D.Dickinson、A.B.Gallagher、(M.S.Rebuck)、(F.D.Ogura)、(竹田真紀子)、(宮浦国江)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	英語音声学	西尾由里	N302
	2年	英語コミュニケーションⅣ(応用2)	G.J.Minehane、宮崎新、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	日本の政治	堅田義明	S301	英語コミュニケーションⅣ(応用2)	G.J.Minehane、宮崎新、T.M.McCandie、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	英語科教育法Ⅱ	藤原康弘	S401	英語ディスカッションⅣ(応用2)	P.D.Wicking、M.Praver、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(大達誉華)、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
					基礎演習Ⅳ	藤田衆	N403				文化人類学	津村文彦	S302			
	3年	現代の日本社会	(黒田由彦)	S301	南アジア事情	A.Kumara	S403	英語の拡がりと多様性	村田泰美	S304	メディア・イングリッシュⅡ	M.Praver	N402	ヨーロッパの文学と社会	藤田衆	S403
		英語通訳演習	(長沼美香子)	W407	英語科指導法Ⅱ	藤原康弘	W407				国際経済論	<鈴木英夫>	S304	タイの言語と文化Ⅱ	津村文彦	S402
	4年															
3限	1年	アカデミック・イングリッシュⅠ	M.Praver	N402	基礎演習Ⅱ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、宮崎新、柳沢秀郎、藤原康弘	N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510、N511	健康・スポーツ科学Ⅱ	<冨岡徹>、(吉田文久)	W207	ウェブデザイン	(大屋慶太)	W401	英語ディスカッションⅡ(基礎2)	P.D.Wicking、T.M.McCandie、SA.R.Ali、A.B.Gallagher、(S.J.Polzin)、(大達誉華)、(D.W.Sweetlove)、(P.S.Riccobono)、(D.R.Elliott)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510
	2年	基礎演習Ⅳ	A.Kumara	N403	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	T.M.McCandie	N403	コミュニケーションのための英文法	村田泰美	S304				多文化共生論	二神真美	S301
		日本の宗教	(齋藤 滋)	S401				基礎演習Ⅳ	岩井眞實	N403						
	3年	英語ライティングⅤ(発展)	P.D.Wicking、西尾由里、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510	スペイン語応用Ⅱ	(木下智統)	N404	英語リーディングⅤ(発展)	二神真美、柳沢秀郎、P.D.Dickinson、I.M.Roth、P.S.Rates、SA.R.Ali、中山麻美、A.B.Gallagher、(C.H.Weyand)	N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510				中国語応用Ⅰ	松浦周子	N402
														韓国語応用Ⅰ	呉大煥	N404
														フランス語応用Ⅰ	(佐々木稔)	N405
														スペイン語応用Ⅰ	(エルビーニアユリア)	W302
	4年															
4限	1年	異文化理解	村田泰美、二神真美	N302	地球と宇宙	<齊藤毅>	W207	健康・スポーツ科学Ⅱ	<冨岡徹>、(吉田文久)	W207	ウェブデザイン	(大屋慶太)	W401	市民と社会	<榎本雅記>	N302
	2年	科学と技術の歩み	<渋井康弘>	S402	中国語初級Ⅱ	松浦周子、(西井和弥)	N402、N403	心の科学	<伊藤康児>	S301				中国語初級Ⅰ	松浦周子、(西井和弥)	N402、N403
		日本文学研究	岩井眞實	S301	韓国語初級Ⅱ	呉大煥	N405	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	G.J.Minehane	W302				韓国語初級Ⅰ	呉大煥	N404
					フランス語初級Ⅱ	藤田衆	W302							フランス語初級Ⅰ	(佐々木稔)	N405
					スペイン語初級Ⅱ	(木下智統)	N404							スペイン語初級Ⅰ	(エルビーニアユリア)	W302
	3年	メディア・イングリッシュⅡ	J.M.Rogers	N402				ゼミナールⅡ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、呉大煥、宮崎新、柳沢秀郎、藤原康弘、松浦周子	N402、N403、N404、N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413、N510						
		ベトナムの言語と文化Ⅱ	(金村久美)	S401												
	4年				ゼミナールⅣ	柳沢秀郎	N510									
5限	1年							アカデミック・イングリッシュⅠ	G.J.Minehane	W302						
	2年	数と論理	<山谷克>	S401	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	P.D.Wicking	N402							基礎演習Ⅳ	津村文彦	N403
		基礎演習Ⅳ	堅田義明	N403										韓国地域研究	呉大煥	S402
	3年															
	4年							ゼミナールⅣ	A.Kumara、村田泰美、西尾由里、二神真美、藤田衆、津村文彦、堅田義明、岩井眞實、呉大煥、宮崎新、藤原康弘、松浦周子	N402、N403、N404、N405、N406、N407、N408、N409、N410、N411、N412、N413						
集中講義	2年	イスラム教文化論	<池上彰>	N302												

教室名称は仮称　　<>()なし:専任　　<　>:兼担　　(　):兼任

【資料4】

学術雑誌

No	タイトル	出版社	備考
1	英語教育	大修館書店	和書
2	国際開発ジャーナル	国際開発ジャーナル社	和書
3	教員養成セミナー	時事通信社	和書
4	教職課程	協同出版	和書
5	日本語学	明治書院	和書
6	日本語の研究	武蔵野書院	和書
7	史学雑誌	山川出版社	和書
8	文学界	文藝春秋	和書
9	文学	岩波書店	和書
10	世界	岩波書店	和書
11	思想	岩波書店	和書
12	東洋文化	編集室なるにあ	和書
13	ふらんす	白水社	和書
14	通訳・翻訳ジャーナル	イカロス出版	和書
15	American Journal of Speech-Language Pathology:Journal of Clinical Practice	AM SPEECH LANGUAGE HEAR'G ASSN	外国書
16	Applied Ontology	IOS Press	外国書
17	Clinical Linguistics & Phonetics	Informa Healthcare	外国書
18	Corpus Linguistics and Lingustic Theory	Walter de Gruyter & Co.	外国書
19	Dialectologia et Geolinguistica	Walter de Gruyter & Co.	外国書
20	English World-Wide (Journal of Varieties of English)	JOHN BENJAMINS PUBLISHING CO	外国書
21	Gesture	JOHN BENJAMINS PUBLISHING CO	外国書
22	International Journal of American Linguistics	UNIV. OF CHICAGO PR.	外国書
23	International Review of Applied Linguistics in Language Teaching	Walter de Gruyter & Co.	外国書
24	Journal of Politeness Research	Walter de Gruyter & Co.	外国書
25	Language Variation and Change	CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS	外国書
26	Linguistic Inquiry (including Single site license online)	M.I.T. PRESS	外国書
27	The Linguistic Review	Walter de Gruyter & Co.	外国書
28	Logic Journal of IGPL	Oxford University Press	外国書
29	The Mental Lexicon	JOHN BENJAMINS PUBLISHING CO	外国書
30	Multilingua	Walter de Gruyter & Co.	外国書
31	Phonetica	KARGER	外国書
32	Probus	Walter de Gruyter & Co.	外国書
33	Theoretical Linguistics	Walter de Gruyter & Co.	外国書
34	Translation Studies	Taylor & Francis (Routledge)	外国書
35	Language & Linguistics Compass	Wiley-Blackwell	電子ジャーナル
―	The Linguistic Review　(№27と同タイトル)	Walter de Gruyter & Co.	電子ジャーナル

【資料５】

教育実習受入承諾書

名城大学附属高等学校の教育実習受入承諾書を表に差し替える。

学校名	名城大学附属高等学校
所在地	名古屋市中村区新富町一丁目３番地１６
教育実習受入可能人数	８名（英語）

英語科・教育実習生受入可能状況（中学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

市区町村	学 校 名	学級数	生 徒 数				受入可能数	郵便番号	所 在 地	電話番号
			１年	２年	３年	計				
一 宮 市	北部（ほくぶ）	25	273	276	258	807		491-0037	貴船1丁目6番10号	0586-28-8751
	中部（ちゅうぶ）	26	281	288	295	864		491-0903	八幡4-1-111	0586-28-8752
	南部（なんぶ）	28	289	298	290	877		491-0871	浅野字土井ノ内1-1	0586-28-8753
	葉栗（はぐり）	17	178	180	199	557		491-0125	高田字清水100番地	0586-28-8754
	西成（にしなり）	16	173	152	165	490		491-0005	西大海道字柏木15	0586-28-8755
	丹陽（たんよう）	24	270	279	273	822		491-0826	丹陽町三ツ井字鬼ヶ島6番地	0586-28-8756
	浅井（あざい）	19	191	230	189	610		491-0103	浅井町前野字郷西145	0586-28-8757
	北方（きたがた）	10	97	110	99	306		493-8001	北方町北方字宮浦42	0586-28-8758
	大和（やまと）	21	198	264	224	686		491-0934	苅安賀上東出80番地	0586-28-8759
	今伊勢（いまいせ）	25	296	264	282	842		491-0057	今伊勢町宮後字郷中茶原52	0586-28-8760
	奥（おく）	17	182	163	156	501		491-0201	奥町字上平池55	0586-28-8761
	萩原（はぎわら）	18	183	165	167	515		491-0376	萩原町串作字河室浦1番地	0586-28-8762
	千秋（ちあき）	18	179	170	197	546		491-0804	千秋町佐野字高須2982	0586-28-8763
	西成東部（にしなりとうぶ）	12	96	115	123	334		491-0004	定水寺字五反田10	0586-28-8764
	大和南（やまとみなみ）	7	58	66	55	179		491-0925	大和町南高井字蓮原2番地1	0586-28-8765
	尾西第一（びさいだいいち）	28	283	325	314	922		494-0003	三条字宮西50番地	0586-28-8766
	尾西第二（びさいだいに）	14	119	130	123	372		494-0012	明地字油屋前30	0586-28-8767
	尾西第三（びさいだいさん）	17	186	194	161	541		494-0001	開明字村上54	0586-28-8768
	木曽川（きそがわ）	30	345	336	361	1,042		493-0005	木曽川町里小牧字北青木25	0586-28-8769
瀬 戸 市	水無瀬（みなせ）	20	209	174	188	571		489-0889	原山町1	0561-82-3098
	祖東（そとう）	7	61	62	73	196		489-0835	中山町1	0561-82-2244
	南山（みなみやま）	30	345	312	338	995		489-0981	ひまわり台5-1	0561-48-1212
	本山（もとやま）	5	29	49	61	139		489-0054	道泉町76-1	0561-82-2363
	幡山（はたやま）	18	217	180	177	574		489-0946	幡中町106	0561-82-4393
	品野（しなの）	10	92	85	91	268		480-1203	広之田町2-5	0561-41-0019
	光陵（こうりょう）	9	92	99	121	312		489-0886	萩山台9-244	0561-21-4660
	水野（みずの）	15	161	160	194	515		489-0004	日の出町34	0561-48-4698
春日井市	東部（とうぶ）	21	212	208	273	693		486-0851	篠木町6-1315-1	0568-81-2664
	中部（ちゅうぶ）	30	341	315	333	989		486-0834	王子町4	0568-81-2263
	西部（せいぶ）	30	345	342	351	1,038		486-0904	宮町字宮町175	0568-31-3227
	坂下（さかした）	14	144	146	151	441		480-0304	神屋町408	0568-88-0019
	高蔵寺（こうぞうじ）	22	238	259	231	728		487-0016	高蔵寺町北2-596	0568-51-0074
	藤山台（ふじやまだい）	12	96	111	100	307		487-0035	藤山台1-2	0568-91-3192
	知多（ちた）	17	172	177	176	525		486-0947	知多町4-64	0568-32-1727
	鷹来（たかき）	18	201	194	199	594		486-0804	鷹来町3316	0568-83-9897
	松原（まつばら）	21	201	244	208	653		486-0803	西山3-8-8	0568-83-9892

英語科・教育実習生受入可能状況（中学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

市区町村	学 校 名	学級数	生 徒 数				受入可能数	郵便番号	所 在 地	電話番号
			1年	2年	3年	計				
春日井市	高森台（たかもりだい）	13	126	112	137	375		487-0032	高森台8-6	0568-92-5050
	柏原（かしはら）	25	270	271	251	792		486-0913	柏原町5-375	0568-84-6921
	味美（あじよし）	10	89	97	84	270		486-0958	西本町2の1の1	0568-33-6800
	南城（みなみしろ）	26	313	285	265	863		486-0852	下市場町1-2-3	0568-81-4885
	石尾台（いしおだい）	14	130	148	132	410		487-0006	石尾台6-22	0568-92-2400
	岩成台（いわなりだい）	12	117	117	103	337		487-0033	岩成台8-2	0568-92-3331
犬山市	犬山（いぬやま）	21	223	213	241	677		484-0079	大字木津字宮前15	0568-61-2409
	城東（じょうとう）	18	200	200	190	590		484-0094	大字塔野地字田口洞39-101	0568-61-0501
	南部（なんぶ）	16	167	195	201	563		484-0888	大字羽黒新田字畑田1	0568-67-0030
	東部（とうぶ）	13	107	122	128	357		484-0806	羽黒朝日六丁目1番地	0568-67-7401
江南市	古知野（こちの）	27	275	364	274	913		483-8045	高屋町遠場148	0587-56-2369
	布袋（ほてい）	19	226	191	172	589		483-8157	北山町西7	0587-56-3063
	宮田（みやだ）	20	178	210	208	596		483-8383	後飛保町前川210	0587-55-1373
	北部（ほくぶ）	17	180	168	161	509		483-8074	村久野町平松245	0587-59-8347
	西部（せいぶ）	16	149	159	166	474		483-8258	上奈良町観音寺60番地	0587-55-8501
小牧市	小牧（こまき）	24	284	274	272	830		485-0046	堀の内4丁目30番地	0568-77-6321
	味岡（あじおか）	20	212	242	241	695		485-0828	大字小松寺366番地	0568-77-8245
	篠岡（しのおか）	10	93	70	94	257		485-0815	篠岡二丁目28番地	0568-79-8027
	北里（きたさと）	15	148	138	143	429		485-0051	下小針中島2丁目170番地	0568-73-3171
	応時（おうじ）	22	261	227	232	720		485-0832	応時一丁目130番地	0568-72-5207
	岩崎（いわざき）	15	146	143	158	447		485-0011	大字岩崎2588番地	0568-75-2081
	桃陵（とうりょう）	18	178	170	170	518		485-0813	桃ヶ丘二丁目1番地	0568-79-8987
	小牧西（こまきにし）	11	90	91	93	274		485-0077	大字西之島2200番地	0568-75-1451
	光ヶ丘（ひかりがおか）	11	95	114	114	323		485-0811	光ヶ丘三丁目52番地	0568-79-7377
稲沢市	稲沢（いなざわ）	14	120	136	138	394		492-8145	正明寺二丁目1番1号	0587-32-2168
	明治（めいじ）	14	115	138	123	376		492-8355	片原一色町小山1	0587-36-1323
	千代田（ちよだ）	7	69	80	79	228		492-8441	福島町比舎田17	0587-36-2202
	大里（おおさと）	14	120	110	128	358		492-8236	奥田寺切町69	0587-32-2036
	治郎丸（じろまる）	20	210	226	233	669		492-8121	治郎丸柳町1-1	0587-21-4233
	稲沢西（いなざわにし）	20	190	213	221	624		492-8217	稲沢町前田365-10	0587-23-1311
	大里東（おおさとひがし）	12	129	120	138	387		492-8181	日下部北町3-68	0587-23-2021
	祖父江（そぶえ）	18	198	196	198	592		495-0031	祖父江町上牧下川田456	0587-97-0149
	平和（へいわ）	12	131	129	150	410		490-1315	平和町平池七反田53	0567-46-0524
尾張旭市	旭（あさひ）	28	338	311	307	956		488-0818	向町2-4-2	0561-53-2910
	東（ひがし）	25	273	276	279	828		488-0051	下井町前の上1602	0561-54-6511
	西（にし）	22	244	229	256	729		488-0839	渋川町3-2-9	0561-54-1191

英語科・教育実習生受入可能状況（中学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

市区町村	学 校 名	学級数	生 徒 数				受入可能数	郵便番号	所 在 地	電話番号
			1年	2年	3年	計				
岩 倉 市	岩倉（いわくら）	25	258	285	288	831		482-0036	西市町竹之宮24	0587-37-1208
	南部（なんぶ）	15	119	136	169	424		482-0003	曽野町江毛1	0587-66-3181
豊 明 市	豊明（とよあけ）	21	212	251	231	694		470-1121	西川町横井4-1	0562-92-1321
	栄（さかえ）	21	226	196	223	645		470-1161	栄町殿ノ山50	0562-97-2648
	沓掛（くつかけ）	23	228	263	257	748		470-1101	沓掛町下山1	0562-93-3232
日 進 市	日進（にっしん）	21	232	219	208	659		470-0121	本郷町西原中通980番地1	0561-72-0020
	(青葉（あおば）)	4	8	7	6	21		470-0131	岩崎町竹の山149-164	0561-73-2207
	日進西（にっしんにし）	27	312	296	306	914		470-0132	梅森町向江1597	052-803-4178
	日進北（にっしんきた）	12	101	112	117	330		470-0136	竹の山四丁目502	0561-75-5335
	日進東（にっしんひがし）	21	234	223	233	690		470-0102	藤島町相山77	0561-73-1196
清 須 市	西枇杷島（にしびわじま）	14	128	130	130	388		452-0063	西枇杷島町七畝割3-1	052-501-1405
	清洲（きよす）	19	202	188	184	574		452-0931	一場695番地	052-400-2961
	新川（しんかわ）	16	162	141	166	469		452-0905	須ヶ口750	052-400-0531
	春日（はるひ）	10	72	86	92	250		452-0961	春日振形126番地	052-400-3174
北名古屋市	師勝（しかつ）	17	176	188	173	537		481-0014	井瀬木370	0568-21-0107
	訓原（くんばら）	13	140	132	118	390		481-0014	井瀬木狭場50	0568-23-5413
	熊野（くまの）	16	161	164	159	484		481-0006	熊之庄細長125	0568-22-5221
	西春（にしはる）	14	122	139	124	385		481-0033	西之保八龍50	0568-21-0130
	白木（しらき）	10	95	106	118	319		481-0043	沖村井島31	0568-22-7454
	天神（てんじん）	10	97	83	113	293		481-0039	法成寺丸瀬町88	0568-23-4311
長久手市	長久手（ながくて）	14	128	125	121	374		480-1103	岩作平子38	0561-62-0009
	南（みなみ）	20	230	205	199	634		480-1114	長配2丁目1901	0561-62-9191
	北（きた）	17	199	173	175	547		480-1181	東原80-1	0561-64-2366
愛知郡東郷町	東郷（とうごう）	14	175	152	142	469		470-0151	大字諸輪字北山126	0561-39-0152
	春木（はるき）	25	253	284	270	807		470-0162	大字春木字新池1番地	0561-38-4856
	諸輪（もろわ）	9	71	69	98	238		470-0151	諸輪後山60-65	0561-38-4333
西春日井郡豊山町	豊山（とよやま）	14	142	152	132	426		480-0202	豊場字前池39	0568-28-0021
丹羽郡大口町	大口（おおぐち）	23	228	244	252	724		480-0145	丸1-38	0587-95-3242
丹羽郡扶桑町	扶桑（ふそう）	19	179	210	201	590		480-0103	大字柏森字辻田670	0587-93-2569
	扶桑北（ふそうきた）	15	151	148	133	432		480-0102	大字高雄字福塚10	0587-93-6452
津 島 市	天王（てんのう）	16	146	151	170	467		496-0853	宮川町2-45	0567-28-2654
	藤浪（ふじなみ）	17	179	183	194	556		496-0047	西柳原町4-45	0567-26-2961
	神守（かもり）	18	172	178	202	552		496-0019	百島町観音坊32-1	0567-28-4054
	暁（あかつき）	16	142	175	154	471		496-0026	唐臼町囲外1	0567-31-3911

英語科・教育実習生受入可能状況（中学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

市区町村	学 校 名	学級数	生 徒 数				受入可能数	郵便番号	所 在 地	電話番号
			１年	２年	３年	計				
愛 西 市	永和（えいわ）	8	78	75	71	224		496-0924	善太新田町七草平111-1	0567-31-0015
	佐屋（さや）	25	239	280	305	824		496-0902	須依町東田面2	0567-28-3388
	立田（たつた）	8	85	73	72	230		496-0938	石田町宮東1	0567-25-2661
	八開（はちかい）	5	51	43	39	133		496-8044	江西町川原11	0567-37-0684
	佐織（さおり）	13	118	113	109	340		496-8011	諏訪町郷東167	0567-28-2543
	佐織西（さおりにし）	15	148	138	141	427		496-8015	草平町阿原86番地	0567-37-2030
弥 富 市	十四山（じゅうしやま）	7	46	43	60	149		490-1403	鳥ヶ地1-176	0567-52-0062
	弥富（やとみ）	19	210	223	191	624		498-0035	鎌島七丁目52番地2	0567-67-0319
	弥富北（やとみきた）	17	178	146	170	494		498-0007	鎌倉町62	0567-65-4151
あ ま 市	七宝（しっぽう）	17	159	187	169	515		497-0013	七宝町川部山王4	052-444-2051
	七宝北（しっぽうきた）	9	75	74	65	214		497-0002	遠島十坪117番地	052-441-7700
	美和（みわ）	22	249	238	217	704		490-1222	木田丁子ノ口1	052-444-1026
	甚目寺（じもくじ）	22	239	233	227	699		490-1111	甚目寺二伴田76番地	052-444-0074
	甚目寺南（じもくじみなみ）	20	229	169	205	603		490-1116	本郷字八尻6	052-443-1511
海 部 郡 大 治 町	大治（おおはる）	30	331	318	334	983		490-1137	堀之内半之返791	052-444-2026
海 部 郡 蟹 江 町	蟹江（かにえ）	19	194	199	199	592		497-0030	宝三丁目20番地	0567-95-2057
	蟹江北（かにえきた）	13	128	134	125	387		497-0036	須成西九丁目55-1	0567-96-1145
海 部 郡 飛 島 村	飛島（とびしま）	6	31	42	41	114		497-1434	大字松之郷3丁目21番地	0567-52-4001
中学校（英語科） 教育実習受入可能数計							**74**			

受入可能数は合計数のみ表記

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
あさひ がおか 旭丘	(全)普通・美術 (定夜)普通	27 4	361 34	361 21	361 19	0 15	(全) (定)	1,083 89		461-0032	名古屋市東区出来町3-6-15	052-721-5351
ずい りょう 瑞陵	(全)普通・食物 (定夜)普通	27 5	360 36	361 28	357 26	0 35	(全) (定)	1,078 125		467-0811	名古屋市瑞穂区北原町2-1	052-851-7141
めい わ 明和	(全)普通・音楽 (定夜)普通	27 5	360 80	363 33	358 36	0 22	(全) (定)	1,081 171		461-0011	名古屋市東区白壁2-32-6	052-961-2551
い しん 惟信	(全)普通	27	359	353	336	0		1,048		455-0823	名古屋市港区惟信町2-262	052-382-1355
しょういん 松蔭	(全)普通	27	360	358	359	0		1,077		453-0855	名古屋市中村区烏森町2-2	052-481-9471
しょう わ 昭和	(全)普通	28	400	363	358	0		1,121		467-8639	名古屋市瑞穂区玉水町1-18	052-831-6326
なごやにし 名古屋西	(全)普通 (定夜)普通	28 4	400 29	361 18	357 15	0 16	(全) (定)	1,118 78		451-8561	名古屋市西区天神山町4-7	052-522-2451
あつ た 熱田	(全)普通 (定夜)普通	25 4	361 42	318 19	321 18	0 12	(全) (定)	1,000 91		456-0054	名古屋市熱田区千年1-17-71	052-652-5858
なか むら 中村	(全)普通	27	361	365	348	0		1,074		453-0068	名古屋市中村区菊水町1-2-18	052-411-7760
ち ぐさ 千種	(全)普通・国際教養	27	367	364	360	0		1,091		465-8507	名古屋市名東区杜台2-206	052-771-2121
なん よう 南陽	(全)総合学	18	239	236	232	0		707		455-0861	名古屋市港区大西2-99	052-301-1973
もり やま 守山	(全)普通	14	200	175	156	0		531		463-8503	名古屋市守山区中志段味字元屋敷1267	052-736-3500
なる み 鳴海	(全)普通	27	363	359	343	0		1,065		458-0825	名古屋市緑区左京山801	052-623-3001
てん ぱく 天白	(全)普通	29	400	402	355	0		1,157		468-0006	名古屋市天白区植田東1-601	052-801-1145
なごやみなみ 名古屋南	(全)普通	27	362	352	353	0		1,067		457-0833	名古屋市南区東又兵ヱ町5-1-11	052-613-0001
きょくりょう 旭陵	(通)普通						(通)	1,716		461-8654	名古屋市東区出来町3-6-23	052-721-5371
あいちこうぎょう 愛知工業	(全)電子機械・電気・情報技術・建設・化学工業・デザイン (定夜)ものづくり・電子機械・建築	24 7	320 41	312 46	296 37	0 29	(全) (定)	928 153		462-0052	名古屋市北区福徳町広瀬島350-4	052-911-4421
めいなんこうぎょう 名南工業	(全)機械・電気・情報技術・化学工業 (定夜)機械	24 4	325 40	293 30	278 18	0 21	(全) (定)	896 109		457-0063	名古屋市南区阿原町1	052-822-0242
あいちしょうぎょう 愛知商業	(全)経理・事務・情報処理・国際ビジネス	21	280	276	275	0		831		461-0025	名古屋市東区徳川1-12-1	052-935-3480
みどりがおかしょうぎょう 緑丘商業	(全)総合ビジネス・経理・情報処理	21	281	251	243	0		775		463-8511	名古屋市守山区緑ヶ丘1008	052-791-8226
なかがわしょうぎょう 中川商業	(全)総合ビジネス・情報処理・国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ	21	276	263	263	0		802		454-0912	名古屋市中川区野田三丁目280番地	052-361-7457
せ と 瀬戸	(全)普通	21	282	276	266	0		824		489-0988	瀬戸市東山町1-5	0561-82-7710
せ と にし 瀬戸西	(全)普通	25	361	319	318	0		998		489-0875	瀬戸市緑町1-140	0561-84-7400
せときたそうごう 瀬戸北総合	(全)総合	18	243	221	214	0		678		489-0906	瀬戸市本郷町260	0561-48-1500

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
せと ようぎょう 瀬戸窯業	(全)ｾﾗﾐｯｸ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ・電子機械・商業 (専攻)ｾﾗﾐｯｸ陶芸 (定夜)商業	15 4	200 32	186 9	188 8	0 11	(全) (専) (定)	574 21 60		489-0883	瀬戸市東権現町22-1	0561-82-2003
かす が い 春日井	(全)普通 (定夜)普通	25 4	360 43	318 28	317 17	0 16	(全) (定)	995 104		486-0844	春日井市鳥居松町1-55	0568-81-2251
かすがいにし 春日井西	(全)普通	21	280	276	272	0		828		486-0808	春日井市田楽町1320番地	0568-32-9631
かすがいひがし 春日井東	(全)普通	19	277	238	236	0		751		487-0031	春日井市廻間町字神屋洞703-73	0568-88-4801
こう ぞう じ 高蔵寺	(全)普通	26	360	357	319	0		1,036		487-0035	春日井市藤山台1-3-2	0568-92-9000
かすがいみなみ 春日井南	(全)普通	23	321	316	278	0		915		486-0918	春日井市如意申町三丁目5-1	0568-32-7688
かすがいこうぎょう 春日井工業	(全)機械・電子機械・電気・電子工学	21	280	275	260	0		815		486-0822	春日井市熊野町五反田1180-1	0568-84-1115
かすがいしょうぎょう 春日井商業	(全)国際ビジネス・情報会計・情報処理	18	239	239	227	0		705		486-0812	春日井市大泉寺町1059-1	0568-81-1885
あさひの 旭野	(全)普通	28	400	358	361	0		1,119		488-0830	尾張旭市東印場町3丁目4番地1	0561-53-5200
とよ あけ 豊明	(全)普通	24	321	315	320	0		956		470-1101	豊明市沓掛町海老池10	0562-93-1166
にっ しん 日進	(全)普通	12	159	124	125	0		408		470-0111	日進市米野木三ヶ峯4-18	0561-73-6221
にっ しん にし 日進西	(全)普通	24	320	315	314	0		949		470-0124	日進市浅田町上小深田8-4	052-804-2131
なが く て 長久手	(全)普通	24	320	318	317	0		955		480-1103	長久手市岩作高山38-1	0561-62-0016
とう ごう 東郷	(全)普通	19	280	231	232	0		743		470-0162	東郷町大字春木字狐塚3801-2	0561-39-1515
いちの みや 一宮	(全)普通・ファッション創造 (定夜)普通	27 6	361 82	361 56	361 31	0 22	(全) (定)	1,083 191		491-8533	一宮市北園通六丁目九番地	0586-72-0191
いちのみや にし 一宮西	(全)普通	27	360	360	354	0		1,074		491-0376	一宮市萩原町串作字河田１	0586-68-1191
いちのみや きた 一宮北	(全)普通	18	240	238	234	0		712		491-0131	一宮市笹野字氏神東1番地	0586-51-1171
いちのみや みなみ 一宮南	(全)普通	24	320	321	315	0		956		491-0813	一宮市千秋町町屋字平松6の1	0586-76-1400
いちのみやこうどう 一宮興道	(全)普通	26	320	358	351	0		1,029		491-0924	一宮市大和町於保字十二1番地の1	0586-46-0221
いちのみやこうぎょう 一宮工業	(全)機械・電気・建築・土木	18	239	238	233	0		710		491-0804	一宮市千秋町佐野字辻田2112	0586-76-2255
いちのみやしょうぎょう 一宮商業	(全)国際ビジネス・経理・情報処理	18	240	238	232	0		710		491-0041	一宮市文京2-1-7	0586-73-7191
き そ がわ 木曽川	(全)普通・商業	21	280	277	278	0		835		494-0001	一宮市開明樋西11-1	0586-62-6155
びさい 尾西	(全)普通	12	159	150	127	0		436		494-0014	一宮市上祖父江字小稲葉18	0586-69-6161
おこしこうぎょう 起工業	(全)機械・電子機械・電子工学・化学工業・ﾃﾞｻﾞｲﾝ (定昼)普通	15 7	200 81	198 72	170 71	0 13	(全) (定)	568 237		494-0007	一宮市小信中島字郷南2	0586-61-1188
つ しま 津島	(全)普通 (定夜)普通	26 4	360 41	323 27	352 24	0 19	(全) (定)	1,035 111		496-0853	津島市宮川町3-80	0567-28-4158
つ しま きた 津島北	(全)普通・商業	21	268	269	279	0		816		496-0819	津島市又吉町4-1	0567-28-3414
つ しま ひがし 津島東	(全)普通	21	281	278	279	0		838		496-0004	津島市蛭間町字弁日1	0567-24-6001
いぬ やま 犬山	(全)普通・商業 (定夜)普通	19 4	280 41	238 17	232 25	0 15	(全) (定)	750 98		484-0081	犬山市大字犬山字北首塚2	0568-61-0236

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
いぬやま みなみ 犬山南	(全)普通	18	240	229	206	0		675		484-0835	犬山市字蓮池2-21	0568-67-5211
びほく 尾北	(全)普通・英語 国際教養	21	281	278	273	0		832		483-8157	江南市北山町西4	0587-56-3038
こうなん 江南	(全)普通	25	361	318	314	0		993		483-8177	江南市北野町川石25-2	0587-56-3511
こちの 古知野	(全)商業・情報処理 ・生活文化・福祉 (定夜)普通	18 4	239 37	235 22	229 15	0 8	(全) (定)	703 82		483-8331	江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508
こまき 小牧	(全)普通 (定夜)普通	19 4	280 41	239 26	237 25	0 21	(全) (定)	756 113		485-0041	小牧市小牧1-321	0568-77-1231
こまき みなみ 小牧南	(全)普通	24	320	316	317	0		953		485-0059	小牧市小木東2-183	0568-73-1911
こまきこうぎょう 小牧工業	(全)機械・自動車 ・電気・情報技術 ・化学工業	17	241	223	185	0		649		485-0003	小牧市大字久保一色3737-1	0568-77-6275
いなざわ ひがし 稲沢東	(全)普通	15	201	191	181	0		573		492-8214	稲沢市大塚南6-33	0587-21-2631
いなざわ 稲沢	(全)園芸・農業土木 ・環境デザイン ・生活科学	15	200	196	184	0		580		492-8264	稲沢市平野町加世11	0587-32-3168
きょうわ 杏和	(全)総合学	18	240	236	229	0		705		495-8505	稲沢市祖父江町二俣宮西1番1	0587-97-1311
いわくらそうごう 岩倉総合	(全)総合学	18	240	240	238	0		718		482-8555	岩倉市北島町川田1番地	0587-37-4141
さや 佐屋	(全)園芸科学・生物 生産・生活文化 ・生活情報	16	240	194	189	0		623		496-0914	愛西市東條町高田39	0567-31-0579
さおりこうぎょう 佐織工業	(全)機械・建築・ 電子機械・ 電子工学	15	200	188	188	0		576		496-8018	愛西市渕高町蔭島1	0567-37-1288
にし はる 西春	(全)普通	27	361	359	361	0		1,081		481-0032	北名古屋市弥勒寺西2-1	0568-23-6166
しん かわ 新川	(全)普通	24	321	320	315	0		956		452-0901	清洲市阿原北野18	052-400-1108
に わ 丹羽	(全)普通	24	320	320	316	0		956		480-0102	扶桑町大字高雄字柳前95	0587-93-7575
み わ 美和	(全)普通	19	280	239	235	0		754		490-1295	あま市篠田五ツ藤1	052-443-1700
ごじょう 五条	(全)普通	27	362	356	356	0		1,074		490-1104	あま市西今宿阿弥陀寺56	052-442-1515
かいしょう 海翔	(全)普通・福祉	15	202	147	171	0		520		490-1401	弥富市六條町大崎22	0567-52-3061
はんだ 半田	(全)普通	24	320	323	318	0		961		475-0903	半田市出口町1-30	0569-21-0272
はんだ ひがし 半田東	(全)普通	22	321	278	275	0		874		475-0016	半田市西生見町30	0569-29-1122
はんだこうぎょう 半田工業	(全)電子機械・電気 ・土木・建築	18	240	239	229	0		708		475-0916	半田市柊町3-1	0569-21-2164
はんだのうぎょう 半田農業	(全)農業園芸・生物工学 ・食品科学 ・生活科学	15	200	194	189	0		583		475-0916	半田市柊町1-1	0569-21-0247
はんだしょうぎょう 半田商業	(全)経理・情報処理 ・総合ビジネス (定夜)商業	18 5	240 71	235 36	229 30	0 32	(全) (定)	704 169		475-0912	半田市白山町2-30	0569-21-0251
とこなめ 常滑	(全)普通・ ｾﾗﾐｯｸｱｰﾂ・ ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	24	322	312	313	0		947		479-0003	常滑市金山字四井池10番地	0569-43-1151
よこすか 横須賀	(全)普通 (定夜)普通	24 4	320 37	322 27	318 25	0 19	(全) (定)	960 108		477-0037	東海市高横須賀町広脇1番地	0562-32-1278
とうかいみなみ 東海南	(全)普通	24	322	317	322	0		961		477-0032	東海市加木屋町社山55番地	0562-34-3811
とうかいしょうぎょう 東海商業	(全)情報・ 総合ビジネス	23	320	316	276	0		912		477-0031	東海市大田町曽根1	0562-32-5158
おおぶ 大府	(全)普通・ 生活文化 (定夜)普通	25 4	360 43	316 31	315 15	0 20	(全) (定)	991 109		474-0036	大府市月見町6-180	0562-46-5101

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
大府東（おおぶひがし）	(全)普通	18	240	212	230	0		682		474-0011	大府市横根町膝折1-4	0562-48-5811
桃陵（とうりょう）	(全)衛生看護・ヒューマンケア (専攻)衛生看護	6	80	80	78	0	(全) (専)	238 81		474-0025	大府市中央町5-15	0562-46-5351
知多翔洋（ちたしょうよう）	(全)総合学	21	281	274	257	0		812		478-0001	知多市八幡字堂ヶ島50-1	0562-33-2100
阿久比（あぐい）	(全)普通	22	320	279	270	0		869		470-2213	阿久比町大字阿久比字尾社2-1	0569-48-7111
東浦（ひがしうら）	(全)普通	15	199	193	174	0		566		470-2104	東浦町大字生路字冨士塚20	0562-83-0111
内海（うつみ）	(全)普通	9	120	89	96	0		305		470-3321	南知多町大字内海字奥鈴ヶ谷1-1	0569-62-0139
武豊（たけとよ）	(全)普通	20	280	250	228	0		758		470-2366	武豊町ﾗﾗｶﾞｹ8	0569-72-0706
岡崎（おかざき）	(全)普通 (定夜)普通	28 4	403 33	359 33	362 17	0 21	(全) (定)	1,124 104		444-0864	岡崎市明大寺町伝馬1	0564-51-0202
岡崎北（おかざききた）	(全)普通	27	361	361	361	0		1,083		444-0079	岡崎市石神町17-1	0564-22-2536
岡崎東（おかざきひがし）	(全)総合	18	240	239	237	0		716		444-3524	岡崎市竜泉寺町後山27	0564-52-8911
岡崎西（おかざきにし）	(全)普通	30	400	398	395	0		1,193		444-0915	岡崎市日名南町7番地	0564-25-0751
岩津（いわづ）	(全)普通・生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ・調理国際	18	240	231	209	0		680		444-2146	岡崎市東蔵前町馬場5	0564-45-2005
岡崎工業（おかざきこうぎょう）	(全)機械・電気・情報技術・土木・機械ﾃﾞｻﾞｲﾝ・化学工業 (定夜)機械	22 4	321 40	275 31	267 24	0 18	(全) (定)	863 113		444-8555	岡崎市羽根町字陣場47	0564-51-1646
岡崎商業（おかざきしょうぎょう）	(全)総合ビジネス・情報処理･情報会計・国際ビジネス	24	320	319	315	0		954		444-0012	岡崎市栄町3-76	0564-21-3599
碧南（へきなん）	(全)普通・商業 (定夜)普通	24 4	320 36	319 29	315 24	0 18	(全) (定)	954 107		447-0871	碧南市向陽町4－12	0566-41-2564
碧南工業（へきなんこうぎょう）	(全)機械・電子工学・建築・環境工学	18	240	236	234	0		710		447-0066	碧南市丸山町3-10	0566-42-2500
刈谷（かりや）	(全)普通	28	401	362	356	0		1,119		448-8504	刈谷市寿町5-101	0566-21-3171
刈谷北（かりやきた）	(全)普通	28	400	361	361	0		1,122		448-0846	刈谷市寺横町1-67	0566-21-5107
刈谷東（かりやひがし）	(定夜)機械 (定昼)普通 (通)普通	19	239	209	223	29	(定) (通)	700 1,283		448-8653	刈谷市半城土町三ツ又20	0566-21-3347
刈谷工業（かりやこうぎょう）	(全)機械・自動車・電気	21	280	280	268	0		828		448-0035	刈谷市矢場町2-210	0566-21-2227
豊田西（とよたにし）	(全)普通 (定夜)普通	25 4	360 33	325 17	320 22	0 23	(全) (定)	1,005 95		471-0035	豊田市小坂町14-65	0565-31-0313
豊田東（とよたひがし）	(全)総合	18	240	239	239	0		718		471-0811	豊田市御立町11-1	0565-80-1177
衣台（ころもだい）	(全)普通	19	263	224	201	0		688		471-0057	豊田市太平町平山5	0565-33-1080
豊田北（とよたきた）	(全)普通	27	360	354	356	0		1,070		471-0016	豊田市千石町2-100-1	0565-80-5111
豊田南（とよたみなみ）	(全)普通	27	360	355	351	0		1,066		473-0915	豊田市若林東町中外根1-1	0565-53-1011
豊田（とよた）	(全)普通	26	357	318	344	0		1,019		470-0374	豊田市伊保町三本松1	0565-45-8622
豊野（ゆたかの）	(全)普通	27	361	348	349	0		1,058		470-1202	豊田市渡刈町3-3-1	0565-28-8800
豊田工業（とよたこうぎょう）	(全)機械・電子機械・自動車・電子工学 (定夜)機械	18 4	240 34	240 20	235 14	0 14	(全) (定)	715 82		473-0913	豊田市竹元町南細畔3番地	0565-52-4311

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
さなげのうりん 猿投農林	(全)農業・林産工芸・環境デザイン・生活科学	13	199	159	152	0		510		470-0372	豊田市井上町12-179	0565-45-0621
まつ だいら 松平	(全)普通・生活情報	15	200	198	190	0		588		444-2204	豊田市鵜ヶ瀬町桐山1	0565-58-1144
か も がおか 加茂丘	(全)普通	9	87	103	83	0		273		470-0451	豊田市藤岡飯野町太田代1137-30	0565-76-2241
あ すけ 足助	(全)普通	9	122	106	106	0		334		444-2451	豊田市岩神町川原5	0565-62-1661
あん じょう 安城	(全)普通・生活文化 (定夜)普通	24 4	320 40	319 26	312 18	0 25	(全) (定)	951 109		446-0046	安城市赤松町大北103	0566-76-6218
あん じょう ひがし 安城東	(全)普通	25	360	321	317	0		998		446-0011	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231
あん じょう みなみ 安城南	(全)普通	26	361	350	304	0		1,015		444-1154	安城市桜井町門原1	0566-99-2000
あんじょうのうりん 安城農林	(全)農業・園芸・生物工学・動物科学・森林環境・食品科学	21	280	276	271	0		827		446-0066	安城市池浦町茶筅木1番地	0566-76-6144
にし お 西尾	(全)普通	27	360	361	357	0		1,078		445-0803	西尾市桜町奥新田2-2	0563-57-2270
にし お ひがし 西尾東	(全)普通	24	320	319	314	0		953		445-0006	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911
かくじょうがおか 鶴城丘	(全)総合学	18	240	239	238	0		717		445-0847	西尾市亀沢町300	0563-57-5165
ち りゅう 知立	(全)普通・商業・情報処理	24	320	318	317	0		955		472-8585	知立市弘法二丁目5番地8	0566-81-0319
ち りゅう ひがし 知立東	(全)普通	29	401	397	361	0		1,159		472-8639	知立市長篠町大山18-6	0566-82-0568
たか はま 高浜	(全)普通・福祉	18	240	230	227	0		697		444-1311	高浜市本郷町1-6-1	0566-52-2100
いっしき 一色	(全)普通・生活デザイン (定夜)普通	18 4	243 30	227 18	221 30	0 26	(全) (定)	691 104		444-0496	西尾市一色町赤羽上郷中14	0563-72-8165
きら 吉良	(全)普通・生活文化	18	242	229	231	0		702		444-0514	西尾市吉良町白浜新田南切1番地4	0563-32-2231
こう た 幸田	(全)普通	18	240	235	227	0		702		444-0111	幸田町大字高力字神山78	0564-62-1445
みよし 三好	(全)普通・スポーツ科学	24	320	316	299	0		935		470-0224	みよし市三好町東山110-1	0561-34-4881
じしゅうかん 時習館	(全)普通	24	322	323	314	0		959		441-8064	豊橋市富本町	0532-45-3171
とよ はし ひがし 豊橋東	(全)普通	25	360	320	315	0		995		440-0864	豊橋市向山町西猿22	0532-61-3146
ゆたかがおか 豊丘	(全)普通・生活文化	24	320	320	320	0		960		440-0034	豊橋市豊岡町74	0532-62-3281
とよ はし みなみ 豊橋南	(全)普通・生活デザイン	24	321	317	310	0		948		441-8132	豊橋市南大清水町字元町450番地	0532-25-1476
とよ はし にし 豊橋西	(全)普通	21	260	277	273	0		810		441-8087	豊橋市牟呂町西明治新右前4	0532-31-8800
とよはしこうぎょう 豊橋工業	(全)機械・電気・電子工学・建築・土木・電子機械 (定夜)機械	21 4	284 42	275 40	259 22	0 24	(全) (定)	818 128		441-8141	豊橋市草間町官有地	0532-45-5635
とよはししょうぎょう 豊橋商業	(全)総合ビジネス・経理・情報処理・国際ビジネス	21	282	278	275	0		835		440-0864	豊橋市向山町官有地	0532-52-2256
こう 国府	(全)普通・商業	24	319	318	310	0		947		442-8586	豊川市国府町下坊入10の1	0533-87-3141
とよかわこうぎょう 豊川工業	(全)機械・電気・電子機械・情報システム	18	240	236	229	0		705		442-8573	豊川市新道町1-3	0533-85-4425
がま ごおり 蒲郡	(全)総合 (定夜)普通	18 4	240 40	238 35	241 28	0 14	(全) (定)	719 117		443-0058	蒲郡市上本町8-9	0533-68-2074
がま ごおり ひがし 蒲郡東	(全)普通	18	240	231	223	0		694		443-0013	蒲郡市大塚町上千尾12-2	0533-59-8621

英語科・教育実習生受入可能状況（高等学校）

※平成27年度教育実習受入報告より

学校名	課程・学科	学級数	生徒数 1年	2年	3年	4年		計	受入可能数	郵便番号	所在地	電話番号
みやすいさん 三谷水産	(全)海洋科学・情報通信・海洋資源・水産食品 (専攻)海洋技術	12	160	153	145	0	(全) (専)	458 30		443-0021	蒲郡市三谷町水神町通り二番地一	0533-69-2265
しんしろひがし 新城東	(全)普通	13	160	193	157	0		510		441-1301	新城市矢部字広見100	0536-22-2725
しんしろひがし 新城東 つくでこうしゃ (作手校舎)	(全)人と自然	3	42	27	26	0		95		441-1423	新城市作手高里字木戸口1-2	0536-37-2119
しんしろ 新城	(全)生物生産・園芸科学・環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ・情報会計・生活創造	15	200	189	176	0		565		441-1328	新城市桜渕中野合併地	0536-22-1176
たぐち 田口	(全)普通・林業	6	55	53	48	0		156		441-2302	設楽町清崎字林ノ後5-2	0536-62-0575
ほうりょう 宝陵	(全)衛生看護・福祉 (専攻)衛生看護	6	80	79	69	0	(全) (専)	228 77		441-1205	豊川市大木町鑓水445	0533-93-2041
こざかい 小坂井	(全)普通	24	320	320	317	0		957		441-0103	豊川市小坂井町欠田100-1	0533-72-2211
みと 御津	(全)普通・英語国際教養	15	202	199	177	0		578		441-0322	豊川市御津町豊沢字松ノ下1	0533-75-4155
せいしょう 成章	(全)普通・商業・生活文化	23	280	306	293	0		879		441-3421	田原市田原町池ノ原1	0531-22-0141
あつみのうぎょう 渥美農業	(全)農業・施設園芸・食品科学・生活科学	12	160	160	155	0		475		441-3427	田原市加治町奥恩中1-1	0531-22-0406
ふくえ 福江	(全)普通	9	108	104	86	0		298		441-3613	田原市古田町岡ノ越6	0531-32-0132
高等学校(英語科) 教育実習受入可能数計									**155**			

受入可能数は合計数のみ表記

【資料６】

留学受入承諾書

各大学の留学受入承諾書を一覧表に差し替える。

■セメスター留学

研修先大学	所在地		受入可能人数
ソノマ州立大学	アメリカ	カリフォルニア州、Rohnert Park	10 名
マレー州立大学		ケンタッキー州、Murray	20 名
ノースフロリダ大学		フロリダ州、Jacksonville	20 名
メリルハースト大学		オレゴン州、Marylhurst	20 名
ディクシー州立大学		ユタ州、St George	20 名
ルイスクラーク州立大学		アイダホ州、Lewiston	20 名
カルガリー大学	カナダ	アルバータ州、Calgary	20 名
レスブリッジ大学		アルバータ州、Lethbridge	20 名
ウィニペグ大学		マニトバ州、Winipeg	20 名
ブロック大学		オンタリオ州、St. Catharines	20 名
ｸｨｰﾝｽﾞﾗﾝﾄﾞ工科大学	オーストラリア	クィーンズランド州、Brisbane	20 名
ディーキン大学		ビクトリア州、Burwood	20 名
ニューカッスル大学		ニューサウスウェールズ州、Newcastle	20 名
合計			250 名

大学からの公表情報　　【資料 7】

～Report for the Public～　における公開情報の概要

▶ 基本情報

大学の基本組織、現在の学生数等の基本情報をご覧いただけます。

大学組織

理念・立学の精神
組織機構図
役員一覧
所在地・キャンパスマップ
交通アクセス

学生データ

入学定員/入学者数/編入学者数
収容定員/在籍者数/収容定員充足率
入学者推移
社会人学生数
外国人留学生数
海外派遣学生数
卒業者数/修了者数
学位授与数

▶ 教育情報

学部・研究科の目的、教育課程の概要、学びの成果等に関する基本方針をご覧いただけます。

学部
大学院
教職課程
シラバス

▶ 教員・研究情報

教員組織、教員の教育研究諸活動をご覧いただけます。

教員数
教員情報データベース

▶ 学生生活

キャンパスの概要、大学での学びを支える奨学制度の情報をご覧いただけます。

学生支援組織
学費
経済的支援
課外活動
運動施設の概要

▶ 就職・進学情報

卒業後の進路に関する情報をご覧いただけます。

学部・研究科（大学院）別　就職実績
主な就職先
就職支援組織

▶ 国際交流

海外の大学との交流、外国人留学生の学びに関する情報をご覧いただけます。

海外協定校
外国人留学生の受け入れ
在学中のサポート
卒業後のネットワーク
国際交流支援組織

▶ 経営情報

大学の財務情報、事業計画、事業報告をご覧いただけます。

事業計画・報告
財務報告
学校法人名城大学の基本戦略(MS-15)

学生の確保の見通し等を記載した書類

設置学部の学生の確保の見通し及び社会的な人材需要の見通し

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

・定員設定の考え方

本学が新設を計画している外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる人材の養成を目的としている。そのような人材が第一に備えるべき能力として、グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を掲げている。高い英語力を身につけるためには、少人数での教育が不可欠であること、また、質の高い教育を行うためには、個々の学生にきめ細かく対応できる体制を整えることが必要であること、さらに、定員確保に慎重を期す必要があること、との考えに基づき、入学定員(収容定員)は、本学学部の中で、最も小規模な、入学定員130名（収容定員520名）とした。

・定員充足の見込み

新設学部の入学定員充足の見込みは、以下の4つの観点に基づいた分析により、導き出される。

1) 新設学部設置予定年度（平成28年度）における志願者確保に関する検証

2) 新設学部への長期的・安定的な志願者確保に関する検証

3) 新設学部への地域における志願者確保に関する検証

4) 本学既設学部における志願状況に基づいた新設学部への志願者確保に関する検証

また、根拠資料として、以下を用いる。

・第三者による受験対象者への進学意向調査結果

・全国の外国語学部志願者数の動向[出典：私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）]

・本学が所在する愛知県の志願者数の動向及び入学定員充足率[出典：私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）]

・本学既設学部への志願者の出身地域

・本学既設学部の志願者数の状況

・近隣外国語系学部の志願者数の動向[出典：旺文社　蛍雪時代]

・本学が所在する愛知県の高校生の志願動向[出典：学校基本調査]

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1）新設学部設置予定年度（平成28年度）における志願者確保に関する検証

新設学部設置予定年度（平成 28 年度）において、入学定員を超える志願者の確保について検証を行うため、平成 26 年度高校 2 年生(新設学部設置予定時に大学 1 年生になる生徒）に対して、進学の意向を調査するアンケート調査を実施した。客観性を担保するため、第三者機関（一般財団法人日本開発構想研究所）による調査とした。

■アンケート調査概要

項目	内容
実施アンケート	名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）に関するアンケート調査票
調査対象	愛知県、岐阜県、三重県に所在する高校の平成 26 年度高校２年生
調査実施時期	平成 26 年 10 月～11 月
回収状況	合計 120 の高等学校にアンケート調査票を配付､108 校から合計 13,715 票の有効回答表を回収 回収率：90.0％（回答高校数 108 校÷実施高校数 120 校）
調査方法	各高等学校に調査票を訪問又は郵送により配付・回収

詳細なアンケート調査結果報告書は【資料 1】のとおりである。

アンケート調査票【資料 1】p9,10 には、設置予定学部学科の名称、設置予定時期、設置予定場所（アクセス)、入学定員、学生納付金（入学金、授業料等)、設置の理念、養成する人物像、競合する大学・学部・学科等の名称を明示した。また、アンケート調査実施時に回答者に対して、外国語学部国際英語学科の養成する人材像や教育の特色を記載したリーフレット【資料 1】p11～16 を示した。

なお、本学既設学部への志願者の約 90％が東海 3 県（愛知県、岐阜県、三重県）に所在する高校出身であるため、アンケート調査は同 3 県に所在する高校で実施した。

■本学既設学部の志願者の出身校の所在地を県別(東海 3 県)に示した表　　（単位:％）

県 入学年度	愛知県	岐阜県	三重県	合計
平成 23 年度	65.7	14.6	9.7	90.0
平成 24 年度	66.1	14.3	9.8	90.2
平成 25 年度	66.8	14.1	8.9	89.8
平成 26 年度	67.5	13.1	8.4	89.0
平成 27 年度	67.2	13.3	8.2	88.7

高校卒業後の進路として、「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を選択した生徒の中で、「本学外国語学部国際英語学科（以下、高校生アンケート調査結果分析においては、本学新設学部と表記）への進学を希望する」と回答した生徒は 368 人である。また、「本学新設学部を進学先の候補のひとつとして希望する」と回答した生徒は 2,286 人である。また、高校卒業後の進路として「大学進学」を選択した生徒に限定した場合においても、「本学新設学部への進学を希望する」と回答した生徒は 337 人、また、「本学新設学部を進学先の候補のひとつとして希望する」と回答した生徒は 2,140 人である。

「本学新設学部への進学を希望する」と回答した生徒は、実際に本学新設学部を志願し合格すれば、入学する可能性が十分見込まれる層と考えられる。また、「本学新設学部を進学先の候補のひとつとして希望する」と回答した生徒は、本学新設学部を志願する可能性は高いものの、併願大学の入試結果によって、本学新設学部への入学の意思決定を行う層と考えられる。従って、本学新設学部の入学定員は、130 名であるので、厳しく見積もって、高校卒業後の進路として「大学進学」を選択した生徒うち、「本学新設学部への進学を希望する」を選択した生徒に限定しても、入学定員の 2.59 倍の志願者が期待される。

また、高校卒業後の進路として、「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を選択した生徒の中で、「本学新設学部への進学を希望する(368 人)」、「本学新設学部を進学先の候補のひとつとして希望する(2,286 人)」を選択した生徒まで対象を広げれば、入学定員 130 名の 20.4 倍の生徒(2,654 人)が本学外国語学部国際英語学科への高い進学の意向を示しているといえる。本調査は、本学が外国語学部の設置を予定している平成 28 年 4 月に大学 1 年生となる平成 26 年度高校 2 年生に対して、実施したものであるので、平成 28 年度単年度ベースでは、十分に入学定員を超える志願者を確保できると考えられる。

■名城大学外国語学部国際英語学科への進学希望調査結果概要　　（単位：人）
（高校卒業後の進路を「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」のいずれかを選択した者）

入学定員	本学新設学部へ進学を希望する	本学新設学部を進学先の候補のひとつとして希望する
130	368	2,286

選択肢	人数	大学進学	短期大学進学	専門学校進学
1.進学を希望する	368	337	10	21
2.進学先の候補のひとつとして希望する	2,286	2,140	64	82
小　計（1+2）	2,654	2,477	74	103
3.進学を希望しない	10,255	7,980	762	1,513
その他	46	28	4	14
総　計	12,955	10,485	840	1,630

2）新設学部への長期的・安定的な志願者確保に関する検証

新設学部への志願者の動向を長期的、安定的に確保できる見込みについて検証を行う。「私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）」によると、全国の大学の外国語学部への志願者数は着実に増加している。また、入学定員充足率も安定している。このことから、外国語学部に対する高校生の需要は長期的、安定的に見込まれると考えられる。

■全国の外国語学部志願者数・入学定員充足率の推移

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
志願者（人）	60,527	60,599	65,062	78,682
入学定員充足率（%）	110.55	109.19	110.36	107.37

出典：私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）

3）新設学部への地域における志願者確保に関する検証

新設学部への志願者の動向を地域的なニーズに基づき確保できる見込みについて検証を行う。「私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）」によると、本学が所在する愛知県では、志願者数は年々増加している。また、入学定員充足率は安定している。さらに、愛知県の高校生は、地元志向が高く、愛知県に所在する高校出身者の70%以上が、愛知県に所在する大学へ進学をすることから、愛知県に所在する外国語系学部の志願者数の推移を検討することが妥当である。下記のとおり、愛知県に所在する外国語系学部の志願者は増加傾向である。これらのデータから、本学が所在する愛知県において、外国語系学部への志願者は安定的に確保できると考えられる。

■愛知県における志願者数・入学定員充足率の推移

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
志願者（人）	213,622	217,517	247,087	257,265
入学定員充足率（%）	107.04	104.49	107.18	103.53

出典　私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）

■愛知県に所在する主な外国語系学部の志願者数の推移　（単位：人）

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
南山大学外国語学部	3,901	3,861	4,345	3,958
名古屋外国語大学外国語学部	3,752	4,367	4,004	9,273
愛知大学国際コミュニケーション学部	1,987	2,733	2,257	2,769
中京大学国際英語学部	1,592	2,341	2,329	2,455
合計	11,232	13,302	12,935	18,455

出典　旺文社　蛍雪時代

■愛知県の高校生の進学先地域に関するデータ

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
愛知県に所在する高校出身の大学生数(人)	35,925	36,480	37,572	37,069
愛知県に所在する大学に進学した愛知県に所在する高校出身の大学生数(人)	26,164	25,983	27,069	26,164
愛知県に所在する高校出身者が、愛知県に所在する大学に進学する割合(%)	72.8	71.2	72.0	70.6

出典　学校基本調査

4) 本学既設学部における志願状況からの新設学部への志願者確保に関する検証

本学は、法学部、経営学部、経済学部、理工学部、農学部、薬学部、都市情報学部、人間学部の 8 学部を有する。既設学部全体の平成 22 年度から平成 27 年度までの志願者は、安定して増加傾向にあり、入学定員も充足されている。また、志願者全体に占める愛知県に所在する高校出身者の割合は 65%を超えている。

これらのことから、本学が設置を計画している外国語学部に対しても、愛知県を中心に十分な志願者を確保できると考えられる。

■本学既設学部の志願者等の状況

項目	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
志願者(人)	29,405	28,989	26,272	30,656	33,599	35,150
受験者(人)	28,351	27,971	25,270	29,570	32,417	33,821
合格者(人)	9,953	10,399	11,209	11,413	11,815	11,993
入学者(人)	3,442	3,449	3,465	3,572	3,436	3,501
定員超過率(%)	109	109	110	113	109	111

■本学既設学部の志願者の出身高校の所在地に関する状況

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
愛知県に所在する高校からの志願者数(人)	19,044	17,376	20,471	22,688	23,611
愛知県に所在する高校からの志願者の割合(%)	65.7	66.1	66.8	67.5	67.2

学生確保に関する上記の検証の結果、「学部設置予定時の志願者確保の観点」、「長期的・安定的志願者確保の観点」、「地域的な志願者確保の観点」、「既設学部における実績に基づく志願者確保の観点」のすべてから、平成28年4月設置予定の外国語学部国際英語学科に対して、入学定員130名を超える志願者が長期的、安定的に十分確保できるものと考える。

ウ　学生納付金の設定の考え方

本学外国語学部の学生納付金は下記表のとおり4年間総額で4,960,000円である。近隣競合大学に比較して、学生納付金は高めの設定となっている。理由は、学生21.6名あたり1名の専任教員（収容定員：520名、専任教員数 24名）を配置し少人数での教育を行うこと、新設キャンパスに外国語学部を設置すること、留学希望者全員に留学費用の一部支援を計画していることである。高校生へのアンケートにおいて、4年間に必要な学生納付金を明示して調査を行ったが、進学を希望するとの回答は入学定員を十分に超える数であったことから、教育の質の確保の観点を考慮すれば、学生納付金は妥当な金額と考える。

■学生納付金　(単位：円)

大学・学部・学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設費等	4年間総額	備考
名城大学				施設費		
外国語学部	1	200,000	940,000	250,000	4,960,000	
国際英語学科	2-4		940,000	250,000		

■愛知県に所在する主な外国語系学部の学生納付金

平成 26 年度入学者　　（単位：円）

大学・学部・学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設費等	4 年間総額	備考
名古屋外国語大学 外国語学部 英米語学科	1 2 3・4	200,000	765,000 765,000 775,000	教育充実費 380,000 380,000 380,000	5,000,000	演習費 50,000 50,000 50,000
中京大学 国際英語学部 国際英語学科	1 2-4	200,000	775,000 785,000	教育充実費 280,000 280,000	4,450,000	
愛知大学 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部 英語学科	1 2-4	200,000	740,000 750,000	教育充実費 250,000 270,000	4,250,000	
南山大学 外国語学部 英米学科	1 2-4	300,000 未定	718,000 未定	施設設備費 210,000 未定	＊ 4,084,000	実習費 18,000 ＊2-4年次の授業料等は毎年改定のため未定：4年間総額は1年次の授業料等が4年間適用されるとして仮算出

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、入学センター及び渉外部が広報活動を行っている。平成26年4月以降、ＰＲ活動のルールに従い、外国語学部の設置構想について、【資料2】のとおり、広報活動を実施している。届出後もＰＲ活動のルールを遵守し、ホームページ、オープンキャンパス、高校訪問、入学説明会、新聞広告、雑誌広告、交通広告等を通し、学生確保に向けた取り組みを組織的に行っていく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的としている。

1. グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
2. アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
3. 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

②本学外国語学部が養成を目指す人材像が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの検証

1)一般社団法人日本経済団体連合会の「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果（回答数：596社）（平成23年１月18日付）」によると、グローバルに活躍する日本人の人材に求められる素質、知識・能力を複数回答で求めた結果、上位3つは、①「既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持ち続ける」（419社）、②「外国語によるコミュニケーション能力（語学力）」（368社）、③「海外との文化、価値観の差に興味・関心を持ち、柔軟に対応する」（312社）である。

2)また、内閣総理大臣を議長とする新成長戦略実現会議の下に、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目的として設置された、内閣官房長官を議長、外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び国家戦略担当大臣を構成員とするグローバル人材育成推進会議の「グローバル人材育成戦略（平成24年6月4日付）」では、『グローバル化が加速する21世紀の世界経済の中にあっては、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を我が国で継続的に育てていかなければならない。』と提言されている。また、「グローバル人材」として、『我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー』とされている。

このことから、日本国として、グローバル化社会で活躍できる人材の育成が社会の要請に基づき提唱されている。

一般社団法人日本経済団体連合会が実施したアンケート結果より見いだせる産業界が必要とする人材、また、グローバル人材育成推進会議で提唱されているこれからのグローバル

社会において必要とされる人材が備えるべき資質は、本学外国語学部が養成を目指す人材が有する資質と一致する。

3) さらに、本学外国語学部が育成を目指す人材に対する社会・地域の需要を具体的に把握するために、平成25年12月から平成26年2月に本学で行われた「学内企業研究セミナー」でアンケート調査を実施し、参加企業635社のうち614社から回答があった。

アンケート調査票【資料3】

アンケートの集計結果の概要は以下のとおりである。(単位：社)

問 1. 業種を問う設問

1. 建設業	99	7. サービス業	50
2. 製造業	228	8. 情報処理産業	36
3. 運輸・通信業	18	9. 広告・出版業	3
4. 卸売・小売業	112	10. 医療・福祉	3
5. 金融・保険業	44	11. その他	22
6. 不動産業	14		

※複数回答 14 社、無回答 4 社

問 2. 本社所在地を問う設問

1. 愛知県	396
2. 岐阜県	45
3. 三重県	21
4. 東京都	97
5. 大阪府	31
6. その他	35

※複数回答 10 社、無回答 1 社

問 3. 海外との取引、或いは、海外への事業展開を問う設問

1. ある	388
2. 計画中	26
3. 特にない	183
4. その他	16

※複数回答 2 社、無回答 3 社

問 3. の回答が 1. または 2. の場合の対象地域＜複数回答可＞

1. アジア※	374	5. アフリカ	36
2. 北米	199	6. オセアニア	51
3. 南米	69	7. その他	9
4. ヨーロッパ	145		

※アジアの具体的国名　　＜複数回答可＞

中国	268	フィリピン	24
タイ	168	香港	15
インドネシア	100	ミャンマー	11
韓国	69	モンゴル	3
ベトナム	62	カンボジア	2
台湾	52	ASEAN 諸国	2
インド	44	東南アジア	2
シンガポール	44	その他	12
マレーシア	30		

問 4.　英語を必要とする業務の有無を聞く設問

1. 大いにある	101
2. ある	160
3. 少しある	180
4. 特にない	172

※無回答 1 社

問 5.　英語以外の外国語を必要とする業務の有無を聞く設問

1. 大いにある	47
2. ある	132
3. 少しある	175
4. 特にない	259

※無回答 1 社

問 5. の回答が 1. ～3. の場合の具体的言語を必要度が高いものから問う設問＜複数回答可＞

中国語	274	ドイツ語	23
タイ語	77	ベトナム語	16
英語　※	48	イタリア語	7
韓国語	43	ロシア語	6
スペイン語	34	マレーシア語	2
フランス語	26	広東語	2
インドネシア語	25	ミャンマー語	2
ポルトガル語	25	その他	10

※　英語以外の必要な言語を尋ねる設問だが、アンケート用紙に記載されていたとおりに集計

問 6. 名城大学外国語学部国際英語学科の卒業生の採用意向を問う設問

1. 採用したい	173
2. 採用を検討する	319
3. 求める人材と異なる	101

※複数回答1社、無回答22社

名城大学外国語学部卒業生の採用の意向を問う設問について、614 社のうち、173 社(28%)から「採用したい」、319 社(52%)から「採用を検討する」との回答を得た。回答企業の約 80%から、本学外国語学部の卒業生に採用について高い関心が示されている。また、173 社から卒業生の採用意向が示されたことから、入学定員が 130 名の外国語学部の卒業生の就職先は、十分に確保可能と考える。

また、本学既設学部の卒業生の就職先は、下記のとおり、愛知県を中心とする地元企業である。また、アンケート回答企業の約 75%(614 社中 462 社)の企業の本社所在地が愛知県、岐阜県、三重県である。したがって、アンケート結果は、本学外国語学部の卒業生に対する地域のニーズを踏まえた社会の需要を表しているといえる。

既存学部卒業生の当該地域に本社が所在する企業への就職割合　　(単位：%)

年度＼地域	北海道 東北	関東	北陸 甲信越	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	近畿	中国 四国 九州 外国
平成 23 年度	0.2	15.7	2.3	8.9	3.5	57.6	4.7	5.4	1.7
平成 24 年度	0.4	14.9	2.5	9.1	2.4	60.0	4.5	5.2	1.0
平成 25 年度	0.3	17.0	1.6	9.1	3.2	58.9	3.3	5.0	1.6
平成 26 年度	0.3	17.2	1.8	7.1	2.9	59.8	4.2	5.6	1.1

上記調査は、平成 25 年 12 月から平成 26 年 2 月に行われたものである。万全を期すため、さらに新しいデータで検証を行った。

平成 26 年 10 月 31 日に開催された本学と企業との就職情報交換会において、アンケート調査を実施し、参加企業 289 社のうち 244 社から回答があった。

アンケート調査票【資料4】

アンケートの集計結果の概要は以下のとおりである。(数値単位：社)

問 1. 業種を問う設問

1. 建設業	47	7. サービス業	12
2. 製造業	72	8. 情報処理産業	19
3. 運輸・通信業	5	9. 広告・出版業	0
4. 卸売・小売業	53	10. 医療・福祉	12
5. 金融・保険業	18	11. その他	4
6. 不動産業	5		

※複数回答 3 社

問 2. 本社所在地を問う設問

1. 愛知県	137
2. 岐阜県	21
3. 三重県	4
4. 東京都	60
5. 大阪府	11
6. その他	14

※複数回答 3 社

問 3. 海外との取引、或いは、海外への事業展開を問う設問

1. ある	148
2. 計画中	10
3. 特にない	83
4. その他	4

※複数回答 1 社

問 4. 英語を必要とする業務の有無を聞く設問

1. 大いにある	34
2. ある	80
3. 少しある	74
4. 特にない	56

※無回答 1 社

問 5. 名城大学外国語学部国際英語学科の卒業生の採用意向を問う設問

1. 採用したい	66
2. 採用を検討する	137
3. 求める人材と異なる	42

※複数回答2社、無回答2社

名城大学外国語学部卒業生の採用の意向を問う設問について、244 社のうち、66 社(27%)から「採用したい」、137 社(56%)から「採用を検討する」との回答があった。回答企業の83%から、本学外国語学部の卒業生に採用について高い関心が示されている。

企業アンケート実施方法	学内企業研究セミナー	本学と企業との就職情報交換会
アンケート調査実施時期	平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月	平成 26 年 10 月 31 日
アンケート調査依頼企業数	635 社	289 社
アンケート調査回答企業数	614 社	244 社
アンケート調査回答率	96.6%	84.4%
本学外国語学部卒業生の採用の意向（割合）	採用したい 173 社(28%) 採用を検討する 319 社(52%) 合計 492 社(80%)	採用したい 66 社(27%) 採用を検討する 137 社(56%) 合計 203 社(83%)

平成 26 年 10 月 31 日のアンケート調査は、平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月に実施したアンケート調査の半分程度の規模であるが、ほぼ同じ割合の企業が本学外国語学部の卒業生の採用に関して高い関心を示している。従って、より新しいデータでの検証においても、本学外国語学部の卒業生の就職先は、十分に確保できると考える。

1)一般社団法人日本経済団体連合会が実施したアンケート結果、2)グローバル人材育成推進会議での提唱、3)本学外国語学部卒業生の採用意向を調査した企業アンケート結果から、本学外国語学部が養成を目指す人材について、社会的、地域的に高い需要が十分見込まれると考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料１】　名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）設置に関するアンケート調査報告書

【資料２】　広報活動の取り組み

【資料３】　名城大学外国語学部国際英語学科〈仮称〉設置に関するアンケートのお願い（平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月）

【資料４】　名城大学外国語学部国際英語学科〈仮称〉設置に関するアンケートのお願い（平成 26 年 10 月 31 日）

【資料 1】

名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）設置に関する
アンケート調査報告書

【高校生対象】

平成 27 年 1 月

一般財団法人　日本開発構想研究所

目　　次

＜アンケート調査概要＞ ･･･ 1

＜新学部進学意向＞ ･･･ 2

＜アンケート調査票＞ ･･･ 7

＜アンケート添付リーフレット＞ ･･････････････････････････････････････ 11

＜アンケート集計結果＞ ･･ 17

＜アンケート調査概要＞

１．実施アンケート

名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）に関するアンケート調査票

２．調査対象

愛知県、岐阜県、三重県内高等学校を選定

各校アンケート依頼

３．調査実施

平成 26 年 10 月～11 月

４．調査方法

各高等学校に訪問又は郵送による配布・回収

５．回収状況

本調査では、合計 120 の高等学校に対してアンケート調査票を配布した。

その結果、108 校から合計 13,715 票の有効回答表を回収することが出来た。

回収率は 90.0％（回答高校数 108 校÷実施高校数 120 校）であった。

＜新学部進学意向＞

高校生アンケートによる名城大学「外国語学部国際英語学科（仮称）」への進学意向について、実数での回答は以下の通りである。

問７　あなたは名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）への進学を希望しますか。	合計
１　進学を希望する	368 人
２　進学先の候補のひとつとして希望する	2,286 人
計	2,654 人

〔調査高校ごとの結果〕　※　高校名は仮称に置き換えて表示　（単位：人）

No.	所在地	高校名	回収数	1 進学を 希望する	2 進学先の候補のひと つとして希望する	計
		全体	13,715	368	2,286	2,654
1	愛知県	A1 高等学校	229	6	49	55
2	愛知県	A2 高等学校	233	8	34	42
3	愛知県	A3 高等学校	76	0	10	10
4	愛知県	A4 高等学校	71	1	15	16
5	愛知県	A5 高等学校	73	0	27	27
6	愛知県	A6 高等学校	79	1	14	15
7	愛知県	A7 高等学校	144	6	22	28
8	愛知県	A8 高等学校	46	2	8	10
9	愛知県	A9 高等学校	40	0	12	12
10	愛知県	A10 高等学校	43	0	12	12
11	愛知県	A11 高等学校	72	2	13	15
12	愛知県	A12 高等学校	111	2	21	23
13	愛知県	A13 高等学校	307	8	34	42
14	愛知県	A14 高等学校	178	3	18	21
15	愛知県	A15 高等学校	228	7	41	48
16	愛知県	A16 高等学校	34	0	15	15
17	愛知県	A17 高等学校	40	1	9	10
18	愛知県	A18 高等学校	38	1	8	9
19	愛知県	A19 高等学校	－	－	－	－
20	愛知県	A20 高等学校	152	2	10	12
21	愛知県	A21 高等学校	122	0	28	28
22	愛知県	A22 高等学校	125	2	20	22
23	愛知県	A23 高等学校	202	11	43	54
24	愛知県	A24 高等学校	40	0	12	12
25	愛知県	A25 高等学校	137	3	18	21
26	愛知県	A26 高等学校	143	2	22	24
27	愛知県	A27 高等学校	121	1	6	7
28	愛知県	A28 高等学校	79	2	12	14
29	愛知県	A29 高等学校	194	0	32	32
30	愛知県	A30 高等学校	－	－	－	－
31	愛知県	A31 高等学校	176	3	28	31
32	愛知県	A32 高等学校	149	5	24	29
33	愛知県	A33 高等学校	168	1	24	25
34	愛知県	A34 高等学校	－	－	－	－
35	愛知県	A35 高等学校	154	4	23	27
36	愛知県	A36 高等学校	75	0	5	5
37	愛知県	A37 高等学校	164	0	15	15
38	愛知県	A38 高等学校	80	2	11	13
39	愛知県	A39 高等学校	239	6	43	49
40	愛知県	A40 高等学校	169	2	33	35

No.	所在地	高校名	回収数	1 進学を 希望する	2 進学先の候補のひと つとして希望する	計
41	愛知県	A41 高等学校	167	2	33	35
42	愛知県	A42 高等学校	182	10	31	41
43	愛知県	A43 高等学校	176	23	28	51
44	愛知県	A44 高等学校	90	1	9	10
45	愛知県	A45 高等学校	83	1	12	13
46	愛知県	A46 高等学校	－	－	－	－
47	愛知県	A47 高等学校	－	－	－	－
48	愛知県	A48 高等学校	111	3	8	11
49	愛知県	A49 高等学校	154	2	31	33
50	愛知県	A50 高等学校	117	1	23	24
51	愛知県	A51 高等学校	115	3	28	31
52	愛知県	A52 高等学校	156	1	16	17
53	愛知県	A53 高等学校	138	3	26	29
54	愛知県	A54 高等学校	152	2	28	30
55	愛知県	A55 高等学校	8	0	7	7
56	愛知県	A56 高等学校	45	3	11	14
57	愛知県	A57 高等学校	77	1	13	14
58	愛知県	A58 高等学校	－	－	－	－
59	愛知県	A59 高等学校	237	3	19	22
60	愛知県	A60 高等学校	197	9	41	50
61	愛知県	A61 高等学校	303	11	54	65
62	愛知県	A62 高等学校	29	2	6	8
63	愛知県	A63 高等学校	123	7	25	32
64	愛知県	A64 高等学校	229	13	85	98
65	愛知県	A65 高等学校	79	41	29	70
66	愛知県	A66 高等学校	371	8	53	61
67	愛知県	A67 高等学校	146	3	40	43
68	愛知県	A68 高等学校	317	6	43	49
69	愛知県	A69 高等学校	228	5	35	40
70	愛知県	A70 高等学校	86	1	9	10
71	愛知県	A71 高等学校	378	22	73	95
72	愛知県	A72 高等学校	36	0	5	5
73	愛知県	A73 高等学校	145	1	13	14
74	愛知県	A74 高等学校	90	2	21	23
75	愛知県	A75 高等学校	109	7	35	42
76	愛知県	A76 高等学校	382	10	29	39
77	愛知県	A77 高等学校	312	6	51	57
78	愛知県	A78 高等学校	93	1	18	19
79	愛知県	A79 高等学校	111	2	12	14
80	岐阜県	G1 高等学校	75	0	11	11
81	岐阜県	G2 高等学校	85	2	18	20
82	岐阜県	G3 高等学校	116	2	17	19

No.	所在地	高校名	回収数	1 進学を 希望する	2 進学先の候補のひと つとして希望する	計
83	岐阜県	G4 高等学校	40	1	15	16
84	岐阜県	G5 高等学校	62	0	1	1
85	岐阜県	G6 高等学校	35	1	2	3
86	岐阜県	G7 高等学校	7	1	4	5
87	岐阜県	G8 高等学校	124	1	20	21
88	岐阜県	G9 高等学校	79	1	17	18
89	岐阜県	G10 高等学校	38	1	6	7
90	岐阜県	G11 高等学校	－	－	－	－
91	岐阜県	G12 高等学校	27	0	6	6
92	岐阜県	G13 高等学校	34	0	5	5
93	岐阜県	G14 高等学校	149	1	16	17
94	岐阜県	G15 高等学校	11	0	6	6
95	岐阜県	G16 高等学校	74	1	12	13
96	岐阜県	G17 高等学校	151	0	39	39
97	岐阜県	G18 高等学校	78	4	22	26
98	岐阜県	G19 高等学校	7	0	1	1
99	岐阜県	G20 高等学校	91	1	18	19
100	岐阜県	G21 高等学校	－	－	－	－
101	岐阜県	G22 高等学校	43	1	13	14
102	岐阜県	G23 高等学校	90	1	20	21
103	岐阜県	G24 高等学校	99	2	6	8
104	岐阜県	G25 高等学校	－	－	－	－
105	岐阜県	G26 高等学校	50	2	10	12
106	三重県	M1 高等学校	136	3	8	11
107	三重県	M2 高等学校	38	1	6	7
108	三重県	M3 高等学校	40	1	6	7
109	三重県	M4 高等学校	124	0	8	8
110	三重県	M5 高等学校	312	11	40	51
111	三重県	M6 高等学校	79	1	13	14
112	三重県	M7 高等学校	－	－	－	－
113	三重県	M8 高等学校	－	－	－	－
114	三重県	M9 高等学校	317	10	52	62
115	三重県	M10 高等学校	175	4	27	31
116	三重県	M11 高等学校	256	1	31	32
117	三重県	M12 高等学校	100	1	13	14
118	三重県	M13 高等学校	－	－	－	－
119	三重県	M14 高等学校	50	0	11	11
120	愛知県	A80 高等学校	20	2	15	17

＜アンケート調査票＞

名城大学外国語学部国際英語学科(仮称)に関するアンケート調査票（無記名式）

〈回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません〉

名城大学では、グローバル化社会で活躍できる人材の育成を目的として、外国語学部国際英語学科(仮称)の設置計画を進めております。このアンケート調査は、高校生の皆さんの高校卒業後の進路などについてお聞きし、新学部を設置するための基礎資料とするものです。ぜひご協力をお願いします。

なお、この調査結果は新学部を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。

【学部の概要】　**※外国語学部(仮称)の内容は予定であり変更される場合があります。**

設置予定学部学科	外国語学部国際英語学科(仮称)
設置予定時期	2016年4月(平成28年4月)
設置予定場所 （アクセス）	愛知県名古屋市東区矢田南４－１０２－９ （地下鉄名城線ナゴヤドーム前矢田駅から徒歩約３分、ＪＲ／名鉄大曽根駅から徒歩約１０分）
入学定員	１３０名
入学金	260,000円(１年次のみ)
授業料等	(１年次)1,100,000円・(２～４年次)1,200,000円　／（4年間合計）4,700,000円
設置の理念 養成する人物像	外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とします。 ①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材 ②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材 ③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

※近隣の外国語系学部

愛知県立大学外国語学部英米学科	愛知大学国際コミュニケーション学部英語学科
愛知学院大学文学部グローバル英語学科	中京大学国際英語学部国際英語学科
中部大学人文学部英語英米文化学科	名古屋外国語大学外国語学部英米語学科
名古屋学院大学外国語学部英米語学科	南山大学外国語学部英米学科

----------以下の設問にお答えください（裏面にも設問があります）----------

（回答は該当する番号を[回答欄]にご記入ください）

[回答欄]

問１．あなたの性別についておたずねします。

１．男性　　２．女性

問２．あなたの現住所についておたずねします。

１．愛知県　　２．岐阜県　　３．三重県　　４．静岡県
５．その他（　　）

裏面にお進みください。

問３．あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後、どのような進路をお考えですか。次の中から１つ選んでください。

［回答欄］

１．大学進学　　２．短期大学進学　　３．専門学校進学
４．就職　　５．その他（　　）

問３で「１．大学進学」又は「２．短期大学進学」又は「３．専門学校進学」を選択した方は、以下の(問４～問８)にお答えください。

問４．あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。次の中から第２希望まで選んでください。

第１希望

第２希望

１．外国語（国際教養、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ等を含む）　２．教育学・保育学
３．文学（史学、哲学等を含む）　４．人間学・心理学
５．法学・政治学　６．商学・経済学・経営学
７．社会学・福祉学　８．国際関係学
９．理学　１０．工学
１１．農林水産学　１２．医学・歯学・薬学
１３．医療技術学(理学療法・作業療法)　１４．看護学
１５．家政学・生活科学　１６．体育学・スポーツ
１７．芸術学　１８．その他（　　）

問５．あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。次の中から３つまで選んでください。

１．カリキュラム・授業内容　２．学部・学科の分野
３．入試難易度・自分の学力　４．学費等のコスト面
５．取得可能資格・免許　６．就職指導・就職実績・キャリア教育
７．キャンパスの立地場所(アクセス)　８．教育体制・教員組織
９．入試方法・入試科目　１０．留学制度
１１．設置形態（国公私立の別）　１２．施設・設備
１３．奨学金制度　１４．知名度・世間での評判
１５．自分の性格・適性　１６．担任や進路指導教員の意見
１７．家族（親や兄弟）や先輩の意見　１８．その他（　　）

【名城大学外国語学部国際英語学科(仮称)について伺います。】

問６．あなたは名城大学外国語学部国際英語学科に興味がありますか。次の中から１つ選んでください。

１．興味がある　２．少し興味がある　３．興味がない

問７．あなたは名城大学外国語学部国際英語学科への進学を希望しますか。次の中から１つ選んでください。

１．進学を希望する　２．進学先の候補のひとつとして希望する
３．進学を希望しない

問８．名城大学外国語学部国際英語学科について、期待することがあれば、お聞かせください。

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

Faculty of Foreign Studies
Department of English and International Studies

2016年4月、名城大学に新しい学部が誕生します。

外国語学部 国際英語学科（設置構想中）

もっと強く、もっと独創的な大学へ。名城大学の挑戦が、始まっています。

2016年、開学90周年を迎える名城大学。
それは開学100周年へのターニングポイント。
高みをめざすという意味の「RISING」のもと、一人ひとりが起ち上がり、
「つながりを、チカラに。」未来へと挑戦します。
もっと強くて、もっと独創的な学校法人名城大学を、
ここから、つくりあげていきます。

90th 2016
RISING
つながりを、チカラに。

名城大学のグローバル人材育成計画が始動。
名城大学らしい専門性を生かした国際化を目指します。

外国語学部 国際英語学科（設置構想中）が ナゴヤドーム前キャンパスに誕生します。

2016年4月、名城大学は名古屋市東区のナゴヤドーム近くに「ナゴヤドーム前キャンパス」を開設します。
新キャンパスは「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ」をコンセプトとし、2016年に外国語学部が開設（設置構想中）されるほか、2017年には人間学部・都市情報学部が移転。
「国際化と地域連携」をキーワードに、3学部が融合した創造型キャンパスが誕生します。

外国語学部の概要

設置予定学部	：外国語学部国際英語学科〈仮称〉 Faculty of Foreign Studies Department of English and International Studies
設置予定時期	：2016年4月
入学定員	：130名
入学金	：260,000円（1年次のみ）
授業料	：（1年次）1,100,000円、（2、3、4年次）各1,200,000円　合計4,700,000円
設置予定場所	：ナゴヤドーム前キャンパス（新設） 愛知県名古屋市東区矢田南4-102-9
養成する人材像	：グローバル化が進む世界において求められる実践的なコミュニケーション力を持ち、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人 ❶グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人 ❷アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人 ❸日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人

※学部設置構想中（学部の内容は予定であり変更される場合があります）

名城大学 外国語学部 国際英語学科（設置構想中）は これまでの英語教育を超えた、グローバルコミュニケーション力の育成を目指します。

自らの言葉で語り、協働できる【世界人材】を育成

▶外国語学部の5つの特色

1 **All Englishで学ぶ**
少人数英語プログラムで「英語による発信力」を強化。

2 諸外国や日本の歴史・文化・社会を学び、**国際理解**を深め、**日本発信力**を養成。

3 国内外で企業や地域との連携プロジェクトに挑み、共に働く力や**実践力**を養成。

4 多彩な海外留学・研修プログラムで、**希望者は全員海外へ。**

5 英語コミュニケーション力を身に付けるグローバルプラザ（英語学習施設）で**毎日がキャンパス留学。**

【世界人材】を育むため

英語で考え、英語で伝えること

豊富な英語科目により、英語で考える力を身に付けます。また、All English で学ぶ「少人数英語プログラム」を用意し、英語で伝える力も高めます。
☆グローバルプラザで、いつでもネイティブスピーカーから英語を学べます。

I essence

グローバルプラザ　All Englishで、日常的に英語コミュニケーションがとれる学習施設。

「国際理解」で多様な価

世界における多様な価値観を理解するため、諸外国の社会・文化について学びます。
また、日本についても同様に学び、日本を発信する力も身に付けます。

II essence

希望者は、全員海外を経験し

留学や国際フィールドワークなどに積極的に参加し、実践的コミュニケーション能力を身に付けます。

III essence

- ·中長期留学
- ·短期語学研修
- ·国際フィールドワーク
- ·海外インターンシップ
- ·海外ボランティア　など

外国語学部 国際英語学科

Faculty of Foreign Studies Department of English and International Studies

の3つのエッセンス

で「英語力」を身に付ける

直観を身に付ける

「実践力」を身に付ける

▶想定できる進路・分野

- グローバル展開を進める企業の国際部門
- ホテル・航空会社など旅行・観光・運輸分野
- 教育機関などにおける英語教育の現場
- グローバルな課題に取り組むNPO・NGO職員　など

▶目標とする資格

- TOEIC®
- TOEFL®
- 実用英語技能検定（1級・準1級）
- 観光英語検定試験　など

Step up!

4年間の成長プロセス

1年次 英語力を身に付ける
「英語で考え、英語で伝える」を繰り返し、英語力を高める。

2年次 国際理解＋実践力を身に付ける
中長期留学に挑戦。
日本と異文化をグローバルな視野で学ぶ。

3年次 国際フィールドワーク、海外インターンシップなどで、実践的に学ぶ。

4年次 4年間の学びをキャリアにつなげる
海外での体験をいかし、卒業研究に取り組む。

TOEIC®目標点数

- 1年次　600点
- 2年次　700点
- 3年次　800点
- 4年次　900点以上

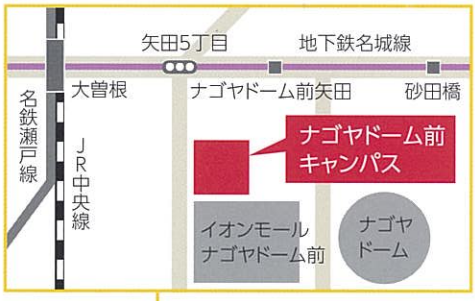
※写真はイメージです

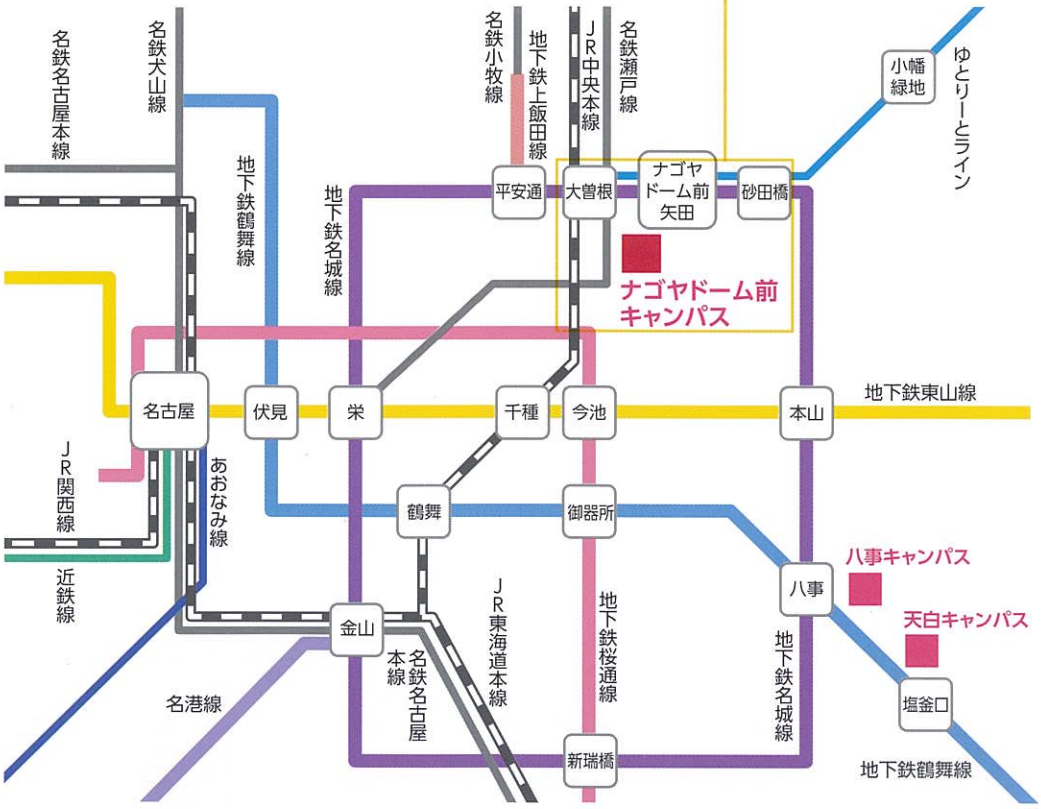
キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ。

完成イメージ図

ナゴヤドーム前キャンパスは
アクセス便利な「大曽根」に立地。
JR・名鉄・地下鉄で通えます!

◎JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車徒歩**10**分
◎地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車徒歩**3**分





名城大学 外国語学部 国際英語学科（設置構想中）が社会に送り出す人材に、地元企業は期待を寄せています。

名城大学では、外国語学部国際英語学科で養成を目指すグローバル人材に対する社会の需要を把握するために、企業アンケート調査を実施しました。
（調査時期:2013年12月から2014年2月）
〈635社にアンケートを依頼し、614社から回答がありました。〉

アンケートの集計結果（数値単位:社）

※複数回答、無回答があるため、回答企業数と各設問の総数と一致しない場合があります。

▼企業の業種について

1	建設業	99
2	製造業	228
3	運輸・通信業	18
4	卸売・小売業	112
5	金融・保険業	44
6	不動産業	14
7	サービス業	50
8	情報処理産業	36
9	広告・出版業	3
10	医療・福祉	3
11	その他	22

※複数回答14社、無回答4社

▼企業の本社所在地について

1	愛知県	396
2	岐阜県	45
3	三重県	21
4	東京都	97
5	大阪府	31
6	その他	35

※複数回答10社、無回答1社

▼海外との取引、海外への事業展開について

1	**ある**	388
2	**計画中**	26
3	特にない	183
4	その他	16

※複数回答2社、無回答3社

約63%の企業が海外との取引、海外への事業展開があります。

▼英語を必要とする業務の有無について

1	**大いにある**	101
2	**ある**	160
3	**少しある**	180
4	特にない	172

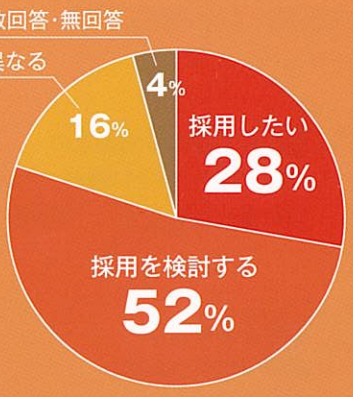
※無回答1社

約72%の企業で英語を必要とする業務があります。
（大いにある、少しあるを含む）

▼名城大学外国語学部国際英語学科卒業生の採用の意向について

1	**採用したい**	173
2	**採用を検討する**	319
3	求める人材と異なる	101

※複数回答1社、無回答22社



約80%の企業が外国語学部国際英語学科の卒業生の採用について高い関心を示しています。

■法学部 ■経営学部 ■経済学部 ■人間学部 ■都市情報学部 ■理工学部 ■農学部 ■薬学部 □大学院（11研究科）

RISING 名城大学
つながりを、チカラに。

お問い合わせ先 **名城大学入学センター**
TEL.052-838-2018
〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
E-mail : nyugaku@ccmails.meijo-u.ac.jp

＜アンケート集計結果＞

「名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）に関するアンケート調査票」回収表

県No.	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数	回収日
1	愛知県	1	A1 高等学校	1	229	229	10/28
1	愛知県	2	A2 高等学校	230	462	233	10/28
1	愛知県	3	A3 高等学校	463	538	76	11/4
1	愛知県	4	A4 高等学校	539	609	71	11/4
1	愛知県	5	A5 高等学校	610	682	73	11/4
1	愛知県	6	A6 高等学校	683	761	79	10/24
1	愛知県	7	A7 高等学校	762	905	144	11/28
1	愛知県	8	A8 高等学校	906	951	46	11/28
1	愛知県	9	A9 高等学校	13,429	13,468	40	11/28
1	愛知県	10	A10 高等学校	952	994	43	11/4
1	愛知県	11	A11 高等学校	995	1,066	72	11/6
1	愛知県	12	A12 高等学校	1,067	1,177	111	11/7
1	愛知県	13	A13 高等学校	7,006	7,312	307	11/18
1	愛知県	14	A14 高等学校	10,518	10,695	178	11/25
1	愛知県	15	A15 高等学校	7,313	7,540	228	11/12
1	愛知県	16	A16 高等学校	1,178	1,211	34	11/28
1	愛知県	17	A17 高等学校	1,212	1,251	40	10/29
1	愛知県	18	A18 高等学校	1,252	1,289	38	10/28
1	愛知県	19	A19 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	20	A20 高等学校	10,696	10,847	152	11/21
1	愛知県	21	A21 高等学校	1,290	1,411	122	11/28
1	愛知県	22	A22 高等学校	1,412	1,536	125	11/5
1	愛知県	23	A23 高等学校	7,541	7,742	202	11/12
1	愛知県	24	A24 高等学校	1,537	1,576	40	11/28
1	愛知県	25	A25 高等学校	7,743	7,879	137	11/19
1	愛知県	26	A26 高等学校	7,880	8,022	143	11/13
1	愛知県	27	A27 高等学校	1,577	1,697	121	10/15
1	愛知県	28	A28 高等学校	8,023	8,101	79	11/13
1	愛知県	29	A29 高等学校	1,698	1,891	194	11/7
1	愛知県	30	A30 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	31	A31 高等学校	1,892	2,067	176	10/28
1	愛知県	32	A32 高等学校	2,068	2,216	149	11/7
1	愛知県	33	A33 高等学校	13,469	13,636	168	12/1
1	愛知県	34	A34 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	35	A35 高等学校	2,217	2,370	154	10/29
1	愛知県	36	A36 高等学校	8,102	8,176	75	11/13
1	愛知県	37	A37 高等学校	10,848	11,011	164	11/21
1	愛知県	38	A38 高等学校	2,371	2,450	80	11/28
1	愛知県	39	A39 高等学校	2,451	2,689	239	11/28
1	愛知県	40	A40 高等学校	2,690	2,858	169	11/28
1	愛知県	41	A41 高等学校	2,859	3,025	167	11/4
1	愛知県	42	A42 高等学校	3,026	3,207	182	11/7
1	愛知県	43	A43 高等学校	3,208	3,383	176	10/28

県No.	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数	回収日
1	愛知県	44	A44 高等学校	3,384	3,473	90	10/28
1	愛知県	45	A45 高等学校	8,177	8,259	83	11/12
1	愛知県	46	A46 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	47	A47 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	48	A48 高等学校	8,260	8,370	111	11/13
1	愛知県	49	A49 高等学校	3,474	3,627	154	10/24
1	愛知県	50	A50 高等学校	8,371	8,487	117	11/18
1	愛知県	51	A51 高等学校	8,488	8,602	115	11/10
1	愛知県	52	A52 高等学校	3,628	3,783	156	11/7
1	愛知県	53	A53 高等学校	8,603	8,740	138	11/19
1	愛知県	54	A54 高等学校	11,012	11,163	152	11/25
1	愛知県	55	A55 高等学校	8,741	8,748	8	11/10
1	愛知県	56	A56 高等学校	8,749	8,793	45	11/10
1	愛知県	57	A57 高等学校	11,164	11,240	77	11/25
1	愛知県	58	A58 高等学校	－	－	－	－
1	愛知県	59	A59 高等学校	8,794	9,030	237	11/18
1	愛知県	60	A60 高等学校	9,031	9,227	197	11/14
1	愛知県	61	A61 高等学校	3,784	4,086	303	10/30
1	愛知県	62	A62 高等学校	4,087	4,115	29	10/29
1	愛知県	63	A63 高等学校	9,228	9,350	123	11/13
1	愛知県	64	A64 高等学校	4,116	4,344	229	10/28
1	愛知県	65	A65 高等学校	13,637	13,715	79	11/28
1	愛知県	66	A66 高等学校	11,241	11,611	371	11/21
1	愛知県	67	A67 高等学校	11,612	11,757	146	11/25
1	愛知県	68	A68 高等学校	9,351	9,667	317	11/18
1	愛知県	69	A69 高等学校	4,345	4,572	228	10/28
1	愛知県	70	A70 高等学校	11,758	11,843	86	11/21
1	愛知県	71	A71 高等学校	9,668	10,045	378	11/14
1	愛知県	72	A72 高等学校	10,046	10,081	36	11/13
1	愛知県	73	A73 高等学校	11,844	11,988	145	11/21
1	愛知県	74	A74 高等学校	11,989	12,078	90	11/21
1	愛知県	75	A75 高等学校	12,079	12,187	109	11/21
1	愛知県	76	A76 高等学校	12,188	12,569	382	11/25
1	愛知県	77	A77 高等学校	12,570	12,881	312	11/25
1	愛知県	78	A78 高等学校	4,573	4,665	93	11/4
1	愛知県	79	A79 高等学校	12,882	12,992	111	11/28
2	岐阜県	80	G1 高等学校	4,666	4,740	75	11/7
2	岐阜県	81	G2 高等学校	4,741	4,825	85	11/28
2	岐阜県	82	G3 高等学校	4,826	4,941	116	11/28
2	岐阜県	83	G4 高等学校	4,942	4,981	40	10/14
2	岐阜県	84	G5 高等学校	4,982	5,043	62	10/29
2	岐阜県	85	G6 高等学校	5,044	5,078	35	10/8
2	岐阜県	86	G7 高等学校	5,079	5,085	7	10/9
2	岐阜県	87	G8 高等学校	5,086	5,209	124	11/28

県No.	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数	回収日
2	岐阜県	88	G9 高等学校	5,210	5,288	79	10/15
2	岐阜県	89	G10 高等学校	5,289	5,326	38	11/4
2	岐阜県	90	G11 高等学校	－	－	－	－
2	岐阜県	91	G12 高等学校	5,327	5,353	27	10/28
2	岐阜県	92	G13 高等学校	5,354	5,387	34	11/4
2	岐阜県	93	G14 高等学校	5,388	5,536	149	11/4
2	岐阜県	94	G15 高等学校	5,537	5,547	11	11/4
2	岐阜県	95	G16 高等学校	5,548	5,621	74	11/7
2	岐阜県	96	G17 高等学校	5,622	5,772	151	10/30
2	岐阜県	97	G18 高等学校	5,773	5,850	78	10/28
2	岐阜県	98	G19 高等学校	5,851	5,857	7	11/28
2	岐阜県	99	G20 高等学校	10,082	10,172	91	11/13
2	岐阜県	100	G21 高等学校	－	－	－	－
2	岐阜県	101	G22 高等学校	5,858	5,900	43	11/4
2	岐阜県	102	G23 高等学校	5,901	5,990	90	10/20
2	岐阜県	103	G24 高等学校	10,173	10,271	99	11/12
2	岐阜県	104	G25 高等学校	－	－	－	－
2	岐阜県	105	G26 高等学校	5,991	6,040	50	10/15
3	三重県	106	M1 高等学校	10,272	10,407	136	11/13
3	三重県	107	M2 高等学校	6,141	6,178	38	11/4
3	三重県	108	M3 高等学校	10,408	10,447	40	11/10
3	三重県	109	M4 高等学校	12,993	13,116	124	11/21
3	三重県	110	M5 高等学校	13,117	13,428	312	11/21
3	三重県	111	M6 高等学校	6,179	6,257	79	10/29
3	三重県	112	M7 高等学校	－	－	－	－
3	三重県	113	M8 高等学校	－	－	－	－
3	三重県	114	M9 高等学校	6,258	6,574	317	10/28
3	三重県	115	M10 高等学校	6,575	6,749	175	11/5
3	三重県	116	M11 高等学校	6,750	7,005	256	11/4
3	三重県	117	M12 高等学校	6,041	6,140	100	10/29
3	三重県	118	M13 高等学校	－	－	－	－
3	三重県	119	M14 高等学校	10,448	10,497	50	11/18
1	愛知県	120	A80 高等学校	10,498	10,517	20	11/11
					計	13,715	108 校

「名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）に関する
アンケート調査票」集計表

〔有効回答票：13,715 票〕

問１　あなたの性別についておたずねします。

回答者（13,715 人）の性別については、5,988 人（43.7%）が「男性」、7,679 人（56.0%）が「女性」である。

No	カテゴリ	件数	%
1	男性	5,988	43.7
2	女性	7,679	56.0
	不明	48	0.3
	合計	13,715	100

問２　あなたの現住所についておたずねします。

回答者のうち、10,259 人（74.8%）が愛知県、1,692 人（12.3%）が三重県、1,679 人（12.2%）が岐阜県在住である。

No	カテゴリ	件数	%
1	愛知県	10,259	74.8
2	岐阜県	1,679	12.2
3	三重県	1,692	12.3
4	静岡県	29	0.2
5	その他	17	0.1
	不明	39	0.3
	合計	13,715	100

「5 その他」の回答

北海道	東京都	千葉	愛知県
山口	沖縄	琉球	アメリカ
フランス	チュニジア	ブータン	

問３　あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後、どのような進路をお考えですか。次の中から１つ選んでください。

回答者の希望進路については、「大学進学」が 10,485 人（76.4%）と最も多く、次いで「専門学校進学」が 1,630 人（11.9%）、「短期大学進学」が 840 人（6.1%）、「就職」が 575 人（4.2%）の順に続いている。

No	カテゴリ	件数	%
1	大学進学	10,485	76.4
2	短期大学進学	840	6.1
3	専門学校進学	1,630	11.9
4	就職	575	4.2
5	その他	166	1.2
	不明	19	0.1
	合計	13,715	100

「5 その他」の回答

考えてない	決めてない
未定	きまってない！
防衛医科大学校	１、３、４のどれか
公務員	留年
バイトしながら養成所	大学進学
まだきまっていない	警察学校
フリーター	海外の学校
考え中	語学留学
決まっていない	海外留学
大学ｏｒ専門	海外
わからない	迷ってる
芸能界	進学するか未定
３か４に迷っている	迷っている
自宅警備員	２か３
留学	４以外のいずれか
まだ決めていない	予定は未定
きめてない！	選らんでない
分からない	１か３で悩み中…
決まってない	まだ決めてない
働きながら学校に行くか就職	思案中
ニート	悩み中…

【問４以降は、問３で「1 大学進学」「2 短期大学進学」「3 専門学校進学」と回答した 12,955 人への設問】

問４　あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。次の中から第 2 希望まで選んでください。

進学分野の第 1 希望に関しては、「教育学・保育学」が 1,970 人（15.2%）と最も多く、次いで「外国語（国際教養、グローバルコミュニケーション等を含む）」が 1,586 人（12.2%）、「商学・経済学・経営学」が 1,579 人（12.2%）の順に続いている。

第 2 希望に関しては、「教育学・保育学」が 1,551 人（12.0%）と最も多く、次いで「人間学・心理学」が 1,398 人（10.8%）、「文学（史学、哲学等を含む）」が 1,035 人（8.0%）の順に続いている。

No	カテゴリ	第 1 希望		第 2 希望	
		件数	%	件数	%
1	外国語（国際教養、グローバルコミュニケーション等を含む）	1,586	12.2	1,018	7.9
2	教育学・保育学	1,970	15.2	1,551	12.0
3	文学（史学、哲学等を含む）	889	6.9	1,035	8.0
4	人間学・心理学	684	5.3	1,398	10.8
5	法学・政治学	713	5.5	658	5.1
6	商学・経済学・経営学	1,579	12.2	1,015	7.8
7	社会学・福祉学	355	2.7	634	4.9
8	国際関係学	181	1.4	801	6.2
9	理学	200	1.5	430	3.3
10	工学	588	4.5	267	2.1
11	農林水産学	142	1.1	132	1.0
12	医学・歯学・薬学	304	2.3	386	3.0
13	医療技術学（理学療法・作業療法）	258	2.0	270	2.1
14	看護学	945	7.3	419	3.2
15	家政学・生活科学	558	4.3	513	4.0
16	体育学・スポーツ	689	5.3	811	6.3
17	芸術学	519	4.0	480	3.7
18	その他	736	5.7	258	2.0
	不明	59	0.5	879	6.8
	合計	12,955	100	12,955	100

「18 その他」の回答（第１希望・第２希望）

第１希望				
鍼灸	土木	自動車	観光	ブライダル、美容
歴史学	都市情報学	自動糸	管理栄養	ブライダル
理容・美容	都市教養学	事務系	楽器製作	フード
理容	鉄道	事務	楽器修理、舞台関係	ファッミョン
理美容	調律	歯科技工	海洋学	ファッション造形
理・美容	調理師	歯科衛生	海技士教育科	ファッション
迷い中	調理・製菓	航空操縦学	音樂学	パソコン
未定	調理、製菓	航空整備	音響系	ドルフィントレーナー
放送	調理	航空・宇宙	音響	トリミング
宝飾	地域政策	航空	音楽学	トリマードッグトレーナーなど
保健	地域	公務員	音楽・イラスト	トリマー、情報
文化学	総合文化政策学	古生物学	音楽	トリマー
仏教学	総合政策	現代教養	音学	デザイン
福祉	接客	建築学	演出系	デサイン
服飾	製菓・調理師	建築	園芸学	ダンサー芸能
美容理容	製菓．製パン	健築	栄養学	サービス
美容専門学校	製菓、調理	芸能（声優系）	栄養・美容	コンピュター
美容師	製菓	芸能	栄養・調理	コンピューター、ＩＴ
美容系	製果	経済学	栄養	コンピューター
美容関係	声優科	観光学	映像関係	コンピュータ
美容学	声優	観光ホテル	映像	ゲーム制作学科
美容・理容製菓	生物学	自動車工学	医療秘書	ゲーム関係
美容・理容	生物	自動車	医療事務介護福祉士	ゲームグラフィック
美容・メイク	生活環境	自動糸	医療事務	ゲームＣＡＤ
美容．メイフ	政策学	事務系	医療	ゲーム
美容．ブライダル	人文学	事務	メディア情報	きめてません
美容、ブライダル系	人間情報学	歯科技工	メディアプロデュース	カフェ
美容、ブライダル	食物・栄養	歯科衛生	メディアコンテンツ	エステ
美容、ファッジョン	情報分野	航空操縦学	メディア	エアライン関係
美容、ファッション	情報処理	航空整備	メイク、美容	エアライン
美容	情報工学	航空・宇宙	メイク	ウェディング
美術学	情報学	航空	まだくわしく決めてない	インテリア
美術	情報メディア	公務員	マスコミ	決まっていない
被服学	情報	古生物学	ホテル事務	イラスト関係
比較文化学科	消防士	現代教養	ホテル学科	アニメーション関係
動物保育	獣医学	建築学	ホテル・ブライダル	アニメーション
動物飼育	獣医	建築	ホテル、音楽	ＰＣ
動物系	柔道整復工	健築	ホテル	ＩＴ関連
動物関係	住居学	芸能（声優系）	ホスピタリティツーリズム	動物・ウェディング
動物看護	住居	芸能	ペット	ＣＧグラフィック
動物学	宗教	経済学	プロダクトデザイン	１美容、２ブライダル
動物・ペット	自動車整備	観光学	ブライダル美容	１調理２介護福祉
動物	自動車工学	観光ホテル	ブライダル専門	
第２希望				
保健学	情報メディア	民俗学	放送・声優	食物・栄養
警察官	建築学	介護	整体師	生物学
美容	美養	決めてない	映像メディア	応用生物学
観光	演技	獣医学	栄養	考えてません
情報学	メディア	検査	アニメ・漫画	史
福祉	宗教	食品管理	ビジネス	コンピューター

デザイン	ブライダル	ファッション	交流文化	動物
建築	保健	生物	仏教	美容（ネイル）
地域政策	音楽	自動車	調理	芸能
理容・美容	情報	未定	イラスト	航空学
メディアプロデュース	言語聴覚	マスコミ	生物・動物	食物
総合政策	留学	美容、服飾	環境情報	

問５　あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。次の中から３つまで選んでください。（複数回答）

回答者が進学先を決定する際に重視する事柄については、「学部･学科の分野」が 6,459 人（49.9%）と最も多く、次いで「入試難易度・自分の学力」が 6,139 人（47.4%）、「カリキュラム・授業内容」が 4,164 人（32.1%）、「取得可能資格・免許」が 3,178 人（24.5%）の順に続いている。

No	カテゴリ	件数	%
1	カリキュラム・授業内容	4,164	32.1
2	学部･学科の分野	6,459	49.9
3	入試難易度・自分の学力	6,139	47.4
4	学費等のコスト面	3,078	23.8
5	取得可能資格・免許	3,178	24.5
6	就職指導・就職実績・キャリア教育	2,379	18.4
7	キャンパスの立地場所（アクセス）	2,428	18.7
8	教育体制・教員組織	509	3.9
9	入試方法・入試科目	1,203	9.3
10	留学制度	854	6.6
11	設置形態（国公私立の別）	189	1.5
12	施設・設備	2,206	17.0
13	奨学金制度	696	5.4
14	知名度・世間での評判	1,246	9.6
15	自分の性格・適性	1,977	15.3
16	担任や進路指導教員の意見	216	1.7
17	家族（親や兄弟）や先輩の意見	853	6.6
18	その他	141	1.1
	不明	50	0.4
	合計	12,955	100

「18 その他」の回答

援業料などのお金の面	サークル	サークルや部活	キャンパスライフ
場所	迷い中	時間の早さ	野球
部活動	交通きかん	将来的なこと	家からの近さ
コース	近いところ	近場、県内	設備
部活	気分	交通の便がいいところ	自分の家から近いから
資格	入学金	学校のふんいき	わからない
就職率	自宅からの距離	大学の需囲気	学校の雰囲気就職率
将来の仕事につながる所	大学の場所	サークル等	自分がやりたいこと
距離	その後の進路	卒業後の就職	就職後
進学率就職率	近くの店	雰囲気	部
留学	就職ができるか	行事・イベント	東京
韓国の大学	クラブ	将来性	いいなと思った
ブライダル	創立者の元で学びたいから	将来の夢につなげれる授業か	オープン・キャンパスに行った際の感覚

問６　あなたは名城大学外国語学部国際英語学科に興味がありますか。次の中から１つ選んでください。

名城大学「外国語学部国際英語学科（仮称）」への興味については、「興味を感じる」が 1,338 人（10.3%）、「少し興味を感じる」が 3,591 人（27.7%）であった。

回答者の 4 割弱が、名城大学「外国語学部国際英語学科（仮称）」に対して何らかの興味を持っていることが明らかとなった。

No	カテゴリ	件数	%
1	興味がある	1,338	10.3
2	少し興味がある	3,591	27.7
3	興味がない	7,991	61.7
	不明	35	0.3
	合計	12,955	100

問７　あなたは名城大学外国語学部国際英語学科への進学を希望しますか。次の中から 1 つ選んでください。

名城大学「外国語学部国際英語学科（仮称）」への進学希望については、「進学を希望する」が 368 人（2.8%）、「進学先の候補のひとつとして希望する」が 2,286 人（17.6%）となった。

「進学を希望する」の選択肢及び「進学先の候補のひとつとして希望する」の選択肢を選んだ回答者の合計は 2654 人（20.5%）となった。

No	カテゴリ	件数	%
1	進学を希望する	368	2.8
2	進学先の候補のひとつとして希望する	2,286	17.6
3	進学を希望しない	10,255	79.2
	不明	46	0.4
	合計	12,955	100

※参考：問３「大学進学」「短期大学進学」「専門学校進学」を希望×問７「名城大学外国語学部国際英語学科（仮称）」への進学希望：クロス集計

	上段:人 下段:%	合計	進学を希望する	進学先の候補のひとつとして希望する	進学を希望しない	不明
計	全体	12955	368	2286	10255	46
		100.0	2.8	17.6	79.2	0.4
	大学進学	10485	337	2140	7980	28
		100.0	3.2	20.4	76.1	0.3
	短期大学進学	840	10	64	762	4
		100.0	1.2	7.6	90.7	0.5
	専門学校進学	1630	21	82	1513	14
		100.0	1.3	5.0	92.8	0.9

問８　名城大学外国語学部国際英語学科について、期待することがあれば、お聞かせください。　（省略）

広報活動の取り組み

【資料2】

外国語学部広報　　入学センター

日時	媒体	方法	内容	備考
平成26年4月10日	進学雑誌	アンビシャス４月号（表３・表４）	設置構想	高校配布
平成26年4月14日	進学雑誌	蛍雪時代５月号（中面）	設置構想	
平成26年4月18日	新聞広告	中日新聞朝刊題字下	設置構想	
平成26年5月1日	進学雑誌	相談会会場配布冊子（表２）	設置構想	相談会会場配布
平成26年5月3日	新聞広告	中日新聞朝刊題字下	設置構想	
平成26年5月13日	新聞広告	中日新聞（金の遺伝子）	設置構想	
平成26年5月14日	進学雑誌	蛍雪時代６月号（表４）	設置構想	
平成26年6月1日	進学雑誌	資料請求冊子（「SELF BRAND」巻頭カラー）	設置構想	書店配本（無料）
平成26年7月1日	進学雑誌	塾ジャーナル7月号中面広告	設置構想	進学塾配本
平成26年7月11日	進学雑誌	アンビシャス７月号（表３・表４）	設置構想	高校配布
平成26年7月14日	進学雑誌	蛍雪時代８月（付録表４）	設置構想	
平成26年8月2日	オープンキャンパス	説明会	設置構想	
平成26年8月3日	オープンキャンパス	説明会	設置構想	
平成26年10月28日	ＤＭ	受験サプリＤＭ	設置構想	会員配布
平成26年10月30日	進学雑誌	蛍雪時代臨時増刊号	設置構想	
平成26年11月12日	進学雑誌	蛍雪時代11月号（表4）	設置構想	
平成26年11月20日	進学雑誌	塾ジャーナル11月号中面広告	設置構想	
平成26年12月15日	進学雑誌	アンビシャス12月号（表3）	設置構想	
平成27年2月12日	ゼロパンフ	入学センター作成	設置構想	2月～資料請求者へ
平成27年2月12日	ＭＪ	入試合格者（合格通知同梱）冊子	設置構想	入試合格者向け
平成27年3月28日	新聞広告	中日新聞題字下	設置構想	
平成27年4月11日	新聞広告	中日新聞題字下	設置構想	
平成27年4月12日	meijo journal	入学センター作成(大学案内)	設置構想	4月～資料請求者へ
平成27年4月12日	入試ガイド	入学センター作成（入試情報）	設置構想	4月～資料請求者へ

入学説明会等（外国語学部）　　入学センター

日時	説明会名等	場所	実施会場	主催	備考
平成26年4月10日	相談会	名古屋市	吹上ホール	ライセンスアカデミー	
平成26年4月16日	相談会	多治見市	多治見市産業文化センター	昭栄広報	
平成26年4月17日	説明会	大垣市	大垣商業	さんぽう	
平成26年4月19日	相談会	名古屋市	ウィンクあいち	日本ドリコム	
平成26年4月22日	説明会	氷見市	氷見高校	ライセンスアカデミー	
平成26年4月24日	相談会	大垣市	ロワジールホテル大垣	昭栄広報	
平成26年4月25日	相談会	高山市	高山市民文化会館	昭栄広報	
平成26年4月30日	説明会	鈴鹿市	白子高校	さんぽう	
平成26年5月8日	相談会	名古屋市	吹上ホール	ライセンスアカデミー	
平成26年5月8日	説明会	名古屋市	名古屋高校	ライセンスアカデミー	
平成26年5月8日	説明会	知多市	知多翔洋高校	ライセンスアカデミー	
平成26年5月9日	説明会	名古屋市	富田高校	昭栄広報	
平成26年5月11日	相談会	名古屋市	名古屋国際会議場	サンライズエージェンシー	
平成26年5月12日	説明会	高山市	高山西高校	昭栄広報	
平成26年5月12日	説明会	大府市	大府高校	さんぽう	
平成26年5月14日	進学懇談会	四日市市	四日市都ホテル		高校教員対象
平成26年5月14日	説明会	一宮市	一宮北高校	さんぽう	
平成26年5月15日	進学懇談会	津市	ホテルグリーンパーク津		高校教員対象
平成26年5月16日	説明会	可児市	可児高校	マイナビ	
平成26年5月16日	説明会	瑞浪市	中京高校	さんぽう	
平成26年5月17日	大学展	岐阜市	じゅうろくプラザ		
平成26年5月17日	説明会	四日市市	暁高校	昭栄広報	
平成26年5月17日	説明会	岐阜市	岐阜聖徳学園	さんぽう	
平成26年5月19日	説明会	伊香郡（滋賀）	伊香高校	さんぽう	
平成26年5月20日	進学懇談会	福井市	ユアーズホテルフクイ		高校教員対象
平成26年5月20日	説明会	高浜市	高浜高校	ライセンスアカデミー	
平成26年5月20日	説明会	岐阜市	岐阜農林高校	ライセンスアカデミー	
平成26年5月21日	進学懇談会	金沢市	ＡＮＡクラウンプラザ金沢		高校教員対象
平成26年5月21日	進学懇談会	彦根市	彦根キャッスルホテル		高校教員対象
平成26年5月21日	説明会	郡上市	郡上高校	さんぽう	
平成26年5月22日	進学懇談会	富山市	カナルパークホテル富山		高校教員対象
平成26年5月22日	相談会	高山市	高山市民文化会館	さんぽう	
平成26年5月22日	説明会	高山市	斐太高校	さんぽう	
平成26年5月22日	説明会	江南市	尾北高校	さんぽう	
平成26年5月24日	大学展	浜松市	アクトシティ浜松		
平成26年5月25日	大学展	静岡市	ツインメッセ静岡		
平成26年5月27日	進学懇談会	岐阜市	ホテルリソル岐阜		高校教員対象
平成26年5月27日	説明会	浜松市	浜松商業高校		
平成26年5月28日	説明会	名古屋市	名古屋経済市邨	さんぽう	
平成26年5月28日	説明会	小牧市	小牧高校	さんぽう	
平成26年5月28日	説明会	名古屋市	東邦高校	さんぽう	
平成26年5月29日	説明会	美濃市	武儀高校	ライセンスアカデミー	
平成26年5月29日	説明会	瀬戸市	瀬戸高校	さんぽう	
平成26年5月30日	相談会	可児市	可児市福祉センター	ライセンスアカデミー	

日時	説明会名等	場所	実施会場	主催	備考
平成26年5月31日	大学展	名古屋市	ウィンクあいち		
平成26年5月31日	相談会	名古屋市	河合塾名古屋校		
平成26年6月1日	大学展	名古屋市	ウィンクあいち		
平成26年6月2日	説明会	一宮市	一宮北高校	昭栄広報	
平成26年6月4日	進学懇談会	豊橋市	ホテルアソシア豊橋		高校教員対象
平成26年6月4日	説明会	鈴鹿市	鈴鹿高校	さんぽう	
平成26年6月5日	進学懇談会	浜松市	クラウンパレス浜松		高校教員対象
平成26年6月5日	説明会	岐阜市	富田高校	さんぽう	
平成26年6月6日	進学懇談会	静岡市	ホテルアソシア静岡		高校教員対象
平成26年6月7日	大学展	四日市市	じばさん三重		
平成26年6月7日	説明会	春日井市	春日井東高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月7日	説明会	土岐市	土岐商業高校	さんぽう	
平成26年6月8日	相談会	名古屋市	ウィンクあいち	日本ドリコム	
平成26年6月9日	説明会	新城市	新城東高校	さんぽう	
平成26年6月9日	説明会	一宮市	木曽川高校		
平成26年6月10日	相談会	静岡市	ツインメッセ静岡	栄美通信	
平成26年6月10日	進学懇談会	名古屋市	名古屋マリオットアソシア		高校教員対象
平成26年6月10日	進学懇談会	松本市	松本東急イン		高校教員対象
平成26年6月10日	説明会	揖斐郡池田町	池田高校	昭栄広報	
平成26年6月11日	相談会	金沢市	金沢駅もてなしドーム	栄美通信	
平成26年6月12日	相談会	福井市	フェニックスプラザ	栄美通信	
平成26年6月12日	相談会	浜松市	アクトシティ浜松	栄美通信	
平成26年6月12日	相談会	春日井市	春日井市総合体育館	さんぽう	
平成26年6月12日	説明会	八日市市	八日市高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月12日	説明会	岐阜市	岐阜商業高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月13日	相談会	富山市	カナルパークホテル富山	栄美通信	
平成26年6月13日	説明会		益田清風高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月14日	相談会	名古屋市	愛知県体育館	進研アド	
平成26年6月15日	大学展	豊橋市	名豊ビル		
平成26年6月15日	相談会	名古屋市	愛知大学名古屋キャンパス		
平成26年6月17日	説明会	名古屋市	北高校	さんぽう	
平成26年6月18日	説明会	桑名市	桑名西高校	さんぽう	
平成26年6月18日	説明会	岐阜市	岐阜東高校	さんぽう	
平成26年6月18日	説明会	春日井市	春日井南高校	大学新聞社	
平成26年6月19日	説明会	静岡市	静岡北高校		
平成26年6月19日	説明会	大垣市	大垣西高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月19日	説明会	岐阜市	岐阜富田高校	ライセンスアカデミー	
平成26年6月20日	説明会	磐田市	磐田北高校	昭栄広報	
平成26年6月21日	相談会	岐阜市	岐阜市文化センター	サンライズエージェンシー	
平成26年6月26日	説明会	津島市	津島東		
平成26年6月27日	進学懇談会	名古屋市	名古屋マリオットホテルアソシア		高校教員対象
平成26年6月27日	相談会	各務原市	各務原市産業文化センター	さんぽう	
平成26年6月29日	説明会	多治見市	多治見西高校		
平成26年6月30日	説明会	名古屋市	愛知淑徳高校		
平成26年7月1日	説明会	あま市	美和高校	ライセンスアカデミー	

日時	説明会名等	場所	実施会場	主催	備考
平成26年7月2日	相談会	中津川市	にぎわいプラザ	ライセンスアカデミー	
平成26年7月2日	説明会	一宮市	一宮南高校	さんぽう	
平成26年7月2日	説明会	浜松市	浜松湖東高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月2日	説明会	知立市	知立高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月3日	説明会	名古屋市	名古屋大谷高校		
平成26年7月3日	説明会	稲沢市	稲沢東高校		
平成26年7月4日	説明会	長久手市	栄徳高校	さんぽう	
平成26年7月4日	説明会	津市	高田高校	さんぽう	
平成26年7月4日	説明会	名古屋市	享栄高校	さんぽう	
平成26年7月5日	説明会	藤枝市	藤枝明誠高校	キッズコーポレーション	
平成26年7月5日	説明会	静岡市	城南静岡高校		
平成26年7月7日	説明会	東郷町	東郷高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月9日	相談会	福岡市	福岡国際ホール	ライセンスアカデミー	留学生対象
平成26年7月9日	説明会	四日市市	四日市西	さんぽう	
平成26年7月10日	説明会	名古屋市	名古屋経済大蔵	ライセンスアカデミー	
平成26年7月11日	相談会	那覇市	パシフィックホテル沖縄	ジャストクリエイション	
平成26年7月11日	説明会	御嵩町	東濃実業高校		
平成26年7月11日	説明会	大垣市	大垣商業高校	さんぽう	
平成26年7月11日	説明会	瀬戸市	聖カピタニオ高校		
平成26年7月12日	説明会	豊川市	御津高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月13日	相談会	広島市	ＮＴＴクレドホール	ライオン企画	
平成26年7月14日	説明会	春日井市	高蔵寺高校	大学新聞社	
平成26年7月14日	説明会	岐阜市	岐阜商業高校	さんぽう	
平成26年7月15日	説明会	名古屋市	東海学園高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月15日	説明会	江南市	江南高校	大学新聞社	
平成26年7月16日	説明会	名古屋市	愛知高校	さんぽう	
平成26年7月16日	説明会	津島市	津島高校	大学新聞社	
平成26年7月16日	説明会	名古屋市	惟信高校	ライセンスアカデミー	
平成26年7月16日	説明会	可児市	可児高校	大学新聞社	
平成26年7月16日	説明会	津市	セントヨゼフ高校		
平成26年7月16日	説明会	名古屋市	熱田高校	大学新聞社	
平成26年7月17日	説明会	関市	関商工高校	キッズコーポレーション	
平成26年7月17日	説明会	四日市市	暁高校	昭栄広報	
平成26年7月18日	説明会	土岐市	土岐商業	さんぽう	
平成26年7月19日	相談会	名古屋市	名古屋国際会議場	大学通信	
平成26年7月21日	説明会	津島市	津島北高校	さんぽう	
平成26年7月25日	相談会	高松市	高松高等予備校	ジャストクリエイション	
平成26年7月27日	相談会	名古屋市	吹上ホール	ライオン企画	
平成26年7月30日	説明会	豊明市	豊明高校		
平成26年8月24日	相談会	名古屋市	ウィンクあいち	サンライズエージェンシー	
平成26年8月25日	相談会	浜松市	クラウンパレス浜松	サンライズエージェンシー	
平成26年8月26日	相談会	静岡市	ホテルアソシア	サンライズエージェンシー	
平成26年8月30日	相談会	岐阜市	大学展	私大広報委員会	
平成26年9月5日	相談会	松本市	ブエナビスタ	栄美通信	
平成26年9月5日	相談会	仙台市		栄美通信	

日時	説明会名等	場所	実施会場	主催	備考
平成26年9月13日	相談会	四日市市	大学展	私大広報委員会	
平成26年9月15日	相談会	豊橋	大学展	私大広報委員会	
平成26年9月16日	相談会	富山市		栄美通信	
平成26年9月17日	相談会	金沢市		栄美通信	
平成26年9月18日	相談会	福井市		栄美通信	
平成26年9月23日	相談会	津市		サンライズエージェンシー	
平成26年9月27日	相談会	名古屋市	大学展	私大広報委員会	
平成26年9月28日	相談会	名古屋市	大学展	私大広報委員会	
平成26年9月30日	相談会	岡山市		栄美通信	
平成26年10月3日	説明会	名古屋市	名東高校	さんぽう	
平成26年10月6日	説明会	岡崎市	岡崎城西高校	ライセンスアカデミー	
平成26年10月9日	説明会	岐阜市	岐阜北高校	大学新聞社	
平成26年10月17日	説明会	蒲郡市	海陽高校	さんぽう	
平成26年10月20日	説明会	春日井市	春日井南高校		
平成26年10月22日	説明会	大府市	大府東高校	さんぽう	
平成26年10月24日	説明会	一宮市	大成高校	さんぽう	
平成26年10月25日	相談者	浜松市	アクトシティ浜松	ライオン企画	
平成26年10月27日	説明会	碧南市	碧南高校	昭栄広報	
平成26年10月30日	相談会	名古屋市	ウィンクあいち	栄美通信	
平成26年11月4日	相談会	一宮市	—	さんぽう	
平成26年11月5日	説明会	日進市	日進西高校	さんぽう	
平成26年11月6日	説明会	加茂市	加茂高校	ライセンスアカデミー	
平成26年11月11日	説明会	多治見市	多治見北高校	マイナビ	
平成26年11月13日	説明会	春日井市	春日井西高校	さんぽう	
平成26年11月17日	説明会	羽島市	羽島北高校	マイナビ	
平成26年11月20日	説明会	加茂市	加茂高校	ライセンスアカデミー	
平成26年12月4日	説明会	春日井市	春日井南高校	ライセンスアカデミー	
平成26年12月10日	説明会	四日市市	暁高校	ライセンスアカデミー	
平成26年12月13日	相談会	大阪市	ボディメーカーコロシアム	サンライズエージェンシー	
平成26年12月17日	相談会	浜松市	アクトシティ浜松	さんぽう	
平成26年12月19日	相談会	碧南市	—	さんぽう	
平成26年12月23日	相談会	名古屋市	ウィンクあいち	サンライズエージェンシー	
平成27年3月11日	説明会	福井市	北陸高校	さんぽう	
平成27年3月18日	説明会	一宮市	愛知啓成高校	さんぽう	
平成27年3月19日	説明会	東郷町	東郷高校	昭栄広報	
平成27年4月9日	相談会	名古屋市	吹上ホール	大学通信	
平成27年4月10日	説明会	岐阜市	ふれ愛ドーム	ライセンスアカデミー	
平成27年4月16日	相談会	名古屋市	吹上ホール	さんぽう	
平成27年4月23日	相談会	岐阜市	じゅうろくプラザ	さんぽう	
平成27年4月24日	相談会	津市	アストプラザ	昭栄広報	
平成27年4月28日	相談会	四日市市	じばさん三重	さんぽう	
平成27年4月28日	説明会	伊勢市	皇學館高校	ライセンスアカデミー	

外国語学部広報　　渉外部

日時	媒体	方法	内容	備考	デザイン
平成26年4月1日～	大学ホームページ	特設ページ	設置構想		
平成26年4月1日～7日	交通広告	市営地下鉄「金山駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター4種のうち1種で「設置構想」	
平成26年4月8日～14日	交通広告	市営地下鉄「栄駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター4種のうち1種で「設置構想」	
平成26年4月15日～21日	交通広告	市営地下鉄「名古屋駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター4種のうち1種で「設置構想」	
平成26年4月3日～23日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年4月4日	新聞広告	中日新聞	設置構想	学長年度初めあいさつ広告	
平成26年4月9日～5月6日	交通広告	市営地下鉄「千種」構内広告	設置構想	B0ポスターで「設置構想」	
平成26年4月25日	新聞広告	朝日新聞「大学の都心回帰特集」	設置構想		
平成26年4月29日	新聞広告	朝日新聞朝刊全5段	設置構想	モノクロ	
平成26年5月	パンフレット	「進学懇談会パンフ」での学部紹介	学部紹介	A4 8Pパンフ、2P分で学部紹介	
平成26年5月	雑誌広告	旺文社「蛍雪時代6月号」H4	設置構想	カラー１P	
平成26年5月7日～30日	交通広告	市営地下鉄「千種」構内広告	設置構想	B0ポスターで「設置構想」	
平成26年5月8日～21日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年5月23日～6月4日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年6月	雑誌広告	フロムページ「SELFBRAND」	設置構想	カラー１P	
平成26年6月1日～30日	交通広告	市営地下鉄車内マルチ広告	設置構想	東山線・名城線各1編成／1車両・1テーマ	
平成26年6月5日～7月2日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年6月25日	雑誌広告	東海財界2014年7月号	設置構想	学長インタビュー&H4広告	
平成26年7月1日	学内広報	名城大学広報　No.554	学部紹介	2Pで学部紹介	
平成26年7月1日～31日	交通広告	市営地下鉄「千種」構内広告	設置構想	B0ポスターで「設置構想」	
平成26年7月1日～7日	交通広告	市営地下鉄「名古屋駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター5種のうち1種で「設置構想」	
平成26年7月1日～7日	交通広告	市営地下鉄「栄駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター5種のうち1種で「設置構想」	
平成26年7月1日～31日	交通広告	市営地下鉄車内マルチ広告	設置構想	東山線・名城線各1編成／1車両 中刷り、額面、ドア横	
平成26年7月1日～31日	交通広告	JR中央線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年7月9日	新聞広告	中日新聞	設置構想	「大学の新聞」企画	
平成26年7月3日～16日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年7月15日～21日	交通広告	市営地下鉄主要駅集中貼り	設置構想	名古屋、栄、金山、伏見、国際センター、千種、上前津、本山 B0換算で4連、3連、2連　計30か所	
平成26年7月17日～8月6日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年7月25日	新聞広告	読売新聞全7段	設置構想	モノクロ	
平成26年8月上旬	学外広報	名城大学通信 48	学部紹介	2Pで学部紹介	
平成26年8月7日～20日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年8月21日～9月3日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年8月30日	新聞広告&WEB	読売新聞	学部紹介	グローバル人材育成特集 読売オンラインでも紹介（8/30～9/30）	

日時	媒体	方法	内容	備考	デザイン
平成26年9月4日～17日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年9月18日～10月1日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年9月	雑誌広告	リクルート「大学の約束」	学部紹介		
平成26年9月1日～平成27年3月31日	交通広告	ナゴヤドーム前矢田駅電飾看板	設置構想	左回り（大曽根方面）ホーム内照明看板（H1250×W1665mm）	
平成26年9月30日	雑誌広告	エコノミスト「ザ・名古屋」ＶＯＬ．７	設置構想	表２広告、A4カラー	
平成26年10月19日	協賛広告	なごやかまつり・ひがしイベントパンフ	設置構想	協賛広告	
平成26年10月30日～11月19日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年10月	パンフレット	高校生アンケート用パンフ	学部紹介	3つ折り	
平成26年11月	パンフレット	開学90周年募金趣意書	学部紹介	A4、２P	
平成26年11月20日～12月10日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年11月22日～	大学ホームページ	特設ページ	学部紹介		
平成26年12月1日～	交通広告	「大曽根」駅のボード広告	設置構想	北改札内コンコース サイズ：H1200×W1710mm（見え寸＝H1105×1710mm）	
平成26年12月1日～31日	交通広告	市営地下鉄車内マルチ広告	設置構想	東山線・名城線各1編成／1車両 中刷り、額面、ドア横	
平成26年12月10日～平成27年12月末予定	屋外広告	ナゴヤドーム前キャンパスの工事仮囲いの２辺 （環状線側、イオン側）	設置構想	サイズ：環状線側：W 36.6m×H 2.7m イオン側：W 36.6m×H 2.5m	
平成26年12月11日～24日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成26年12月20日～平成27年1月19日	ＷＥＢ広告	読売新聞「大学が選んだ3大ニュース」WEB	設置構想		
平成26年12月25日～平成27年1月21日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成27年1月1日	新聞広告	朝日新聞　学長年頭所感	設置構想		
平成27年1月22日～2月4日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成27年1月31日	雑誌広告	リクルート「進学事典 学校選び応援号」東海北陸版	学部紹介	10万部、A5オールカラー、増設企画カラー2ページ H2広告	
平成27年1月31日	雑誌広告	河合塾「栄冠めざして special vol.1」	設置構想	40万部、B5オールカラー	
平成27年2月5日～3月4日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成27年3月5日～4月1日	交通広告	名鉄豊田線ドア横広告	設置構想	B3ポスターで「設置構想」	
平成27年3月12日	新聞広告	北陸中日新聞朝刊	学部紹介	「みんなで新幹線に乗って、東京に来まっし！！」全5段カラー	
平成27年3月	雑誌広告	さんぽう「大学タイムズ」3月号	学部紹介	10万部、タブロイド判、オールカラー１P	
平成27年3月30日	雑誌広告	朝日新聞出版「ＡＥＲＡ」3月30日号	設置構想	約14万部、A4変形（284×210mm）、中面カラー1P	
平成27年4月	パンフレット	外国語学部国際英語学科紹介パンフレット	学部紹介	20,000部 サイズ：200×200mm、16Pオールカラー、中綴じ	
平成27年3月31日～4月6日	交通広告	市営地下鉄「金山駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター4種のうち1種で「設置構想」	
平成27年4月7日～13日	交通広告	市営地下鉄「栄駅」駅マルチ広告	設置構想	B1ポスター4種のうち1種で「設置構想」	
平成27年4月28日	新聞広告	朝日新聞「東海の大学力2016」	学部紹介	名古屋本社版朝刊　タブロイド判	
平成27年5月16日～6月1日	交通広告	名古屋鉄道「はいすくーるセット」	設置構想	B0サイズ・21枚掲出×2種	

名城大学外国語学部国際英語学科〈仮称〉の設置に関するアンケートのお願い　【資料 3】

本学ではグローバル化社会に対応できる人材の養成を目指し、新たに外国語学部国際英語学科〈仮称〉の設置を検討しております。企業様の視点からご意見を頂き、新学部を設置するための参考とさせて頂きたく、アンケートのご協力方よろしくお願い申し上げます。なお、このアンケートの調査結果は、新学部設置のための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用いたしません。

学部開設予定年月：平成 28 年 4 月、設置場所：愛知県名古屋市東区矢田南、入学定員：130 名

※上記の学部は構想段階であり、設置が決定されたものではありません。また、内容は変更される可能性もあります。

（選択する設問は該当する番号に〇を付してください。また、記入欄には必要に応じてご記入ください。）

問１．貴社の業種についてお教えください。

1. 建設業　2. 製造業　3. 運輸・通信業　4. 卸売・小売業　5. 金融・保険業　6. 不動産業
7. サービス業　8. 情報処理産業　9. 広告・出版業　10. 医療・福祉　11. その他（　　）

問２．貴社の本社所在地をお教えください。

1. 愛知県　2. 岐阜県　3. 三重県　4. 東京都　5. 大阪府　6. その他（　　）

問３．海外との取引、或いは、海外への事業展開はありますか。

1. ある　2. 現在はないが、海外への展開を計画中である　3. 特にない　4. その他（　　）

1. 又は 2. を選ばれた場合は、対象地域をお選びください。〈複数回答可〉

1. アジア（具体的国名＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿）

2. 北米　3. 南米　4. ヨーロッパ　5. アフリカ　6. オセアニア　7. その他(　　)

問４．英語を必要とする業務はありますか。

1. 大いにある　2. ある　3. 少しある　4. 特にない

問５．英語以外の外国語を必要とする業務はありますか。

1. 大いにある　2. ある　3. 少しある　4. 特にない

1.～3. を選ばれた場合は、具体的な言語を必要度が高い言語から、ご記入ください。

1（　　語）2（　　語）3（　　語）4（　　語）5（　　語）

問６．　本学が新たに設置を検討している学部では、以下の能力を身に付けた人材の養成を目指しています。以下の能力を身に付けた本学外国語学部国際英語学科〈仮称〉の卒業生の採用のご意向をお教えください。

【養成する人材像】　※　養成する人材像は変更される可能性もあります。

① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
② 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材
③ アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材

1. 採用したい　2. 採用を検討する　3. 当社の求める人材と異なる

問７．　本学が構想しているグローバル化社会に対応できる人材養成を目的とする外国語学部〈仮称〉について、ご意見・ご要望等がございましたら是非お聞かせください。（卒業生に期待すること、在学中に身に付けるべき能力等どのようなことでも構いません）

アンケートにご協力頂きありがとうございました。　　**名城大学新学部開設準備室**

【資料 4】

名城大学外国語学部国際英語学科〈仮称〉の設置に関するアンケートのお願い　2014.10.31

本学ではグローバル化社会に対応できる人材の養成を目指し、新たに外国語学部国際英語学科〈仮称〉の設置を検討しております。学部を新たに設置するためには、新設学部卒業生に対する企業様の需要について、見通しがあることを説明することが必須となっております。アンケート調査にご協力頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、以前にアンケート調査にご回答頂いた企業様には重複となりますが、できるだけ新しいデータで企業様のニーズを把握することが求められておりますので、再度ご協力頂けますよう重ねてお願い致します。

また、このアンケートの調査結果は、新学部設置のための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用致しません。

学部開設予定年月：平成 28 年 4 月、設置場所：愛知県名古屋市東区矢田南 4-102-9、入学定員：130 名

※上記の学部は構想段階であり、設置が決定されたものではありません。また、内容は変更される可能性もあります。

（各設問の該当する番号に〇を付してください。）

問１．貴社の業種についてお教えください。

1. 建設業　2. 製造業　3. 運輸・通信業　4. 卸売・小売業　5. 金融・保険業　6. 不動産業
7. サービス業　8. 情報処理産業　9. 広告･出版業　10. 医療･福祉　11. その他（　　）

問２．貴社の本社所在地をお教えください。

1. 愛知県　2. 岐阜県　3. 三重県　4. 東京都　5. 大阪府　6. その他（　　）

問３．海外との取引、或いは、海外への事業展開はありますか。

1. ある　2. 現在はないが、海外への展開を計画中である　3. 特にない　4. その他（　　）

問４．英語を必要とする業務はありますか。

1. 大いにある　2. ある　3. 少しある　4. 特にない

問５．　本学が新たに設置を検討している学部では、以下の能力を身に付けた人材の養成を目指しています。以下の能力を身に付けた本学外国語学部国際英語学科〈仮称〉の卒業生の採用のご意向をお教えください。

1. 採用したい　2. 採用を検討する　3. 当社の求める人材と異なる

【養成する人材像】

外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。

①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

アンケートにご協力頂きありがとうございました。　　**名城大学新学部開設準備室**

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ﾖｼﾋｻ　ｺｳｲﾁ 吉久　光一 ＜平成27年4月＞		工学博士		名城大学学長 （昭59.4）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（外国語学部国際英語学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 （学部長）	ｹｲｹｲｺｳ ｱｰﾅﾝﾀﾞ ｸﾏｰﾗ K.K.U. Ananda Kumara (ｺｰﾝﾋﾟﾃｨ ｶﾝｶｰﾅﾏﾗｰｹﾞｰ ｳﾊﾟｰﾘ ｱｰﾅﾝﾀﾞ ｸﾏｰﾗ Konpity Kankanamalage Upali Ananda Kumara) ＜平成28年4月＞		工学 博士		現代に生きる※ 日本とｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ人材 ｱｼﾞｱを学ぶ ｱｾｱﾝ事情 南ｱｼﾞｱ事情 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	1前 1･2･3･4後 1前 3･4前 3･4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 経営学部 教授 （平26.4） 特定非営利活動法人 ﾀﾗﾝｶﾞ・ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ 理事長 （平26.4）	4日 1日
2	専	教授	ﾌｼﾞﾀ　ｼｭｳ 藤田　衆 ＜平成28年4月＞		文学 修士		ﾌﾗﾝｽ語入門Ⅱ ﾌﾗﾝｽ語初級Ⅱ ﾌﾗﾝｽ語中級Ⅱ ﾌﾗﾝｽ語応用Ⅱ ﾖｰﾛｯﾊﾟの文学と社会 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2後 3前 3後 3･4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 法学部 教授 （昭56.4）	4日
3	専	教授	ﾑﾗﾀ　ﾔｽﾐ 村田　泰美 ＜平成28年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		海外留学入門※ 英語学概論 異文化理解※ 英語の構造と仕組み ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝのための英文法 英語の拡がりと多様性 海外研修 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	1･2･3･4前 1前 1後 2前 2後 3後 2前 1前 1後 3前 3後 4前 4後	0.9 2 0.9 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 人間学部 教授 （平17.4）	4日
4	専	教授	ｶﾀﾀﾞ　ﾖｼｱｷ 堅田　義明 ＜平成28年4月＞		Doctor of Philosophy （米国）		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 日本近現代史 日本の経済 日本の政治 国際関係論 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2･3･4前 2前 2前 2後 3･4前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋商科大学 経済学部 教授 （平13.4）	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週平均日数
5	専	教授	ﾌﾀｶﾞﾐ　ﾏﾐ 二神　真美 ＜平成28年4月＞		博士 (比較社会文化)		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 異文化理解※ 多文化共生論 ｱﾒﾘｶ地域研究 国際ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ(英語圏) 日本のﾂｰﾘｽﾞﾑ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	3後 1後 2後 2前 3前 3･4後 1前 1後 3前 3後 4前 4後	1 1.1 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 経営本部 新学部開設 準備室 教授 (平26.10)	4日
6	専	教授	ｲﾜｲ　ﾏｻﾐ 岩井　眞實 ＜平成28年4月＞		文学 修士		現代に生きる※ 歴史と文化 日本文学研究 日本の伝統文化 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	1前 1･2･3･4前 2後 2前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	0.6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	福岡女学院 大学 人文学部 教授 (平12.4)	4日
7	専	教授	ﾆｼｵ　ﾕﾘ 西尾　由里 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語音声学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2後 1前 1後 3後 1後 1前 1後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	岐阜薬科 大学 基礎教育大 講座 教授 (平23.4)	4日
8	専	教授	ｵ　ﾃﾞﾌｧﾝ 呉　大煥 ＜平成29年4月＞		Ph.D. in Korean Language and Literature (韓国)		韓国語入門Ⅰ 韓国語入門Ⅱ 韓国語初級Ⅰ 韓国語初級Ⅱ 韓国語中級Ⅰ 韓国語中級Ⅱ 韓国語応用Ⅰ 韓国語応用Ⅱ 韓国地域研究 ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 2後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根県立 大学 総合政策 学部 准教授 (平18.4)	4日
9	専	教授	ﾂﾑﾗ　ﾌﾐﾋｺ 津村　文彦 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		文化人類学 地域研究論 タイの言語と文化Ⅰ タイの言語と文化Ⅱ 国際ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ(非英語圏) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2･3･4後 1後 3前 3後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	福井県立 大学 学術教養 ｾﾝﾀｰ 准教授 (平15.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する平均週当たり日数
10	専	准教授	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ｼﾞｮﾝ ﾏｲﾈﾊﾝ Gregory John Minehane ＜平成28年4月＞		Master of Arts in Applied Linguistics (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		海外留学入門※ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ	1･2･3･4前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 1後 2前	1.1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 経済学部 准教授 (平17.4)	4日
11	専	准教授	ﾔﾅｷﾞｻﾜ ﾋﾃﾞｵ 柳沢 秀郎 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英米文学概論※ ｱﾒﾘｶ文学研究 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	1前 1後 2前 2後 3後 1前 2後 1前 1後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 1.1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 経営本部 新学部開設 準備室 准教授 (平22.4)	4日
12	専	准教授	ﾏﾂｳﾗ ﾉﾘｺ 松浦 周子 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		中国語入門Ⅰ 中国語入門Ⅱ 中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ 中国語中級Ⅰ 中国語中級Ⅱ 中国語応用Ⅰ 中国語応用Ⅱ 中国地域研究 ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 2前 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	関西学院 大学 法学部・ 社会学部 非常勤講師 (平22.4)	4日
13	専	准教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾔｽﾋﾛ 藤原 康弘 ＜平成28年4月＞		博士 (言語文化学)		英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 第二言語習得論 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科指導法Ⅰ 英語科指導法Ⅱ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2後 2前 2前 2後 3前 3後 1前 1後 3前 3後 4前 4後	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛知教育 大学 教育学部 准教授 (平22.4)	4日
14	専	准教授	ﾎﾟｰﾙ ﾃﾞｨﾋﾞｯﾄﾞ ｳｨｷﾝ Paul David Wicking ＜平成28年4月＞		Master of Arts (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ) Master of Applied Linguistics (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ	3前 1前 1後 1前 1後 3後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 経営本部 新学部開設 準備室 准教授 (平21.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する平均週当たり日数
15	専	准教授	ﾏｯｸｽ ﾌﾟﾚｰﾊﾞｰ Max Praver ＜平成28年4月＞		Doctor of Education (米国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ ﾒﾃﾞｨｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ﾒﾃﾞｨｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ 英語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1後 2前 3前 3後 3･4前	2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	静岡大学 情報学部 講師 (平24.4)	4日
16	専	准教授	ﾐﾔｻﾞｷ　ｱﾗﾀ 宮崎　新 ＜平成28年4月＞		Doctor of Philosophy (米国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅢ ｾﾞﾐﾅｰﾙⅣ	2前 2後 3前 3後 2前 1前 1後 3前 3後 4前 4後	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋外国語大学 外国語学部 外国語担当 専任講師 (平24.4)	4日
17	専	講師	ﾎﾟｰﾙ ﾃﾞﾋﾞｯﾄﾞ ﾃﾞｨｷﾝｿﾝ Paul David Dickinson ＜平成28年4月＞		Master of Arts (Applied Linguistics) (英国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展)	1前 1後 2前 2後 3前 1前 1後 2前 2後 3後 1前 1後 3後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	新潟国際情報大学 国際学部 契約講師 (平23.4)	4日
18	専	講師	ﾊﾟﾄﾘｯｸ ｽｺｯﾄ ﾚｲﾂ Patrick Scott Rates ＜平成28年4月＞		Master of Science in Education (米国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ (発展)	1前 1後 2前 2後 3前 1前 1後 2前 2後 3後 2前 2後 3後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立教大学 ﾗﾝｹﾞｰｼﾞ･ｾﾝﾀｰ 教育講師 (平23.4)	4日
19	専	講師	ｱﾝｿﾆｰ ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｶﾞﾗｶｰ Anthony Brian Gallagher ＜平成28年4月＞		Master of Arts in Online and Distance Education (英国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋外国語大学 外国語学部 外国語担当 専任講師 (平24.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する平均週当たり日数
20	専	講師	ﾅｶﾔﾏ ｱｻﾐ 中山 麻美 ＜平成28年4月＞		修士 (言語教育情報学立命館大学) Master of Arts in English Language Teaching (英国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 2前 2後 3前 1前 1後 3後 3後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋学院大学 経済学部 講師 (平25.4)	4日
21	専	講師	ｽﾃｲｼｰｱﾝ ｱﾘ Staci-Anne R Ali ＜平成28年4月＞		Master of Arts (Teaching English as a Foreign/ Second Language) (英国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2)	1前 1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛知大学 豊橋語学教育研究室 助教 (平24.4)	4日
22	専	講師	ｲｱﾝ ﾏｼｭｰ ﾛｽ Ian Matthew Roth ＜平成28年4月＞		Master of Science (米国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 2前 2後 3前 1前 1後 2前 2後 3後 3後 3前 3後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛知大学 語学教育研究室 嘱託助教Ⅰ (平27.4)	4日
23	専	助教	ﾀﾆｬ ﾏﾘｰ ﾏｯｹﾝﾃﾞｨ Tanja Marie McCandie ＜平成28年4月＞		Master of Applied Linguistics (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ 英語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	2前 2後 3前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 3･4前	2 2 2 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	南山大学 英語教育ｾﾝﾀｰ 講師 (平25.4)	4日
24	専	助教	ｼﾞｪｲﾑｽ ﾏｰﾃｨﾝ ﾛｼﾞｬｰｽ James Martin Rogers ＜平成28年4月＞		Master of TESOL (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ ﾒﾃﾞｨｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ﾒﾃﾞｨｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ 英語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3･4前	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	関西外国語大学 英語国際学部 講師 (平20.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
25	兼担	講師	ｽｽﾞｷ　ﾋﾃﾞｵ 鈴木　英夫 ＜平成30年4月＞		Doctor of Philosophy in Economics (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		国際経済論	3･4後	2	1	名城大学 経済学部 教授 (昭63.4)	
26	兼担	講師	ｲｹｶﾞﾐ　ｱｷﾗ 池上　彰 ＜平成28年4月＞		経済学士		経済学 ｲｽﾗﾑ教文化論	1･2･3･4前 2後	2 2	1 1	東京工業大学 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂｾﾝﾀｰ 専任教授 (平24.2)	
27	兼担	講師	ｶｷﾂﾊﾞ　ﾅｵｼ 垣鍔　直 ＜平成28年4月＞		工学博士		人間と自然※	1･2･3･4前	1.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平16.10)	
28	兼担	講師	ｲﾄｳ　ｺｳｼﾞ 伊藤　康児 ＜平成29年4月＞		教育学修士 ※		心の科学	2･3･4後	2	1	名城大学 人間学部 教授 (昭58.4)	
29	兼担	講師	ｲﾄｳ　ﾄｼｶｽﾞ 伊藤　俊一 ＜平成28年4月＞		文学修士 ※		日本中世近世史	1後	2	1	名城大学 人間学部 教授 (平4.4)	
30	兼担	講師	ﾅｶﾞｵ　ｱｷﾋﾛ 長尾　晃宏 ＜平成29年4月＞		商学修士 ※		ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸﾘﾚｰｼｮﾝｽﾞ	2前	2	1	名城大学 経営学部 教授 (平7.4)	
31	兼担	講師	ｵｵﾉ　ｴｲｼﾞ 大野　栄治 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		現代に生きる※	1前	0.6	1	名城大学 都市情報学部 教授 (平9.4)	
32	兼担	講師	ｼﾌﾞｲ　ﾔｽﾋﾛ 渋井　康弘 ＜平成29年4月＞		経済学修士 ※		科学と技術の歩み	2･3･4後	2	1	名城大学 経済学部 教授 (平5.4)	
33	兼担	講師	ﾆｼﾔﾏ　ﾄｵﾙ 西山　徹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		英米文学概論※ ｲｷﾞﾘｽ文学研究	1前 2前	0.9 2	1 1	名城大学 経済学部 教授 (平22.4)	
34	兼担	講師	ｻｲﾄｳ　ﾀｹｼ 齊藤　毅 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球と宇宙	1･2･3･4後	2	1	名城大学 理工学部 准教授 (平5.4)	
35	兼担	講師	ﾄﾐｵｶ　ﾄｵﾙ 冨岡　徹 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学Ⅰ 健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	名城大学 経営学部 教授 (平9.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
36	兼担	講師	ﾏｰｸ ｼﾒｵﾝ ﾘﾊﾞｯｸ Mark Simeon Rebuck ＜平成28年4月＞		Master of Arts in Japanese Studies (英国) Master of Arts (Teaching English as a Second/ Foreign Language) (英国)		英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ（基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ（基礎2)	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 薬学部 准教授 (平25.4)	
37	兼担	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾖｼﾉﾘ 谷口　義則 ＜平成28年4月＞		博士 (地球環境科学)		人間と自然※	1･2･3･4前	0.9	1	名城大学 理工学部 准教授 (平18.4)	
38	兼担	講師	ﾔﾏﾀﾆ　ｶﾂ 山谷　克 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		数と論理	2･3･4後	2	1	名城大学 都市情報学部 教授 (平18.4)	
39	兼担	講師	ﾀﾅｶ　ﾀｹﾉﾘ 田中　武憲 ＜平成30年4月＞		経済学修士 ※		日本のものづくり	3･4前	2	1	名城大学 経営学部 教授 (平11.4)	
40	兼担	講師	ｴﾉﾓﾄ　ﾏｻｷ 榎本　雅記 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)		市民と社会	1.2.3.4後	2	1	名城大学 法学部 教授 (平16.4)	
41	兼担	講師	ﾐｳﾗ　ｱﾔｺ 三浦　彩子 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		芸術と人間	1･2･3･4後	2	1	名城大学 理工学部 准教授 (平15.4)	
42	兼担	講師	ﾑﾗｶﾐ　ﾋﾛｶｽﾞ 村上　広一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学)		情報社会と倫理	1後	2	1	名城大学 経営学部 准教授 (平16.4)	
43	兼担	講師	ﾐﾉﾜ(ﾀﾅﾍﾞ)ｱｷｺ 蓑輪(田辺)明子 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		ｼﾞｪﾝﾀﾞｰと社会	2･3･4前	2	1	名城大学 経済学部 助教 (平27.4)	
44	兼任	講師	ﾐﾔｳﾗ　ｸﾆｴ 宮浦　国江 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	愛知県立大学 外国語学部 教授 (平7.4)	
45	兼任	講師	ｷﾑ　ｺｱﾝｳｸ 金　光旭 ＜平成30年4月＞		博士 (法学)		近現代の日韓関係	3･4前	2	1	岐阜経済大学 非常勤講師 (平20.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
46	兼任	講師	ﾛﾊﾞｰﾄ ﾊﾟﾄﾘｯｸ ｼﾞｰ Robert Patrick Gee ＜平成30年4月＞		Master of Science （英国）		ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語	3･4前	4	2	椙山女学園大学 現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部 准教授 （平11.4）	
47	兼任	講師	ｸﾛﾀﾞ ﾖｼﾋｺ 黒田　由彦 ＜平成30年4月＞		博士 （社会学）		現代の日本社会 近現代の日中関係	3後 3･4後	2 2	1 1	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 （昭59.4）	
48	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ ﾉﾘﾋｻ 吉田　文久 ＜平成28年4月＞		体育学修士		健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学Ⅰ 健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	日本福祉大学 子ども発達学部 教授 （平21.4）	
49	兼任	講師	ﾅｶﾞﾇﾏ ﾐｶｺ 長沼　美香子 ＜平成30年4月＞		Master of Arts （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ） ※		英語通訳演習	3･4後	4	2	神戸市外国語大学 外国語学部 准教授 （平27.4）	
50	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾌｭｺ 加藤　普由子 ＜平成29年4月＞		Master of Arts (Teaching English as a Second/ Foreign Language) （英国） 修士 （文学）		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 （平26.4）	
51	兼任	講師	ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ｼﾞｮﾝ ﾎﾟｰｼﾞﾝ Steven John Polzin ＜平成28年4月＞		Bachelor of Arts （米国）		英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2)	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 （平23.4）	
52	兼任	講師	ﾆｼｲ ｶｽﾞﾔ 西井　和弥 ＜平成29年4月＞		修士 （地域研究）		中国語入門Ⅰ 中国語入門Ⅱ 中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ	2前 2前 2後 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	一般財団法人霞山会東亜学院中国語学校 教頭 （平15.4）	
53	兼任	講師	ﾀﾝﾔﾏ ﾐｶ 丹山　美香 ＜平成29年4月＞		修士 （国際関係）		ｷｬﾘｱ形成論	2･3･4前	2	1	金城学院大学 非常勤講師 （平19.4）	
54	兼任	講師	ﾌﾞﾚﾝﾄ ｼﾓﾝｽﾞ Brent Simmonds ＜平成29年4月＞		Master of Applied Linguistics (TESOL) （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 （平21.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
55	兼任	講師	ﾀﾞｸﾞﾗｽ ｳｨﾘｱﾑ ｽｳｨｰﾄﾗﾌﾞ Douglas William Sweetlove ＜平成28年4月＞		Master of Education (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平22.4)	
56	兼任	講師	ﾉﾛ　ﾀﾂﾔ 野呂　達哉 ＜平成29年4月＞		修士 (農学)		生命の多様性	2･3･4前	2	1	名古屋市環境局なごや生物多様性ｾﾝﾀｰ生物多様性専門員 (嘱託職員) (平21.4)	
57	兼任	講師	ﾔﾏｻﾞｷﾗﾝｻﾑ ｶｽﾞﾋｺ 山﨑ランサム 和彦 ＜平成29年4月＞		Doctor of Philosophy (米国)		ｷﾘｽﾄ教文化論	2前	2	1	ﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙ 聖書神学校 校長 (平18.12)	
58	兼任	講師	ｻｲﾄｳ　ｼｹﾞﾙ 齋藤　滋 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		仏教文化論 日本の宗教	2前 2後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平16.4)	
59	兼任	講師	ｲﾜﾀ　ｱｷｺ 岩田　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (人間・環境学)		ｲﾝﾄﾞﾈｼｱの言語と文化Ⅰ ｲﾝﾄﾞﾈｼｱの言語と文化Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	名古屋大学 大学院 非常勤講師 (平25.10)	
60	兼任	講師	ﾌｨﾘｯﾌﾟ ｻﾙﾊﾞﾄｰﾚ ﾘｺﾎﾞｰﾉ Philip Salvatore Riccobono ＜平成28年4月＞		Master of Science in Education Secondary Education (米国) Master of Arts History (米国)		英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平27.4)	
61	兼任	講師	ｶﾅﾑﾗ　ｸﾐ 金村　久美 ＜平成30年4月＞		博士 (学術)		ﾍﾞﾄﾅﾑの言語と文化Ⅰ ﾍﾞﾄﾅﾑの言語と文化Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	名古屋経済大学 経営学部 准教授 (平26.4)	
62	兼任	講師	ﾀﾞﾚﾝ ﾚｲﾓﾝﾄﾞ ｴﾘｵｯﾄ Darren Raymond Elliott ＜平成28年4月＞		Master of Arts (英国)		英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2) ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	椙山女学園大学 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部 准教授 (平26.4)	
63	兼任	講師	ｵｵﾔ　ｹｲﾀ 大屋　慶太 ＜平成28年4月＞		学士 (芸術)		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	株式会社 デック 代表取締役 社長 (平18.1)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
64	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ　ﾏｷｺ 竹田　真紀子 ＜平成28年4月＞		Master of Business Administration (英国) Master of Arts (Teaching English to Speakers of Other Languages) (英国)		英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	愛知学院大学 総合政策学部 准教授 (平24.4)	
65	兼任	講師	ｵｵﾀﾂ　ﾖｶ 大達　誉華 ＜平成28年4月＞		Master of Arts Speech Communication (米国)		英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ(基礎1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅡ(基礎2) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅣ(応用2)	2前 2後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平21.4)	
66	兼任	講師	ｸﾘﾝﾄﾝ ﾋｭｰ ﾜｨｪﾝﾄﾞ Clinton Hugh Weyand ＜平成29年4月＞		Master of Arts (米国)		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ(応用1) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ(応用2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅤ(発展) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅤ(発展) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅤ(発展)	2前 2後 3前 3後 3後	2 2 2 1 1	1 1 1 1 1	愛知大学 語学教育研究室 嘱託助教Ⅰ (平27.4)	
67	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ　ｻﾄﾙ 小林　智 ＜平成29年4月＞		修士 (法学) ※		哲学	2･3･4前	2	1	名城大学 非常勤講師 (平25.4)	
68	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ　ﾄﾓﾉﾘ 木下　智統 ＜平成29年4月＞		修士 (経済学) ※		ｽﾍﾟｲﾝ語入門Ⅱ ｽﾍﾟｲﾝ語初級Ⅱ ｽﾍﾟｲﾝ語中級Ⅱ ｽﾍﾟｲﾝ語応用Ⅱ	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	金城学院大学 非常勤講師 (平22.9)	
69	兼任	講師	ﾄｰﾏｽ ｼﾞｮｾﾌ ﾌｧﾛﾝ Thomas Joseph Fallon ＜平成28年4月＞		Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名古屋学院大学 外国語学部 任期制講師 (平23.4)	
70	兼任	講師	ｴﾙﾋﾞｰﾆｱ ﾕﾘｱ エルビーニア ユリア ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		ｽﾍﾟｲﾝ語入門Ⅰ ｽﾍﾟｲﾝ語初級Ⅰ ｽﾍﾟｲﾝ語中級Ⅰ ｽﾍﾟｲﾝ語応用Ⅰ	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	ﾌﾘｰﾗﾝｽ 翻訳・通訳・講師 (平23.3)	
71	兼任	講師	ｵｵｻﾜ　ﾋﾛｱｷ 大澤　広晃 ＜平成29年4月＞		Doctor of Philosophy (英国)		ｲｷﾞﾘｽ地域研究	2後	2	1	南山大学 外国語学部 講師 (平26.4)	
72	兼任	講師	ﾐｽﾞｳﾁ　ﾄﾓﾋﾃﾞ 水内　智英 ＜平成29年4月＞		Master of Arts in Design Futures (英国)		日本の先端文化	2後	2	1	名古屋芸術大学 ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部 講師 (平23.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する平均週当たり日数
73	兼任	講師	ﾊﾁｽｶ　ﾄﾓﾐ 蜂須賀　知美 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※		日本国憲法	1･2･3･4前	2	1	名城大学 大学院 法学研究科 博士後期課程 (平26.3迄)	
74	兼任	講師	ﾌﾗｰ ﾀﾞﾆｴﾙ ｵｸﾞﾗ Fleur Danielle Ogura ＜平成28年4月＞		Master of Arts in Teaching English as a Second or Other Language (TESOL) (英国)		英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞⅣ(応用2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅠ(基礎1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅡ(基礎2) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅢ(応用1) 英語ﾗｲﾃｨﾝｸﾞⅣ(応用2)	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	中京大学 非常勤講師 (平26.4)	
75	兼任	講師	ｻｻｷ ﾐﾉﾙ 佐々木　稔 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		ﾌﾗﾝｽ語入門Ⅰ ﾌﾗﾝｽ語初級Ⅰ ﾌﾗﾝｽ語中級Ⅰ ﾌﾗﾝｽ語応用Ⅰ	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	名古屋大学 博士研究員 (平26.4)	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	1人	2人	3人	1人	人	7人	
	修　　士	人	人	人	人	1人	1人	人	2人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	4人	人	人	人	人	4人	
	修　　士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	2人	2人	2人	人	人	人	6人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	人	5人	2人	3人	1人	人	11人	
	修　　士	人	2人	6人	3人	1人	1人	人	13人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。